Nikon

デジタルカメラ

D6

活用ガイド

このカメラにはファームアップで追加された機能があります。詳しくは「ファームウェアバージョンアップによる変更内容」（1142ページ）をご覧ください。

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」（xliページ）も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

Jp

カメラと付属品を確認する

万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。

❑ カメラ本体



❑ ボディーキャップBF-1B



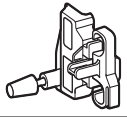
❑ アクセサリーシューカバー BS-3（🕮1066）



❑ Li-ionリチャージャブル バッテリー EN-EL18c（端子カバー付）

❑ バッテリーチャージャー MH-26a（電源コード/接点保護カバー（2個）付）

❑ HDMI/USBケーブルクリップ（🕮1068）



❑ USBケーブルUC-E24

❑ ストラップAN-DC22

❑ 保証書

❑ 使用説明書

- メモリーカードは別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

D6 Model Name: N1823

ニコンダウンロードセンターについて

デジタルカメラやニッコールレンズ、スピードライトなどの説明書、ファームウェアおよびNX Studioなどのソフトウェアをダウンロードできます。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/



本書について

■■ 文中のマークについて

本書では、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

☑	カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことなどを記載しています。
ヒント	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
🕮	本書で関連情報が記載されているページです。

■■ 表記について

- このカメラではCFexpressメモリーカード（Type B）またはXQDメモリーカードを使用します。本書では、CFexpressメモリーカードおよびXQDメモリーカードを「メモリーカード」と表記しています。ただし、CFexpressメモリーカードとXQDメモリーカードを区別して説明する必要がある場合は、それぞれ「CFexpressカード」と「XQDカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- 本書では、スマートフォンおよびタブレットを「スマートフォン」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。本書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

⚠安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは🕮xliをご覧ください。

目 次

カメラと付属品を確認する ii
本書について iv
メニュー一覧 xxxv
安全上のご注意 xli
ご確認ください xlix

各部の名称と機能 1

各部の名称 1
カメラ本体 1
電源スイッチ 8
上面表示パネル 9
背面表示パネル 11
ファインダー 12
ライブビュー画面（静止画 / 動画） 15
タッチパネル 18

撮影前の準備 27

カメラの準備をする ... 27
ストラップを取り付ける ... 27
バッテリーを充電する ... 28
バッテリーを入れる ... 32
レンズを取り付ける ... 35
メモリーカードを入れる ... 38
日付と時刻を設定する ... 43
バッテリーとメモリーカードの残量を確認する ... 47
バッテリー残量について ... 47
メモリーカード表示と記録可能コマ数について ... 48

撮影と再生の基本操作 50

静止画を撮影する ... 50
ファインダーを見ながら撮影する
（ファインダー撮影） ... 50
画像モニターを見ながら撮影する
（ライブビュー撮影） ... 55
動画を撮影する ... 63
動画撮影時に静止画を撮影する ... 70
撮影した画像を確認する ... 71
動画を再生する ... 73
画像を削除する ... 76

画像を転送する 77
スマートフォンに転送する 77
パソコンや FTP サーバーに転送する 77

ボタンなどを使ったカメラの操作方法 80

MENU ボタンの使い方 80
メニュー項目の設定 81
i ボタン（***i*** メニュー）の使い方 88
静止画撮影時の ***i*** メニュー 90
動画撮影時の ***i*** メニュー 92
再生時の ***i*** メニュー 93
Info ボタンの使い方 94
ファインダー撮影時 94
ライブビュー撮影時 95
フォーカスモードセレクターの使い方 97
AF モードボタンの使い方 98
AF モードの設定方法 98
AF エリアモードの設定方法 101
AF-ON ボタンの使い方 107
MODE ボタンの使い方 108
露出モードの設定方法 108

レリーズモードダイヤル、 ボタンの使い方 109
レリーズモードの設定方法 109
 ボタンの使い方 111
測光モードの設定方法 111
BKT ボタンの使い方 113
ISO（FORMAT）ボタンの使い方 114
ISO 感度の設定方法 114
感度自動制御機能の設定方法 116
 ボタンの使い方 117
露出補正の設定方法 117
QUAL ボタンの使い方 118
画質モードの設定方法 118
画像サイズの設定方法 120
WB ボタンの使い方 121
ホワイトバランスの設定方法 121
（/**?**）ボタンの使い方 125
ピクチャーコントロールの設定方法 125
（）ボタンの使い方 131
フラッシュモードの設定方法 131
調光補正の設定方法 133
Pv ボタンの使い方 134
Fn1/Fn2/Fn3（）/ 縦位置 Fn ボタンの使い方 135

撮影機能を設定する 136

撮影する画像の画質やサイズを設定する
（撮像範囲、画質モード、画像サイズ）..... 136
撮像範囲に関する設定を変更する..... 136
画質モードを変更する..... 142
画像サイズを変更する..... 145
ピントの合わせ方を設定する（フォーカス）..... 148
フォーカスモードを切り換える..... 148
AF モードを変更する..... 149
AF エリアモードを変更する..... 153
フォーカスポイントを自分で選ぶ..... 164
グループエリア AF の形状を設定する..... 167
ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）..... 170
マニュアルフォーカスで撮影する..... 174
画像の明るさに関する設定を行う（測光・露出）..... 178
明るさを測る方法を設定する..... 178
露出モードを設定する..... 182
長時間露出で撮影する（露出モード **M** のみ）..... 191
シャッタースピードと絞り値をロックする..... 194
露出を固定して撮影する..... 196
露出補正して画像の明るさを調整する..... 199

シャッターをきるときの動作を設定する（レリーズモード）..... 203
1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、
レリーズモードを変更する..... 203
セルフタイマーを使って撮影する（ひ）..... 209
ミラーアップして撮影する（Mup）..... 211
光に対する感度を設定する（ISO 感度）..... 213
ISO 感度を変更する..... 213
感度自動制御機能を使う..... 216
光源に合わせて見た目に近い色で撮影する
（ホワイトバランス）..... 221
ホワイトバランスを合わせる..... 221
ホワイトバランスを微調整する..... 227
色温度を設定する..... 231
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する ... 234
明るさや WB などを変えながら撮影する
（オートブラケティング）..... 249
オートブラケティングの設定方法..... 250
AE ブラケティング、フラッシュブラケティングの
撮影方法 251
WB ブラケティングの撮影方法..... 259
ADL ブラケティングの撮影方法 265

画像の仕上がりを調整する（ピクチャーコントロール）..... 271
ピクチャーコントロールを選ぶ 271
メニューからピクチャーコントロールを調整する... 274
カスタムピクチャーコントロールを登録する 276
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する
（アクティブ D-ライティング、HDR）..... 281
アクティブ D-ライティングで撮影する 281
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う 283
動画撮影と編集の機能 292
動画撮影時の撮像範囲について 292
画像サイズ / フレームレートおよび動画の画質について 294
動画撮影時の画角について 296
動画撮影時のご注意とヒント 297
動画を編集する 300
動画の必要な部分を残す 301
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する..... 306
動画にインデックスマークを追加する 307
撮影の便利な機能 308
2 枚のメモリーカードに記録する（スロット 2 の機能）..... 308
同時記録した画像の削除 311

ボタン操作で基本的な機能を初期設定に戻す
（ツーボタンリセット）..... 312
静止画撮影メニュー項目..... 313
動画撮影メニュー項目..... 315
その他の撮影関連の機能..... 316
複数の画像を重ねて 1 枚の画像として写し込む（多重露出）..... 318
多重露出の設定項目..... 318
多重露出の撮影方法..... 321
i ボタンを使う..... 329
多重露出撮影を終了するには..... 330
設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）..... 331
インターバルタイマー撮影の設定項目..... 331
インターバルタイマー撮影の開始..... 336
インターバルタイマー撮影を一時停止するには 345
インターバルタイマー撮影を再開するには 346
インターバルタイマー撮影を途中で終了するには ... 347
静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）..... 348
タイムラプス動画の設定項目..... 348
タイムラプス動画の撮影方法..... 350
ピント位置を変えながら連続撮影する
（フォーカスシフト撮影）..... 360
フォーカスシフト撮影の設定項目..... 360
フォーカスシフト撮影の撮影方法..... 363

電子シャッターを使って撮影する
（サイレント撮影（静止画 Lv））..... 374
i メニューの項目を変更する（i メニューのカスタマイズ）..... 377
非 CPU レンズを使う（レンズ情報手動設定）..... 379
レンズ情報の登録方法 381
手動設定済みレンズ情報の選択方法 383
位置情報を画像に記録する 384
位置情報機能使用時のカメラの設定について 384
画像の再生 390
画像を再生する 390
1 コマ表示モード 390
サムネイル表示モード 391
画像再生時のボタン操作 392
再生時にタッチパネルでできること 395
i ボタンを使う 399
画像情報を表示する 405
標準表示 406
露出情報 407
ハイライト表示 407
RGB ヒストグラム 408
撮影情報 410
統合表示 416
画像を拡大表示する 418
拡大表示時の操作方法 419

プロテクトで画像を削除できないように保護をする 421
画像にレーティングを設定する 423
画像を選んで送信指定する 425
フィルター再生する 427
［フィルター再生の条件設定］の設定項目 427
画像を削除する 429
ボタン操作で画像を削除する 429
複数の画像をまとめて削除する 431
音声メモ 436
音声メモを録音する 436
再生時に音声メモを録音する 436
撮影時に音声メモを録音する 438
音声メモを再生する 443
音声メモを削除する 444
パソコンやテレビとの接続 445
パソコンと接続する 445
USB ケーブルで接続する 445
無線 LAN（Wi-Fi）または有線 LAN で接続する 451
HDMI 対応機器と接続する 453
テレビと接続する 454
外部レコーダーと接続する 454

内蔵の無線機能でネットワークへ接続する 457

カメラのネットワークシステム図 457
スマートフォンと接続する 458
SnapBridge アプリについて 458
SnapBridge アプリを使ってできること 459
スマートフォンと無線接続するには 460
Wi-Fi モード（Wi-Fi で接続） 461
Bluetooth 接続 469
内蔵の Wi-Fi 機能を使用してパソコンと無線接続する 485
Wi-Fi 接続してできること 485
Wireless Transmitter Utility について 485
カメラとパソコンの接続方法について 486
アクセスポイントモードの接続設定 488
インフラストラクチャーモードの接続設定 494
パソコンに画像を送信する 503
ネットワーク接続を解除 / 再接続する 510
内蔵無線機能使用時のトラブルシューティング 512

有線 LAN または WT-6 でネットワークに接続する 514

有線 LAN および WT-6 について 514
Wireless Transmitter Utility について 515
有線 LAN または WT-6 を使ってできること 516
パソコンや FTP サーバーに画像を送信する（PC 画像送信モード /FTP 画像送信モード） 516
パソコンからカメラを操作する（カメラコントロールモード） 517
Web ブラウザーでカメラを操作する（HTTP サーバーモード） 517
他のカメラと連動してレリーズする（連動レリーズ） 518
カメラの時計を同期する（日時を同期） 518
イーサネットケーブルまたは WT-6 を取り付ける 520
イーサネットケーブルを接続する（有線 LAN で接続する場合） 520
WT-6 を装着する（無線 LAN で接続する場合） 521
有線 LAN で接続する場合の接続設定を作成する 522
PC 画像送信モード、カメラコントロールモードの接続設定 523
HTTP サーバーモードの接続設定 531
FTP 画像送信モードの接続設定 536

WT-6 で接続する場合の接続設定を作成する 544
WT-6 を使用した場合の無線 LAN 接続設定方法について 545
PC 画像送信モード、カメラコントロールモードの接続設定 546
HTTP サーバーモードの接続設定 560
FTP 画像送信モードの接続設定 571
パソコン /FTP サーバーに画像を送信する 585
パソコンまたは FTP サーバーに接続する 585
カメラコントロールモードを使用する 595
カメラコントロールモード時の［有線 LAN/ワイヤレストランスミッター］画面 598
HTTP サーバーモードを使用する 601
HTTP サーバーモード時の［有線 LAN/ワイヤレストランスミッター］画面 607
パソコンまたは Android OS、iPad の Web ブラウザーで操作する場合 610
iPhone の Web ブラウザーで操作する場合 622
連動レリーズモードを使用する 628
連動レリーズモードについて 628
連動レリーズモードの撮影方法 629
ネットワークを使用してカメラの時計を同期する 633
有線 LAN/ ワイヤレストランスミッター使用時のトラブルシューティング 636
問題と対処方法について 636
エラーコードについて 638

スピードライトをカメラに装着して撮影する 640

フラッシュ撮影の方法 ... 640
一灯撮影 ... 640
増灯撮影 ... 640
別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影） ... 641
カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する ... 645
フラッシュモードを設定する ... 648
フラッシュモードを変更する ... 651
調光補正してフラッシュの発光量を変更する ... 653
調光補正の設定方法 ... 653
FV ロックして調光量を固定する ... 655
カメラに装着したスピードライトの設定を確認する ... 659
各発光モードの表示について ... 660

複数のスピードライトをワイヤレスで制御する 663

増灯撮影とは ... 663
増灯撮影の方法について ... 664
電波でリモートフラッシュを制御する ... 665
電波制御の準備をする ... 665
増灯発光モードを設定して撮影する ... 670
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる ... 679
光でリモートフラッシュを制御する ... 680
SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する ... 681

電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する 694
フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する 695
各発光モードの表示について 695
メニューガイド 698
初期設定一覧 698
再生メニューの初期設定 698
静止画撮影メニューの初期設定 700
動画撮影メニューの初期設定 707
カスタムメニューの初期設定 709
セットアップメニューの初期設定 722
[▶] 再生メニュー：再生で使える便利な機能 730
削除 731
再生フォルダー設定 732
再生画面設定 733
W スロット同時削除の設定 734
分割記録時の再生スロット 735
フィルター再生の条件設定 735
撮影直後の画像確認 735
削除後の次再生画像 736
連続撮影後の再生画像 737
縦位置自動回転 738

画像コピー 738
画像のコピー方法 739
非表示設定 746
スライドショー 748
スライドショーを再生する 748
静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能 750
静止画撮影メニューの管理 752
名前編集 753
静止画撮影メニューのリセット 753
静止画撮影メニューの拡張 754
記録フォルダー設定 755
フォルダーグループ名変更 755
フォルダー番号指定 756
既存フォルダーから選択 758
ファイル名設定 760
スロット 2 の機能 761
撮像範囲 761
画質モード 761
画像サイズ 762
RAW 記録 762
圧縮方式 763
記録ビットモード 763

ISO 感度設定 764
ホワイトバランス 764
ピクチャーコントロール 764
カスタムピクチャーコントロール 765
色空間 765
アクティブ D-ライティング 766
長秒時ノイズ低減 767
高感度ノイズ低減 768
ヴィネットコントロール 769
回折補正 770
自動ゆがみ補正 771
フリッカー低減 772
フラッシュ発光 774
　　発光モード 775
　　ワイヤレス設定 776
　　増灯発光モード 777
　　電波リモートフラッシュ情報 777
オートブラケティング 778
多重露出 779
HDR（ハイダイナミックレンジ） 779
インターバルタイマー撮影 780
タイムラプス動画 780
フォーカスシフト撮影 780
サイレント撮影（静止画 Lv） 781

動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能 782
動画撮影メニューのリセット 783
ファイル名設定 783
動画記録先 783
撮像範囲 784
DX 自動切り換え 784
画像サイズ / フレームレート 784
動画の画質 785
動画記録ファイル形式 785
ISO 感度設定 786
ホワイトバランス 787
ピクチャーコントロール 788
カスタムピクチャーコントロール 788
アクティブ D-ライティング 788
高感度ノイズ低減 789
回折補正 789
フリッカー低減 790
電子手ブレ補正 791
マイク感度 792
アッテネーター 793
録音帯域 793
風切り音低減 794
ヘッドホン音量 794
タイムコード 795

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定 797
カスタムメニューの管理 802
名前編集 802
カスタムメニューのリセット 803
a：オートフォーカス 804
a1：AF-C モード時の優先 804
a2：AF-S モード時の優先 805
a3：AF ロックオン 805
横切りへの反応 806
被写体の動き 806
a4：AF 点数 807
a5：縦 / 横位置フォーカスポイント切換 808
a6：半押し AF レンズ駆動 810
a7：シングルポイント AF の捕捉領域 811
a8：3D-トラッキング時の顔認識 811
a9：グループエリア AF 時の顔認識 812
a10：グループエリア AF（C1/C2）の設定 812
a11：オートエリア AF 時の顔認識 812
a12：オートエリア AF の開始位置設定 813
a13：フォーカスポイントの引き継ぎ 813
a14：AF エリアモードの限定 814
a15：AF モードの制限 815
a16：フォーカスポイント循環選択 815

a17：フォーカスポイント表示の設定 815
マニュアルフォーカス時の表示 816
フォーカスポイントの明るさ設定 816
ダイナミック AF 時のアシスト表示 816
a18：AF 設定時のフォーカスリング操作 817
b：露出・測光 818
b1：ISO 感度設定ステップ幅 818
b2：露出設定ステップ幅 818
b3：露出・調光補正ステップ幅 818
b4：露出補正簡易設定 819
b5：マルチパターン測光 820
b6：中央部重点測光範囲 820
b7：基準露出レベルの調節 821
c：AE ロック・タイマー 822
c1：シャッターボタン AE ロック 822
c2：半押しタイマー 822
c3：セルフタイマー 823
c4：モニターのパワーオフ時間 823
d：撮影・記録・表示 824
d1：連続撮影速度 824
d2：連続撮影コマ数 825
d3：レリーズモードの限定 826
d4：連動レリーズモード設定 826

d5：露出ディレーモード 827
d6：電子先幕シャッター 827
d7：M モード時のシャッタースピード延長 828
d8：撮像範囲設定の限定 829
d9：連番モード 830
d10：ピーキング表示 832
d11：格子線表示 832
d12：背面表示パネルの表示 833
d13：イルミネーター点灯 833
d14：連続撮影中の表示（Lv） 835
d15：光学手ブレ補正 835
e：フラッシュ・BKT 撮影 836
e1：フラッシュ撮影同調速度 836
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限 838
e3：フラッシュ使用時の露出補正 838
e4：ϟ 使用時の感度自動制御 839
e5：フラッシュ連続撮影時の優先 840
e6：モデリング発光 840
e7：BKT 変化要素（M モード） 841
e8：BKT の順序 842
e9：BKT 自動連写の設定 843

f：操作 844
f1：i メニューのカスタマイズ 844
f2：i メニューのカスタマイズ（Lv） 846
静止画 Lv 画面のホワイトバランス 848
2 点拡大 849
f3：カスタムボタンの機能 850
f4：中央ボタンの機能 863
ファインダー撮影時 864
ライブビュー撮影時 865
再生時 866
f5：シャッタースピードと絞り値のロック 867
f6：コマンドダイヤルの設定 867
回転方向の変更 868
メインとサブの入れ換え 868
絞り値の設定方法 869
再生 / メニュー画面で使用 870
サブコマンドダイヤルで画像送り 871
f7：マルチセレクターの半押し起動 872
f8：ボタンのホールド設定 872
f9：インジケーターの＋ / －方向 873
f10：ライブビューボタンの設定 874
f11：☀ スイッチの機能 874
f12：1 コマ再生時のフリック操作 875
上にフリック / 下にフリック 875
1 コマ送りの操作方向 876

g：動画 877
g1：i メニューのカスタマイズ 877
マルチセレクターによるパワー絞り 878
マルチセレクターによる露出補正 878
g2：カスタムボタンの機能 879
g3：中央ボタンの機能 884
g4：ハイライト表示 884
表示パターン 885
ハイライト表示のしきい値 885
セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定 886
カードの初期化（フォーマット） 887
言語（Language） 888
地域と日時 889
モニターの明るさ 889
モニターのカラーカスタマイズ 890
水準器表示 892
インフォ画面の表示設定 893
AF 微調節の設定 894
AF 微調節の設定と微調節値の登録方法 897
未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法 899
AF 微調節の自動設定 900
レンズ情報手動設定 904

イメージセンサークリーニング.....905
クリーニングミラーアップ.....906
イメージダストオフデータ取得.....906
イメージダストオフデータ取得の手順..... 907
ピクセルマッピング.....910
画像コメント.....911
コメント入力..... 911
コメント添付..... 912
著作権情報.....912
撮影者名入力、著作権者名入力..... 913
著作権情報添付..... 913
IPTC.....914
IPTC プリセットの新規作成 / 編集..... 915
登録内容の削除..... 915
登録内容の添付..... 916
カメラに登録した IPTC プリセットを
メモリーカードに保存..... 916
メモリーカードに保存した IPTC プリセットを
カメラに登録..... 917
音声メモの設定.....920
撮影時の録音..... 920
撮影時の上書き録音..... 921
録音の操作..... 921
音声の出力..... 922

電子音 923
電子音設定 923
音量 924
音の高さ 924
タッチ操作 924
タッチ操作の設定 924
グローブモード 924
HDMI 925
位置情報（内蔵） 925
リモコン（WR）設定 925
LED ランプの点灯 926
リンクモード 926
リモコン（WR）の Fn ボタンの機能 928
機内モード 929
スマートフォンと接続 929
ペアリング（Bluetooth） 930
送信指定（Bluetooth） 930
Wi-Fi 接続 931
電源 OFF 中の通信 932
位置情報（スマートフォン） 932
PC と接続（内蔵無線） 932
Wi-Fi 通信機能 932
接続設定 933
オプション 935
MAC アドレス 936

有線 LAN/ ワイヤレストランスミッター 937
有線 LAN/WT の機能 937
ハードウェアの選択 937
接続設定 938
オプション 945
認証マークの表示 949
電池チェック 950
カードなし時レリーズ 951
メニュー設定の保存と読み込み 952
保存 956
読み込み 956
カメラの初期化 957
ファームウェアバージョン 957
☑ 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能 958
画像編集の操作方法 959
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する） 962
トリミング 967
リサイズ 968
複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する 968
D-ライティング 973
赤目補正 974
傾き補正 975

ゆがみ補正 976
アオリ効果 978
モノトーン 979
画像合成 980
加算 980
比較明合成、比較暗合成 985
動画編集（始点 / 終点設定） 989
マイメニュー / 最近設定した項目 990
マイメニュー：よく使うメニューを登録する 990
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる 997

困ったときは 998

お問い合わせになる前に 998
故障かな？と思ったら 1000
電源・表示関連 1000
撮影関連 1002
再生関連 1009
Wi-Fi（無線 LAN）および Bluetooth 関連 1011
その他 1011
警告表示と警告メッセージ 1012
警告表示 1012
警告メッセージ 1017

全画面表示 1021
ファインダー 1021
インフォ画面 1026
ライブビュー画面（静止画 / 動画） 1029
上面表示パネル 1033
背面表示パネル 1036
使用できる F マウントレンズ 1037
CPU レンズ 1037
非 CPU レンズなど 1045
フォーカスエイドの制限について 1049
使用できるスピードライト 1051
ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について 1051
使用できるアクセサリー 1060
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの接続方法 1069
ソフトウェア / アプリケーション 1071
カメラのお手入れについて 1073
保管について 1073
クリーニングについて 1073
ローパスフィルターのお手入れについて 1075
時計用電池の交換について 1083

カメラとバッテリーの使用上のご注意 1085
カメラの取り扱い上のご注意 1085
バッテリーの使用上のご注意 1089
チャージャーの使用上のご注意 1092
露出モード P（プログラムオート）のプログラム線図 1093
主な仕様 1094
ニコンデジタルカメラ D6 1094
バッテリーチャージャー MH-26a の
キャリブレーションについて 1114
使用できるメモリーカード 1119
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数 1120
撮像範囲設定が［FX（36×24）］の場合 1120
撮像範囲設定が［DX（24×16）］の場合 1122
撮影可能コマ数（電池寿命）について 1125
位置情報機能（GPS/GLONASS）についてのご注意 1128
商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて 1129
索引 1133

ファームウェアバージョンアップによる変更内容 1142

バージョンアップ方法について 1142
ファームウェア（C:1.30）による変更点について 1143
フォーカスポイントの移動速度が変更可能
（C:1.20 以降） 1143
レンズにより絞り値が変化しても露出維持が可能
（C:1.30 以降） 1144
［撮影機能の呼び出し（ホールド）］の追加
（C:1.20 以降） 1145
サブセレクター中央を押しながらフォーカス
ポイントの移動が可能（C:1.20 以降） 1146
AF 微調節の表示画面変更（C:1.11 以降） 1147
SSID の周波数帯が選択可能（C:1.10 以降） 1148

メニュー一覧

このカメラには次のメニューがあります。各メニューの詳細については、「活用ガイド」に記載されている「メニューガイド」の項目をご覧ください。なお、カメラの設定、装着されているレンズやスピードライトなどのアクセサリーによっては、表示されないメニューがあります。

再生メニュー
削除
再生フォルダー設定
再生画面設定
Wスロット同時削除の設定
分割記録時の再生スロット
フィルター再生の条件設定
撮影直後の画像確認
削除後の次再生画像
連続撮影後の再生画像
縦位置自動回転
画像コピー
非表示設定
スライドショー

静止画撮影メニュー
静止画撮影メニューの管理
静止画撮影メニューの拡張
記録フォルダー設定
ファイル名設定
スロット2の機能
撮像範囲
画質モード
画像サイズ
RAW記録
ISO感度設定
ホワイトバランス
ピクチャーコントロール
カスタムピクチャーコントロール
色空間
アクティブD-ライティング
長秒時ノイズ低減
高感度ノイズ低減

静止画撮影メニュー
ヴィネットコントロール
回折補正
自動ゆがみ補正
フリッカー低減
フラッシュ発光
オートブラケティング
多重露出
HDR（ハイダイナミックレンジ）
インターバルタイマー撮影
タイムラプス動画
フォーカスシフト撮影
サイレント撮影（静止画Lv）

動画撮影メニュー
動画撮影メニューのリセット
ファイル名設定
動画記録先
撮像範囲
画像サイズ/フレームレート
動画の画質
動画記録ファイル形式
ISO感度設定
ホワイトバランス
ピクチャーコントロール
カスタムピクチャーコントロール
アクティブD-ライティング
高感度ノイズ低減
回折補正
フリッカー低減
電子手ブレ補正
マイク感度
アッテネーター
録音帯域
風切り音低減
ヘッドホン音量
タイムコード

カスタムメニュー		
カスタムメニューの管理		
a オートフォーカス		
	a1	AF-Cモード時の優先
	a2	AF-Sモード時の優先
	a3	AFロックオン
	a4	AF点数
	a5	縦/横位置フォーカスポイント切換
	a6	半押しAFレンズ駆動
	a7	シングルポイントAFの捕捉領域
	a8	3D-トラッキング時の顔認識
	a9	グループエリアAF時の顔認識
	a10	グループエリアAF（C1/C2）の設定
	a11	オートエリアAF時の顔認識
	a12	オートエリアAFの開始位置設定
	a13	フォーカスポイントの引き継ぎ
	a14	AFエリアモードの限定
	a15	AFモードの制限
	a16	フォーカスポイント循環選択
	a17	フォーカスポイント表示の設定
	a18	AF設定時のフォーカスリング操作

カスタムメニュー		
b 露出・測光		
	b1	ISO感度設定ステップ幅
	b2	露出設定ステップ幅
	b3	露出・調光補正ステップ幅
	b4	露出補正簡易設定
	b5	マルチパターン測光
	b6	中央部重点測光範囲
	b7	基準露出レベルの調節
	b8	絞り値変化時の露出維持
c AEロック・タイマー		
	c1	シャッターボタンAEロック
	c2	半押しタイマー
	c3	セルフタイマー
	c4	モニターのパワーオフ時間

カスタムメニュー		
d 撮影・記録・表示		
	d1	連続撮影速度
	d2	連続撮影コマ数
	d3	レリーズモードの限定
	d4	連動レリーズモード設定
	d5	露出ディレーモード
	d6	電子先幕シャッター
	d7	Mモード時のシャッタースピード延長
	d8	撮像範囲設定の限定
	d9	連番モード
	d10	ピーキング表示
	d11	格子線表示
	d12	背面表示パネルの表示
	d13	イルミネーター点灯
	d14	連続撮影中の表示（Lv）
	d15	光学手ブレ補正

カスタムメニュー		
e フラッシュ・BKT撮影		
	e1	フラッシュ撮影同調速度
	e2	フラッシュ時シャッタースピード制限
	e3	フラッシュ使用時の露出補正
	e4	ϟ使用時の感度自動制御
	e5	フラッシュ連続撮影時の優先
	e6	モデリング発光
	e7	BKT変化要素（Mモード）
	e8	BKTの順序
	e9	BKT自動連写の設定

カスタムメニュー		
f 操作		
	f1	iメニューのカスタマイズ
	f2	iメニューのカスタマイズ（Lv）
	f3	カスタムボタンの機能
	f4	中央ボタンの機能
	f5	シャッタースピードと絞り値のロック
	f6	コマンドダイヤルの設定
	f7	マルチセレクターの半押し起動
	f8	ボタンのホールド設定
	f9	インジケーターの＋/－方向
	f10	ライブビューボタンの設定
	f11	☀スイッチの機能
	f12	1コマ再生時のフリック操作
	f13	サブセレクター中央を優先
g 動画		
	g1	iメニューのカスタマイズ
	g2	カスタムボタンの機能
	g3	中央ボタンの機能
	g4	ハイライト表示

セットアップメニュー
カードの初期化（フォーマット）
言語（Language）
地域と日時
モニターの明るさ
モニターのカラーカスタマイズ
水準器表示
インフォ画面の表示設定
AF微調節の設定
レンズ情報手動設定
イメージセンサークリーニング
クリーニングミラーアップ
イメージダストオフデータ取得
ピクセルマッピング
画像コメント
著作権情報
IPTC
音声メモの設定
電子音
タッチ操作
HDMI
位置情報（内蔵）

セットアップメニュー
リモコン（WR）設定
リモコン（WR）のFnボタンの機能
機内モード
スマートフォンと接続
PCと接続（内蔵無線）
有線LAN/ワイヤレストランスミッター
認証マークの表示
電池チェック
カードなし時レリーズ
メニュー設定の保存と読み込み
カメラの初期化
ファームウェアバージョン

画像編集メニュー
RAW現像
トリミング
リサイズ
D-ライティング
赤目補正
傾き補正
ゆがみ補正
アオリ効果
モノトーン
画像合成
動画編集（始点/終点設定）

マイメニュー
マイメニュー登録
登録項目の削除
登録項目の順序変更
このタブの機能変更

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書をお読みになった後は、いつでも参照できるように保管してください。

⚠ **危険** 「死亡または重傷を負うおそれが大きい内容」です。

⚠ **警告** 「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。

⚠ **注意** 「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。

は、してはいけない内容です。

は、実行しなければならない内容です。

⚠警告

禁止 **歩きながらや運転・操縦しながらの操作はしない**
事故やけがの原因になります。

分解禁止 **分解、修理または改造をしない**
落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない
感電やけがの原因になります。

実行 **熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちに電池や電源を取り外す**
放置すると、発火、やけどの原因になります。



禁止

水でぬらさない
ぬれた手で触らない
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電や発火の原因になります。



禁止

電源を入れたまま長時間直接触らない
低温やけどの原因になります。



禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。



禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
失明や視力障碍の原因になります。



禁止

フラッシュや AF 補助光を運転者にむけて発光しない
事故の誘発につながります。



禁止

幼児の手の届くところに置かない
故障やけがの原因になります。
小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。



禁止

ストラップ類を首に巻きつけない
事故の原因になります。



禁止

指定外の電池、充電器、AC アダプターは使わない
指定の電池、充電器、AC アダプターを使う際は、以下の点に注意する
- **コードやケーブルを傷つけたり、加工したりしない**
  重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、無理に曲げたりしない
- **海外旅行者用電子式変電圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わない**

発火、感電の原因になります。



禁止

充電時や AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触らない
感電の原因になります。



接触禁止

高温環境や低温環境では、直接触らない
やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

⚠注意



禁止

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない
集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。
逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。
画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



実行

使用が禁止されている場所では、電源を OFF にする
位置情報記録機能は OFF にする
ログの取得は終了する
無線通信が禁止されている場所では、無線通信機能が作動しないようにする
医療機関や航空機内では、本機器が出す電磁波が、周囲の機器に悪影響を与えるおそれがあります。



実行 **長時間使わないときは、電池や AC アダプターを取り外す**
故障や発火の原因になります。



接触禁止 **フラッシュを人体やものに密着させて発光させない**
やけどや発火の原因になります。



禁止 **夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない**
故障や発火の原因になります。



禁止 **AF 補助光を直接見ない**
視覚に悪影響を及ぼすことがあります。



禁止 **三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない**
故障やけがの原因になります。

⚠危険（電池について）

禁止

電池は誤った使いかたをしない

注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

- 充電池は、専用の充電池以外を使わない
- 電池を火の中に入れたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させてショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしない
- 電池に釘を刺したり、電池をハンマーで叩いたり、踏みつけたりしない

実行

指定の方法で充電する

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

実行

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受ける

放置すると、目に傷害を与える原因になります。

実行

航空機内に持ち込むときは、航空会社の指示に従う

超高度の気圧が低いところに放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

⚠警告（電池について）

禁止	**電池を乳幼児の手の届く所に置かない** 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。
禁止	**電池をペットなどが触れる場所に置かない** 噛みつきなどにより、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
禁止	**水につけたり、雨にぬらしたりしない** 発火や故障の原因になります。 ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。
禁止	**変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない** **リチャージャブルバッテリー EN-EL18c は、所定の時間を超えても充電が完了しなければ、充電を中止する** 放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
実行	**使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
実行	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で洗い流す** 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。

⚠危険（時計用リチウム電池CR1616について）



禁止

電池は誤った使いかたをしない

注意事項を無視してお使いになると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

- 電池は充電しない
- 電池を火の中に入れたり、加熱したりしない
- 電池を分解しない
- 電池をネックレスやヘアピンなどの金属類に接触させてショート（短絡）しない
- 電池、または電池の入った製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしない



禁止

電池を飲み込まない

化学反応による傷害の危険あり

本製品はリチウムコイン（ボタン）電池を含んでいます。
リチウムコイン（ボタン）電池を飲み込んだ場合、2 時間足らずで重大な体内損傷を引き起こし、死に至るおそれがあります。
新しい電池および使用済みの電池は乳幼児の手の届く所に置かないでください。
電池収納部がしっかり閉まらないときは、製品の使用を中止して乳幼児の手の届かないところに保管してください。
万一、電池を飲み込んだり、体内のどこかに電池を入れた疑いがある場合、すぐに医師の診断を受けてください。



実行

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受ける

放置すると、目に傷害を与える原因になります。



実行

航空機内に持ち込むときは、航空会社の指示に従う

超高度の気圧が低いところに放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

⚠警告（時計用リチウム電池CR1616について）

禁止	**電池を乳幼児の手の届く所に置かない** 飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。
禁止	**水につけたり、雨にぬらしたりしない** 発火や故障の原因になります。 ぬれてしまったら、乾いたタオルなどで十分にふき取ってください。
禁止	**変色・変形、そのほか異状に気づいたら使わない** 放置すると、液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
禁止	**電池の「+」と「-」の向きを間違えない** 液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。
実行	**使用済みの電池は、ビニールテープなどで接点部を絶縁する** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因になります。
実行	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたら、すぐにきれいな水で洗い流す** 放置すると、皮膚のかぶれなどの原因になります。

ご確認ください

● 保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

● カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。
https://www.nikon-image.com/support/

● 大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

● 本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。



- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

● 説明書について

- 使用説明書、活用ガイドおよびオンラインマニュアルの一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 「使用説明書」が破損などで判読できなくなったときは、ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入できます（有料）。

● 著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

● 電波障害自主規制について

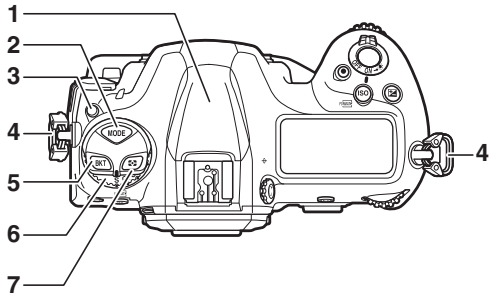
この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

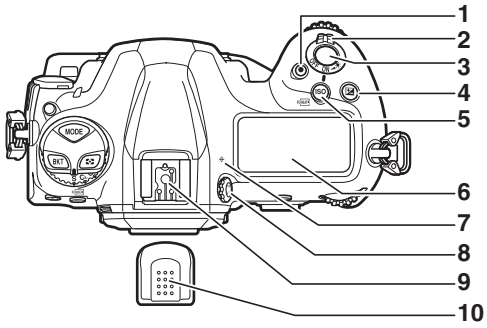
各部の名称と機能

各部の名称

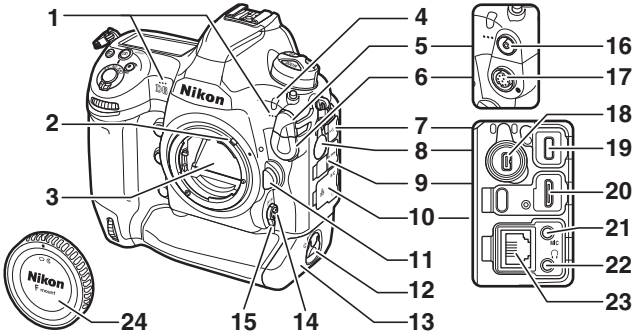
カメラ本体



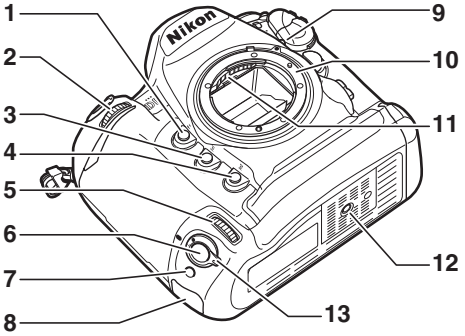
1	測位アンテナ部（🕮384）
2	**MODE**ボタン（🕮108）
3	レリーズモードダイヤルロックボタン（🕮109、203）
4	ストラップ取り付け部（吊り金具）（🕮27）
5	**BKT**ボタン（🕮113、251、259、265）
6	レリーズモードダイヤル（🕮109、203）
7	ボタン（🕮111、178）



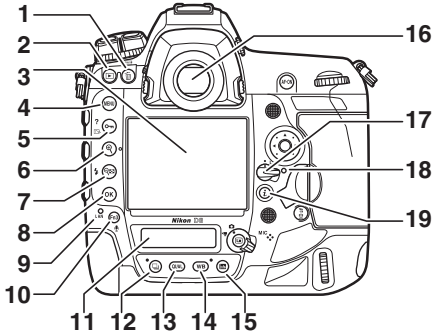
1	動画撮影ボタン（🕮63）
2	電源スイッチ（🕮8）
3	シャッターボタン（🕮50）
4	ボタン（🕮117、199）
5	**ISO**（FORMAT）ボタン（🕮114、213、887）
6	上面表示パネル（🕮9、1033）
7	距離基準マーク（🕮177）
8	視度調節ノブ（🕮14）
9	フラッシュ取り付け部（アクセサリーシュー）（🕮641）
10	アクセサリーシューカバー（🕮1066）



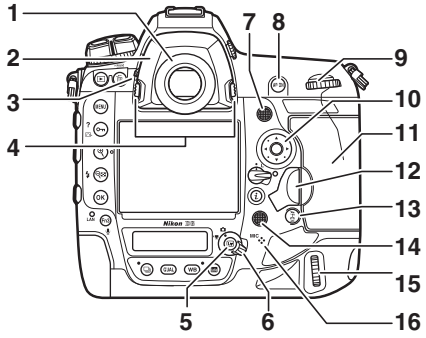
1	動画用マイク（ステレオ）（🕮63）
2	露出計連動レバー
3	ミラー（🕮63、1078）
4	セルフタイマーランプ（🕮209）
5	シンクロターミナルカバー
6	10ピンターミナルカバー
7	USB端子カバー
8	拡張端子カバー
9	HDMI端子カバー
10	マイク/ヘッドホン/有線LAN端子カバー
11	レンズ取り外しボタン（🕮37）
12	バッテリー室着脱ノブ（🕮32）
13	バッテリー室カバー（🕮32）
14	AFモードボタン（🕮98、152、163）
15	フォーカスモードセレクター（🕮97、148、174）
16	シンクロターミナル（🕮644）
17	10ピンターミナル
18	拡張端子（🕮521）
19	USB端子（🕮445）
20	HDMI端子（🕮453）
21	外部マイク入力端子（🕮299）
22	ヘッドホン出力端子（🕮794）
23	有線LAN接続端子（🕮520）
24	ボディーキャップ（🕮35）



1 **Pv**ボタン（🕮62、134、187）
2 サブコマンドダイヤル（🕮867）
3 **Fn1**ボタン（🕮135）
4 **Fn2**ボタン（🕮135）
5 縦位置サブコマンドダイヤル（🕮867）
6 縦位置シャッターボタン
7 縦位置**Fn**ボタン（🕮135）
8 セキュリティスロット（盗難防止用セキュリティーワイヤー取り付け部）（🕮7）
9 レンズ着脱指標（🕮35）
10 レンズマウント（🕮35）
11 レンズ信号接点
12 三脚ネジ穴
13 縦位置シャッターボタンロックレバー（🕮54）



1	🗑（FORMAT）ボタン（🕮76、429、887）
2	▶ ボタン（🕮71、390）
3	画像モニター（🕮18、55、63、395）
4	**MENU**ボタン（🕮80、698）
5	🔑（🖼/**?**）ボタン（🕮87、125、273、421）
6	🔍ボタン（🕮61、418）
7	🔍🖼（ϟ）ボタン（🕮61、131、651、653）
8	OKボタン（🕮81）
9	ネットワークインジケーター（🕮593）
10	**Fn3**（🎙）ボタン（🕮135、436）
11	背面表示パネル（🕮11、1036）
12	🖳ボタン（🕮109、208、312）
13	**QUAL**ボタン（🕮118、144、147）
14	**WB**ボタン（🕮121、221、312）
15	**info**ボタン（🕮94）
16	ファインダー接眼窓（🕮14）
17	フォーカスポイントロックレバー（🕮164）
18	メモリーカードアクセスランプ（🕮38）
19	**i**ボタン（🕮88、399）



1	アイピース（🕮1067）
2	アイピースアダプター（🕮1067）
3	アイピースシャッターレバー（🕮13）
4	アイピースアダプターロックボタン（🕮1067）
5	Lvボタン（🕮55、63、874）
6	ライブビューセレクター（🕮55、63）
7	サブセレクター（🕮166、170、196）
8	**AF-ON**ボタン（🕮107、173）
9	メインコマンドダイヤル（🕮867）
10	マルチセレクター（🕮81、393）
11	メモリーカードカバー（🕮38）
12	開閉ロックボタンカバー（🕮38） 開閉ロックボタン（カバー下）（🕮38）
13	ボタン（🕮107）
14	縦位置マルチセレクター（🕮166）
15	縦位置メインコマンドダイヤル（🕮867） スピーカー
16	音声メモ用マイク（🕮436）

☑ 測位アンテナについて

位置情報機能を使うときは、できるだけ空のひらけた場所でお使いください。測位アンテナ部を空に向けると受信しやすくなります。

☑ 端子カバーについて

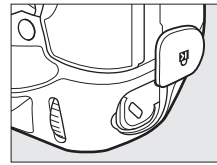
使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。

☑ スピーカーについてのご注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

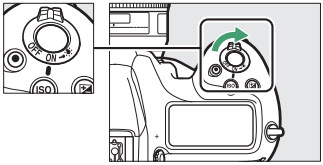
ヒント：セキュリティースロットについて

市販の盗難防止セキュリティーワイヤーをカメラに取り付けられます。ケンジントン社の規格に準拠したスロットのため、ケンジントンロック仕様のセキュリティーワイヤーをお使いください。取り付け方はセキュリティーワイヤーの説明書をご覧ください。



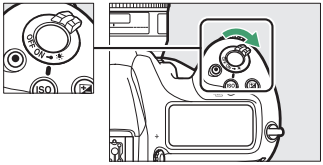
電源スイッチ

電源スイッチを矢印の方向に回して「ON」の位置にすると、カメラの電源がONになります。電源をOFFにするときは「OFF」の位置に合わせます。



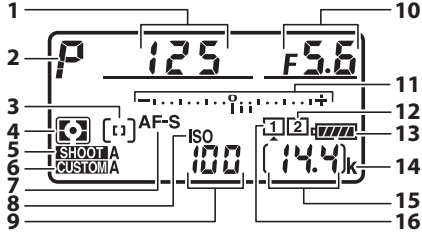
☑ 表示パネルのイルミネーター（照明）について

電源スイッチを☀マークの方向に回すと、上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）が点灯します。電源スイッチを放すと、イルミネーターは数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☀マークの方向に回すと消灯します。ボタン照明が点灯すると、暗い場所で操作しやすくなります。



上面表示パネル

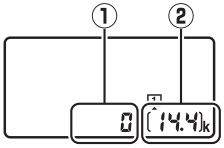
ここでは初期設定で上面表示パネルに表示される内容のみ記載しています。上面表示パネルの全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」（🕮1033）をご覧ください。



1	シャッタースピード（🕮185、188）
2	露出モード（🕮108、182）
3	AFエリアモードマーク（🕮101、163）
4	測光モードマーク（🕮111、178）
5	静止画撮影メニュー設定表示（🕮752）
6	カスタムメニュー設定表示（🕮802）
7	AFモードマーク（🕮98、149）
8	ISO感度マーク（🕮114、213）
9	ISO感度（🕮114、213）
10	絞り値（🕮186、188）
11	インジケーター 露出（🕮190） 露出補正（🕮117、199）
12	メモリーカードマーク（スロット2）（🕮41、48）
13	バッテリー残量表示（🕮47）
14	1000コマ以上補助表示（🕮48）
15	記録可能コマ数（🕮48、1120）
16	メモリーカードマーク（スロット1）（🕮41、48）

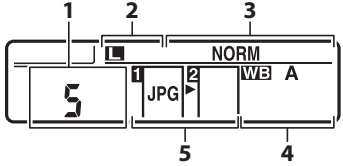
電源OFFの時の表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、上面表示パネルのメモリーカードマークと記録中フォルダー内の撮影済みコマ数（①）、記録可能コマ数（②）が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれにこれらの表示が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



背面表示パネル

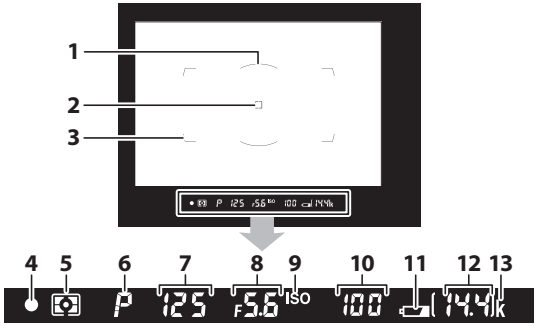
ここでは初期設定で背面表示パネルに表示される内容のみ記載しています。背面表示パネルの全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」（🕮1036）をご覧ください。



1 レリーズモード（🕮109、203）
2 画像サイズ（JPEG）（🕮120、145）
3 画質モード（🕮118、144）
4 ホワイトバランスモード（🕮121、221）
5 スロット2の機能（🕮308）
画質モード（🕮118、144）

ファインダー

ここでは初期設定でファインダーに表示される内容のみ記載しています。ファインダーの全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」(🕮1021) をご覧ください。



1	中央部重点測光参照エリア φ12mm (🕮111、178)
2	フォーカスポイント表示 (🕮164)
3	AFエリアフレーム (🕮50、164)
4	ピント表示 (🕮50、176)
5	測光モード (🕮111、178)
6	露出モード (🕮108、182)
7	シャッタースピード (🕮185、188) AFモード (🕮98、149)
8	絞り値 (🕮186、188)
9	ISO感度マーク (🕮114、213)
10	ISO感度 (🕮114、213) AFエリアモード (🕮101、157)
11	バッテリー残量表示 (🕮47)
12	記録可能コマ数 (🕮48、1120) 連続撮影可能コマ数 (🕮207、1120)
13	1000コマ以上補助表示 (🕮48)

ファインダーについてのご注意

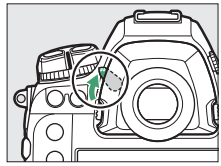
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

高温、低温下での液晶表示について

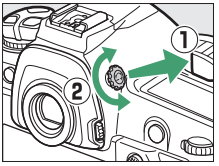
表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

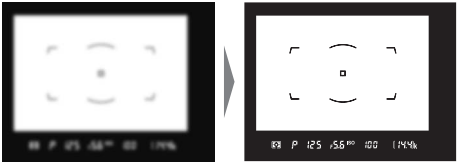


ヒント：視度調節ノブについて



視度調節ノブを引き出して回すと、ファインダー内がはっきり見えるように調節できます。ファインダーをのぞきながらファインダー内の表示が最もはっきり見えるように調節してください。

- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします。
- 調節が終わった後は、視度調節ノブを押し込んで戻してください。



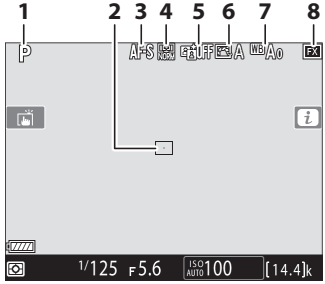
視度調節前　　視度調節後

ライブビュー画面（静止画/動画）

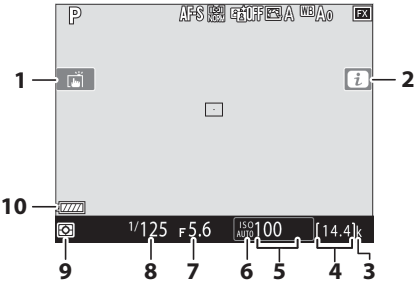
ライブビュー画面はLvボタンを押すと表示されます。静止画を撮影するときはライブビューセレクターを📷に、動画を撮影するときは🎥に切り換えてください。

■■ 静止画撮影時

ここでは初期設定でライブビュー画面に表示される内容のみ記載しています。全点灯画面については、「資料」の「全画面表示」（🕮1029）をご覧ください。

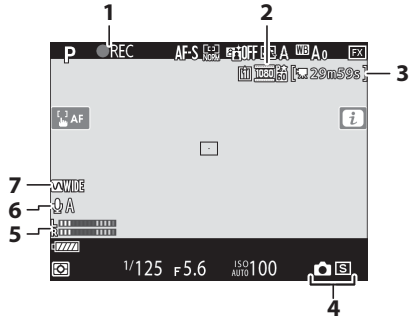


1 露出モード（🕮108、151）
2 フォーカスポイント（🕮164）
3 AFモード（🕮98、151）
4 AFエリアモード（🕮101、160）
5 アクティブD-ライティング（🕮281）
6 ピクチャーコントロール（🕮125、271）
7 ホワイトバランス（🕮121、221）
8 撮像範囲（🕮136）



1	タッチ撮影機能（🕮18）
2	*i*メニュー（🕮88）
3	1000コマ以上補助表示（🕮48）
4	記録可能コマ数（🕮48、1120）
5	ISO感度（🕮114、213）
6	ISO感度マーク（🕮114、213）
7	絞り値（🕮186、188）
8	シャッタースピード（🕮185、188）
9	測光モード（🕮111、178）
10	バッテリー残量表示（🕮47）

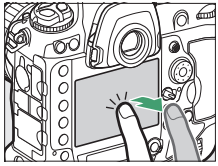
■■ 動画撮影時



1	録画中マーク（🕮63） 動画記録禁止マーク（🕮297）
2	画像サイズ/フレームレート/画質（🕮294）
3	動画記録残り時間（🕮63）
4	静止画撮影のレリーズモード（🕮70）
5	音声レベルインジケーター（🕮66）
6	マイク感度（🕮792）
7	録音帯域（🕮793）

タッチパネル

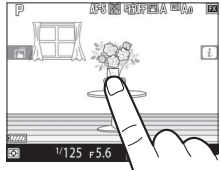
- このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面に触れることによって操作できます。



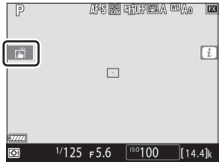
- タッチパネルを使ってできることは次の通りです。
  - ピントを合わせる/シャッターをきる（🕮19）
  - 設定を変更する（🕮20）
  - 再生画面を切り換える（🕮21）
  - 動画を再生する（🕮23）
  - ***i***メニューを設定する（🕮23）
  - 文字を入力する（🕮24）
  - メニューを設定する（🕮25）

ピントを合わせる/シャッターをきる

- ライブビュー撮影時に画像モニターをタッチすると、その場所にピントを合わせます（タッチAF）。
- 静止画撮影時はピント合わせ後に指を放すとシャッターがきれます（タッチシャッター）。

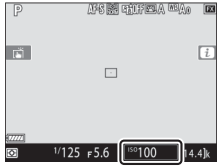


- をタッチすると、タッチAFやタッチシャッターの設定を変更できます。

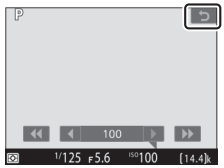


■■ 設定を変更する

- 枠が表示されたアイコンにタッチすると、設定を変更できます。
- アイコンやスライドバーにタッチして項目や数値を選びます。

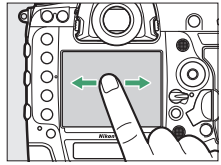


- ↩をタッチするかⓀボタンを押すと設定を決定して前の画面に戻ります。

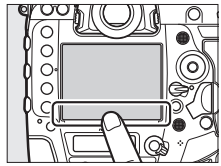


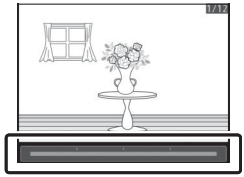
■■ 再生画面を切り換える

- 1コマ表示時に左右にフリックすると、前後の画像を表示します。

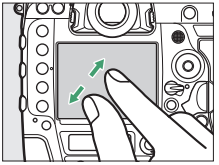


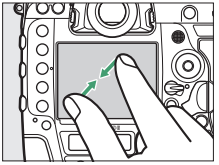
- 1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。



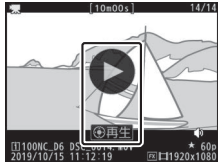


- 1コマ表示時に広げる操作をするか、画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示します。拡大表示した状態でさらに広げる操作をすると拡大率が上がり、つまむ操作をすると拡大率が下がります。
- 拡大表示時に画像モニターでスライド操作をすると、見たい部分に移動できます。
- 拡大表示時に画像モニターを素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。
- 1コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示します。サムネイル表示で広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。





動画を再生する



- 🎬が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。
- 再生中に画像モニターをタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。
- 再生中に↩にタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。

iメニューを設定する

iメニュー（🕮88）が表示されているときに設定したい項目をタッチすると、設定項目の内容を変更できます。



■■ 文字を入力する

- 文字入力画面が表示された場合、キーボードエリアで文字をタッチして入力できます。

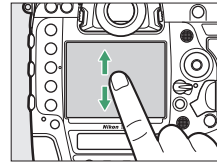


1	入力エリア
2	キーボードエリア
3	文字種変更

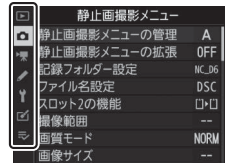
- 入力エリアをタッチするか◀▶をタッチすると、文字の入力位置を移動できます。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。

メニューを設定する

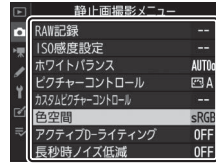
- **MENU**ボタンを押してメニュー画面を表示したとき、上下にスライドすると画面がスクロールします。



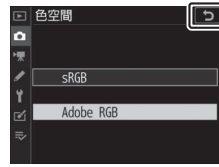
- 画面左端のアイコンにタッチすると、選んだアイコンのメニュー画面が表示されます。



- メニュー項目にタッチすると、設定項目の内容を変更できます。アイコンやスライドバーにタッチして項目や数値を選びます。



- ↩にタッチすると、設定を変更しないで前の画面に戻ります。



タッチパネルについてのご注意

- このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などをはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。セットアップメニュー［**タッチ操作**］の［**グローブモード**］を［**有効**］に設定すると、手袋をしていてもタッチ操作がしやすくなります。
- 先のとがった硬いもので押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。
- タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。

ヒント：タッチ操作の有効/無効について

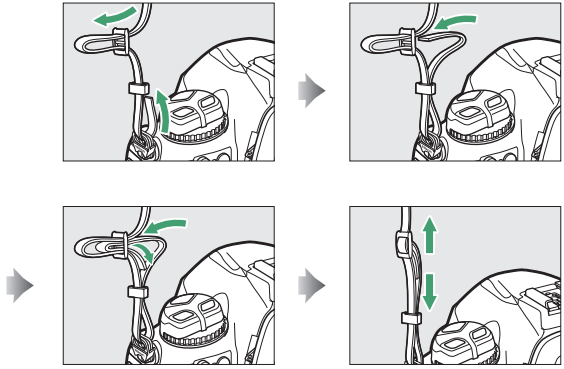
セットアップメニュー［**タッチ操作**］で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

撮影前の準備

カメラの準備をする

ストラップを取り付ける

付属または別売ストラップの取り付け手順は次の通りです。



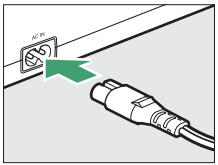
バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cは、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-26aを使ってフル充電してください。使い切ったバッテリー 1個を充電するには約2時間35分かかります。

☑ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

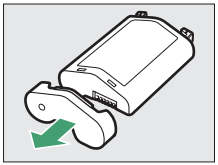
お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（🕮xli）、「カメラとバッテリーの使用上のご注意」（🕮1085）をお読みになり、記載事項をお守りください。

1 チャージャーと電源コードを接続する



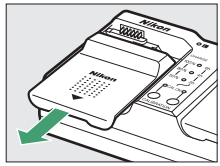
2 電源プラグをコンセントに差し込む

3 バッテリーの端子カバーを取り外す

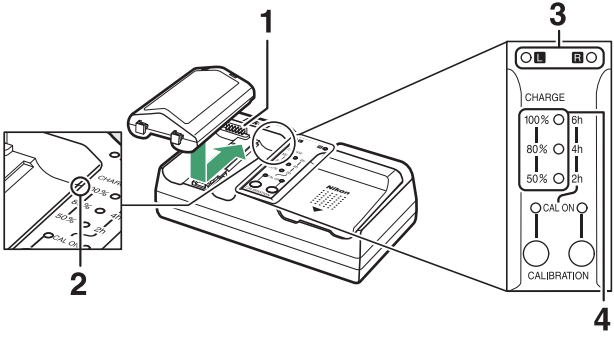


4 チャージャーの接点保護カバーを外す

チャージャーの接点保護カバーを図の方向にスライドさせて外します。



5 バッテリーを充電する



1	信号接点
2	ガイドライン
3	動作ランプ
4	表示ランプ（緑色）

- バッテリーの先端（端子部）をチャージャーのガイドラインに合わせて置き、矢印の方向にカチッと音がして止まるまでスライドさせて装着します。
- バッテリーを装着した側（LまたはR）の動作ランプが点滅し、充電が始まります。
- 充電した容量に応じて表示ランプが点灯し、3つの表示ランプが全て消灯して動作ランプが点灯したら、充電は完了です。
- 充電の状態は動作ランプと表示ランプで確認できます。

		バッテリーの容量に対する充電状況			
		50%未満	50%以上、80%未満	80%以上、100%未満	100%
動作ランプ		⁂ 点滅	⁂ 点滅	⁂ 点滅	○ 点灯
表示ランプ	100%	● 消灯	● 消灯	⁂ 点滅	● 消灯
	80%	● 消灯	⁂ 点滅	○ 点灯	● 消灯
	50%	⁂ 点滅	○ 点灯	○ 点灯	● 消灯

6 充電が完了したら、セットしたときと逆の手順でバッテリーをチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

付属の電源コードについてのご注意

付属の電源コードは、バッテリーチャージャー MH-26a以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）https://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

キャリブレーション機能について

バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能についての詳しい内容は、「バッテリーチャージャー MH-26aの キャリブレーションについて」（🕮1114）をご覧ください。

チャージャーランプの警告について

MH-26aの動作ランプと表示ランプが交互に点滅している場合、次の指示に従ってください。

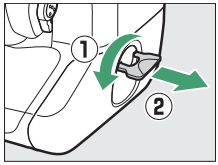
- **バッテリー未装着時**：チャージャーに異常が発生しました。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- **バッテリー装着時**：充電時にバッテリーまたはチャージャーに異常が発生しました。ただちにバッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いた後、ニコンサービス機関にバッテリーとチャージャーの修理を依頼してください。

バッテリーを入れる

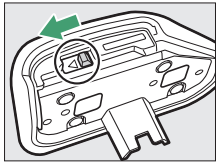
バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

1 バッテリー室カバー BL-6を取り外す

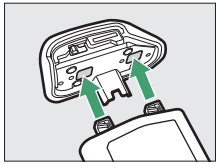
バッテリー着脱ノブを引き起こしてC方向に回し（①）、バッテリー室カバーを取り外します（②）。



2 バッテリー室カバーをバッテリーに取り付ける

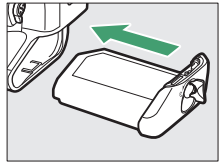


- バッテリーを取り付ける前に、バッテリー室カバー取り外しノブの矢印（◀）が見える位置にある場合は、矢印（◀）の方向に端までスライドさせてから取り付けてください。
- 図のようにバッテリー端の2つの突起をバッテリー室カバーに差し込みます。矢印（◀）が完全に見える位置までバッテリー室カバー取り外しノブが戻ると、取り付け完了です。



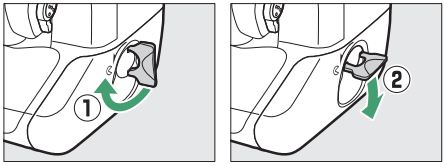
3 カメラにバッテリーを入れる

バッテリーは図で示されている向きで奥までしっかりと入れてください。



4 バッテリー着脱ノブをロックする

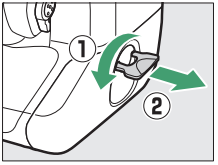
- バッテリー着脱ノブを図のように回してから（①）、凹みに倒して収納します（②）。



- カメラの操作中にバッテリーが外れないように、バッテリー着脱ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。

■■ バッテリーを取り出すには

電源をOFFにし、バッテリー着脱ノブを引き起こしてから⟲方向に回してバッテリーを引き出します。



☑ バッテリー室カバーをバッテリーから取り外すときは

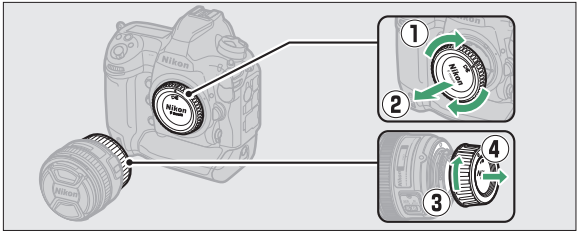
バッテリー室カバー取り外しノブを、表示されている矢印（◀）の示す方向に端までスライドさせて、バッテリー室カバーからバッテリー本体を引き出します。

☑ バッテリー室カバーについて

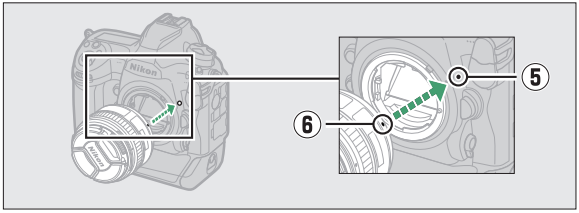
- **BL-6以外のバッテリー室カバーは、このカメラには使えません。**
- バッテリーはバッテリー室カバーを取り付けた状態でも充電できます。
- バッテリーの充電中などに、取り外したバッテリー室カバーをカメラ本体に取り付けると、ほこりの侵入を防げます。

レンズを取り付ける

- 本書では、主にAF-S NIKKOR 50mm f/1.4Gのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。
- レンズをカメラに取り付けるときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
  - カメラのボディーキャップを取り外し（①、②）、レンズのリアキャップを取り外す（③、④）



  - カメラの指標（⑤）とレンズの指標（⑥）を合わせる



- カチッと音がするまで矢印の方向にレンズを回す（⑦、⑧）



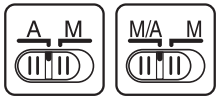
• 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

☑ 絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ（🕮1044）を取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。

☑ A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合

オートフォーカス（**A**、**M/A**、または**A/M**）に設定してください。

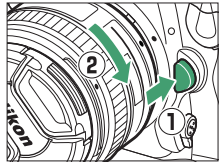


☑ 撮像範囲について

DXレンズを装着すると、撮像範囲がDXフォーマットに切り替わります。



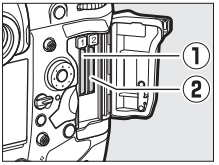
■■ レンズを取り外すには



- カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら（①）、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し（②）、引き抜いてください。
- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズのリアキャップをそれぞれ取り付けてください。

メモリーカードを入れる

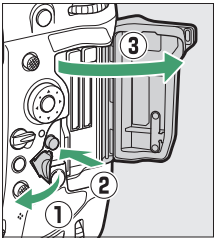
このカメラは、スロット1（①）とスロット2（②）のメモリーカードスロットを装備しており、2枚のメモリーカードを同時に使用することができます。



- メモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- メモリーカードとメモリーカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損するおそれがあります。

1 メモリーカードカバーを開ける

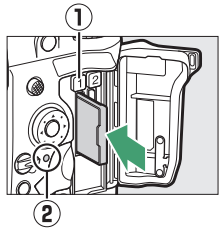
開閉ロックボタンカバーを開き（①）、開閉ロックボタンを押すと（②）、メモリーカードカバーが開きます（③）。



2 メモリーカードを入れる

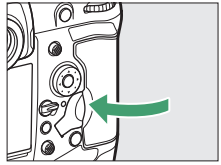
メモリーカードの向きを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。メモリーカードを正しく挿入していることを必ずご確認ください。

メモリーカードのうら面を画像モニター側に向け、奥まで確実に押し込んでください。メモリーカードが正しく挿入されると、メモリーカードイジェクトレバー（①）が出てくるとともに、メモリーカードアクセスランプ（②）が数秒間点灯します。



3 メモリーカードカバーを閉める

このカメラに他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、メモリーカードを初期化してください。



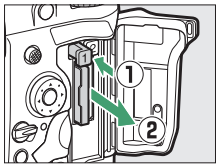
ヒント：メモリーカードを2枚使用した場合

スロット1とスロット2の両方にメモリーカードを入れると、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］でスロット2に入れたメモリーカードの機能を設定できます。

- ［**順次記録**］：スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
- ［**バックアップ記録**］：同じ画質モード、画像サイズの画像を両方に記録します。
- ［**RAW+JPEG分割記録**］：RAWとJPEGを同時に記録する画質モードの場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。
- ［**JPEG+JPEG分割記録**］：それぞれのスロットに画像サイズの異なるJPEG画像を記録できます。

■■ メモリーカードを取り出すには

メモリーカードカバーを開ける前に、メモリーカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。メモリーカードカバーを開けて、メモリーカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。

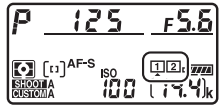


メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。メモリーカードの取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やカメラやメモリーカードの故障の原因となります。
  - メモリーカードの着脱をしないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

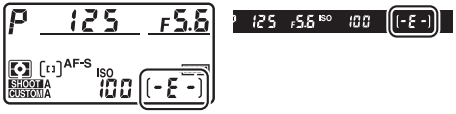
メモリーカード表示について

メモリーカードをカメラに入れると、挿入したメモリーカードのアイコンが上面表示パネルに表示されます（図は、スロット1とスロット2の両方にメモリーカードを入れた例です）。
メモリーカードの残量がなくなった場合など、何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているメモリーカードのアイコンが点滅します。



☑ メモリーカードが入っていないときの表示について

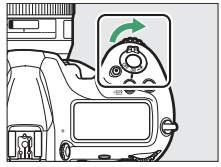
メモリーカードが入っていないときは、上面表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に[- E -]マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、上面表示パネルの[- E -]マークは点灯します。



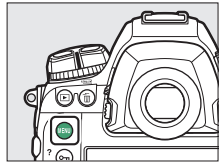
日付と時刻を設定する

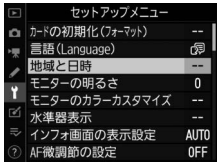
カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする



2 セットアップメニュー［地域と日時］を選んでマルチセレクターの▶を押す





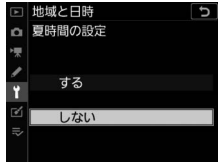
- 購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で［**地域と日時**］が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニュー項目の設定」（🕮81）をご覧ください。

3 現在地を設定する



- [**地域と日時**] 画面で [**現在地の設定**] を選びます。
- [**現在地の設定**] 画面で現在地のタイムゾーンを選んでⓄKボタンを押してください。
- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（協定世界時）との時差が表示されます。

4 夏時間を設定する



- [**地域と日時**] 画面で [**夏時間の設定**] を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、[**する**] に、実施していないときは [**しない**] にして、Ⓞ Kボタンを押してください。
- [**する**] にすると、[**しない**] のときよりも時刻が1時間進みます。

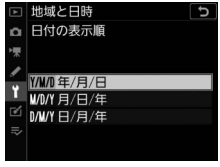
5 日付と時刻を合わせる

- [**地域と日時**] 画面で [**日時の設定**] を選びます。
- [**日時の設定**] 画面でマルチセレクターを操作して現在地の日時に合わせてから、Ⓚボタンを押してください。



6 日付の表示順を選ぶ

- [**地域と日時**] 画面で [**日付の表示順**] を選びます。
- 再生画面に表示する日付の年、月、日の表示順を選んでⓀボタンを押します。



7 メニュー操作を終了する

シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。



時計用電池について

カメラの内蔵時計は、市販のCR1616リチウム電池で作動しており、寿命は約2年です。半押しタイマー作動中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点灯した場合は、電池残量が少なくなっていますので、市販の新しいCR1616リチウム電池に交換することをおすすめします。時計用電池の交換方法については、「時計用電池の交換について」（🕮1083）をご覧ください。

ヒント：位置情報機能を使用して日時を設定する

セットアップメニュー［**位置情報（内蔵）**］の［**位置情報記録**］を［**する**］に設定すると、現在の位置情報とUTC（協定世界時）を取得できます。［**位置情報（内蔵）**］の［**衛星による日時合わせ**］を［**する**］にすると、取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

ヒント：スマートフォンと日時を同期する

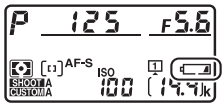
SnapBridgeアプリを使用すると、カメラと接続したスマートフォンと日時を同期することができます。詳しくはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

バッテリー残量について

撮影を始める前にバッテリーの残量を確認してください。バッテリーの残量は、上面表示パネルまたはファインダー内表示で確認できます。

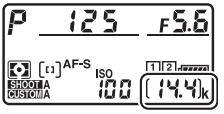




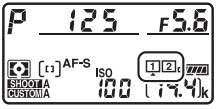
上面表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

メモリーカード表示と記録可能コマ数について

上面表示パネルまたはファインダー内表示でメモリーカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を確認できます。



- 上面表示パネルには、使用中のスロットが図のように表示されます（例：スロット1とスロット2の両方にメモリーカードが入っている場合）。



- 初期設定では、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］が［**順次記録**］に設定されています。スロット1とスロット2の両方にメモリーカードを入れると、スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。

- カメラにメモリーカードが2枚入っている場合、スロット1の記録可能コマ数が表示されます。スロット1のカードの残量がなくなった場合は、スロット2の記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。たとえば「[1.4] k」と表示されている場合、約1400枚の撮影が可能です。
- メモリーカードの残量がなくなった場合など、何らかのエラーが発生したときは、エラーが発生したメモリーカードが入っているスロットアイコンが点滅します。

撮影と再生の基本操作

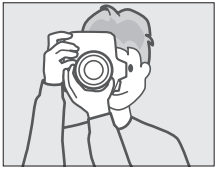
静止画を撮影する

静止画撮影にはファインダーを見ながら撮影する方法（ファインダー撮影）と、画像モニターを見ながら撮影する方法（ライブビュー撮影）があります。

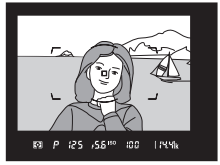
ファインダーを見ながら撮影する（ファインダー撮影）

1 カメラを構える

脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。

2 構図を決める

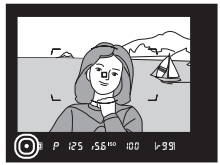


- **ファインダーを見ながら構図を決めてください。**
- 被写体をAFエリアフレーム内に配置します。

3 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる



- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

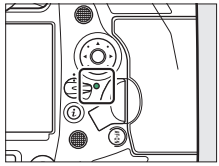


ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

- **AF-ON**ボタンを押してもピント合わせができます。

4 **シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する**

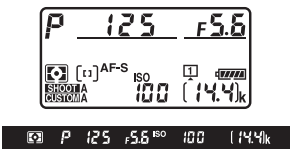




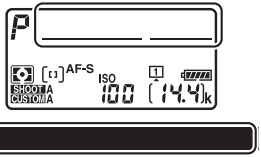
メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードアクセスランプ点灯中に、**メモリーカードやバッテリーの取り出し、ACアダプター（別売）の取り外しは行わないでください。**

ヒント：ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、上面表示パネルのシャッタースピード、絞り値の表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で変更できます。



半押しタイマーがオンのとき



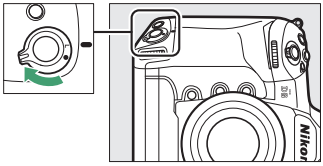
半押しタイマーがオフのとき

ヒント：縦位置で撮影するときは

このカメラは、縦位置にカメラを構えて撮影するときに便利な縦位置シャッターボタン、縦位置マルチセレクター、縦位置メインコマンドダイヤル、縦位置サブコマンドダイヤル、縦位置**Fn**ボタン、縦位置**AF-ON**ボタンを装備しています。

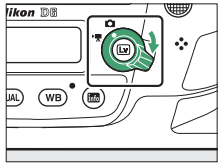


- 縦位置撮影用のボタンやダイヤルを誤って使わないようにロック（固定）するには、縦位置シャッターボタンロックレバーを**L**の位置に回します。

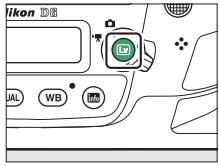


画像モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

1 ライブビューセレクターを📷（静止画ライブビュー）に合わせる



2 Lvボタンを押す



- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。

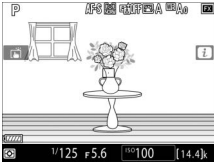
3 カメラを構える

右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。



4 構図を決める

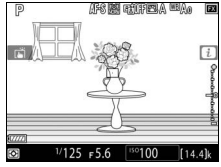
被写体を画面の中央付近に配置します。



5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- ピントが合うとフォーカスポイントが緑色で点灯します。被写体が近すぎるなどピントが合わないときは、フォーカスポイントは赤色で点滅します。
- ライブビュー時にⓄⓀボタンを押すと、図のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを画像モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正は、通常と同じ±5段まで設定できますが、画像モニターで確認できるのは±3段までになります。

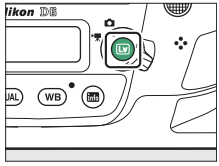


6 シャッターボタンを全押しして撮影する

撮影時は画像モニターが消灯します。



7 Ⓛⓥボタンを押してライブビューを終了する



ライブビュー撮影時のご注意

- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、動画撮影メニューの［**フリッカー低減**］で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30 秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します。

- カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］を［**制限なし**］に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

露出プレビューについて

- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
  - 別売スピードライト装着時
  - ［**アクティブD-ライティング**］または［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］を設定した場合
  - ピクチャーコントロールの［**コントラスト**］が［**A**］（オート）の場合（🕮128）
  - シャッタースピードを**x 250**に設定した場合
  - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります（露出インジケーターが点滅します）。

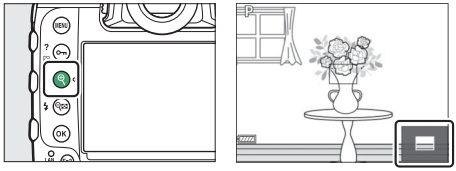
ヒント：タッチ操作について

ライブビューで静止画を撮影するとき、シャッターボタンの代わりにタッチ操作でピントを合わせたり、シャッターをきることができます（🕮19）。

ヒント：ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に🔍ボタンを押すと、拡大表示できます（最大約11倍）。

- 🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍（⚡）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示時は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
- 拡大表示時は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。



ヒント：ライブビュー時のプレビュー機能

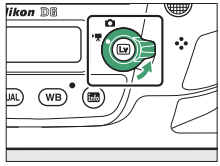
ライブビュー中に**Pv**ボタンを押すと開放絞りになり、ピントが確認しやすくなります。再度**Pv**ボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。開放絞り中は画像モニターに開放絞りのアイコン（◎）が表示されます。

動画を撮影する

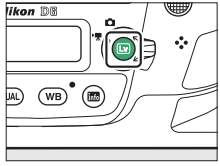
画像モニターを見ながら動画を撮影できます。

ヒント：動画撮影に関する表記について
本書では、撮影時にライブビューセレクターを🎥に合わせている状態を「動画撮影時」、動画撮影時に動画撮影ボタンを押して動画を記録している状態を「動画記録中」と表記しています。

1 ライブビューセレクターを🎥（動画ライブビュー）に合わせる

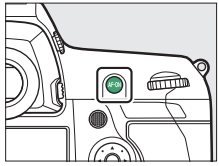


2 Ⓛⓥボタンを押す



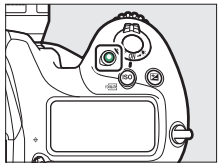
- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。

3 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

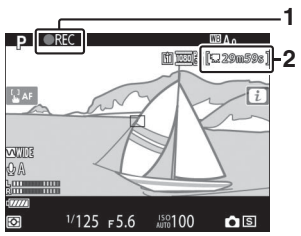


- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。
- 画面をタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動してピントを合わせます。

4 動画撮影ボタンを押して、動画記録を始める



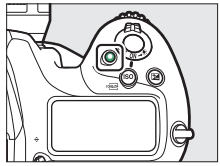
- 動画記録中は録画中マークが画像モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。



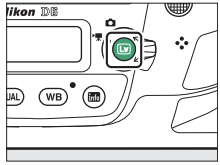
1 録画中マーク
2 動画記録残り時間

- 動画記録中も、**AF-ON**ボタンを押すか画面をタッチすると被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵の動画用マイクで音声を記録します。動画記録中は動画用マイクを指でふさがないようにしてください。
- 動画撮影時は±3段の範囲で露出補正ができます。

5 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画記録を終了する



6 Lvボタンを押してライブビューを終了する



動画撮影時のご注意

- 動画撮影時の画像モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）

- ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
- 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- パワー絞り作動中、画面にちらつきが発生する

- 動画撮影時に、🔍ボタンで画面を拡大した場合（🕮69）、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画記録は自動的に終了します。
  - 最長記録時間に達したとき
  - ライブビューセレクターを切り換えたとき
  - レンズを取り外したとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
  - オートフォーカス作動中
  - パワー絞り作動中
  - 絞り値を変更した場合
  - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- 音声レベルインジケーターの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。

☑ 動画撮影時の残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30 秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します。

- カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］を［**制限なし**］に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの右上に表示されている動画記録残り時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画記録およびライブビューを自動的に終了します。

☑ 動画記録中の調整について

- ヘッドホンの音量は変更できません。
- マイク感度を🔇以外に設定すると、動画記録中にマイク感度を変更できます。🔇には変更できません。

ヒント：動画撮影時のピント合わせについて
シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

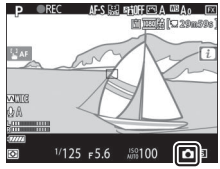
ヒント：動画撮影時の拡大表示
動画撮影時も🔍ボタンを押して拡大表示できます（🕮61）。動画記録中は🔍ボタンを押すと100%表示になります。🔍（ϟ）ボタンを押すと元の表示に戻ります。

動画撮影時に静止画を撮影する



動画撮影時にシャッターボタンを全押しすると、静止画を撮影できます。撮影される静止画のアスペクト比（横：縦）は、16：9になります。

- 静止画を撮影すると📷アイコンが点滅します。
- 動画記録中でも静止画は撮影できます。動画の記録は中断されません。



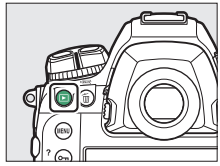
☑ 動画撮影時の静止画撮影について

- ピントが合っていなくても撮影されます。
- 撮影される静止画の画像サイズは動画の画像サイズと同じです。
- 画質モードは［**FINE★**］に固定されます。
- 撮影した静止画は動画撮影メニュー［**動画記録先**］で設定したスロットに保存されます。
- レリーズモードを連続撮影にしている場合、撮影速度は［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によって異なります。動画を記録している間は1コマ撮影になります。
- 1回の動画記録中に撮影できる静止画は、最大50コマです。
- 再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定していても、自動で再生されません。

撮影した画像を確認する

▶ボタンを押すと、撮影した静止画と動画を再生して確認できます。

1 ▶ボタンを押す

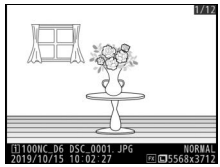


- 撮影した画像をカメラ背面の画像モニターに表示します。



- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

2 マルチセレクターの◀▶を押して他の画像を確認する



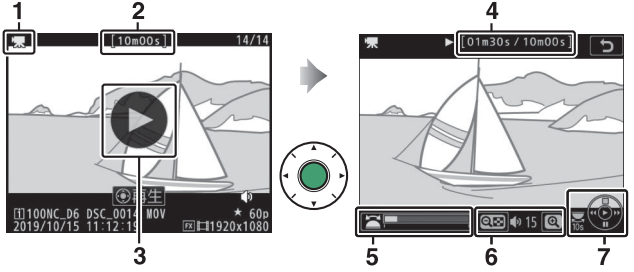
- 画面を左右にフリックしても画像を切り換えられます（🕮21）。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

ヒント：撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

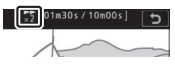
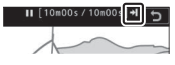
動画を再生する

動画には🎥マークが表示されています。マルチセレクターの中央ボタンを押すか、または画面上の▶アイコンをタッチして動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



1	🎥マーク
2	記録時間
3	▶アイコン
4	再生時間/記録時間
5	プログレスバー
6	音量設定
7	操作ガイド

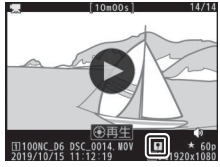
■■ 動画再生中の操作方法

操作	内容
一時停止する	マルチセレクターの㊦を押すと一時停止します。
再生を再開する	一時停止中または早戻し/早送り中に中央ボタンを押すと動画再生を再開します。
早戻しする/早送りする	• 動画の再生中に◀を押すと早戻し、▶を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、早戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 • ◀を押し続けると、先頭フレームに移動し、▶を押し続けると、最終フレームに移動します。 • 先頭フレームには▶アイコンが、最終フレームには⏭アイコンが、画面右上に表示されます。  
スロー再生する	一時停止中に㊦を押すとスロー再生します。
コマ戻しする/コマ送りする	• 一時停止中に◀▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 • ◀▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/10秒戻す	メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
先頭フレームに移動する/最終フレームに移動する	動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。

操作	内容
インデックスマークに移動する	動画にインデックスマークがある場合にサブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。 • インデックスマークは、動画を一時停止中にiボタンを押して表示される［**動画編集**］画面で追加および削除できます。
音量を調節する	⊕ボタンを押すと音量が大きくなり、⊖（ϟ）ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する	一時停止中にiボタンを押すと、［**動画編集**］画面を表示します。
再生終了	ⓚまたは▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、再生画面が終了して撮影できる状態になります。

ヒント：インデックスマーク

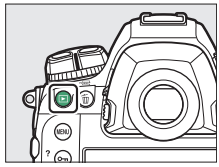
動画を一時停止中にiボタンを押して［**インデックスマーキング追加**］を選ぶと、インデックスマークを追加できます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます。インデックスマークが設定された動画の場合、1コマ表示画面にマークが表示されます。



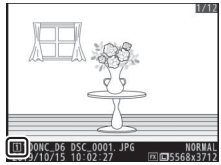
画像を削除する

表示中の画像を削除します。**削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。**

1 削除したい画像を表示する

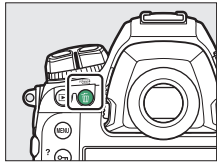


- ▶ボタンを押して画像モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀▶で削除したい画像を選びます。



- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

2 画像を削除する



- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。



- 削除確認画面で▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。

画像を転送する

撮影した画像をスマートフォンやパソコンに転送できます。転送するには次の方法があります。それぞれの詳しい接続方法は、活用ガイドの「パソコンやテレビとの接続」（🕮445）、「内蔵の無線機能でネットワークへ接続する」（🕮457）、および「有線LANまたはWT-6でネットワークに接続する」（🕮514）をご覧ください。

スマートフォンに転送する

SnapBridgeアプリを使用すると、内蔵Wi-Fi機能やBluetooth機能を使用して、カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送できます。

パソコンやFTPサーバーに転送する

パソコンに転送するには、複数の方法があります。

■■ 内蔵Wi-Fi機能

カメラに内蔵されているWi-Fi機能を使用して、無線でパソコンに画像を転送できます。



■■ ワイヤレストランスミッター WT-6

別売のワイヤレストランスミッター WT-6を使用して、無線ネットワーク経由でパソコンまたはFTPサーバーに画像を転送できます。WT-6を使用すると、内蔵Wi-Fi機能よりも安定した無線接続が可能です。



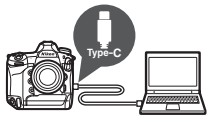
■■ 有線LAN

カメラの有線LAN接続端子にイーサネットケーブルを接続して、ネットワーク経由でパソコンまたはFTPサーバーに画像を転送できます。



■■ USBケーブル

カメラとパソコンをUSBケーブルで接続して、パソコン用のソフトウェアNX Studioを使用してパソコンに画像を転送できます。



Wireless Transmitter Utilityについて

内蔵Wi-Fi機能、WT-6、有線LANを使用して画像を転送するには、パソコン用のソフトウェアWireless Transmitter Utilityが必要です。

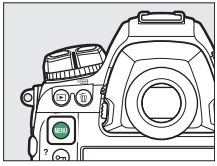
SnapBridgeおよびパソコン用ソフトウェアについて

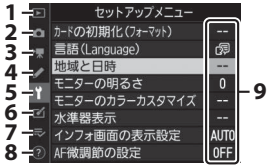
- SnapBridgeアプリはApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロードできます。
- パソコン用ソフトウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

ボタンなどを使ったカメラの操作方法

MENUボタンの使い方

MENUボタンを押すと、画像モニターにメニュー画面を表示します。



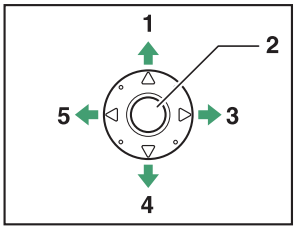


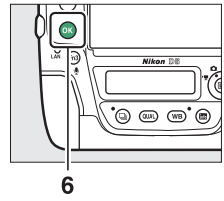
1	▶［**再生メニュー**］
2	📷［**静止画撮影メニュー**］
3	🎥［**動画撮影メニュー**］
4	✏［**カスタムメニュー**］
5	✕［**セットアップメニュー**］
6	☑［**画像編集メニュー**］
7	☰［**マイメニュー**］/ ⏲［**最近設定した項目**］※
8	ⓘ ヘルプあり表示
9	各項目の現在の設定

※どちらかに設定できます。初期設定は［**マイメニュー**］です。

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセレクターとOKボタンを使います。





1	上に移動
2	中央ボタン：決定する
3	次の画面に進む（右を選択または決定）
4	下に移動
5	前の画面に戻る（左を選択または取り消し）
6	OKボタン：決定する

1 メニューのタブを選ぶ

◀を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



2 メニューを切り換える

㊤㊦を押して、メニューのタブを切り換えます。



3 選んだメニューに入る

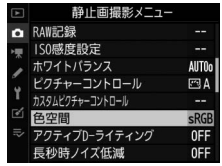
㊨を押して、選んだメニューに入ります。



4 メニュー項目を選ぶ

㊤㊦で項目を選びます。





5 設定内容を表示する

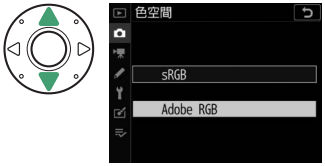
㊨を押して設定内容を表示します。



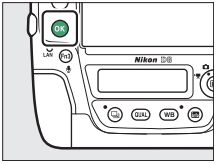


6 設定内容を選ぶ

㊦㊧で設定内容を選びます。



7 決定する



- ㊙ボタンを押します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

㊗ボタンについて

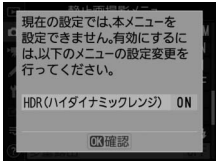
㊗ボタンの代わりにマルチセレクターの▶や中央ボタンを押しても決定できますが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、㊗ボタンしか使えない項目があります。

グレーで表示されるメニューについて

- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されます。



- メニューによっては㊗ボタンを押すとグレー表示されている原因が表示されます。



☑ 入力画面の操作方法について

画像のファイル名など、一部のメニューでは文字を入力して設定を変更することがあります。文字を入力するときに表示される画面での操作方法は次の通りです。

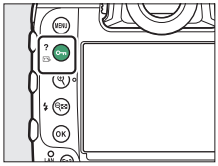


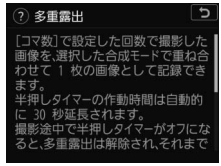
1 入力エリア
2 キーボードエリア
3 文字種変更

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、マルチセレクターの中央ボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、メインコマンドダイヤルを回します。
- マルチセレクターで文字種変更アイコンにカーソルを移動させて中央ボタンを押すと、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。文字種変更アイコンは、項目によって表示されないこともあります。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑（RESET）ボタンを押します。
- 内容を確定し、文字入力を終了する場合は、OKボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、**MENU**ボタンを押します。

ヒント：?（ヘルプあり表示）

- ヘルプがある場合に（/?）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します。





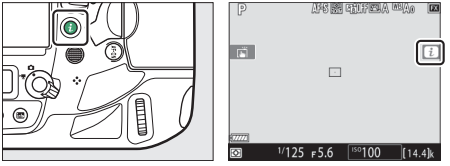
- 説明が2ページ以上ある場合は、マルチセレクターの▽を押して、次のページを表示してください。
- もう一度（/?）ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

ヒント：タッチパネルでの設定について

メニューはタッチパネルで設定することもできます（🕮25）。

iボタン（iメニュー）の使い方

iボタンを押すか、ライブビュー時に画像モニターのiをタッチすると、iメニューが表示されます。



- 設定したい項目をマルチセレクターで選んで中央ボタンを押すと、選択項目が表示されます。選択項目を選んで中央ボタンを押すと、設定が変更されてiメニュー画面に戻ります。



- 設定を変更せずに1つ前の画面に戻るには、iボタンを押してください。
- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時、および動画撮影時で表示される内容がそれぞれ異なります。

☑ 選択項目について

カメラの状態によって、設定できない項目があります。この場合、設定できない項目のアイコンがグレーで表示されます。



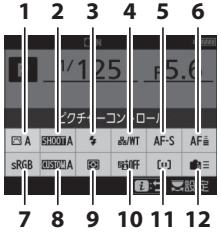
ヒント：コマンドダイヤルで設定する



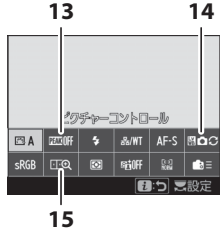
- **i**メニュー画面でメインコマンドダイヤルを回すと、選んでいる項目の設定を変更できます。設定した項目にさらに選択肢がある場合、サブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。
- 項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルのどちらでも設定できるものがあります。
- ⓚボタンを押すと決定します。マルチセレクターで他の項目を選んだり、シャッターボタンを半押ししても設定が決定されます。

静止画撮影時のiメニュー

静止画撮影時にiボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んでⓄKボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



ファインダー撮影の場合



ライブビュー撮影の場合

1	ピクチャーコントロール
2	静止画撮影メニューの切り換え※1
3	フラッシュモード
4	有線LAN/ ワイヤレストランスミッター
5	AFモード
6	AFロックオン※1
7	色空間
8	カスタムメニューの切り換え※1
9	測光モード
10	アクティブD-ライティング
11	AFエリアモード
12	カスタムボタンの機能
13	ピーキング表示※2
14	静止画Lv画面のホワイトバランス※2
15	2点拡大※2

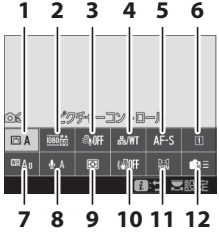
※1 ファインダー撮影時のみ表示されます。
※2 ライブビュー撮影時のみ表示されます。

ヒント：*i*メニューのカスタマイズについて

*i*メニューの項目はカスタムメニューで変更できます。ファインダー撮影時の項目はカスタムメニューf1［**メニューのカスタマイズ**］、ライブビュー撮影時の項目はf2［**メニューのカスタマイズ（Lv）**］でそれぞれ設定できます。

動画撮影時の*i*メニュー

動画撮影時に*i*ボタンを押すと次の項目が表示されます。設定したい項目をマルチセレクターで選んでⓄⓀボタンを押すと、選択項目が表示され、設定を変更できます。



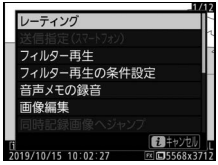
1	ピクチャーコントロール
2	画像サイズ/フレームレート/画質
3	風切り音低減
4	有線LAN/ ワイヤレストランスミッター
5	AFモード
6	動画記録先
7	ホワイトバランス
8	マイク感度
9	測光モード
10	電子手ブレ補正
11	AFエリアモード
12	カスタムボタンの機能

ヒント：*i*メニューのカスタマイズについて

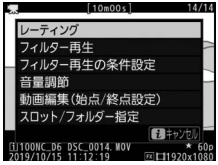
*i*メニューの項目はカスタムメニューで変更できます。動画撮影時の項目はカスタムメニュー g1［**i メニューのカスタマイズ**］で設定できます。

再生時のiメニュー

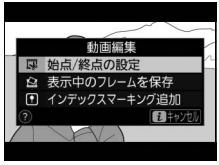
再生画面や動画再生時などにiボタンを押すと、状況に応じたiメニューが表示されます。



静止画選択時



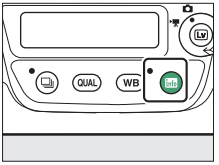
動画選択時



動画再生一時停止時

INFOボタンの使い方

INFOボタンを使うと、画像モニターに撮影に関する情報を表示したり、画面表示を切り換えたりすることができます。



ファインダー撮影時

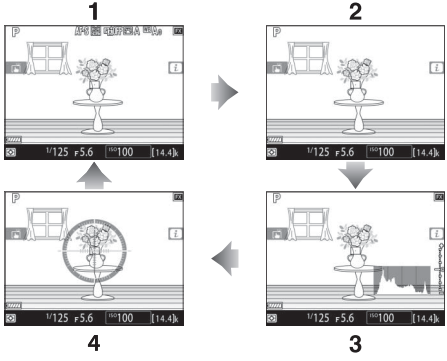
INFOボタンを押すと、画像モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます。



ライブビュー撮影時

INFOボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

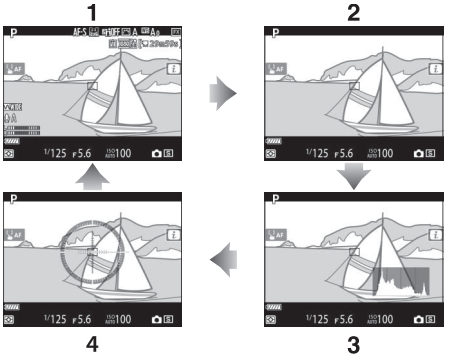
■ ライブビューセレクターを📷に合わせているとき



1	情報表示あり
2	シンプル表示
3	ヒストグラム※
4	水準器表示

※露出プレビュー時のみ表示されます。

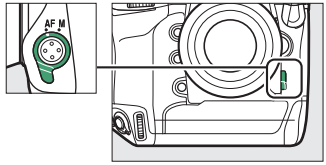
ライブビューセレクターを中に合わせているとき



1 情報表示あり
2 シンプル表示
3 ヒストグラム
4 水準器表示

フォーカスモードセレクターの使い方

オートフォーカスで撮影するときはフォーカスモードセレクターを**AF**に、マニュアルフォーカスで撮影するときは**M**に合わせます。

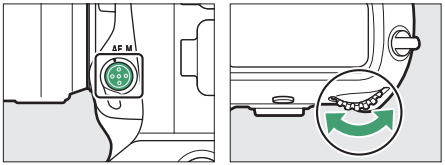


AFモードボタンの使い方

AFモードボタンを使うと、AFモードとAFエリアモードを設定できます。AFモードではピント合わせの方法を、AFエリアモードではオートフォーカス時のフォーカスポイントの選択方法を設定します。

AFモードの設定方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。選べる項目は、カメラの設定によって異なります。



■■ ファインダー撮影時

AFモードの設定は、ファインダー撮影時は上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。

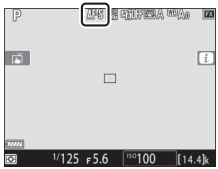




項目		内容
AF-S	[**シングルAF**]	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-C	[**コンティニュアスAF**]	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しし続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。

■■ ライブビュー撮影時/動画撮影時

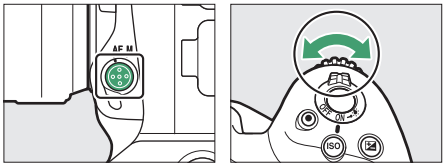
AFモードの設定は、ライブビュー撮影時または動画撮影時は画像モニターに表示されます。



項目		内容
AF-S	[**シングルAF**]	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F	[**フルタイムAF**]	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

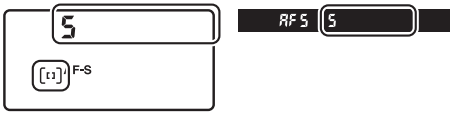
AFエリアモードの設定方法

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回します。選べる項目は、AFモードの設定によって異なります。

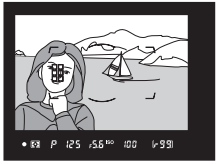


■■ ファインダー撮影時

AFエリアモードの設定は、ファインダー撮影時は上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。

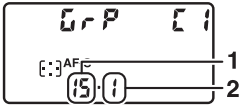


項目	内容
[**シングルポイントAF**]	選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
[**ダイナミックAF (9点)**] / [**ダイナミックAF (25点)**] / [**ダイナミックAF (49点)**] / [**ダイナミックAF (105点)**]	撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。ダイナミックAFはAFモードが**AF-C**の場合に選べます。 • 不規則な動きをする被写体の撮影に適しています。点数が多いほど広い範囲でピントを合わせることができます。
[**3D-トラッキング**]	選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。3D-トラッキングはAFモードが**AF-C**の場合に選べます。 • 左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています。

項目	内容
［**グループエリアAF**］/［**グループエリアAF（C1）**］/［**グループエリアAF（C2）**］	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、［**シングルポイントAF**］ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • ［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］は、グループに含めるフォーカスポイントの縦と横の数を、マルチセレクターで設定できます。ピントを合わせたい範囲や形状がある程度決まっている被写体の撮影などに適しています。
［**オートエリアAF**］	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。 

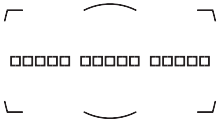
ヒント：[グループエリアAF（C1）]または［グループエリアAF（C2）]のフォーカスポイントの数を設定するには

- ［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］が選ばれた状態で、AFモードボタンを押しながらマルチセレクターの◀▶を押すとフォーカスポイントの横の数を変更できます。▲▼を押すと、縦の数を変更できます。フォーカスポイントの数は上面表示パネルに表示されます。



1 横のフォーカスポイント数
2 縦のフォーカスポイント数

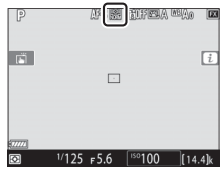
- ファインダーを見ながらフォーカスポイントの数を変更すると、AFエリアの形状を確認できます。



- フォーカスポイントの数は、カスタムメニューa10［**グループエリアAF（C1/C2）の設定**］でも設定できます。

■ ライブビュー撮影時/動画撮影時

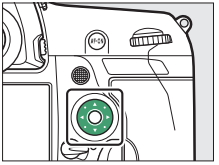
AFエリアモードの設定は、ライブビュー撮影時または動画撮影時は画像モニターに表示されます。



項目		内容
	［**顔認識AF**］	カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大16人まで）、マルチセレクターで枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。 • 記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。
	［**ワイドエリアAF**］	［**ノーマルエリアAF**］よりも広い範囲（エリア）で被写体をとらえてピント合わせを行います。
	［**ノーマルエリアAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。
	［**ターゲット追尾AF**］	フォーカスポイントを被写体に重ねてマルチセレクターの中央ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度中央ボタンを押すと、追尾を終了します。 • 指定した被写体を追尾させたい場合に適しています。

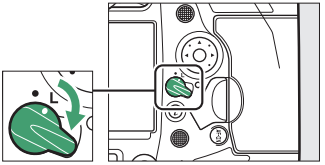
■■ フォーカスポイントを自分で選ぶ

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］、［**顔認識AF**］および［**ターゲット追尾AF**］以外の場合は、フォーカスポイントを自分で選べます。フォーカスポイントの位置は、マルチセレクターの▲▼◀▶またはななめを押して変更します。

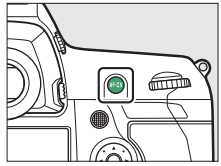


ヒント：フォーカスポイントをロックするには

フォーカスポイントロックレバーを回して**L**の位置に合わせると、フォーカスポイントをロック（固定）できます。ロックを解除するには、フォーカスポイントロックレバーを●の位置に合わせます。



AF-ONボタンの使い方

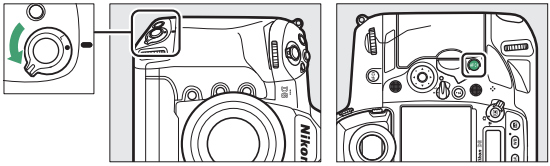


オートフォーカス撮影時に**AF-ON**ボタンを押すとピント合わせを行います。

- **AF-ON**ボタンの機能は変更することができます。静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で設定します。

ヒント：縦位置AF-ONボタンについて

縦位置シャッターボタンロックレバーのロックを解除して縦位置**AF-ON**ボタンを押したときも、同様の動作になります。

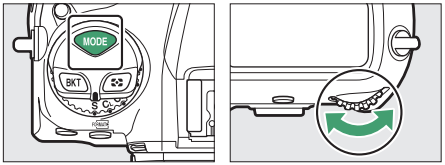


MODEボタンの使い方

露出モードを設定できます。

露出モードの設定方法

MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。



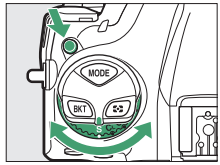
モード		内容
P	**プログラムオート**	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**	シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**	絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

レリーズモードダイヤル、ボタンの使い方

レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

レリーズモードの設定方法

カメラ上面のレリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回します。



モード		内容
S	**1コマ撮影**	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL	**低速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。撮影速度は10コマ/秒～1コマ/秒の間で設定できます。
CH	**高速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。撮影速度は14コマ/秒～10コマ/秒の間で設定できます。

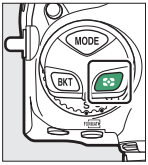
モード		内容
Q	**静音撮影**	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。連続撮影5コマ/秒～1コマ/秒で連続撮影することもできます。
⏲	**セルフタイマー撮影**	セルフタイマー撮影ができます。
MUP	**ミラーアップ撮影**	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。
⧉	**クイック設定ポジション**	⧉ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してレリーズモードを変更できます。

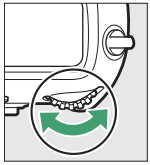
ボタンの使い方

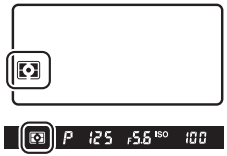
ボタンを使うと、画面内のどの部分の明るさをどのように測定するかを決めるための測光モードを設定できます。

測光モードの設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



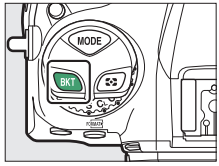




項目		内容
	[**マルチパターン測光**]	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。見た目に近い画像が得られます。
	[**中央部重点測光**]	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。

項目		内容
⊡	［**スポット測光**］	フォーカスポイントに重なるφ4mm 相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。
⊡*	［**ハイライト重点測光**］	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

BKTボタンの使い方



BKTボタンを使うと、オートブラケティング撮影時の撮影コマ数や補正ステップなどを設定できます。オートブラケティングは、明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影する機能です。

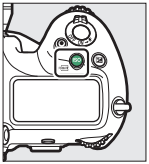
- **BKT**ボタンの機能は、カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で変更できます。

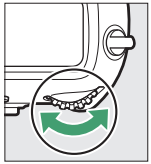
ISO（FORMAT）ボタンの使い方

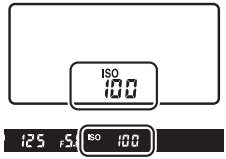
ISO（FORMAT）ボタンを使うと、光に対する感度（ISO感度）の設定ができます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する感度自動制御機能も設定できます。

ISO感度の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。







ISO感度はISO 100～102400の間で設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 102400から約0.3段～約5段の範囲での増感ができます。

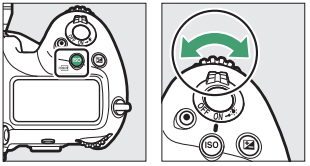
ISO感度を高く設定した場合

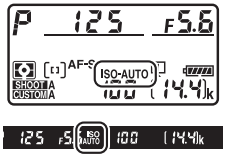
ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

感度自動制御機能の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定したISO感度で適正露出が得られない場合にカメラが自動的にISO 感度を変更するかどうかを設定できます。

- 感度自動制御機能を有効にすると、上面表示パネルとファインダー内表示に**ISO AUTO**が点灯します。**ISO AUTO**が点灯しているときは、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO AUTO**が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。





ヒント：上限感度を設定するには

撮影時にISO感度が高くなりすぎないように、上限感度を設定することもできます。制御上限感度は静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］にある［**感度自動制御**］の［**制御上限感度**］で設定できます。

±ボタンの使い方

±（露出補正）ボタンを使うと、カメラが制御する適正露出値を意図的に変更できます。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。



−1段補正



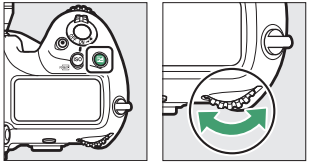
露出補正なし

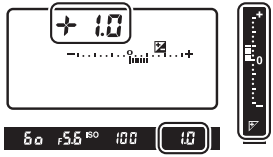


＋1段補正

露出補正の設定方法

±ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。





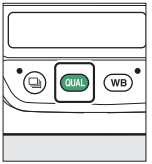
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは−側に補正してください。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

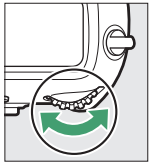
QUALボタンの使い方

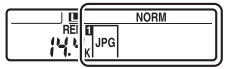
QUALボタンを使うと、記録する画像の画質モードとJPEG画像の画像サイズを設定できます。

画質モードの設定方法

QUALボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。







項目	内容
[**RAW+FINE★**]	RAW（NEF）とJPEGの2種類の画像を同時に記録します。JPEG画像は、画質とサイズのどちらを優先するかを選べます。★がある項目は画質優先、★がない項目はサイズ優先で圧縮します。
[**RAW+FINE**]	
[**RAW+NORMAL★**]	
[**RAW+NORMAL**]	
[**RAW+BASIC★**]	
[**RAW+BASIC**]	
[**RAW**]	RAW（NEF）画像を記録します。

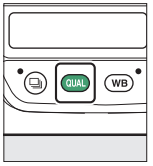
項目	内容
[**FINE★**]	JPEG画像を記録します。画質は高い順にFINE、NORMAL、BASICです。★がある項目は画質優先、★がない項目はサイズ優先で圧縮します。
[**FINE**]	
[**NORMAL★**]	
[**NORMAL**]	
[**BASIC★**]	
[**BASIC**]	

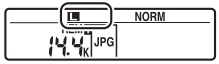
ヒント：分割記録について

- RAWとJPEGを同時に記録する画質モードの場合、静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］で［**RAW+JPEG分割記録**］に設定すると、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録できます。
- 画質モードがJPEG形式に設定されている場合、［**スロット2の機能**］の［**JPEG+JPEG分割記録**］を選ぶと、両方のスロットに画像サイズの異なるJPEG画像を記録することもできます。

画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。





- JPEG画像のサイズは［**サイズL**］、［**サイズM**］、［**サイズS**］のいずれかに設定できます。画像のピクセル数は撮像範囲との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ		
	L	M	S
［**FX（36×24）**］	5568×3712	4176×2784	2784×1856
［**1.2×（30×20）**］	4640×3088	3472×2312	2320×1544
［**DX（24×16）**］	3648×2432	2736×1824	1824×1216
［**5:4（30×24）**］	4640×3712	3472×2784	2320×1856
［**1:1（24×24）**］	3712×3712	2784×2784	1856×1856
［**16:9（36×20）**］	5568×3128	4176×2344	2784×1560

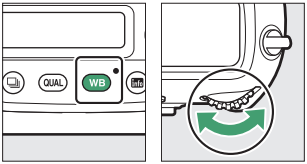
- RAW画像の画像サイズは、静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**RAW**］で設定してください。

WBボタンの使い方

WBボタンを使うと、ホワイトバランスの設定ができます。ホワイトバランスは、光源に合わせて見た目に近い色で撮影するための機能です。

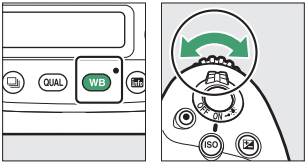
ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。





設定した項目にさらに選択肢がある場合、**WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。





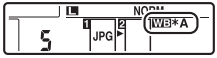
項目		内容
AUTO［オート］		カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。
	AUTO0［白を優先する］	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
	AUTO1［雰囲気を残す］	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
	AUTO2［電球色を残す］	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
☀A［自然光オート］		自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下では［オート］より見た目に近い色味で撮影できます。
☀［晴天］		晴天の屋外での撮影に適しています。
☁［曇天］		曇り空の屋外での撮影に適しています。
［晴天日陰］		晴天の日陰での撮影に適しています。
［電球］		白熱電球下での撮影に適しています。

項目	内容
［蛍光灯］	それぞれの光源下での撮影に適しています。
［ナトリウム灯混合光］	
［電球色蛍光灯］	
［温白色蛍光灯］	
［白色蛍光灯］	
［昼白色蛍光灯］	
［昼光色蛍光灯］	
［高色温度の水銀灯］	
［フラッシュ］	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
［色温度設定］	色温度を直接指定できます。
PRE［プリセットマニュアル］	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。

ヒント：ホワイトバランスの微調整

WBボタンを押しながらマルチセレクターを操作するとホワイトバランスの微調整を行えます。

- ［**色温度設定**］および［**プリセットマニュアル**］以外を選んでいる状態で◀▶を押すとブルーおよびアンバー方向、▲▼を押すとグリーンおよびマゼンタ方向の調整が行えます。
- ［**色温度設定**］を選んでいる状態で◀▶を押すと桁数が選べます。▲▼を押して色温度を指定できます。
- **WB**ボタンを放すと、設定した調整値で撮影できます。
- 微調整値を0 以外に設定すると、背面表示パネルにアスタリスク（✳）が表示されます。



- インフォ画面を表示しながら**WB**ボタンを押すと、画像モニターで数値を確認しながら調整を行えます。

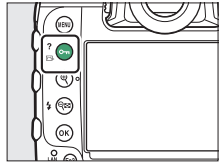


（/?）ボタンの使い方

撮影時に（/?）ボタンを使うと、記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

ピクチャーコントロールの設定方法

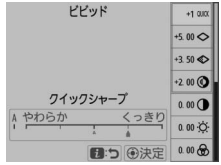
（/?）ボタンを押すとピクチャーコントロールの設定画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶で項目を選び、⊛ボタンで決定します。



項目		内容
A	[**オート**]	[**スタンダード**] をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。
SD	[**スタンダード**]	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	[**ニュートラル**]	素材性を重視した自然な画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
VI	[**ビビッド**]	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC	[**モノクローム**]	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。

項目		内容
PT	［**ポートレート**］	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
LS	［**風景**］	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
FL	［**フラット**］	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
01 ～ 20	**Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール）**	色合いや階調、彩度などを細やかに作りこんだ多彩な効果により、さまざまな雰囲気を表現して撮影できます。［**ドリーム**］や［**モーニング**］など、全部で20種類があります。

ピクチャーコントロールの微調整



ピクチャーコントロールを選んで⊛を押すと調整項目の設定を変更できます。

- ▲▼で調整する項目を選びます。◀▶を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を調整します。
- 調整できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。
- ⊛ボタンを押すと調整値を決定します。
- ピクチャーコントロールを微調整すると、ピクチャーコントロールのアイコンにアスタリスク（✱）が表示されます。



ピクチャーコントロールの調整項目

項目	内容
［**適用度**］	Creative Picture Controlの効果をどれだけ適用するかを調整します。
［**クイックシャープ**］	［**クイックシャープ**］を調整すると、画像のシャープさを調整する［**輪郭強調**］、［**ミドルレンジシャープ**］、［**明瞭度**］の各項目をバランスよく調整します。各項目を個別に調整することも可能です。
［**輪郭強調**］	画像の精緻な部分や、被写体の輪郭部分のシャープさを調整します。
［**ミドルレンジシャープ**］	［**輪郭強調**］と［**明瞭度**］の中間の細かさの模様や線に対してシャープさを調整します。
［**明瞭度**］	画像の階調や明るさを維持しながら、画像全体や太めの線のシャープさを調整します。
［**コントラスト**］	画像のコントラストを調整できます。
［**明るさ**］	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
［**色の濃さ（彩度）**］	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。
［**色合い（色相）**］	画像の色合いを調整できます。
［**フィルター効果**］	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます。
［**調色**］	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色の項目（［**B&W**］以外）を選んでⓀを押すと、さらに色の濃淡を選べます。
［**色の濃淡**］	適用するCreative Picture Controlの色の濃さを調整できます。

ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、前回調整した値を示しています。



調整項目の［A］（オート）について

- ［**A**］（オート）がある項目では、［**A**］を選ぶと自動で調整されます。
- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。

［フィルター効果］について

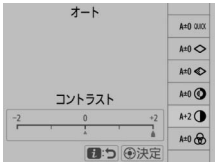
［**フィルター効果**］には、次のような効果があります。

項目	内容
［**Y**］（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
［**O**］（オレンジ※）	
［**R**］（赤※）	
［**G**］（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

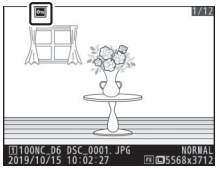
ヒント：ピクチャーコントロールで［オート］を選んでいる場合

各項目の調整レベルを［**A−2**］～［**A+2**］から選べます。



ヒント：画像をプロテクトする

再生時に**O-n**（**?**）ボタンを使うと、画像にプロテクト（保護）を設定できます。画像を誤って削除することを防ぎます。



ヒント：ヘルプを表示する

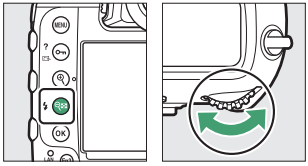
ヘルプがある場合に**O-n**（**?**）ボタンを押すと、その項目のヘルプ（説明）を表示します（🕮87）。

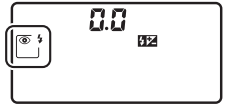
（ϟ）ボタンの使い方

撮影時に（ϟ）ボタンを使うと、カメラにスピードライトを装着してフラッシュ撮影するときの、フラッシュモードと調光補正の設定ができます。フラッシュモードではフラッシュの効果を、調光補正ではフラッシュの発光量を設定します。

フラッシュモードの設定方法

（ϟ）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。



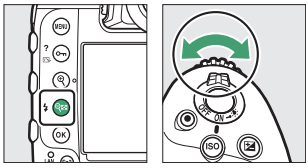


項目		内容
	［**通常発光**］（先幕シンクロ）	通常のフラッシュ撮影の場合はこのモードに設定します。
	［**赤目軽減発光**］（赤目軽減）	撮影前にフラッシュが発光して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。
SLOW	［**通常発光+スローシャッター**］（スローシンクロ）	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。

項目		内容
SLOW	[**赤目軽減+スローシャッター**]（赤目軽減スローシンクロ）	赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。
REAR	[**後幕発光**]（後幕シンクロ）	シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。
	[**発光禁止**]	発光しません。

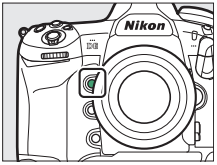
調光補正の設定方法

（ ）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。



- 被写体をより明るく照らしたいときは＋側に、被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

Pvボタンの使い方

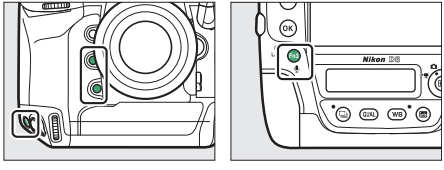


ファインダー撮影時に**Pv**ボタンを押し続けるとレンズの絞り羽根が絞り込まれ、設定されている絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニュー e6［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください。
- **Pv**ボタンの機能は変更することができます。静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で設定します。

Fn1/Fn2/Fn3（🎙）/縦位置Fnボタンの使い方

撮影時に**Fn1**、**Fn2**、**Fn3**（🎙）および縦位置**Fn**ボタンを押すと、よく使う機能を素早く呼び出せます。



- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、割り当てた機能の設定を変更できます。項目によってはメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合があります。
- 各ボタンの静止画撮影時の機能はカスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で、動画撮影時の機能はg2［**カスタムボタンの機能**］で変更できます。

撮影機能を設定する

撮影する画像の画質やサイズを設定する（撮像範囲、画質モード、画像サイズ）

撮像範囲に関する設定を変更する

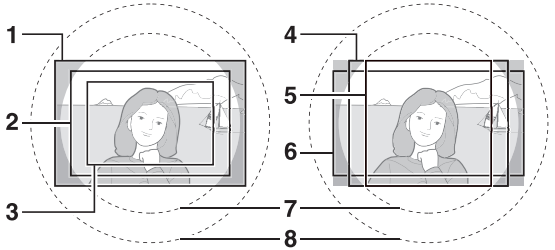
静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］で、撮像範囲に関する設定を変更できます。



■■ 撮像範囲設定

撮像範囲を切り換えられます。設定できる撮像範囲は次の通りです。

項目		内容
FX	[**FX（36×24）**]	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマットで画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
1.2x	[**1.2×（30×20）**]	レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。
DX	[**DX（24×16）**]	DXフォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
5:4	[**5:4（30×24）**]	アスペクト比（縦横比）が5：4の画像を記録します。
1:1	[**1:1（24×24）**]	アスペクト比（縦横比）が1：1の画像を記録します。
16:9	[**16:9（36×20）**]	アスペクト比（縦横比）が16：9の画像を記録します。



1	FX（36×24）
2	1.2×（30×20）
3	DX（24×16）
4	5:4（30×24）
5	1:1（24×24）
6	16:9（36×20）
7	DXレンズのイメージサークル
8	35mm判カメラ用レンズのイメージサークル

■ DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を［**DX（24×16）**］（DXフォーマット）に切り換えるかどうかを設定できます。

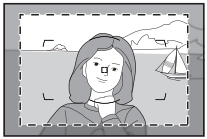
項目	内容
［**する**］	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を［**DX（24×16）**］に切り換えます。
［**しない**］	自動的に切り換えません。

「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して［**DX自動切り換え**］を［**しない**］に設定して［**撮像範囲設定**］を［**DX（24×16）**］以外にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

ヒント：ファインダーの表示について

撮像範囲が［**FX（36×24）**］以外のときは、次のように表示します。記録されない部分は薄暗く表示されます。



1.2×（30×20）



DX（24×16）



5:4（30×24）



1:1（24×24）

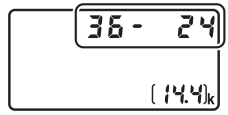


16:9（36×20）

ヒント：ボタンとコマンドダイヤルで撮像範囲を設定する

カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］で任意のボタンに［**撮像範囲選択**］を割り当てると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して撮像範囲を設定できます。

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます。
- ［**撮像範囲選択**］を割り当てたボタンを押すと、上面表示パネルやファインダー内表示で撮像範囲の設定を確認できます。
- 撮像範囲の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定してDXレンズを装着している場合、［**撮像範囲選択**］を割り当てたボタンでは撮像範囲は切り換えられません。



撮像範囲	表示
［**FX（36×24）**］	36 - 24
［**1.2×（30×20）**］	30 - 20
［**DX（24×16）**］	24 - 16
［**5:4（30×24）**］	30 - 24
［**1:1（24×24）**］	24 - 24
［**16:9（36×20）**］	36 - 20

ヒント：撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズでも、［**撮像範囲**］の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

画質モードを変更する

画像を記録する際の画質モードを選びます。

項目	内容
[**RAW+FINE★**]	RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。 • JPEG画像は、画質とサイズのどちらを優先するかを選べます。★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。 • カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。 • メモリーカードを1枚使用している場合や、メモリーカードを2枚使用していても［**スロット2の機能**］が［**順次記録**］または［**バックアップ記録**］の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
[**RAW+FINE**]	
[**RAW+NORMAL★**]	
[**RAW+NORMAL**]	
[**RAW+BASIC★**]	
[**RAW+BASIC**]	

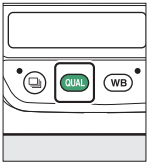
項目	内容
[**RAW**]	RAW画像を記録します。
[**FINE★**]	JPEG画像を記録します。画質は高い順にFINE、NORMAL、BASICです。 • ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
[**FINE**]	
[**NORMAL★**]	
[**NORMAL**]	
[**BASIC★**]	
[**BASIC**]	

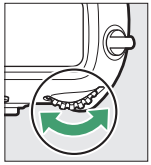
ヒント：RAW画像について

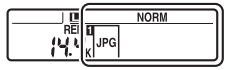
- ファイルの拡張子はNEFになります。
- RAW画像からJPEG画像などの汎用性の高い画像ファイルフォーマットに変換することをRAW現像と呼びます。RAW現像の際に、露出補正やホワイトバランス、ピクチャーコントロールなどの設定を調整できます。
- RAW現像では、RAW画像そのものは加工されないため、いろいろな設定で繰り返しRAW現像を行っても、RAW画像そのものの品質は維持されます。
- RAW現像は、カメラの画像編集メニュー［**RAW現像**］で行うか、パソコンでニコンソフトウェアNX Studioを使用すると行えます。NX Studioはニコンダウンロードセンターから無料でダウンロードできます。

■■ 画質モードの設定方法

ファインダー撮影時に、**QUAL**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。画質モードは、背面表示パネルに表示されます。







ヒント：静止画撮影メニュー［画質モード］について

画質モードは、静止画撮影メニュー［**画質モード**］でも設定できます。ライブビュー撮影時に画質モードを変更する場合は、静止画撮影メニュー［**画質モード**］で設定してください。

ヒント：RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- RAWとJPEGを同時に記録する画質モードで撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用している場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- ［**スロット2の機能**］を［**RAW+JPEG 分割記録**］に設定してメモリーカードを2枚使用している場合、RAW画像がスロット1に、JPEG画像がスロット2に記録されます（🕮308）。

画像サイズを変更する

記録するJPEG画像の画像サイズを選びます。JPEG画像のサイズは［**サイズL**］、［**サイズM**］、［**サイズS**］のいずれかに設定できます。画像のピクセル数は、撮像範囲（🕮136）との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ
［**FX（36×24）**］	L（5568×3712ピクセル）
	M（4176×2784ピクセル）
	S（2784×1856ピクセル）
［**1.2×（30×20）**］	L（4640×3088ピクセル）
	M（3472×2312ピクセル）
	S（2320×1544ピクセル）
［**DX（24×16）**］	L（3648×2432ピクセル）
	M（2736×1824ピクセル）
	S（1824×1216ピクセル）

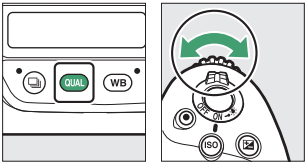
撮像範囲	画像サイズ
［**5:4（30×24）**］	L（4640×3712ピクセル）
	M（3472×2784ピクセル）
	S（2320×1856ピクセル）
［**1:1（24×24）**］	L（3712×3712ピクセル）
	M（2784×2784ピクセル）
	S（1856×1856ピクセル）
［**16:9（36×20）**］	L（5568×3128ピクセル）
	M（4176×2344ピクセル）
	S（2784×1560ピクセル）

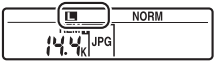
ヒント：プリント時の大きさについて

画像をプリントするときの大きさは、ピクセル数÷出力解像度（dpi）×2.54 cm で求められます。

■■ 画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、JPEG画像の画像サイズを設定できます。画像サイズは、背面表示パネルに表示されます。





- RAW画像の画像サイズは静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**RAW**］で設定してください。

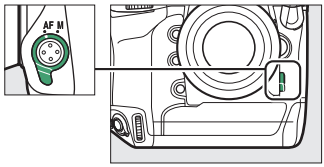
ヒント：静止画撮影メニュー［画像サイズ］について

- 画像サイズは静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**JPEG**］または［**RAW**］でも設定できます。
- RAW画像の画像サイズが［**サイズM**］または［**サイズS**］の場合、静止画撮影メニュー［**RAW記録**］の［**圧縮方式**］は［**ロスレス圧縮RAW**］に、［**記録ビットモード**］は［**12ビット記録**］に固定されます。

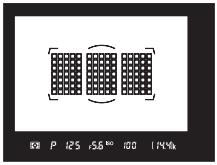
ピントの合わせ方を設定する（フォーカス）

フォーカスモードを切り換える

フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせるとオートフォーカス、**M**に合わせるとマニュアルフォーカスに切り替わります。



ファインダー撮影時、このカメラは105点のフォーカスポイントを使用してフォーカスを合わせます。



AFモードを変更する

AFモードでは、オートフォーカス時のピントの合わせ方を選べます。

■■ ファインダー撮影時

項目		内容
AF-S	［**シングルAF**］	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っている場合のみシャッターがきれます。 • 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです。
AF-C	［**コンティニュアスAF**］	スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しし続けている間はフォーカスロックはされず、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 • ファインダー内のピント表示（●）がいったん点灯しても、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカスに切り替わり、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。 • 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです。

ヒント：予測駆動フォーカスについて

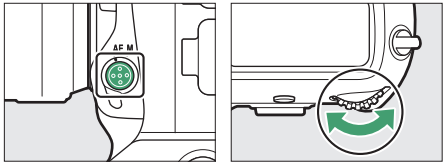
AFモードが**AF-C**のときに、シャッターボタンを半押しするか、**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

■■ ライブビュー撮影時/動画撮影時

項目		内容
AF-S	[**シングルAF**]	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F	[**フルタイムAF**]	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■■ AFモードの変更方法

AFモードを設定するには、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回します。

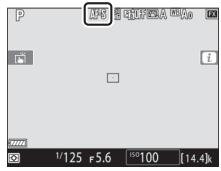


- ファインダー撮影時、AFモードは上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。





- ライブビュー撮影時または動画撮影時、AFモードは画像モニターに表示されます。



AFエリアモードを変更する

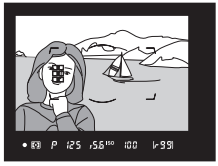
AFエリアモードでは、オートフォーカス時にフォーカスポイントをどのように選択するか設定できます。

■■ ファインダー撮影時

項目	内容
[**シングルポイントAF**]	フォーカスポイントを自分で選べます（🕮164）。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。 • 静止している被写体の撮影に適しています。
[**ダイナミックAF（9点）**] / [**ダイナミックAF（25点）**] / [**ダイナミックAF（49点）**] / [**ダイナミックAF（105点）**]	撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。ダイナミックAFはAFモードが**AF-C**の場合に選べます。 • 不規則な動きをする被写体の撮影に適しています。点数が多いほど広い範囲でピントを合わせることができます。 • [**ダイナミックAF（9点）**] / [**ダイナミックAF（25点）**]：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体をとらえやすい撮影に適しています（例：陸上競技やモータースポーツ）。 • [**ダイナミックAF（49点）**]：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています（例：フィールドスポーツ）。 • [**ダイナミックAF（105点）**]：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体をとらえにくい場合の撮影に適しています（例：野鳥撮影）。

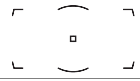
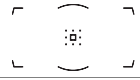
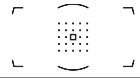
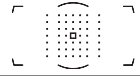
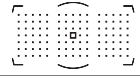
項目	内容
[**3D-トラッキング**]	105点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾します。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。3D-トラッキングはAFモードが**AF-C**の場合に選べます。 • 左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています（例：テニス）。 • カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。

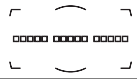
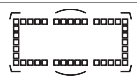
項目	内容
［**グループエリアAF**］/［**グループエリアAF（C1）**］/［**グループエリアAF（C2）**］	撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体をとらえるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。 • スナップ撮影や、動きのある被写体、［**シングルポイントAF**］ではとらえにくい被写体の撮影などに適しています。 • ［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］は、グループに含めるフォーカスポイントの縦と横の数を、マルチセレクターで設定できます（🕮167）。ピントを合わせたい範囲や形状がある程度決まっている被写体の撮影などに適しています。

項目	内容
［**オートエリアAF**］	カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。  • シャッターチャンスを優先した撮影、人物撮影、スナップ撮影などに適しています。 • AFモードが**AF-S**のときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示します。**AF-C**のときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを表示します。

AFエリアモードの表示について

上面表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	上面表示パネル	ファインダー内表示	ファインダー内表示（設定時）
［シングルポイントAF］	S	S	
［ダイナミックAF（9点）］※	d 9	d 9	
［ダイナミックAF（25点）］※	d 25	d 25	
［ダイナミックAF（49点）］※	d 49	d 49	
［ダイナミックAF（105点）］※	d 105	d 105	
［3D-トラッキング］	3d	3d	

AFエリアモード	上面表示パネル	ファインダー内表示	ファインダー内表示（設定時）
［グループエリアAF］	GrP	GrP	
［グループ エリアAF（C1）］	GrP C1	G C1	
［グループ エリアAF（C2）］	GrP C2	G C2	
［オートエリアAF］	Auto	Auto	

※実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

ヒント：3D-トラッキング機能について
AFエリアモードを［**3D-トラッキング**］にすると、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

ヒント：フォーカスポイントを素早く選ぶには
カスタムメニュー a4［**AF点数**］を［**27点**］または［**15点**］に設定すると、マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数が限定されてフォーカスポイントを素早く移動させることができます。

ヒント：［オートエリアAF］時のピント合わせ開始位置について
カスタムメニュー a12［**オートエリアAFの開始位置設定**］を［**する**］に設定すると、AFモードを**AF-C**に設定している場合にフォーカスポイントを選べるようになります。選んだフォーカスポイントで一度ピント合わせを行った後に、通常のオートエリアAFが動作します。構図内で被写体の位置がある程度決まっている場合に便利です。

ヒント：AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のAFエリアモードついて
AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用して合成絞り値がF5.6より暗い場合、AFエリアモードを［**3D-トラッキング**］または［**オートエリアAF**］に設定していても、［**シングルポイントAF**］に変更されます。

■■ ライブビュー撮影時/動画撮影時

項目		内容
	［**顔認識AF**］	カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大16人まで）、マルチセレクターで枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。 • 記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。 • 途中で顔が後ろを向くなどして、カメラが人物の顔を認識できなくなると枠が消えます。
	［**ワイドエリアAF**］	［**ノーマルエリアAF**］よりも広い範囲（エリア）で被写体をとらえてピント合わせを行います。
	［**ノーマルエリアAF**］	撮影者が選んだフォーカスポイントでピント合わせを行います。 • 三脚の使用をおすすめします。
	［**ターゲット追尾AF**］	フォーカスポイントを被写体に重ねて中央ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度中央ボタンを押すと、追尾を終了します。 • 指定した被写体を追尾させたい場合に適しています。

［ターゲット追尾AF］についてのご注意

次のような場合は、追尾動作が正常に行われないことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意

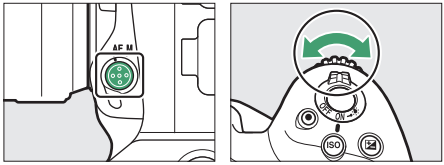
- ライブビュー時のオートフォーカスは、ファインダー撮影時のオートフォーカスよりピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はオートフォーカスでピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
  - 画面の長辺側と平行な線の被写体
  - 明暗差の少ない被写体
  - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
  - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
  - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
  - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
  - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
  - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- ピントが合わなくてもフォーカスポイントが緑色で点灯する場合があります。
- AF-SやAF-P以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、充分なピント精度が出ない場合があります。

ヒント：フォーカスポイントが[·]のように表示されている場合

［**ターゲット追尾AF**］設定時を除き、フォーカスポイント中央に点が表示されているときは、フォーカスポイントが画面の中央にあることを示しています。

■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードを設定できます。



- ファインダー撮影時、AFエリアモードは上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。



- ライブビュー撮影時または動画撮影時、AFエリアモードは画像モニターに表示されます。

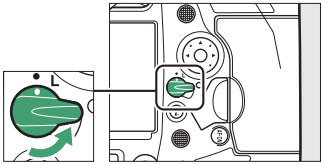


フォーカスポイントを自分で選ぶ

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］、［**ターゲット追尾AF**］以外の場合、フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。

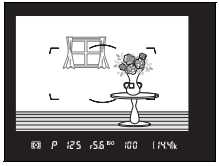
1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

フォーカスポイントロックレバーを回して●の位置に合わせるとロックが解除されます。

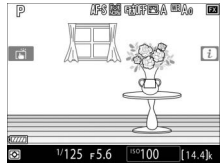


2 半押しタイマーがオンのときに、マルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

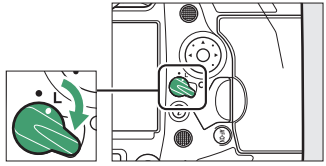
- ファインダー撮影時はAFエリアフレーム内の105点を選べます。



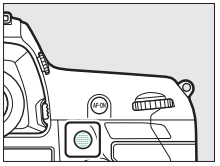
- ライブビュー撮影時は画像モニター全画面の任意の位置にフォーカスポイントを移動できます。



- マルチセレクターの中央ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。
- フォーカスポイントロックレバーを回して**L**の位置に合わせると、フォーカスポイントをロック（固定）します。



ヒント：サブセレクターについて



- マルチセレクターの代わりにサブセレクターを上下左右に倒してフォーカスポイントを選ぶこともできます。
- サブセレクターの中央を押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
- サブセレクターを操作するときは、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

ヒント：カメラを縦位置で構えるときは

カメラを縦位置で構えるときは、縦位置マルチセレクターを使ってフォーカスポイントを選ぶと便利です。カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］の［**縦位置マルチセレクター**］をご覧ください。

ヒント：サブセレクターと縦位置マルチセレクターの操作について

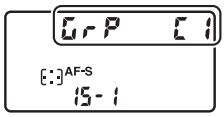
サブセレクターと縦位置マルチセレクターは、中央を押す操作に加え、図のように上下左右に倒して操作することもできます。側面から押すと、正しく動作しないことがあります。



グループエリアAFの形状を設定する

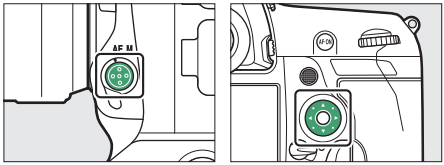
AFエリアモードが［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］の場合、グループエリアAFの形状をそれぞれ設定することができます。ピントを合わせたい範囲や形状がある程度決まっている被写体を撮影する場合に便利です。

1 AFエリアモードを［グループエリアAF（C1）］または［グループエリアAF（C2）］から選ぶ

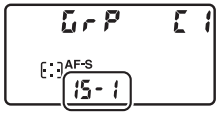


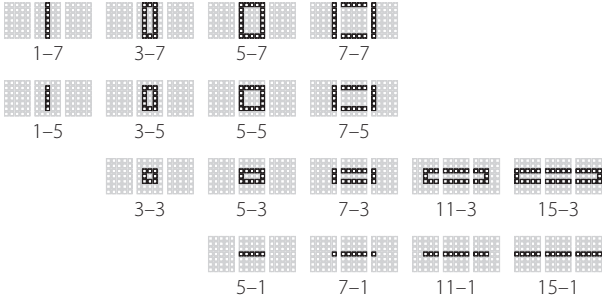
2 グループエリアAFの形状を設定する

- AFモードボタンを押しながら、マルチセレクターで範囲を変更できます。



- ▲▼で縦の範囲の増減、◀▶で横の範囲の増減が可能です。現在のAFエリアの形状を表す数字が上面表示パネルに表示されます。グループエリアAFの形状は次の通りです。

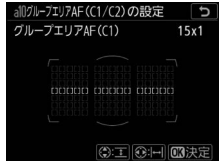




- AFモードボタンを放すと、グループエリアAFの形状が設定されます。

ヒント：AFエリアの形状の設定方法について

［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］のAFエリアの形状はカスタムメニュー a10［**グループエリアAF（C1/C2）の設定**］でも設定できます。設定したいグループエリアを選び、マルチセレクターで範囲を設定してください。㊗ボタンを押すと範囲が決定されます。



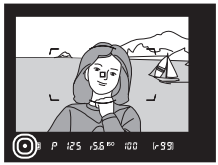
ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（🕮173）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモードを［**オートエリアAF**］以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

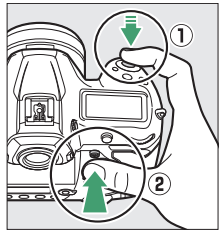




2 ピントを固定する

AFモードがAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、サブセレクターの中央を押すと（②）、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。



サブセレクターの中央を押している間、ファインダー内には**AE-L**マークが点灯します。



AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する



被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

ヒント：ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- サブセレクターの中央を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセレクターの中央を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

ヒント：AF-ONボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりに**AF-ON**ボタンを押してピントを合わせることもできます。
- ファインダー撮影時にカスタムメニュー a6［**半押しAFレンズ駆動**］が［**しない**］に設定されている場合は、**AF-ON**ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON**ボタンでピントを合わせた後で**AF-ON**ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持します。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度**AF-ON**ボタンを押してください。

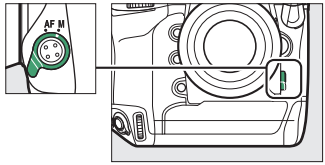
ヒント：オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合っていなくてもカメラがピントが合っていると判断し（ファインダー撮影時にピント表示（●）が点灯、またはライブビュー撮影時にフォーカスポイントが緑色で点灯した状態になり）、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

- 白壁や背景と同色の服を着ている人物など、被写体の明暗差がはっきりしない場合
- オリの中の動物など、フォーカスポイント内に遠くのものと近くのものが混在する被写体
- ビルの窓やブラインドなど、連続した繰り返しパターンの被写体
- 太陽を背景にした日陰の人物など被写体の明暗差が極端に異なる場合
- 遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など背景に対して被写体が小さい場合
- 一面の花畑など、絵柄が細かい場合

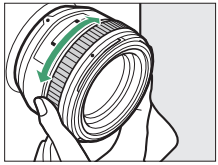
マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。



- **AFレンズを使用している場合：**カメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。
  - AF-Sレンズやフォーカスモード切り換えスイッチのあるAF-Pレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクターを切り換える必要はありません。
- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：**マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



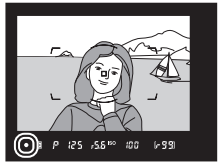
AF-S/AF-Pレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意

必ずカメラのフォーカスモードセレクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをすると、カメラやレンズの故障の原因になります。

■■ フォーカスエイドによるピント合わせ

マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。

- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます。



ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	ピント合わせができません。

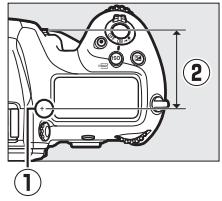
- オートフォーカスの苦手な被写体（🕮173）では、ピントが合っていなくてもピント表示（●）が点灯することがあります。ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- ピント合わせがしづらい場合は、三脚のご使用をおすすめします。

ヒント：AF-Pレンズ使用時のマニュアルフォーカスについて

AF-Pレンズを使ってマニュアルフォーカスでピントを合わせるときに、ファインダー内のピント表示が点滅した場合、それ以上同じ方向にフォーカスリングを回しても、ピントは合いません（ライブビュー撮影時には、画像モニターのフォーカスポイントが点滅します）。

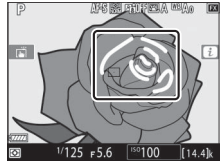
ヒント：距離基準マークとフランジバックについて

距離基準マーク⊖（①）は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。また、レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法をフランジバック（②）といいます。このカメラのフランジバックは46.5mmです。



ヒント：ピーキング表示（フォーカスピーキング）

- ライブビュー撮影時にマニュアルフォーカスでピントを合わせている場合、カスタムメニュー d10［**ピーキング表示**］の［**ピーキングの検出**］を［**しない**］以外に設定すると、ピントが合っている部分（ピーキング）の輪郭に色を付けて表示できます。
- 被写体の輪郭を検出できないときは、ピントが合っていてもピーキング表示ができないことがあります。その場合は拡大表示してピントが合っていることを確認してください。



画像の明るさに関する設定を行う（測光・露出）

明るさを測る方法を設定する

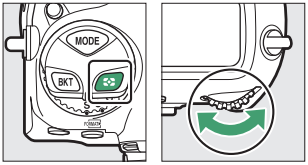
適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。測光モードでは、画面内のどの部分の明るさをどのように測定するかを設定します。

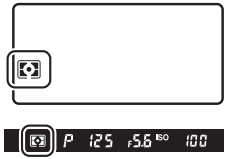
項目		内容
▣	［**マルチパターン測光**］	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
◉	［**中央部重点測光**］	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 • 露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、［**中央部重点測光**］をおすすめします。 • 測光範囲はカスタムメニュー b6［**中央部重点測光範囲**］で変更できます。非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時はφ12mm相当になります。

項目		内容
⊡	［**スポット測光**］	フォーカスポイントに重なるφ4mm相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし次の場合は中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。 • AFエリアモードが［**オートエリアAF**］、［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］の場合 • 非CPUレンズ使用時およびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時
⊡*	［**ハイライト重点測光**］	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

■■ 測光モードの設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。測光モードは、上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。





ヒント：[マルチパターン測光] とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

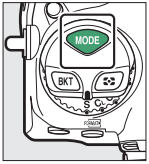
- **CPUレンズ**
  - **「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
  - **「RGBマルチパターン測光Ⅲ」**：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。
- **非CPUレンズ**
  - セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、［**中央部重点測光**］になります。

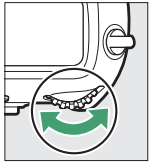
ヒント：[ハイライト重点測光] とレンズの組み合わせについて

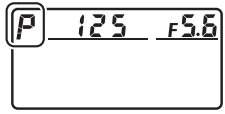
測光モードが［**ハイライト重点測光**］のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に［**中央部重点測光**］に変更されます。

露出モードを設定する

MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。露出モードは、上面表示パネルに表示されます。







モード		内容
P	**プログラムオート**（🕮184）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**（🕮185）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**（🕮186）	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**（🕮188）	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

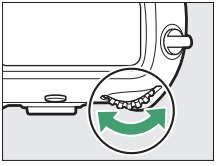
使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリングは、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズを装着すると、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。

■■P（プログラムオート）

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

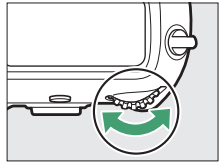
ヒント：プログラムシフトについて



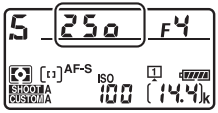
露出モード**P**では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回すと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられる「プログラムシフト」が行えます。プログラムシフト中は、上面表示パネルおよびファインダー内表示にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。

- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマークが表示されなくなるまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

■S（シャッター優先オート）



シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

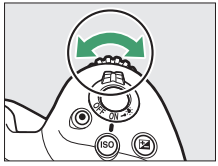


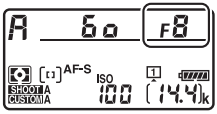


- シャッタースピードは1/8000（8000）～30秒（30''）、x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできます（🕮194）。

■■ A（絞り優先オート）

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。





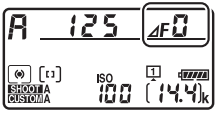


- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます（🕮194）。

ヒント：非CPUレンズを取り付けた場合

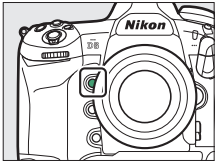
非CPUレンズを装着してセットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値（開放F値）を設定した場合は、上面表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、上面表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（**AF**、開放絞りは**AF0**）となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



ヒント：被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

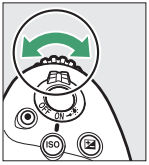


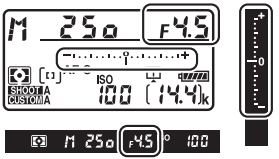
■■ M（マニュアル）

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、🕮191）で撮影する場合には、この露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケーターを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

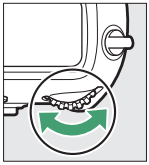
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30''）およびbuLb（バルブ）、--（タイム）、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（🕮194）。

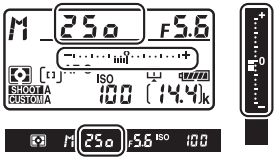
絞り値の設定：





シャッタースピードの設定：





ヒント：シャッタースピードの延長について

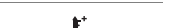
カスタムメニュー d7［**Mモード時のシャッタースピード延長**］を［**する**］に設定すると、シャッタースピードを最長900秒（15分）まで設定できます。

ヒント：AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

ヒント：露出インジケーターについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］の設定によって変化します）。

表示部	［露出設定ステップ幅］が［1/3段］のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
上面表示パネル			
ファインダー内表示			

- インジケーター表示の＋/－方向は、カスタムメニュー f9［**インジケーターの＋/－方向**］で変更できます。

ヒント：露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケーターが点滅して警告します。

長時間露出で撮影する（露出モードMのみ）

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



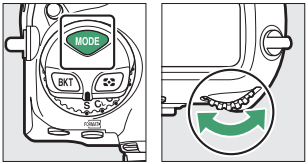
シャッタースピードをBulbに設定し、絞り値をF25にして35秒間の長時間露出撮影した場合の画像

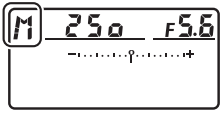
撮影方法	内容
バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントローラー、リモートコードなどが必要です。

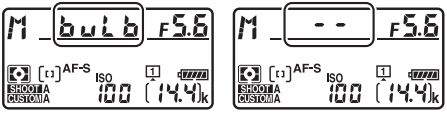
1 三脚などを使ってカメラを固定する

2 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して露出モードをMにする





3 メインコマンドダイヤルを回し、シャッタースピードを bulb（バルブ）または- -（タイム）にする



シャッタースピードをbulbまたは- -に設定すると、露出インジケーターは表示されません。

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。
- **タイム撮影**：シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

- **バルブ撮影**：シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。
- **タイム撮影**：もう一度シャッターボタンを全押しします。

ヒント：長時間露出について

- ファインダーから入った光が画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（🕮13）。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

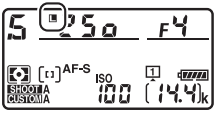
露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。
Pではシャッタースピードおよび絞り値のロックはできません。

1 カスタムメニュー f3［カスタムボタンの機能］で任意のボタンに［シャッタースピードと絞り値のロック］を割り当てる

2 シャッタースピードまたは絞り値をロックする

シャッタースピードのロック：

- 露出モード**S**または**M**で、［**シャッタースピードと絞り値のロック**］を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内表示に**L**（シャッタースピードロック）マークを表示させます。

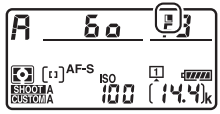




- シャッタースピードのロックを解除する場合は、［**シャッタースピードと絞り値のロック**］を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、**L**マークを消します。

絞り値のロック：

- 露出モード**A**または**M**で、［**シャッタースピードと絞り値のロック**］を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内表示に**L**（絞り値のロック）マークを表示させます。





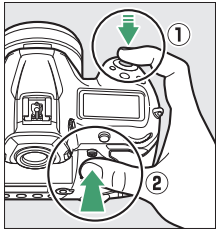
- 絞り値のロックを解除する場合は、［**シャッタースピードと絞り値のロック**］を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、**L**マークを消します。

露出を固定して撮影する

AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで［中央部重点測光］または［スポット測光］を選ぶ（🕮178）

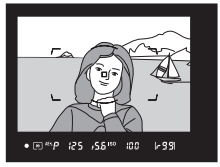
2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、サブセレクターの中央を押して、露出を固定する



- サブセレクターの中央を押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。

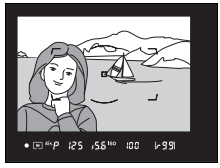


- オートフォーカス撮影時は、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。



3 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する





ヒント：シャッターボタンの半押しで露出を固定するには
カスタムメニュー c1［**シャッターボタンAEロック**］を［**する（半押し）**］に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます。

ヒント：測光エリアについて

- ［**スポット測光**］で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（🕮178）は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- ［**中央部重点測光**］に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12 mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。

ヒント：AEロック中のカメラ操作について

サブセレクターの中央を押している間も以下の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（🕮184）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 上面表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変更することです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（🕮178）を［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］に設定すると効果的です。



－1段補正



露出補正なし

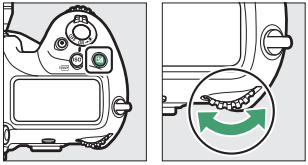


＋1段補正

■■ 露出補正の設定方法

ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- 露出補正値は、上面表示パネルおよびファインダー内表示に表示されます。

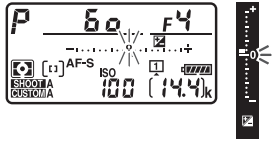


- 露出補正は、±5段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニュー b3［**露出・調光補正ステップ幅**］で変更できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正してください。

- ボタンを押すと、上面表示パネルおよびファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。

表示部	補正なし（ボタンを押したとき）	−0.3段補正	＋2段補正
上面表示パネル			
ファインダー内表示			

- 補正量を設定すると、上面表示パネルおよびファインダー内表示に露出補正マークと露出補正インジケーターが表示されます。露出モードが**M**以外の場合、露出補正インジケーターの**0**が点滅します。



- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

ヒント：露出モードMでの露出補正について

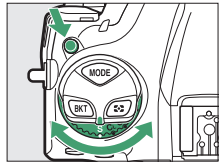
露出モードが**M**のときは、露出のインジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

ヒント：別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e3［**フラッシュ使用時の露出補正**］）。

シャッターをきるときの動作を設定する（レリーズモード）

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する



レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（レリーズする）ときの動作を設定できます。

- レリーズモードのアイコンをレリーズモードダイヤル指標に合わせてください。

モード		内容
S	1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL	低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。 • 撮影速度は10コマ/秒～1コマ/秒の間で設定できます。 • 🖳ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。

モード		内容
CH	**高速連続撮影**	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。 • 撮影速度は14コマ/秒～10コマ/秒の間で設定できます。 • 🖳ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。
Q	**静音撮影**	シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。ミラーダウンのタイミングを遅らせることができ、ミラーダウンする音も1コマ撮影と比べて静かなため、1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。 • 静音撮影時には、セットアップメニュー［**電子音**］の［**電子音設定**］の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。 • 🖳ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、静音連続撮影に切り換えられます。 - 静音連続撮影に切り替わると、背面表示パネルに[が表示されます。 - 撮影速度は5コマ/秒～1コマ/秒の間で設定できます。
⏲	**セルフタイマー撮影**	セルフタイマー撮影ができます（🕮209）。
MUP	**ミラーアップ撮影**	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます（🕮211）。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

モード		内容
⧉	**クイック設定ポジション**	⧉ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してレリーズモードを変更できます（🕮208）。

☑ 連続撮影速度について

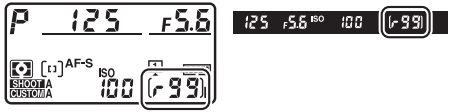
- **CL**、**CH**、または**Q**の静音連続撮影時の連続撮影速度は、カスタムメニュー d1［**連続撮影速度**］でも設定できます。
- **CH**で連続撮影速度を14コマ/秒～11コマ/秒に設定していても、静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］を［**する**］に設定してライブビュー撮影している場合は、約10.5コマ/秒になります。
- 連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、露出モードが**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。
  - シャッタースピードが低速の場合
  - 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］を［**する**］にして、感度が自動制御されているとき
  - 静止画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の［**フリッカー低減機能**］が［**有効**］のときに、フリッカーが検出されている場合
  - レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
  - VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
  - バッテリーの残量が少ないとき
  - 一部のレンズを使用したとき
  - 非CPUレンズ装着時およびカスタムメニュー f6［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定した場合

☑ 連続撮影についてのご注意

- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

ヒント：連続撮影可能コマ数について

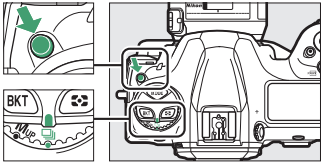
- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が記録可能コマ数表示部に表示されます。



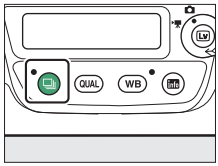
- ただし、「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。カメラの設定や撮影条件によってコマ数が増減することがあります。
- 電源をONにした直後は、連続撮影可能コマ数が一時的に少なく表示されることがあります。
- ライブビュー撮影時は、画像モニターで連続撮影可能コマ数を確認できます。

■■ レリーズモードのクイック設定

レリーズモードダイヤルを□に合わせると、□ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、レリーズモードを変更できます。



- □ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、それぞれのレリーズモードの設定を変更できます。



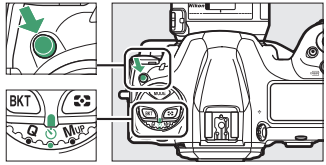
- レリーズモードと設定の内容は、背面表示パネルに表示されます。



セルフタイマーを使って撮影する（⏲）

1 **レリーズモードダイヤルを⏲（セルフタイマー撮影）に合わせる**

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、⏲に合わせます。



2 **構図を決め、ピントを合わせる**

AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



3 セルフタイマー撮影を開始する



- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。
- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔はカスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］で設定できます。



ヒント：セルフタイマーの作動時間を設定する

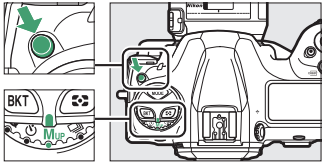


⮹ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、セルフタイマーの作動時間を20秒、10秒、5秒、2秒から設定できます。設定の内容は背面表示パネルで確認できます。

ミラーアップして撮影する（MUP）

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**MUP**（ミラーアップ撮影）に合わせます。



- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。ミラーアップ時は上面表示パネルと背面表示パネルに「rdy」が表示されます。



- もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

☑ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

ヒント：ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。
- ライブビュー撮影時は、シャッターボタンを一度全押しするだけで撮影できます。

光に対する感度を設定する（ISO感度）

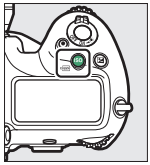
ISO感度を変更する

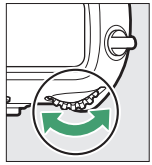
撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。
ISO感度はISO 100～102400の間で設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 102400から約0.3段～約5段の範囲での増感ができます。

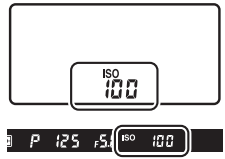
■■ ISO感度の設定方法

ISO（FORMAT）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回します。

- ISO感度は、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。







- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。ステップ幅は、カスタムメニューb1［**ISO感度設定ステップ幅**］で変更できます。

ヒント：静止画撮影メニュー［ISO感度設定］について

ISO感度は静止画撮影メニューの［**ISO感度設定**］でも設定できます。



ヒント：ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

- 高感度ノイズ低減機能を有効にすると、高感度撮影時のノイズを低減できます。静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**高感度ノイズ低減**］で設定できます。

ヒント：増感域の高感度（Hi 0.3～Hi 5）に設定した場合

ISO感度を［**Hi 0.3**］に設定すると、ISO 102400に対して約0.3段分増感し（ISO 128000相当）、［**Hi 5.0**］では約5段分の増感になります（ISO 3280000相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

ヒント：減感域の低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を［**Lo 0.3**］に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。［**Lo 1.0**］では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合や、スローシャッターを使用したい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、ハイライト側に階調とびが発生することがあります。通常の撮影では［**100**］以上をお使いください。

感度自動制御機能を使う

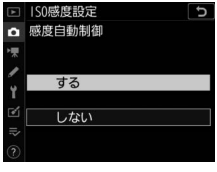
感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

■■ 感度自動制御の設定方法

1 静止画撮影メニューの［ISO感度設定］で［感度自動制御］を選んでマルチセレクターの▶を押す



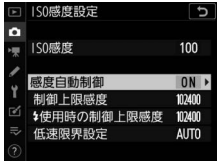
2［する］を選ぶ



- ［**する**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- ［**しない**］を選ぶと、［**ISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。

3 感度の制御方法を設定する

• カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。

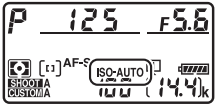


項目	内容
[**制御上限感度**]	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 5）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
[**使用時の制御上限感度**]	別売スピードライトを使用した場合の上限感度（200～Hi 5）を設定できます。[**フラッシュなしの設定と同じ**]を選ぶと、[**制御上限感度**]と同じ設定になります。

項目	内容
［**低速限界設定**］	露出モード**P**または**A**で感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～30秒から設定できます。また、［**オート**］に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。たとえば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 • ［**オート**］を選んで▶を押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するときに、より高速側または低速側になるように調整できます。高速で移動する被写体を撮影する場合は、補正値を高速側に設定するとブレを軽減できます。 • ISO感度を上欄の［**制御上限感度**］まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

• ⓚボタンを押して設定します。

［**感度自動制御**］を［**する**］にすると、上面表示パネルおよびファインダー内表示に**ISO AUTO**が表示されます。**ISO AUTO**が点灯しているときは、［**ISO感度**］で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されると**ISO AUTO**が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。



感度自動制御についてのご注意

- ［**制御上限感度**］で設定したISO感度よりも［**ISO感度**］で設定したISO感度が高い場合、［**ISO感度**］で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］とe2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］で設定した範囲内に制限されます。［**低速限界設定**］のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限はe2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズ使用時は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 別売スピードライトの装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

ヒント：感度自動制御の設定について

［**感度自動制御**］の設定は、**ISO**（FORMAT）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して変更することもできます（🕮116）。

光源に合わせて見た目に近い色で撮影する（ホワイトバランス）

ホワイトバランスを合わせる

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定のオート（AUTO）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

項目	設定される色温度※	内容
AUTO［オート］		カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。

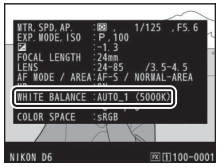
項目		設定される色温度※	内容
	AUT00［**白を優先する**］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残さずに白く補正します。
	AUT01［**雰囲気を残す**］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、やや電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
	AUT02［**電球色を残す**］	約3500～8000K	電球下の環境で撮影する場合、電球色を残して暖かみのある画像に仕上げます。
A［**自然光オート**］		約4500～8000K	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、自然光下では［**オート**］より見た目に近い色味で撮影できます。
［**晴天**］		約5200K	晴天の屋外での撮影に適しています。
［**曇天**］		約6000K	曇り空の屋外での撮影に適しています。
［**晴天日陰**］		約8000K	晴天の日陰での撮影に適しています。
［**電球**］		約3000K	白熱電球下での撮影に適しています。

項目	設定される色温度※	内容
蛍光灯［蛍光灯］		それぞれの光源下での撮影に適しています。
［ナトリウム灯混合光］	約2700K	
［電球色蛍光灯］	約3000K	
［温白色蛍光灯］	約3700K	
［白色蛍光灯］	約4200K	
［昼白色蛍光灯］	約5000K	
［昼光色蛍光灯］	約6500K	
［高色温度の水銀灯］	約7200K	
［フラッシュ］	約5400K	フラッシュを使って撮影する場合に適しています。
K［色温度設定］	約2500～10000K	色温度を直接指定できます。 • **WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度を設定できます。

項目	設定される色温度※	内容
PRE［**プリセットマニュアル**］		撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。 • **WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、プリセットマニュアルデータの保存場所を選べます。 • **WB**ボタンを長押しすると、プリセットマニュアル取得モードになります（🕮234）。

※微調整が0の場合の値です。

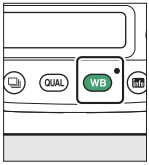
ヒント：オートで撮影するときの色温度について

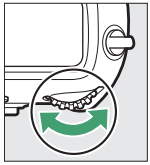


- ホワイトバランスを［**オート**］または［**自然光オート**］に設定して撮影した場合、カメラが判断した色温度の値を再生画面の撮影情報にある［**撮影基本情報**］ページで確認できます（🕮410）。ホワイトバランスの［**色温度設定**］で色温度を調整する場合に参考にできます。
- 撮影情報の［**撮影基本情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**撮影基本情報**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

■■ ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスは、背面表示パネルに表示されます。







設定した項目にさらに選択肢がある場合、**WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定を変更できます。

☑ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、［**オート**］に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、［**フラッシュ**］モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

ヒント：[ホワイトバランス] について

ホワイトバランスは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューでも設定できます。

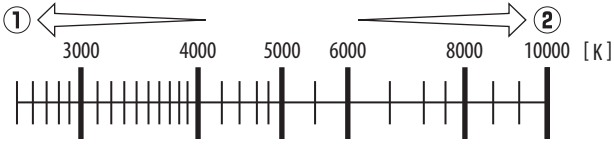


ヒント：[自然光オート] について

人工光下で撮影するときに［**自然光オート**］を選択していると、適正なホワイトバランスが得られないことがあります。［**オート**］または光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

ヒント：色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり（①）、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります（②）。



ヒント：色温度の設定について

一般的に、画像に赤みを感じた場合（撮影した画像に青みを帯びさせたい場合）は低い数値を設定し、画像に青みを感じた場合（撮影した画像に赤みを帯びさせたい場合）は高い数値を選びます。

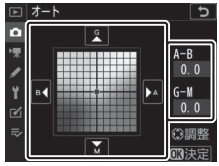
ホワイトバランスを微調整する

1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで⊛を押す



［**プリセットマニュアル**］での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」（🕮248）をご覧ください。

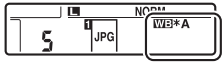
2 微調整値を設定する



- マルチセレクターを操作すると、座標上のカーソルが移動します。A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。設定した段数は、画面の右側に表示されます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。

3 微調整値を決定する

- ⓚボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、背面表示パネルにアスタリスク（✱）が表示されます。



ヒント：インフォ画面で設定を変更する

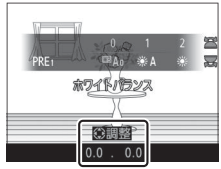
ファインダー撮影時、インフォ画面表示中に**WB**ボタンを押すと、ホワイトバランス調整画面が表示されます。



- メインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスの設定を変更できます。［**オート**］または［**蛍光灯**］の場合、サブコマンドダイヤルを回して種類を設定できます。
- ホワイトバランスの設定が［**色温度設定**］の場合はサブコマンドダイヤルを回して色温度を設定できます。
- ホワイトバランスの設定が［**プリセットマニュアル**］の場合はサブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータの保存場所を設定できます。
- ［**色温度設定**］と［**プリセットマニュアル**］以外のホワイトバランスの場合、マルチセレクターを操作してA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向の調整が可能です。

ヒント：ライブビュー画面で設定を変更する

ライブビュー撮影時に**WB**ボタンを押すと、ホワイトバランス設定の画面が表示されます。



- ホワイトバランスの設定方法や調整方法はインフォ画面表示中と同様です。
- 画像モニターを見ながら色味を調整できます。

ヒント：ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを［**電球**］に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

ヒント：ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万（10^6）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例）色温度の差（K：ケルビン）：ミレッドの差（M：ミレッド）

- 4000K－3000K＝1000 K：83 M
- 7000K－6000K＝1000 K：24 M

色温度を設定する

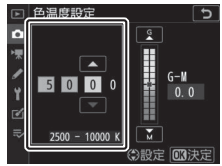
■ メニューで設定する場合

A（アンバー）およびB（ブルー）方向とG（グリーン）およびM（マゼンタ）方向の両方の色温度を設定できます。

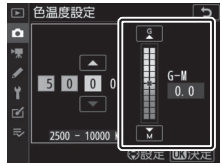
1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で、［色温度設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す

2 色温度を設定する

- ◀▶を押してA（アンバー）およびB（ブルー）方向の色温度の桁を選び、▲▼を押して数値を設定します。

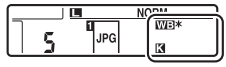


- ◀▶を押してG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、▲▼を押して数値を設定します。



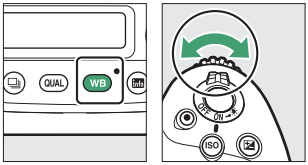
3 色温度を決定する

- ⓞⓚボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、背面表示パネルにアスタリスク（✱）が表示されます。



ボタン操作で設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

ホワイトバランスが［**色温度設定**］に設定されている状態で、**WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すか、マルチセレクターを操作すると色温度を指定できます。





- **WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、ミレッド単位で色温度が切り替わります。
- **WB**ボタンを押しながらマルチセレクターの◀▶を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。▲▼を押すと選んだ桁の数値を設定できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度のみ設定できます。
- **WB**ボタンを放すと、設定した調整値で撮影できます。

色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ［**蛍光灯**］、［**フラッシュ**］に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の［**オート**］や［**電球**］などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

保存方法	内容
プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（🕮235）。ライブビュー時には、画像モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、🕮241）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（🕮246）。

ヒント：すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

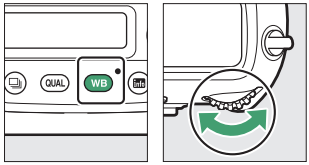
プリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）の内容は、静止画撮影メニュー「A」～「D」で共用しています。このため、たとえば静止画撮影メニュー「A」でプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、静止画撮影メニュー「B」～「D」のプリセットマニュアルデータも変更されます。

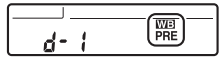
■ ファインダー撮影時

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードが**M**の場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください（🕮190）。

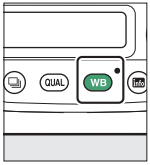
1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してPREを選ぶ

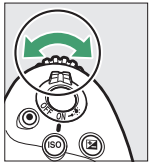


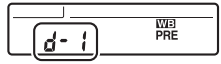


2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

WBボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。

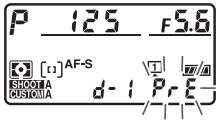


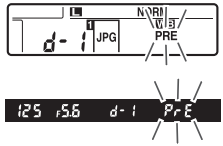




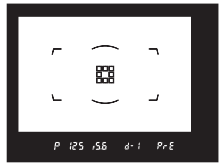
3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、上面表示パネルとファインダー内表示に**PrE**の文字が、背面表示パネルに**PRE**が、それぞれ数秒間点滅します。





- プリセットマニュアル取得モードになると取得エリアが図のように表示され、中央に固定されます。



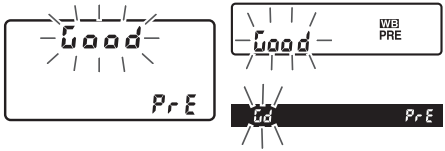
4 PrEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する



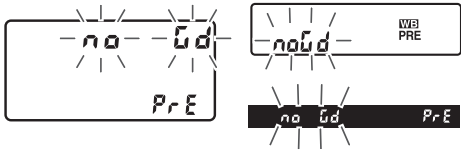
- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体を取得エリアに合わせてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。メモリーカードに画像は記録されません。

5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、上面表示パネルと背面表示パネルに**Good**の文字が、ファインダー内表示に**Gd**の文字が、それぞれ点滅します。シャッターボタンを半押しすると、プリセットマニュアル取得モードが終了し、撮影が可能になります。



- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、上面表示パネル、背面表示パネル、ファインダー内表示に**no Gd**の文字が、それぞれ点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で設定した時間が過ぎると解除されます。

ヒント：プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

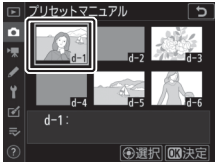
- 多重露出撮影時
- インターバルタイマー撮影時
- タイムラプス撮影時
- フォーカスシフト撮影時

ヒント：ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（上面表示パネルとファインダー内表示でPrが、背面表示パネルでO-nが点滅します）。

ヒント：プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-1～d-6は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 静止画撮影メニューから［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んでOKボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

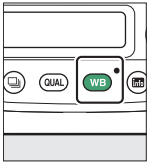


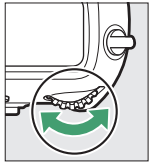
■ ライブビュー撮影時（スポットホワイトバランス）

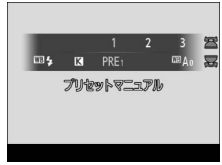
ライブビュー撮影時には、ファインダー撮影時よりも小さい範囲からプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

- 別売スピードライトを使用時にプリセットマニュアルデータを取得する場合は、「ファインダー撮影時」（🕮235）の手順で行ってください。

1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してPREを選ぶ

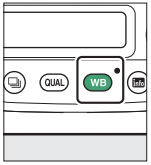


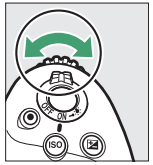




2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

WBボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。

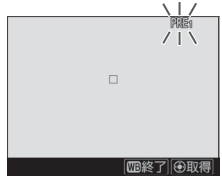




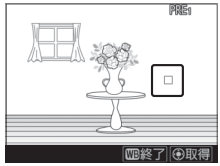


3 プリセットマニュアル取得モードにする

いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、画像モニターに**PRE**が点滅します。



4 PREの点滅中に、マルチセレクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる



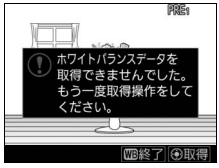
🔍ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。

5 マルチセレクターの中央ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する



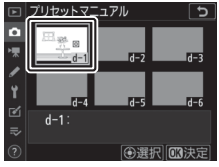
- プリセットマニュアルデータの取得に成功すると、取得したホワイトバランスが表示に反映されます。

- プリセットマニュアルデータが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順4の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



6 WBボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー［**ホワイトバランス**］の［**プリセットマニュアル**］を選ぶと、ライブビューで取得したプリセットマニュアルデータを確認できます。ホワイトバランスを取得した範囲には白い枠が表示されます。



☑ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ライブビュー撮影時）

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c4［**モニターのパワーオフ時間**］の［**ライブビュー表示**］で設定した時間になります。

☑ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ライブビュー撮影時）

［**多重露出**］撮影時および［**静止画Lv画面のホワイトバランス**］が［**撮影時と同じ**］以外（🕮848）の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

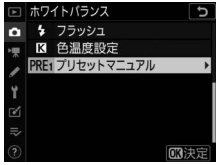
ヒント：画像モニターをタッチしてプリセットマニュアルデータを取得する

プリセットマニュアル取得モードにしたときに画像モニターをタッチすると、その場所に□が移動してプリセットマニュアルデータを取得します。

■■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

1 静止画撮影メニューの［ホワイトバランス］で［プリセットマニュアル］を選んでマルチセレクターの▶を押す



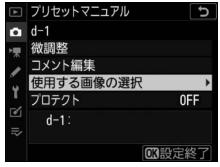
2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動してd-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- マルチセレクターの中央ボタンを押すと設定画面が表示されます。



3 [使用する画像の選択] を選ぶ

[**使用する画像の選択**] を選んで⊛を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、🔍ボタンを押している間、拡大して確認できます。

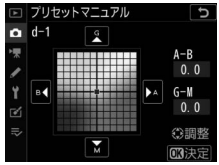


5 ホワイトバランスデータをコピーする

- ⊛ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメントがある場合、画像コメントもコピーされます。

ヒント：プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で［**微調整**］を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます。



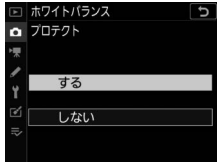
ヒント：プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で［**コメント編集**］を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力できます。コメントの入力方法は、「入力画面の操作方法について」（🕮86）をご覧ください。



ヒント：プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

設定画面で［**プロテクト**］を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクトの設定画面で［**する**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。［**プロテクト**］が［**する**］のときは、プリセットマニュアルデータの設定内容を変更できません。



明るさやWBなどを変えながら撮影する（オートブラケティング）

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］で設定できます。



項目	内容
［**AE・フラッシュブラケティング**］	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**AEブラケティング**］	露出値（AE）を変えながら撮影します。
［**フラッシュブラケティング**］	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
［**WBブラケティング**］	ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。
［**ADLブラケティング**］	アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。

AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法

露出の設定を変えながら撮影します。AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法は次の通りです。



露出補正なし



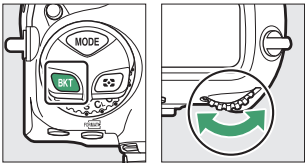
−1段補正

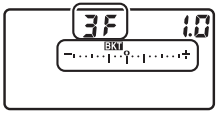


+1段補正

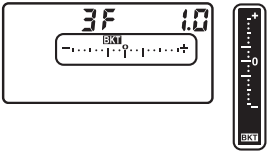
1 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



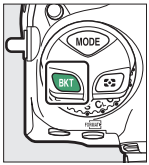


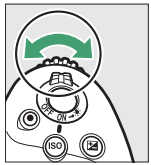
- **OF**以外に設定すると、上面表示パネルとファインダー内表示にBKTマークとAE・フラッシュブラケティングインジケーターが表示されます。

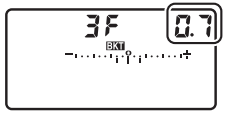


2 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。

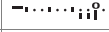
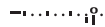
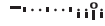






- 補正ステップは、カスタムメニューb2［**露出設定ステップ幅**］が［**1/3段**］の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）、2.0（2段）、3.0（3段）から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順1で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。

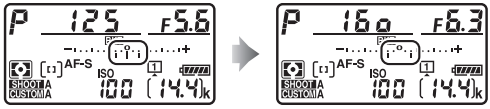
• 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

上面表示パネル		AE・フラッシュブラケティングインジケーター	撮影コマ数	撮影順序
0F	0.3		0	0
+3F	0.3		3	0/＋0.3/＋0.7
--3F	0.3		3	0/－0.7/－0.3
+2F	0.3		2	0/＋0.3
--2F	0.3		2	0/－0.3
3F	0.3		3	0/－0.3/＋0.3
5F	0.3		5	0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7
7F	0.3		7	0/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0
9F	0.3		9	0/－1.3/－1.0/－0.7/－0.3/＋0.3/＋0.7/＋1.0/＋1.3

3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 上面表示パネルとファインダー内表示には、AE・フラッシュブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、AE・フラッシュブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3
補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

ヒント：AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

［**AE・フラッシュブラケティング**］では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは［**AEブラケティング**］を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは［**フラッシュブラケティング**］を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（㊎A）時（別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ）に使用できます（🕮643、1051）。

ヒント：AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**補正ステップ**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- レリーズモードを**CL**、**CH**、または**Q**の静音連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしてもう一度ONにすると、1コマ目から撮影を行います。

ヒント：AEブラケティング

AEブラケティングでは、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード、絞り値）が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2、3

※1 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**する**］のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。

※2 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**する**］のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

※3 カスタムメニュー e7［**BKT変化要素（Mモード）**］により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはシャッタースピードのみに変更できます。

■■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

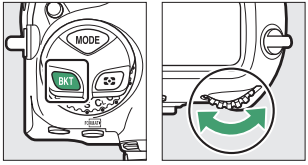
BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を**OFF**にしてください（**BKT**マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮312）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

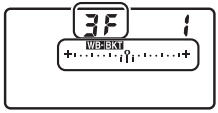
WBブラケティングの撮影方法

ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。WBブラケティングの撮影方法は次の通りです。

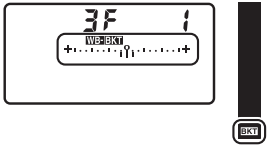
1 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



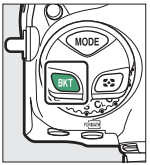


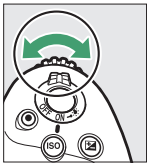
- **3F**以外に設定すると、上面表示パネルには**WB·BKT**マークとWBブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**が表示されます。

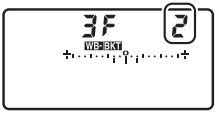


2 補正ステップを設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。







- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります。

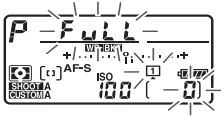
• 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

上面表示パネル		WBブラケティングインジケーター	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F	1		0	1段	0
b3F	1		3	B方向1段	0/B1/B2
A3F	1		3	A方向1段	0/A2/A1
b2F	1		2	B方向1段	0/B1
A2F	1		2	A方向1段	0/A1
3F	1		3	各方向1段	0/A1/B1
5F	1		5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F	1		7	各方向1段	0/A3/A2/A1/B1/B2/B3
9F	1		9	各方向1段	0/A4/A3/A2/A1/B1/B2/B3/B4

3 撮影する



- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケティングの補正ステップが加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、上面表示パネルに**FuLL**が、ファインダー内表示に**FuL**が点滅し、シャッターがきれません（上面表示パネルの残量のないメモリーカードのアイコンも点滅します）。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。





WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

ヒント：WBブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**補正ステップ**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- WBブラケティングでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3［**セルフタイマー**］の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、WBブラケティングで設定した撮影コマ数が全て記録されます。

■■ WBブラケティング撮影をやめるには

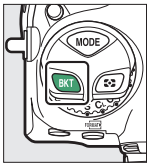
BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を**0F**にしてください（**WB BKT**マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮312）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

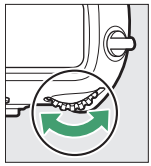
ADLブラケティングの撮影方法

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。
ADLブラケティングの撮影方法は次の通りです。

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。







- **0F**以外に設定すると、上面表示パネルには**ADL BKT**マークとADLブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**が表示されます。



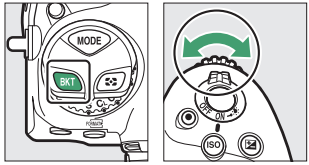
• 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	［**しない**］→（手順2で設定するアクティブD-ライティングの度合い）
3コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］
4コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］
5コマ	［**しない**］→［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］→［**より強め1**］
	［**弱め**］→［**標準**］→［**強め**］→［**より強め1**］→［**より強め2**］

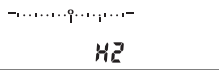
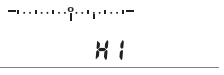
• 5コマに設定した場合、**BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回してブラケティングの内容を［**しない**］～［**より強め1**］または［**弱め**］～［**より強め2**］に切り換えられます。
• 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順3に進んでください。

2 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



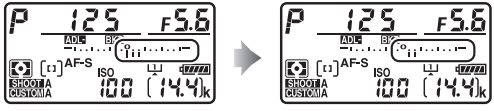
- アクティブD-ライティングの度合いは、上面表示パネルのADLブラケティングインジケーターで確認できます。

アクティブD-ライティングの度合い	上面表示パネル
自A オート	
自H2 より強め2	
自H1 より強め1	
自H 強め	
自N 標準	
自L 弱め	

3 撮影する



- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 上面表示パネルには、ADLブラケティングインジケーターが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケティングインジケーター上から消えます。



撮影コマ数：3　　1コマ撮影した状態

ヒント：ADLブラケティング撮影について

- ［**コマ数**］と［**効果の度合い**］は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］でも設定できます。
- レリーズモードを**CL**、**CH**、または**Q**の静音連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを全押しし続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- 撮影中に電源をOFFにしてもう一度ONにすると、1コマ目から撮影を行います。

ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を**0F**にしてください（**ADL BKT**マークが消灯します）。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（🕮312）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

画像の仕上がりを調整する（ピクチャーコントロール）

ピクチャーコントロールを選ぶ

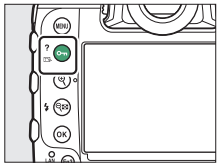
記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

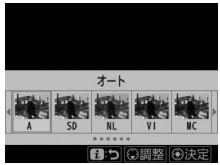
項目		内容
A	[**オート**]	[**スタンダード**] をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。 • 人物を撮影するシーンでは、[**スタンダード**] に比べて人物の肌を柔らかく表現した画像になります。 • 屋外のシーンでは、[**スタンダード**] に比べて青空や草木などの色が鮮やかな画像になります。
SD	[**スタンダード**]	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	[**ニュートラル**]	素材性を重視した自然な画像になります。撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。

項目		内容
VI	［**ビビッド**］	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
MC	［**モノクローム**］	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
PT	［**ポートレート**］	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
LS	［**風景**］	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
FL	［**フラット**］	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。
01 〜 20	**Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール）**	色合いや階調、彩度などを細やかに作りこんだ多彩な効果により、さまざまな雰囲気を表現して撮影できます。［**ドリーム**］や［**モーニング**］など、全部で20種類があります。

ピクチャーコントロールの設定方法

（/?）ボタンを押すとピクチャーコントロールの設定画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶で項目を選び、⊛ボタンで決定します。





- 動画撮影時に（/?）ボタンを押すと、動画のピクチャーコントロールを設定できます。

ヒント：[ピクチャーコントロール] について

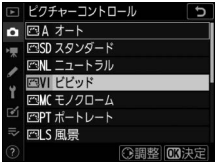
動画撮影メニューの［**ピクチャーコントロール**］を［**静止画の設定と同じ**］に設定すると、静止画撮影メニューで設定したピクチャーコントロールで動画を撮影します。

メニューからピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールの設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。ピクチャーコントロールの調整は（/?）ボタンでも行えます。「ボタンなどを使ったカメラの操作方法」の「（/?）ボタンの使い方」（🕮125）も合わせてご覧ください。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

ピクチャーコントロールの一覧画面で、マルチセレクターのを押します。

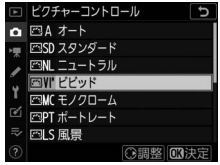


2 ピクチャーコントロールを調整する



- ◆◆で調整する項目を選びます。◀▶を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 設定できる項目は、選んだピクチャーコントロールによって異なります。
- [**クイックシャープ**] を選んで◀▶を押すと、[**輪郭強調**]、[**ミドルレンジシャープ**]、[**明瞭度**] のレベルをバランスよく調整します。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

3 設定する



OKボタンを押して設定します。ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（✱）が表示されます。

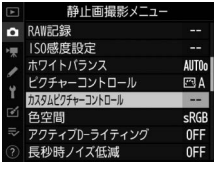
カスタムピクチャーコントロールを登録する

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

項目	内容
［**編集と登録**］	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
［**登録名変更**］	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
［**削除**］	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
［**メモリーカードを使用**］	登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードに保存したり、メモリーカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。

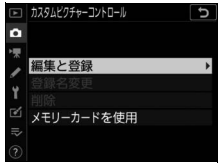
■■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの［カスタムピクチャーコントロール］を選んでマルチセレクターの▶を押す



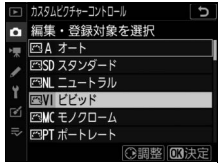
2 [編集と登録] を選ぶ

[**編集と登録**] を選んで⊛を押すと、[**編集・登録対象を選択**] 画面が表示されます。



3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで⊛を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合はⓀボタンを押します。[**登録先の選択**] 画面が表示されます（手順5へ）。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は [**ピクチャーコントロール**] と同じです。
- Ⓚボタンを押すと [**登録先の選択**] 画面が表示されます。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。



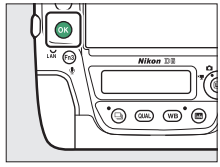
6 登録名を編集する



- 登録先を選んで⊛を押すと、［**登録名変更**］画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名)-XX」が入力エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。
- 文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮86）をご覧ください。

7 ⓚボタンを押す

- 登録名の編集が終了します。



- 登録したピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



ヒント：元になったピクチャーコントロールの表示について

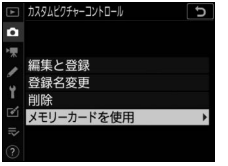
カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。



ヒント：カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

ヒント：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて



［**カスタムピクチャーコントロール**］の［**メモリーカードを使用**］を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（スロット2に入っているメモリーカードは認識されないため、メモリーカードはスロット1に入れてください）。

- ［**カメラに登録**］：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- ［**メモリーカードから削除**］：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。
- ［**メモリーカードにコピー**］：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んで㊗ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブD-ライティング、HDR）

アクティブD-ライティングで撮影する

静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］を使うと、白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定して撮影することをおすすめします。



［**しない**］



［**オート**］

■■ アクティブD-ライティングの設定項目

項目		内容
自A	［**オート**］	撮影シーンに応じて自動的にアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
自H2	［**より強め2**］	効果の度合いは、強い順に［**より強め2**］、［**より強め1**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
自H1	［**より強め1**］	
自H	［**強め**］	
自N	［**標準**］	
自L	［**弱め**］	
［**しない**］		アクティブD-ライティングを設定しません。

☑ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 露出モードが**M**のときは、［**オート**］に設定していても［**標準**］相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 5）および感度自動制御でISO感度が高感度に制御された場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 動画撮影メニューの［**アクティブD-ライティング**］では設定項目が［**より強め**］、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］、［**しない**］になります。

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

静止画撮影メニュー［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］を使うと、1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成し、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録できます。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。



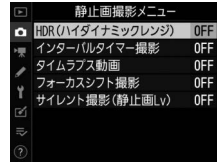
■■ HDRの設定項目

項目	内容
［**HDRモード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度［**HDRモード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1回）**］：1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。 • ［**しない**］：HDRモードを解除します。
［**露出差**］	合成する2コマの露出差を設定できます。露出差が大きいほど、階調の幅が広がります。［**オート**］に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に露出差を設定します。
［**スムージング**］	合成する2コマの境界のなめらかさを設定できます。
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	［**する**］に設定すると、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。RAW画像は静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**RAW**］の設定にかかわらず、［**サイズL**］で保存されます。

■ HDRの撮影方法

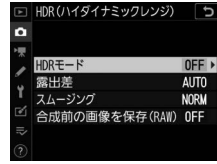
HDRモードを設定したときは、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定して撮影することをおすすめします。

1 静止画撮影メニュー［HDR（ハイダイナミックレンジ）］を選んでマルチセレクターの▶を押す

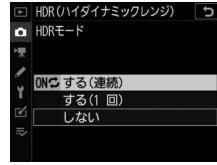


2 ［HDRモード］を設定する

- ［**HDRモード**］を選んで▶を押します。

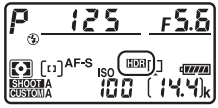


- ▲▼を押してHDRモードを設定し、Ⓚボタンを押します。



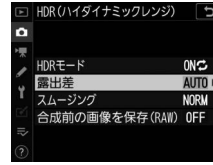
項目	内容
[**ON 🔁 する（連続）**]	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度［**HDRモード**］を選んで［**しない**］を選んでください。
［**する（1回）**］	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
［**しない**］	HDRモードを解除します。

- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、上面表示パネルに HDR マークが点灯します。



3 [露出差] を設定する

- [**露出差**] を選んで▶を押します。

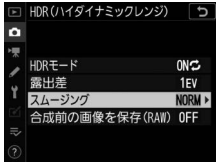


- ▲▼を押して露出差を設定し、Ⓚボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選んでください。
- [**オート**] に設定すると、シーンに適した露出差が選ばれます。

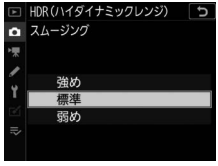


4 [スムージング] を設定する

- [**スムージング**] を選んで㊨を押します。

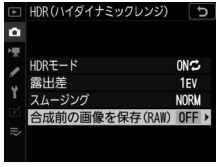


- ㊤㊦を押してスムージング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、㊮ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がよりなめらかに合成されます。



5 [合成前の画像を保存（RAW)] を設定する

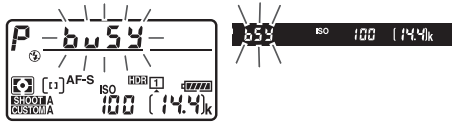
- [**合成前の画像を保存（RAW)**] を選んで、㊨を押します。
- ㊤㊦を押して項目を選び、㊮ボタンを押します。



- [**する**] を選ぶと、合成する2コマの画像をそれぞれRAW形式で保存します。RAW画像は静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**RAW**］の設定にかかわらず、［**サイズL**］で保存されます。

6 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、上面表示パネルに**buSY**が、ファインダー内表示に**bSY**が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。



- [**する（連続）**]の場合、[**HDRモード**]で[**しない**]を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが[**する（1回）**]の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除されます。

RAWを含む画質モードで撮影した場合

RAWを含む画質モードでHDR撮影した場合、合成画像はJPEGになります。

HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。［**スムージング**］の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］のときや、非CPUレンズ装着時に［**露出差**］を［**オート**］に設定すると、露出差は［**2 EV**］相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモードを**CL**、**CH**、または**Q**の静音連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定できません。

HDRモードの制限について

次の場合など、HDRモードとは同時に使用できない機能や設定があります。

- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影

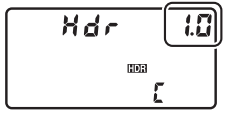
ヒント：BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードと露出差を設定する

カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］の［**BKTボタン**］を［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**HDRモード**］と手順3の［**露出差**］を設定できます。

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して**oFF**（［**しない**］）、**1**（［**する（1回）**］）、**C**（［**する（連続）**］）から選んでください。



- **BKT**ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルの露出差の表示が切り替わります。



動画撮影と編集の機能

動画撮影時の撮像範囲について

動画の画像サイズを1920×1080 または1280×720 に設定した場合、動画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］で撮像範囲を変更できます。［**FX**］に設定した場合はFXベースの（動画）フォーマットに、［**DX**］に設定した場合はDXベースの（動画）フォーマットになります。動画撮影時の撮像範囲は次の図のようになります。



FX　　DX

- 撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FXベースの（動画）フォーマット	約35.9×20.2 mm
DXベースの（動画）フォーマット	約23.5×13.2 mm

- 動画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定してDXレンズを装着した場合は、DXベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画の画像サイズを3840×2160または1920×1080クロップに設定した場合は、撮像範囲を変更できません。DXレンズを装着した場合でも、設定した画像サイズで撮影できます。
- 動画撮影メニュー［**電子手ブレ補正**］を選んで［**する**］に設定しているときは、画角が小さくなるため少し拡大されます。

画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について

動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。［**動画の画質**］では、動画の画質を［**高画質**］と［**標準**］から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

項目※1		最大ビットレート		最長記録時間
		高画質	標準	
2160 60p	［**3840×2160 30p**］※2	144Mbps	—※3	29分59秒※4
2160 50p	［**3840×2160 25p**］※2			
2160 24p	［**3840×2160 24p**］※2			
1080 60p/1080 60p	［**1920×1080 60p**］	56Mbps	28Mbps	29分59秒※4
1080 50p/1080 50p	［**1920×1080 50p**］			
1080 60p/1080 60p	［**1920×1080 30p**］	28Mbps	14Mbps	
1080 50p/1080 50p	［**1920×1080 25p**］			
1080 24p/1080 24p	［**1920×1080 24p**］			
720 60p/720 60p	［**1280×720 60p**］			
720 50p/720 50p	［**1280×720 50p**］			

項目※1		最大ビットレート		最長記録時間
		高画質	標準	
4K/4K	[**1920×1080 60p クロップ**] ※5	56Mbps	28Mbps	29分59秒※4
4K/4K	[**1920×1080 50p クロップ**] ※5			
4K/4K	[**1920×1080 30p クロップ**] ※5	28Mbps	14Mbps	
4K/4K	[**1920×1080 25p クロップ**] ※5			
4K/4K	[**1920×1080 24p クロップ**] ※5			

※1 60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 4K UHD動画として記録されます。画像サイズを3840×2160に設定した場合は4Kが表示されます。

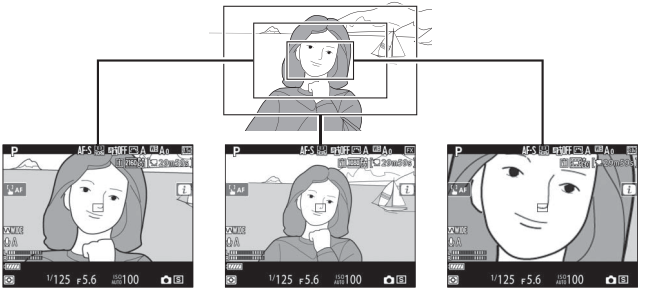
※3 画質は［**高画質**］に固定されます。

※4 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されることがあります。その場合、各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は、動画撮影メニュー［**動画の画質**］の設定によって異なります。ただしこのカメラで初期化した32GBを超えるカードを使用した場合は、1回の動画撮影でファイルサイズが4GBを超えた場合でもファイルは分割されず1つのファイルに記録されます。

※5 画像サイズを1920×1080クロップに設定した場合はCROPが表示されます。

動画撮影時の画角について

動画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。動画の画角は、動画の画像サイズによって異なります。



1　2　3

1 3840×2160

2 1920×1080、1280×720

3 1920×1080 クロップ

- 画像サイズを3840×2160に設定すると、1920×1080および1280×720に設定した場合の焦点距離の約1.5倍に相当する画角になります。
- 1920×1080 クロップに設定すると、1920×1080および1280×720に設定した場合の焦点距離の約3倍に相当する画角になります。

動画撮影時のご注意とヒント

動画撮影時には次のことにご注意ください。

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間（🕮294）に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが［**顔認識AF**］の場合に認識できる人数が少なくなります。
- （動画記録禁止）マーク（🕮17）が表示されているときは、動画記録できません。
- 動画撮影時は測光モードを［**スポット測光**］に設定できません。
- 動画撮影時は、別売のスピードライト（🕮641）は発光しません。

ヒント：動画撮影時の露出モードについて

- 露出モード**P**、**S**で画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始するか、露出モードを**A**にして、絞りの調整を行ってください。
- 動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、露出モードによって異なります。

露出モード	絞り値	シャッタースピード	ISO感度※2
P、**S**※1	—	—	— ※3
A	○	—	— ※3
M	○	○	○※4

※1 露出モードが**S**の場合は、**P**に設定したときと同じ露出制御になります。

※2 動画撮影メニューの［**電子手ブレ補正**］が［**する**］のときにISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 5）になった場合は、ISO 102400に制限されます。

※3 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

※4 動画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**Mモード時の感度自動制御**］を［**する**］に設定した場合、［**制御上限感度**］でISO感度の上限を設定できます。

ヒント：動画記録中のホワイトバランスの変更について

動画記録中に**WB**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます。また、［**オート**］と［**蛍光灯**］のときはサブコマンドダイヤルで種類を設定できます。

ヒント：マニュアル露出での動画撮影について
露出モード**M**で動画撮影する場合、シャッタースピードを1/25～1/8000秒の範囲で設定できます（動画のフレームレートによって、低速側の制限が異なります）。

ヒント：ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて
カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**シャッターボタン**］を［**動画撮影**］に設定すると、別売のワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画記録の開始と終了を行えます。

ヒント：外部マイクについて
別売のステレオマイクロホンME-1またはワイヤレスマイクロホンME-W1を外部マイク入力端子に接続すると、外部マイクを使用して動画撮影することができます。

動画を編集する

次の機能を使って撮影した動画を編集できます。

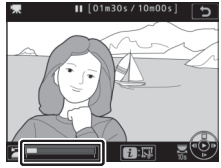
項目		内容
	[**始点/終点の設定**]	動画の必要な部分だけを残します。
	[**表示中のフレームを保存**]	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。
	[**インデックスマーキング追加**]	再生中の動画にインデックスマークを追加します。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます（🕮307）。
	[**インデックスマーキング削除**]	動画に追加したインデックスマークを削除します（🕮307）。

動画の必要な部分を残す



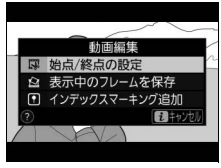
1 1コマ表示モードで編集したい動画を表示する

2 残したい範囲の冒頭部分（始点）で動画を一時停止する



- マルチセレクターの中央ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの▽を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ◁▷、メインコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。

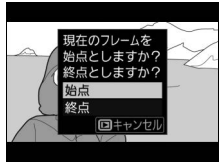
3 [始点/終点の設定] を選ぶ



i ボタンを押して、[**始点/終点の設定**] を選んで▷を押します。

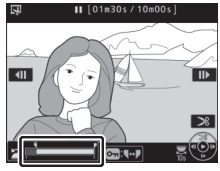
4 始点を選ぶ

［**始点**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、そこから後ろの部分が残ります。



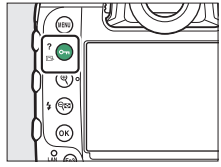


5 手順4で選んだ位置を調整する

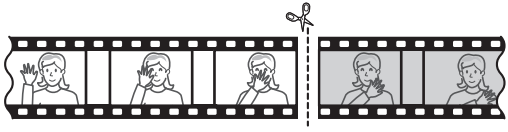


- ◀▶を押して、残したい部分の最初の位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。

6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

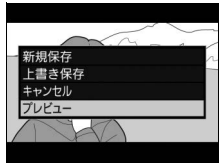


（/?）ボタンを押して▼（終点）に切り換え、手順5と同じ手順で▼（終点）の位置を調整します。



7 ▲を押して決定する

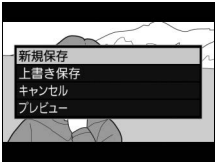
8 保存する動画を確認する



- [**プレビュー**] を選んでOKボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには▲を押します）。
- [**キャンセル**] を選んでOKボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。

9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

［**新規保存**］を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。［**上書き保存**］を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



10 動画ファイルを保存する

Ⓚボタンを押します。

動画編集時のご注意

- メモリーカードに充分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- ［**始点/終点の設定**］では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

ヒント：動画の前半または後半だけを残すには

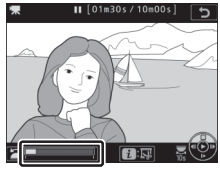
- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で［**終点**］を選んでⓄⓀボタンを押してから、手順6では🔑（🖼/**?**）ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で🔑（🖼/**?**）ボタンを押さずに手順7に進みます。

ヒント：画像編集メニュー［動画編集（始点/終点設定）］について

動画の切り出しおよび保存は、画像編集メニューの［**動画編集（始点/終点設定）**］でも行えます。

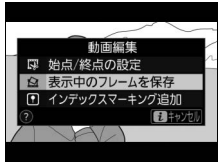
動画の1フレームをJPEG画像として保存する

1 保存したい位置で動画を一時停止する



- 動画の再生中にマルチセレクターの㊦を押すと、一時停止します。
- ◀▶を押すと、再生中の位置を調整できます。

2 [表示中のフレームを保存] を選ぶ



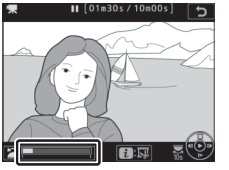
*i*ボタンを押して、[**表示中のフレームを保存**] を選んで㊗ボタンを押すとJPEGの画像として保存します。

ヒント：[表示中のフレームを保存] で作成した画像について

- 動画撮影メニュー [**画像サイズ/フレームレート**] で設定した画像サイズで記録されます。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報で表示されない項目があります。

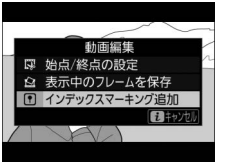
動画にインデックスマークを追加する

1 インデックスマークを付けたい位置で動画を一時停止する



- 動画の再生中にマルチセレクターの㊦を押すと、一時停止します。
- ㊧㊨を押すと、再生中の位置を調整できます。

2 [インデックスマーキング追加] を選ぶ



- **i**ボタンを押して、[**インデックスマーキング追加**] を選んでOKボタンを押すとインデックスマークが付きます。
- インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。

ヒント：インデックスマークを削除するには

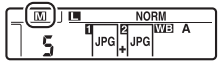
動画の再生中または一時停止中にサブコマンドダイヤルを回して削除したいインデックスマークまで移動し、**i**ボタンを押すと、メニューが表示されます。[**インデックスマーキング削除**] を選んでOKボタンを押すと、インデックスマークが削除されます。

撮影の便利な機能

2枚のメモリーカードに記録する（スロット2の機能）

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を選ぶと、2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するときのスロット2の機能を設定できます。

項目		内容
	［**順次記録**］	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
	［**バックアップ記録**］	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
	［**RAW+JPEG分割記録**］	• RAWとJPEGを同時に記録する画質モードの場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画質の画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

項目		内容
JPG+JPG	[**JPEG+JPEG分割記録**]	• スロット1とスロット2の両方にJPEG画像を記録します。 • スロット1には**QUAL**ボタンや静止画撮影メニューで設定した画像サイズおよび画質モードの画像が記録されます。スロット2には画質モードが［**BASIC**］、画像サイズが［**サイズM**］または［**サイズS**］のJPEG画像が記録されます。画像サイズは［**JPEG+JPEG分割記録**］を選んで⊛を押すと設定できます。 • RAW画像を含む画質モードを選んでいる場合、［**バックアップ記録**］と同じ動作になります。 • スロット2に記録する画像サイズは背面表示パネルに表示されます。 

☑［RAW+JPEG分割記録］設定時のご注意

多重露出撮影時に静止画撮影メニュー［**多重露出**］の［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**する**］にした場合、およびHDR撮影時に静止画撮影メニュー［**HDR（ハイダイナミックレンジ）**］の［**合成前の画像を保存（RAW）**］を［**する**］にした場合は、画質モードの設定にかかわらず、画像合成前のRAW画像と画像合成後のJPEG画像がスロット1とスロット2の両方に記録されます。

ヒント：［バックアップ記録］、［RAW+JPEG分割記録］、［JPEG+JPEG分割記録］について

- 上面表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

ヒント：分割記録した画像の再生について

- 分割記録した画像を再生する場合に、どちらのスロットに記録した画像を再生するかを再生メニュー［**分割記録時の再生スロット**］で設定できます。
- 分割記録した画像を再生している場合に、**i**メニューで［**同時記録画像へジャンプ**］を選ぶと、もう一方のスロットに記録した画像を再生できます。

ヒント：動画を記録するスロットについて

動画撮影メニューの［**動画記録先**］で、記録するスロットを設定できます。

同時記録した画像の削除

［**バックアップ記録**］で同時記録した画像および［**RAW+JPEG分割記録**］、［**JPEG+JPEG分割記録**］で分割記録した画像は、個別に削除するか両方のスロットから一度に削除するかを選べます。



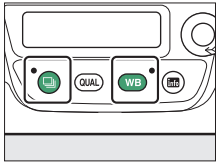
- 再生画面で同時記録または分割記録した画像を選び🗑（FORMAT）ボタンを押すと、削除確認の画面が表示されます。
- ［**選択中の画像**］を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、現在選ばれている画像のみ削除されます。
- ［**[1]と[2]の同一画像**］を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、両方のスロットから画像が削除されます。
- 音声メモが録音された画像の場合、音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。［**音声のみ**］を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。

ヒント：削除確認画面の内容を設定する

再生メニュー［**Wスロット同時削除の設定**］で削除確認画面の設定を変更できます。

ボタン操作で基本的な機能を初期設定に戻す（ツーボタンリセット）

ボタンと**WB**ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬上面/背面表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



静止画撮影メニュー項目

現在選択中の静止画撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出、インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画、フォーカスシフト撮影は、全ての静止画撮影メニューで共通です）。

項目	初期設定
静止画撮影メニューの拡張	しない
画質モード	NORMAL
画像サイズ	
JPEG	サイズL
RAW	サイズL
ISO感度設定	
ISO感度	100
感度自動制御	しない
ホワイトバランス	AUTO0 白を優先する
微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロール	オート
アクティブD-ライティング	しない

項目	初期設定
フリッカー低減	
フリッカー低減機能	無効
フリッカー検出の表示	する
オートブラケティング	解除※1
多重露出	解除※2
HDR（ハイダイナミックレンジ）	解除※3
サイレント撮影（静止画Lv）	しない

※1 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、［**オート**］になります。

※2 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**コマ数**］、［**合成モード**］、［**合成前の画像を保存（RAW）**］および［**確認撮影**］は初期設定には戻りません。

※3 HDRモードが［**する（連続）**］または［**する（1回）**］の場合は［**しない**］に設定されます。［**露出差**］、［**スムージング**］および［**合成前の画像を保存（RAW）**］は初期設定には戻りません。

動画撮影メニュー項目

項目		初期設定
ISO感度設定		
	制御上限感度	102400
	Mモード時の感度自動制御	しない
	Mモード時のISO感度	100
ホワイトバランス		静止画の設定と同じ
ピクチャーコントロール		静止画の設定と同じ
アクティブD-ライティング		しない
電子手ブレ補正		しない
ヘッドホン音量		15

その他の撮影関連の機能

機能	初期設定
フォーカスポイント	中央
プリセットフォーカスポイント	中央
露出モード	P
プログラムシフト	解除
露出補正	解除（0.0）
AE-L（ホールド）	解除
コマンドロック（絞り）	解除
コマンドロック（シャッタースピード）	解除
露出プレビュー	解除
AFモード	AF-S
ファインダー撮影時のAFエリアモード	シングルポイントAF

機能	初期設定
ライブビュー撮影時/動画撮影時のAFエリアモード	ノーマルエリアAF
静止画Lv画面のホワイトバランス	撮影時と同じ
測光モード	マルチパターン測光
フラッシュモード	通常発光
調光補正	解除（0.0）
FVロック	解除
マルチセレクターによるパワー絞り	無効
マルチセレクターによる露出補正	無効
露出ディレーモード	しない※
ハイライト表示	しない

※ 現在選択中のカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます。

複数の画像を重ねて1枚の画像として写し込む（多重露出）

静止画撮影メニューの［**多重露出**］を使うと、2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録できます。

多重露出の設定項目

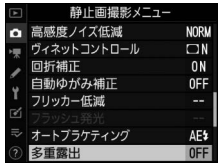
項目	内容
［**多重露出モード**］	• ［**する（連続）**］：解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［**多重露出モード**］を選んで［**しない**］に設定してください。 • ［**する（1回）**］：多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。 • ［**しない**］：多重露出撮影を解除します。
［**コマ数**］	コマ数（露光回数）を設定します。

項目	内容
［**合成モード**］	• ［**加算**］：全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。 • ［**加算平均**］：重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 - 各コマのゲインは、「1÷露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。 • ［**比較明合成**］：撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。  • ［**比較暗合成**］：撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。 

項目	内容
［**合成前の画像を保存（RAW）**］	• ［**する**］：合成した画像のほかに、多重露出で撮影した全てのコマをRAW画像として保存します。 • ［**しない**］：合成した画像のみ保存します。
［**確認撮影**］	• ［**する**］：ライブビューで多重露出撮影中、撮影したコマを合成して画像モニターに半透過で表示します。次のコマを撮影するときに構図が決めやすくなります。 • ［**しない**］：多重露出撮影中、撮影したコマは表示されません。
［**1コマ目の画像（RAW）の指定**］	メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選ぶことができます。

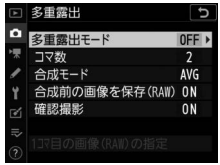
多重露出の撮影方法

1 **静止画撮影メニューの［多重露出］を選んでマルチセレクターの▶を押す**

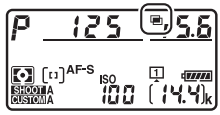


2 **［多重露出モード］を設定する**

- ［**多重露出モード**］を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して多重露出モードを設定し、Ⓚボタンを押します。

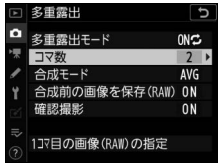


- ［**する（連続）**］または［**する（1回）**］を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、上面表示パネルに▬マークが点灯します。



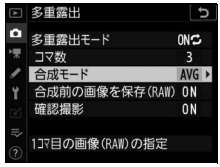
3 [コマ数]（露光回数）を設定する

- [**コマ数**] を選んで、Ⓘを押します。
- ㊤㊦を押して露光回数を設定し、Ⓚボタンを押します。

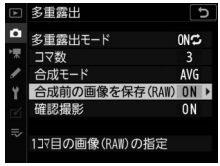


4 [合成モード] を設定する

- [**合成モード**] を選んで、Ⓘを押します。
- ㊤㊦を押して項目を選び、Ⓚボタンを押します。

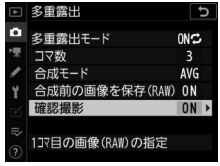


5 [合成前の画像を保存（RAW）] を設定する



- [**合成前の画像を保存（RAW）**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、Ⓚボタンを押します。
- [**する**] を選ぶと、合成した画像のほかに多重露出で撮影した全てのコマをRAW画像として保存します。[**しない**] を選ぶと、合成後の画像のみを保存します。

6 [確認撮影] を設定する

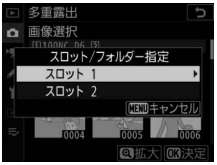


- [**確認撮影**] を選んで、▶を押します。
- ▲▼を押して項目を選び、Ⓚボタンを押します。
- [**する**] を選ぶと、ライブビューで多重露出撮影中、撮影したコマを合成して画像モニターに半透過で表示します。

7 [1コマ目の画像（RAW）の指定] を設定する



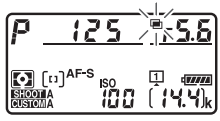
- 撮影済みの画像に重ねて写し込みたい場合は、[**1コマ目の画像（RAW）の指定**] を選んで㊑を押し、メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選びます。
- マルチセレクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、🔍ボタンを押している間、拡大して確認できます。
- ⚡（ϟ）ボタンを押すと、[**スロット/フォルダー指定**] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。
- 画像を選択したら、㊙ボタンを押します。



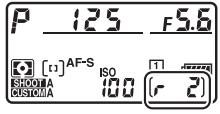
- 高感度（Hi 0.3～Hi 5）で撮影されたRAW画像を1コマ目に指定した場合、カスタムメニュー d6［**電子先幕シャッター**］を［**有効**］にしていても、多重露出撮影中は電子先幕シャッターが無効になります。

8 撮影を開始する



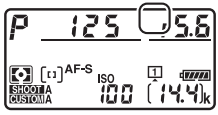


- 撮影を始めると、■マークが点滅します。
- 設定したコマ数を撮影してください。手順7の［**1コマ目の画像（RAW）の指定**］でメモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選んだ場合は、2コマ目以降を撮影します。



- 多重露出撮影中にシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影コマ数を表示します。
- 設定したコマ数を撮影し終わると、画像が合成されて保存されます。設定している画質モードにかかわらず、合成画像はJPEGになります。

- 多重露出モードが［**する（1回）**］の場合、手順3で設定したコマ数を撮影後に合成画像が保存されると、多重露出撮影が解除され、▬マークが消灯します。



- ［**する（連続）**］の場合、［**多重露出モード**］で［**しない**］を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。

多重露出撮影時のご注意

- 音声メモは、多重露出撮影終了後に録音できます。多重露出撮影中には音声メモは録音できません。
- 多重露出撮影中に、画像の再生やメニュー画面の表示で画像モニターを点灯した場合、画像モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。

- 多重露出で撮影する場合、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。
- レリーズモードを**CL**、**CH**、または**Q**の静音連続撮影に設定しているときにシャッターボタンを全押しし続けると、多重露出で設定された撮影コマ数まで撮影し、合成画像を保存します。多重露出モードが［**する（1回）**］のときは、撮影が終了して合成画像が保存されると多重露出撮影を解除します。［**する（連続）**］のときは、撮影後に再度全押しすると、繰り返し多重露出撮影を行えます。
- セルフタイマー撮影時（🕮209）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3［**セルフタイマー**］の［**連続撮影間隔**］で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の［**撮影コマ数**］で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影設定および撮影データは1コマ目の内容になります。
- 多重露出撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

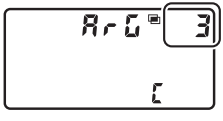
ヒント：BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］の［**BKTボタン**］を［**多重露出**］に設定すると、**BKT**ボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の［**多重露出モード**］と手順3の［**コマ数**］を設定できます。

- **BKT**ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して**oFF**（［**しない**］）、**i**（［**する（1回）**］）、**C**（［**する（連続）**］）から選んでください。



- **BKT**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルのコマ数が切り替わります。



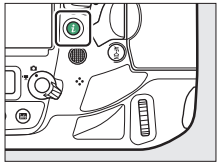
ヒント：多重露出の制限について

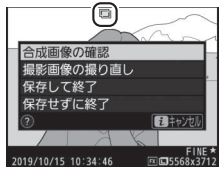
次の場合など、多重露出とは同時に使用できない機能や設定があります。

- 動画撮影
- オートブラケティング撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- インターバルタイマー撮影
- タイムラプス動画撮影
- フォーカスシフト撮影

iボタンを使う

多重露出撮影中に▶ボタンを押すと、撮影した画像を確認できます。多重露出撮影で最後に撮影したコマには■が表示され、このときにiボタンを押すと多重露出撮影時のiメニューが表示されます。

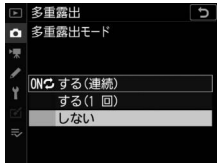




- 項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目が実行されます。
- iボタンを押したときの設定は、タッチ操作でも行えます。

項目	内容
［**合成画像の確認**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成してプレビューします。
［**撮影画像の撮り直し**］	最後に撮影したコマを撮影し直せます。
［**保存して終了**］	それまでに撮影したコマで合成画像を作成し、保存して多重露出撮影を終了します。
［**保存せずに終了**］	合成画像を保存しないで多重露出撮影を終了します。 • ［**合成前の画像を保存（RAW）**］が［**する**］の場合は、撮影した画像を合成せずに1コマずつ保存します。

多重露出撮影を終了するには



設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを［**しない**］に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（［**合成モード**］を［**加算平均**］に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- ツーボタンリセットを行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出撮影中に▶ボタンを押してからiボタンを押し、［**保存して終了**］または［**保存せずに終了**］を選んだとき

設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

静止画撮影メニューの［**インターバルタイマー撮影**］を使うと、設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影をするときは、レリーズモードを⏲または**MUP**以外に設定してください。

インターバルタイマー撮影の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	インターバルタイマー撮影を開始します。［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は約3秒後に撮影を開始し、［**日時指定**］を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
［**開始日時の設定**］	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は［**即時**］を、開始日時を設定する場合は［**日時指定**］を選びます。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
［**撮影回数×1回のコマ数**］	撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定します。

項目	内容
［**露出平滑化**］	［**する**］を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 露出モード**M**で静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**しない**］の場合、露出の平滑化は行いません。
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。

項目	内容
［**撮影間隔優先**］	• ［**する**］：露出モードが**P**または**A**のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - フラッシュ撮影はできません。 - ［**撮影回数×1回のコマ数**］のコマ数を2コマ以上に設定していても、自動的に1コマに変更されます。 - AFモードを**AF-S**に設定している場合は、カスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。**AF-C**に設定している場合は、カスタムメニュー a1［**AF-Cモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。 - 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**する**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**しない**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎のAF駆動**］	［**する**］を選ぶと、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。

項目	内容
［**オプション**］	インターバルタイマー撮影に、別の機能をオプションとして組み合わせることができます。 • ［**AEブラケティング**］：インターバルタイマー撮影とAEブラケティングを同時に行えます。 • ［**タイムラプス動画**］：インターバルタイマー撮影した画像をつないで、アスペクト比（縦横比）が16：9のタイムラプス動画として記録できます。 - インターバルタイマー撮影した画像とタイムラプス動画が保存されます。 - 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］が［**1.2×（30×20）**］、［**5:4（30×24）**］および［**1:1（24×24）**］のときは撮影できません。 - ［**タイムラプス動画**］を選んだときは、静止画撮影メニュー［**色空間**］の設定にかかわらず［**sRGB**］の色空間で撮影されます。 • ［**しない**］：オプションなしでインターバルタイマー撮影を行います。

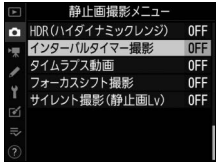
項目	内容
［**撮影開始時の記録フォルダー**］	項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。 • ［**新規フォルダー作成**］：インターバルタイマー撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

☑ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- インターバルタイマー撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

インターバルタイマー撮影の開始

1 静止画撮影メニューの［インターバルタイマー撮影］を選んでマルチセレクターの㊨を押す

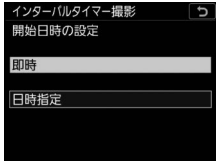


2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- **開始方法を選ぶ**



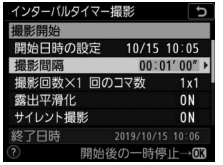
［**開始日時の設定**］を選んで㊨を押す



開始方法を選んでOKボタンを押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、［**即時**］を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、［**日時指定**］を選びます。表示される画面で開始日時を設定してOKボタンを押します。

• **撮影間隔（インターバル）を設定する**



［**撮影間隔**］を選んで▶を押す

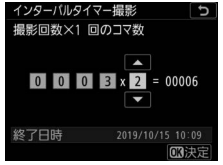


撮影間隔（時、分、秒）を設定してOKボタンを押す

• **撮影回数と1回のコマ数を設定する**



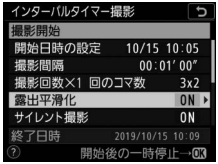
［**撮影回数×1回のコマ数**］を選んで▶を押す



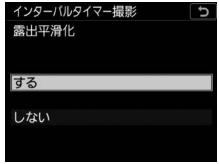
撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定して、OKボタンを押す

- レリーズモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニューd1［**連続撮影速度**］の［**高速連続撮影**］で設定された速度で撮影します。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときは、1回のコマ数によって設定できる撮影回数が異なります。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



［**露出平滑化**］を選んで▶を押す

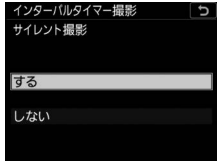


露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ



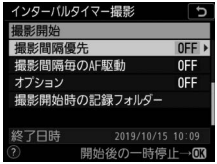
［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す



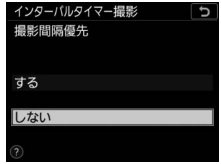
サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- ［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• **露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ**

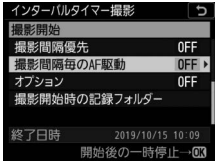


［**撮影間隔優先**］を選んで▶を押す

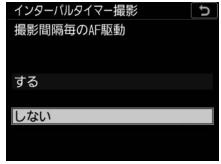


撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選んでOKボタンを押す

• **撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうかを選ぶ**



［**撮影間隔毎のAF駆動**］を選んで▶を押す



撮影してから次の撮影までの間に、ピント合わせを行うかどうかを選んでOKボタンを押す

• **オプションを設定する**

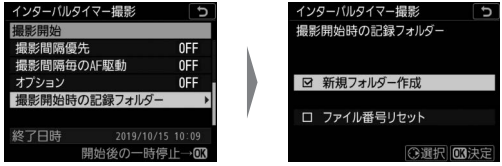


［**オプション**］を選んで▶を押す

［**AEブラケティング**］または［**タイムラプス動画**］を選んで▶を押す

- ［**AEブラケティング**］の場合は［**コマ数**］と［**補正ステップ**］を、［**タイムラプス動画**］の場合は［**画像サイズ/フレームレート**］と［**動画記録先**］を設定します。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**



［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで▶を押す

各項目の設定をしてⓀボタンを押す

3 [撮影開始] を選んでⓄⓀボタンを押す



- 手順2の［**開始日時の設定**］で［**即時**］を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の［**開始日時の設定**］で［**日時指定**］を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

☑ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、設定した［**撮影回数×1回のコマ数**］で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。

- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合、シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、インターバルタイマー撮影中に半押しタイマーはオフになりません。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（🕮346）。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
  - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
  - レリーズモードを⏲または**MUP**に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。

☑ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

☑ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

インターバルタイマー撮影の制限について

次の場合など、インターバルタイマー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- フォーカスシフト撮影

［サイレント撮影］を［する］にした場合の制限について

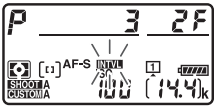
次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 5
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減
- 露出ディレーモード
- フリッカー低減

インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

ヒント：インターバルタイマー撮影の待機状態について



インターバルタイマー撮影の待機状態では、上面表示パネルに INTVL マークが点滅します。撮影直前になると表示パネルのシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。
- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合は、インターバルタイマー撮影中にメモリーカードアクセスランプが点灯し続けます。

ヒント：静止画撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての静止画撮影メニュー（「A」～「D」）で共通です。このため、静止画撮影メニューの［**静止画撮影メニューの管理**］で静止画撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、［**静止画撮影メニューの管理**］で静止画撮影メニューをリセットすると、全ての静止画撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。

インターバルタイマー撮影を一時停止するには

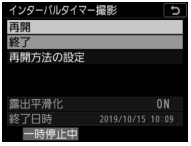
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、撮影待機中にⓄⓀボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**一時停止**］を選んでⓄⓀボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］の設定が短い場合、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- ［**オプション**］で［**タイムラプス動画**］を選んだ場合、撮影待機中にⓄⓀボタンを押すとインターバルタイマー撮影を途中で終了します。

インターバルタイマー撮影を再開するには

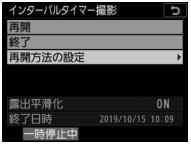
インターバルタイマー撮影の再開は、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で行います。手順は次の通りです。

すぐに再開する場合

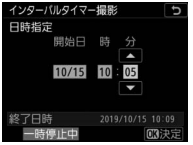


［**再開**］を選んでⓄKボタンを押す

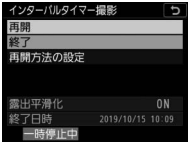
再開する日時を設定する場合



［**再開方法の設定**］画面で［**日時指定**］を選び▶を押す



開始日時を設定してⓄKボタンを押す



［**再開**］を選んでⓄKボタンを押す

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選び、㊗ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］の設定が短い場合、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。その場合は㊗ボタンを押して一時停止してから、静止画撮影メニュー［**インターバルタイマー撮影**］で［**終了**］を選んで㊗ボタンを押してください。

静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）

静止画撮影メニューの［**タイムラプス動画**］を使うと、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。

タイムラプス動画の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	タイムラプス動画撮影を開始します。約3秒後に撮影を開始し、設定した［**撮影時間**］内に設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。
［**撮影間隔**］	撮影間隔（分、秒）を設定します。
［**撮影時間**］	撮影時間（時、分）を設定します。
［**露出平滑化**］	［**する**］を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。 • 輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 • 露出モード**M**で静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］が［**しない**］の場合、露出の平滑化は行いません。

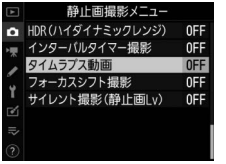
項目	内容
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。
［**撮影範囲**］	• ［**撮像範囲設定**］：タイムラプス動画撮影時の撮像範囲を、［**FX**］または［**DX**］に設定できます。 • ［**DX自動切り換え**］：［**する**］にすると、DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を［**DX**］に切り換えます。
［**画像サイズ/フレームレート**］	記録されるタイムラプス動画の画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定できます。
［**撮影間隔優先**］	• ［**する**］：露出モードが**P**または**A**のときに、露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影します。 - AFモードが**AF-S**に設定している場合は、カスタムメニュー a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。**AF-C**に設定している場合は、カスタムメニュー a1［**AF-Cモード時の優先**］を［**レリーズ**］に設定してください。 - 静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］で［**感度自動制御**］を［**する**］にしたときの［**低速限界設定**］の設定値が、設定した撮影間隔より長い場合は、撮影間隔を優先して感度が自動制御されます。 • ［**しない**］：撮影間隔よりも露光時間を優先して撮影します。
［**撮影間隔毎のAF駆動**］	［**する**］を選ぶと、撮影してから次の撮影までの間に、カメラが自動でピント合わせを行います。
［**動画記録先**］	メモリーカードを2枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを設定します。

タイムラプス動画の撮影方法

タイムラプス動画撮影を開始する前に

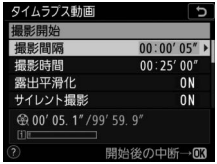
- タイムラプス動画撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。構図を確認してから撮影することをおすすめします。
- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニュー［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- タイムラプス動画撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクターとACアダプター、または充分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

1 静止画撮影メニュー［タイムラプス動画］を選んでマルチセレクターの▶を押す



2 タイムラプス動画の設定をする

• 撮影間隔（インターバル）を設定する



［**撮影間隔**］を選んで⊛を押す



撮影間隔（分、秒）を設定して
Ⓚボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

• 撮影時間を設定する



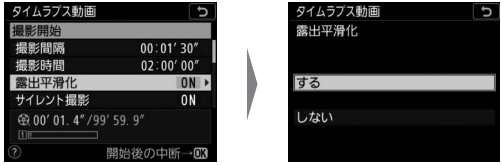
［**撮影時間**］を選んで⊛を押す



撮影時間（時、分）を設定して、
Ⓚボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• **露出平滑化をするかどうかを選ぶ**

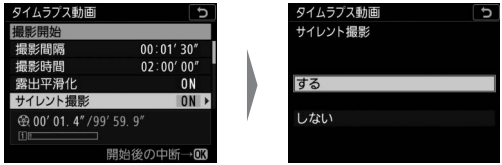


［**露出平滑化**］を選んで▶を押す

露出平滑化をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- ［**する**］を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。

• **サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ**



［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す

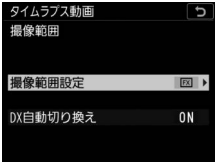
サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

- ［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• **撮像範囲を設定する**



［**撮像範囲**］を選んでを押す



［**撮像範囲設定**］または［**DX自動切り換え**］を選んでボタンを押す

- ［**撮像範囲設定**］を選んだ場合は［**FX**］または［**DX**］を、［**DX自動切り換え**］を選んだ場合は［**する**］または［**しない**］を選んでボタンを押します。

• **画像サイズ/フレームレートを設定する**



［**画像サイズ/フレームレート**］を選んでを押す



動画の画像サイズ/フレームレートを選んでボタンを押す

• **露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうか選ぶ**

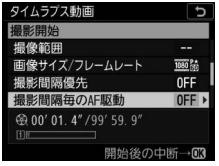


［**撮影間隔優先**］を選んで▶を押す

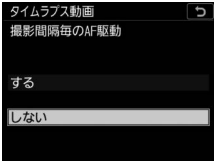


撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選んでOKボタンを押す

• **撮影間隔ごとにピント合わせを行うかどうか選ぶ**



［**撮影間隔毎のAF駆動**］を選んで▶を押す



撮影してから次の撮影までの間に、ピント合わせを行うかどうかを選んでOKボタンを押す

- ［**撮影間隔毎のAF駆動**］が［**する**］のときは、選んだAFモードに従って、毎回の撮影の直前にピント合わせを行います。

- **タイムラプス動画を記録するスロットを選ぶ**



［**動画記録先**］を選んで▶を押す

メモリーカードを2枚使用している場合にタイムラプス動画を記録するスロットを選んでOKボタンを押す

3［撮影開始］を選んでOKボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した［**撮影時間**］内に、設定した［**撮影間隔**］で撮影を繰り返します。



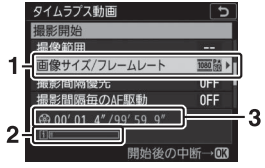
タイムラプス動画撮影を途中で終了するには

タイムラプス動画撮影を途中で終了するには、撮影待機中に㊗ボタンを押すか、静止画撮影メニュー［**タイムラプス動画**］で［**終了**］を選んで㊗ボタンを押します。ただし［**撮影間隔**］の設定が短い場合、**MENU**ボタンを押してもメニュー画面が表示されない場合があります。

- タイムラプス動画撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

☑ タイムラプス動画の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）に1を足した数が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- タイムラプス動画で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数÷［**画像サイズ/フレームレート**］で選んだフレームレートで計算できます（たとえば、［**画像サイズ/フレームレート**］が［**1920×1080 24p**］のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。



1	動画の画像サイズ/フレームレート
2	メモリーカード使用状況
3	記録時間/最長記録時間

撮影直後の画像確認について

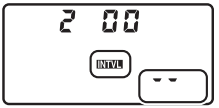
タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］を［**する**］にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間表示されます。その場合、通常の再生時の操作は無効になります。また、撮影間隔が短いときは画像が表示されないことがあります。

タイムラプス動画撮影についてのご注意

- タイムラプス動画には音声は記録されません。
- 実際のタイムラプス動画撮影には、インターバル時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、タイムラプス動画撮影を開始できません。
  - 設定した［**撮影時間**］が［**撮影間隔**］より短い場合
  - ［**撮影時間**］または［**撮影間隔**］が［**00:00'00"**］の場合
  - ［**サイレント撮影**］と［**撮影間隔優先**］をそれぞれ［**する**］に設定し、［**撮影間隔**］を［**00:00'0.5"**］に設定した場合
  - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。
- タイムラプス動画を撮影する場合、ホワイトバランスを［**オート**］または［**自然光オート**］以外に設定すると色味を固定することができます。
- タイムラプス動画撮影中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

- タイムラプス動画撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録してタイムラプス動画撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、タイムラプス動画撮影が終了します（タイムラプス動画撮影終了時の電子音は鳴りません）。
  - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
  - メモリーカードを取り出したとき

☑ タイムラプス動画撮影の待機状態について



- タイムラプス動画撮影の待機状態では、上面表示パネルにINTVLマークとタイムラプス動画撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。

☑ タイムラプス動画撮影待機中の各種設定について

タイムラプス動画撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

タイムラプス動画の制限について

次の場合など、タイムラプス動画とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影
- オートブラケティング撮影
- 多重露出撮影
- HDR（ハイダイナミックレンジ）
- インターバルタイマー撮影
- フォーカスシフト撮影

［サイレント撮影］を［する］にした場合の制限について

次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 5
- フラッシュ撮影
- 露出ディレーモード
- 長秒時ノイズ低減
- フリッカー低減

ピント位置を変えながら連続撮影する（フォーカスシフト撮影）

静止画撮影メニューの［**フォーカスシフト撮影**］を使うと、ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行うフォーカスシフト撮影が可能です。深度合成用の素材を撮影するときに便利です。素材として撮影した画像をパソコンに取り込んで、他社製の画像編集ソフトで合成することができます。

フォーカスシフト撮影の設定項目

項目	内容
［**撮影開始**］	撮影を開始します。撮影は、設定したフォーカスステップ幅で繰り返されます。
［**撮影回数**］	撮影回数を最大300回まで設定できます。
［**フォーカスステップ幅**］	フォーカスシフト撮影は、ピント位置を変更しながらステップ撮影を行います。ピント位置の変更幅を設定します。

項目	内容
［**待機時間**］	シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。 • ［**00**］に設定すると、最速3コマ/秒でシャッターがきれます。 • フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。
［**露出固定**］	• ［**する**］：露出を1コマ目撮影時の設定に固定します。 • ［**しない**］：1コマごとに露出を合わせます。
［**サイレント撮影**］	［**する**］を選ぶと、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。
［**撮影開始時の記録フォルダー**］	項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ□を切り換えられます。 • ［**新規フォルダー作成**］：フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 • ［**ファイル番号リセット**］：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

フォーカスシフト撮影を開始する前に

- AF-SレンズまたはAF-Pレンズをお使いください。
- レリーズモードを⏲以外に設定してください。
- 撮影中に絞りが変化しない露出モード**A**または**M**にして撮影することをおすすめします。
- 絞り値は、開放絞りから2～3段ほど絞った値で撮影することをおすすめします。
- ISO感度は、固定で撮影することをおすすめします。
- 試し撮りをすることをおすすめします。
- フォーカスシフト撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズのVR（手ブレ補正）機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ［**サイレント撮影**］が［**しない**］のときにファインダーから顔を離して撮影する場合は、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。

フォーカスシフト撮影の撮影方法

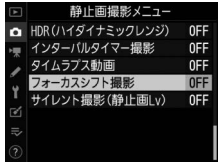
1 フォーカスモードセレクターをAFに設定する

マニュアルフォーカスレンズではフォーカスシフト撮影はできません。

2 被写体にピントを合わせる

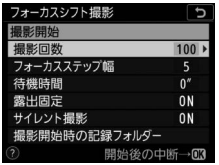
- 撮影開始のピント位置から無限遠方向に向かって自動撮影されます。撮影開始のピント位置は、被写体の最近接の部分より少し近側にずらしておくことをおすすめします。
- ピント合わせ後はカメラを動かさないでください。

3 静止画撮影メニューの［フォーカスシフト撮影］を選んでマルチセレクターのOKを押す



4 フォーカスシフト撮影の設定をする

- **撮影回数を設定する**



［**撮影回数**］を選んで▶を押す



撮影回数を設定して、⊛ボタンを押す

- 撮影回数は最大300回まで設定できます。
- 撮影回数は多めに設定しておくことをおすすめします。合成時には必要な画像を選んで使用してください。
- 昆虫などの小さい被写体をクローズアップ撮影する場合、100枚以上の画像が必要になることがあります。また、手前から遠くまでをカバーする風景を広角レンズで撮影する場合は、数枚で充分なこともあります。

• フォーカスステップ幅（ピント位置の間隔）を設定する



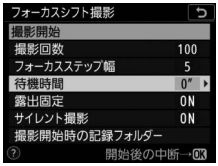
［**フォーカスステップ幅**］を選んで▶を押す



フォーカスステップ幅を設定して、⊛ボタンを押す

- フォーカスステップ幅は、▶を押すほど広くなり、◀を押すほど狭くなります。
- フォーカスステップ幅を大きな数値に設定すると、深度合成したときにピントの合っていない領域ができてしまうことがあります。通常は5以下に設定することをおすすめします。
- フォーカスステップ幅は何度か試して決めてください。

• 待機時間を設定する



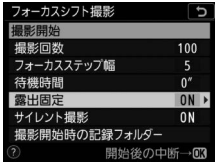
［**待機時間**］を選んで▶を押す



待機時間（秒）を設定して、OKボタンを押す

- シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。
- ［**00**］に設定すると最速3コマ/秒でシャッターがきれます。
- フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。フラッシュを使用しない場合は、［**00**］に設定することをおすすめします。

• 露出を固定するかどうかを選ぶ



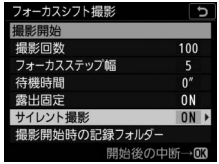
［**露出固定**］を選んで▶を押す



露出を固定するかどうかを選んでOKボタンを押す

- 光源などの撮影環境が安定している場合は［**しない**］、風景などの光線条件が変化するような場合は［**する**］をおすすめします。
- ［**する**］を選ぶと、全てのコマが同じ露出になるように、露出を1コマ目撮影時の設定に固定します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は、［**しない**］にすることをおすすめします。

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ



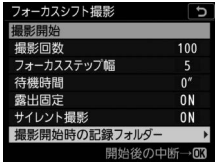
［**サイレント撮影**］を選んで▶を押す



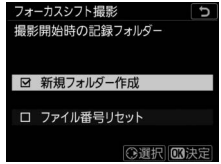
サイレント撮影をするかどうかを選んでOKボタンを押す

-［**する**］にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• **撮影開始時の記録フォルダーの設定をする**



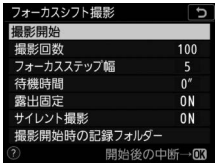
［**撮影開始時の記録フォルダー**］を選んで▶を押す



各項目の設定をして⊛ボタンを押す

- 項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
- ［**新規フォルダー作成**］のチェックボックスをオン☑にすると、フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。
- ［**ファイル番号リセット**］のチェックボックスをオン☑にすると、新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

5 [撮影開始] を選んでⓄボタンを押す



- 約3秒後に撮影を開始します。
- 撮影開始時のピント位置から無限遠に向かって連続撮影を行います。
- 設定した撮影回数に達するか、ピント位置が無限遠に達すると撮影を終了します。
- フォーカスシフト撮影を途中で終了するには、次の操作を行います。
  - 撮影待機中に静止画撮影メニュー［**フォーカスシフト撮影**］で［**終了**］を選び、Ⓞボタンを押す
  - 次の撮影までの間にシャッターボタンを半押しするか、Ⓞボタンを押す

フォーカスシフト撮影についてのご注意

- 実際のフォーカスシフト撮影には、待機時間のほか、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した待機時間で撮影できないことがあります。
- フォーカスシフト撮影中は、カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。待機時間が充分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合など、フォーカスシフト撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- フォーカスシフト撮影中にカメラの設定を変更すると、フォーカスシフト撮影が終了する場合があります。

フォーカスシフト撮影待機中の各種設定について

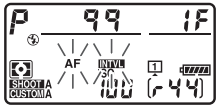
フォーカスシフト撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

ヒント：近接撮影を行う場合

近接撮影では焦点深度が浅くなるため、近接被写体のフォーカスシフト撮影を行う場合は、フォーカスステップ幅を狭めにし、撮影回数を多めにして撮影することをおすすめします。

ヒント：フォーカスシフト撮影について

フォーカスシフト撮影時は、上面表示パネルにINTVLマークが点滅します。撮影直前になるとAFマークが点滅し、シャッタースピード表示部に残りの撮影回数が表示されます。



ヒント：フォーカスシフト撮影の制限について

- 次の場合、フォーカスシフト撮影はできません。
  - カメラの日時設定がされていない場合
  - AF-SまたはAF-Pレンズ以外のレンズが装着されている場合
  - メモリーカードが入っていない場合
- 次の場合など、フォーカスシフト撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。
  - ライブビュー撮影
  - 動画撮影
  - 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
  - セルフタイマー撮影
  - オートブラケティング撮影
  - 多重露出撮影
  - HDR（ハイダイナミックレンジ）
  - インターバルタイマー撮影
  - タイムラプス動画撮影

ヒント：[サイレント撮影] を［する］にした場合の制限について

次の場合など、［**サイレント撮影**］を［**する**］に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 5
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減
- 露出ディレーモード
- フリッカー低減

電子シャッターを使って撮影する（サイレント撮影（静止画Lv））

静止画撮影メニュー［**サイレント撮影（静止画Lv）**］を［**する**］に設定すると、ライブビュー撮影時に電子シャッターを使用して、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。風景や静物など動きの少ない被写体を撮影する場合に適しています。

- 撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- レリーズモードが連続撮影の場合、連続撮影速度が変更されます（🕮205）。

ヒント：サイレント撮影について

- ［**サイレント撮影（静止画Lv)**］を［**する**］に設定していても、完全に無音にはなりません。撮影時に絞りやオートフォーカスなどカメラの動作音がすることがあります。
- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがあり、これらの現象は静止画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する
  - 動きのある被写体が歪む（電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む／カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む）
  - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
  - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 連続撮影中は、撮影開始時のピントに固定されます。
- サイレント撮影中はシャッター音を消して撮影できますが、被写体の肖像権やプライバシーなどに充分ご配慮の上、お客様の責任においてお使いください。

ヒント：サイレント撮影の制限について

次の場合など、サイレント撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ISO感度の Hi 0.3～Hi 5
- フラッシュ撮影
- 長秒時ノイズ低減

iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）



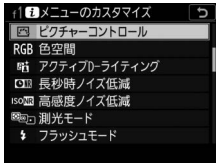
撮影時のiメニューで表示される項目は、カスタムメニューで変更できます。ファインダー撮影時の機能はf1［**iメニューのカスタマイズ**］、ライブビュー撮影時の機能はf2［**iメニューのカスタマイズ（Lv）**］、動画撮影時の機能はg1［**iメニューのカスタマイズ**］でそれぞれ設定します。iメニュー項目の設定方法は次の通りです。

1 機能を割り当てたい場所を選んで⊛ボタンを押す



割り当てられる機能の一覧が表示されます。

2 割り当てたい機能を選んでⓄⓀボタンを押す



- 新しい機能が割り当てられ、手順1の画面に戻ります。
- 他の場所にも機能を割り当てたい場合は手順1、2を繰り返します。

3 MENUボタンを押す

設定を終了してメニュー画面に戻ります。

非CPUレンズを使う（レンズ情報手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ（🕮1045）装着時も露出モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの情報をカメラに登録すると、非CPUレンズを使って撮影するときに、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
  - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
  - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に＊印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
  - レンズで設定した絞り値表示（上面表示パネル、ファインダー内表示）
  - スピードライトの絞り連動外部自動調光（㊎A）
  - 再生画面での絞り値表示（絞り値に＊印が付きます）

- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
  - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
  - ［**中央部重点測光**］
  - ［**スポット測光**］
  - i-TTL調光

☑ ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

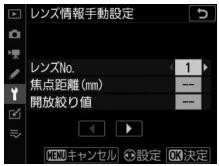
レンズ情報の登録方法

1 **セットアップメニューの［レンズ情報手動設定］を選んでマルチセレクターの㊨を押す**



2 **［レンズNo.］を選ぶ**

㊧㊨を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



3 **［焦点距離（mm）］を選ぶ**

㊧㊨を押して、レンズの焦点距離を選びます。



4 [開放絞り値] を選ぶ

◀▶を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



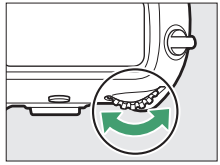
5 Ⓚボタンを押して、設定を終了する

レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

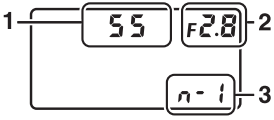
手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 **カスタムメニュー f3［カスタムボタンの機能］で任意のボタンに［手動設定済みレンズの選択］を割り当てる**

2 **［手動設定済みレンズの選択］を割り当てたボタンを押しながらコマンドダイヤルを回す**



レンズNo.は上面表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでコマンドダイヤルを回します。



1 焦点距離
2 開放絞り値
3 レンズNo.

ヒント：ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

位置情報を画像に記録する

カメラに内蔵された位置情報機能を使用すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。位置情報を取得して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ（🕮414）が追加されます。

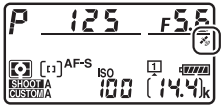
位置情報機能使用時のカメラの設定について

セットアップメニューの［**位置情報（内蔵）**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、内蔵の位置情報機能の使用/不使用、および使用時の設定を行えます。

項目	内容
［**位置情報記録**］	［**する**］を選ぶと、位置情報の取得を開始します。
［**半押しタイマー**］	［**位置情報記録**］を［**する**］にしている場合に［**有効**］を選ぶと、カメラを操作していないとき、カスタムメニュー c2の［**半押しタイマー**］で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。
［**衛星による日時合わせ**］	［**する**］を選ぶと、内蔵の位置情報機能で取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

項目	内容
［**ログ取得**］	移動情報のログを記録します。 • ［**ログ取得実行**］：［**取得間隔**］と［**取得時間**］で設定した間隔と時間でログを取得します。ログ取得中に［**ログ取得実行**］を選んでマルチセレクターの⊛を押すと、ログ取得の終了や一時停止/再開ができます。 • ［**取得間隔**］：ログを記録する間隔を設定できます。 • ［**取得時間**］：ログを記録する時間を設定できます。
［**ログリスト**］	ログを取得した日付の一覧が表示されます。 • 複数のログを取得した日付の後ろには、取得したログの識別番号が表示されます。 • ログは100件まで保存できます。 • 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選んだログを削除できます。
［**情報表示**］	内蔵の位置情報機能で取得した緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を表示します。UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、内蔵の位置情報機能が取得した世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

■■ 内蔵の位置情報機能使用時の表示について



カメラと測位衛星の通信状態は、上面表示パネルの衛星受信状態マーク🛰で確認できます。

- 🛰**（点灯）**：衛星から測位した緯度、経度、標高の情報が画像に記録されます。
- 🛰**（点滅）**：カメラが取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。🛰が点灯するまでお待ちください。
- 🛰**（消灯）**：測位衛星との通信が2秒以上途絶えると、🛰が消灯します。この状態で撮影した画像には位置情報は記録されません。ただし、位置情報取得後に消灯した場合は、取得時の位置情報が画像に記録されることがあります。

ヒント：位置情報機能についてのご注意

- 初めて測位したときや、測位できない状態が長時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときなど、位置情報を取得するまで時間がかかることがあります。
- 測位衛星の位置は常に変化しています。お使いになる場所や時間などによっては、測位に時間がかかったり、測位できないこともあります。
- 次のような電波を遮断、反射してしまう場所では、測位できなかったり、測位した位置が実際にいた場所と異なることがあります。
  - 建物の中や地下
  - 高層ビルの間
  - 高架の下
  - トンネルの中
  - 高圧電線などの近く
  - 密集した樹木の間
  - 入れ物の中（金属製のカバンなど）
- 携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものや、磁気を発生するものがある場合は、測位できないことがあります。

- 測位衛星からの電波の誤差が大きい場合、最大で数百メートルの誤差を生じることがあります。
- 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を記録します。
- 画像ファイルに記録されている位置情報は、取得した位置情報の精度および測地系の違いなどによって、実際の撮影地点と異なる場合があります。
- カメラの電源をOFFにしても、位置情報機能は無効になりません。位置情報機能を無効にするには、セットアップメニュー［**位置情報（内蔵）**］の［**位置情報記録**］を［**しない**］に設定してください。

ヒント：ログ取得についてのご注意

- 日時が設定されていない場合やメモリーカードがカメラに入っていない場合は、ログ取得はできません。
- 操作中のバッテリー切れを防ぐため、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- ログ取得時間内でも、次の場合にログ取得が終了します。
  - バッテリー残量がなくなったとき
  - バッテリーを取り外したとき
  - セットアップメニュー［**位置情報（内蔵）**］の［**位置情報記録**］を［**しない**］にしたとき
- 位置情報の測位ができずに、ログの取得が途絶えている間は、ログは記録されません。

ヒント：ログについて

- ログ取得中は、［**位置情報（内蔵）**］画面に残り時間が表示されます。
- カメラの電源をOFFにしたり、半押しタイマーがオフになっても、ログを取得し続けます。電池残量に注意してください。
- ログはメモリーカードの「NIKON」フォルダー内にある「GNSS」フォルダーに保存され、Nyymmddx.logという名前が付けられます。yy にはログを取得した年の西暦下2桁が入り、mmには月が、ddには日が、xには0～9、A～Zの識別番号が入り、拡張子は「.log」になります（たとえば、2019年10月15日に最初に取得したログのファイル名は「N1910150.log」になります）。
- NMEAフォーマットに準拠しています。ただし、全てのソフトウェアやカメラでの表示を保証するものではありません。

ヒント：スマートフォンからの位置情報取得について

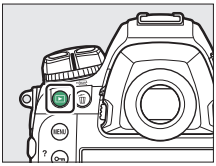
- カメラとスマートフォンを接続してSnapBridgeアプリの位置情報機能を有効にすると、カメラが位置情報を取得できなかった場合でもスマートフォンで取得した位置情報を使用して画像に位置情報を記録できます。
- セットアップメニュー［**位置情報（内蔵）**］の［**位置情報記録**］を［**しない**］に設定している場合でも、スマートフォンから位置情報を取得した場合は画像データに位置情報が記録されます。画像に位置情報を記録したくない場合は、SnapBridgeアプリの位置情報機能を無効にしてください。

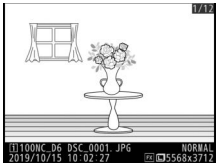
画像の再生

画像を再生する

1コマ表示モード

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

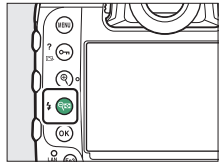


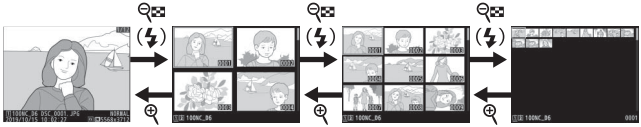


- マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
- ▲▼ を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（🕮405）。

サムネイル表示モード

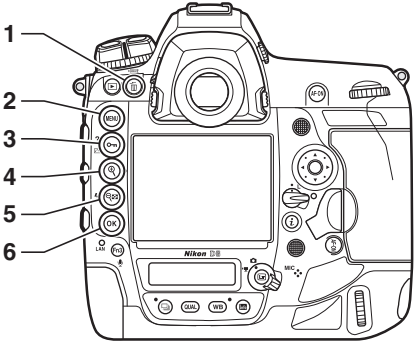
1コマ表示モードのときに🔍（⚡）ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。





- 表示される画像の数は、🔍（⚡）ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、🔍ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して画像を選びます。

画像再生時のボタン操作



1	🗑（FORMAT）：画像を削除する（📖429）
2	MENU：メニューに移る（📖80）
3	🔑（🖼/?）：画像を保護する（📖421）
4	🔍：画像を拡大する（📖419）
5	🔍🖼（⚡）：サムネイル表示モードで画像を一覧表示する（📖391）
6	OKボタン

■ ⓞⓚボタンとの組み合わせで使用できる再生機能

ⓞⓚボタンとマルチセレクターの組み合わせで次の機能を使えます。

項目	内容
ⓞⓚ + 	［**スロット/フォルダー指定**］画面が表示されます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでⓞⓚボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
ⓞⓚ + 	静止画を再生している場合、画像編集メニューが表示されます。
ⓞⓚ + 	セットアップメニュー［**IPTC**］でカメラに登録したIPTCプリセットの一覧が表示されます。IPTCプリセットを選んでⓞⓚボタンを押すと、選んだIPTCプリセットが表示中の静止画に添付されます（すでに画像にIPTCプリセットが添付されている場合は、選んだIPTCプリセットに上書きされます）。
ⓞⓚ + 	有線LANまたは無線LAN接続時に、選んだ画像を画像送信モードでパソコンやFTPサーバーに送信できます（🕮587）。

☑ タッチパネルでの操作について

画像モニターで再生している場合、タッチ操作で再生画面を切り換えることができます（🕮18）。

☑ 縦位置で撮影した画像の場合

再生メニュー［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定している場合、縦位置で撮影された画像を縦位置で再生します。



ヒント：メモリーカードスロットの切り換えについて

サムネイル表示モードの72コマ表示時にQ（ϟ）ボタンを押して［**スロット/フォルダー指定**］画面を表示することもできます。

ヒント：撮影直後の画像確認について

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］で［**する**］が設定されているときは、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

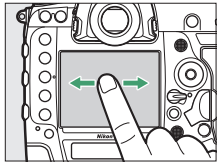
- レリーズモードが**CH**、**CL**、または**Q**の静音連続撮影のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

再生時にタッチパネルでできること

このカメラの画像モニターは、再生時に指で画面にタッチして次の操作ができます。

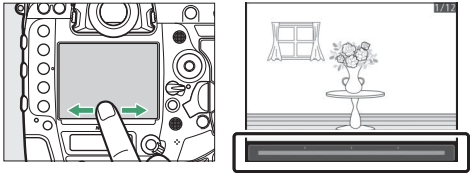
■■ 前後の画像を表示する

左右にフリックすると、前後の画像を表示します。

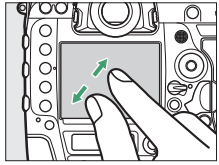


■■ 前後の画像を高速で切り換える

1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。



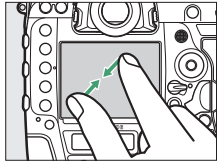
■■ 拡大表示する（静止画のみ）



1コマ表示時に広げる操作をするか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示（🕮418）します。

- さらに広げる操作をすると、拡大率が上がります。
- つまむ操作をすると、拡大率が下がります。
- 画面をスライドすると、見たい部分に移動できます。
- 画面を素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。

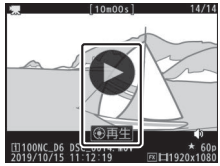
■■ サムネイル表示する

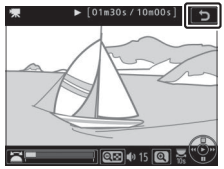


1コマ表示時につまむ操作をすると、サムネイル表示モード（🕮391）に切り替わります。

- 広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。

▮▮ 動画を再生する

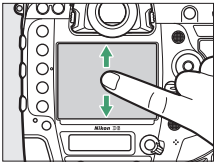




🎥が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。

- 再生中に画面をタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。
- 再生中に↩にタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。
- タッチでは操作できない操作ガイドもあります。

ヒント：画像を上下にフリックして画像に設定を行う



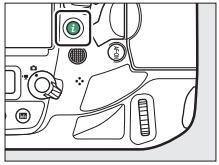
カスタムメニューf12［**1コマ再生時のフリック操作**］で、1コマ表示時に画像を上または下にフリックしたときの動作を割り当てられます。

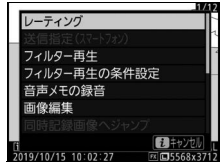
- 次の動作を割り当てられます。
  - ［**レーティング**］：フリックすると画像にあらかじめ設定していたレーティングを設定できます。
  - ［**送信指定（有線LAN/WT）**］：有線LANまたはワイヤレストランスミッターでカメラをパソコンやFTPサーバーと接続している場合、画像を送信指定できます。
  - ［**プロテクト**］：画像をプロテクトします。
  - ［**音声メモ**］：音声メモを録音または再生できます。
  - ［**設定しない**］：画像モニターを上下にフリックしても機能しません。
- ［**レーティング**］、［**送信指定（有線LAN/WT）**］、［**プロテクト**］を割り当てた場合、もう一度同じ方向にフリックすると設定した内容をキャンセルして元に戻します。

iボタンを使う

1コマ表示モード、サムネイル表示モードまたは拡大表示時にiボタンを押すと、iメニューが表示されます。項目を選んでⓀボタンまたはマルチセレクターのJを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

再生画面に戻るには、もう一度iボタンを押してください。





■■ 静止画選択時

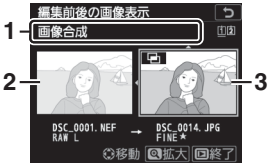
項目	内容
［**簡易トリミング**］※1	画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。RGBヒストグラム表示（🕮408）の場合は選べません。
［**レーティング**］	選んだ画像にレーティングを設定します（🕮423）。
［**送信指定（スマートフォン）**］	画像の送信指定を行えます。表示される項目は、現在カメラと接続している無線機器により異なります。
［**送信指定（PC）**］	
［**送信指定（有線LAN/WT）**］	
［**フィルター再生**］	設定された条件に当てはまる画像のみを再生します（🕮427）。
［**フィルター再生の条件設定**］	フィルター再生する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。
［**音声メモの録音**］	選んだ静止画に音声メモを録音します（🕮440）。
［**音声メモの再生**］	音声メモを再生します（🕮443）。
［**画像編集**］	選んだ静止画を編集できます（🕮958）。

項目	内容
［**同時記録画像へジャンプ**］	静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**バックアップ記録**］、［**RAW+JPEG分割記録**］または［**JPEG+JPEG分割記録**］に設定して同時記録または分割記録した画像を再生している場合、もう一方のスロットに記録した画像を再生できます。
［**スロット/フォルダー指定**］	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでⓄKボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
［**RGB切り換え**］※2	◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。
［**IPTC**］	選んだ静止画に設定したIPTC情報を添付します（🕮914）。
［**編集前後の画像表示**］※3	画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。

※1 拡大表示している場合のみ表示されます。
※2 ハイライト表示またはRGBヒストグラム表示にしたときのみ表示されます。
※3 編集後の画像（🖉が表示されている画像）または編集元の画像を選択しているときのみ表示されます。

ヒント：編集前後の画像を表示する

［**編集前後の画像表示**］を選ぶと、画像編集後の画像と元画像を並べて表示して画像編集の効果を確認できます。



1	画像編集の内容
2	編集前の画像
3	編集後の画像

- 編集前の画像が左側、編集後の画像が右側に表示されます。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの◀▶で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、▲▼で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、▲▼で編集後の画像を切り換えられます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⓞⓚボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を表示します。
- プロテクトされている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定にした場合、編集前の画像は表示されません。

■■ 動画選択時

項目	内容
［**レーティング**］	選んだ動画にレーティングを設定します（🕮423）。
［**送信指定（PC）**］ ［**送信指定（有線LAN/WT）**］	動画の送信指定を行えます。表示される項目は、現在カメラと接続している無線機器により異なります。
［**フィルター再生**］	設定された条件に当てはまる画像のみを再生します（🕮427）。
［**フィルター再生の条件設定**］	フィルター再生する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。
［**音量調節**］	動画再生時の音量を調節できます。
［**動画編集（始点/終点設定）**］	選んだ動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（🕮300）。
［**スロット/フォルダー指定**］	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでOKボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
［**RGB切り換え**］※	◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。

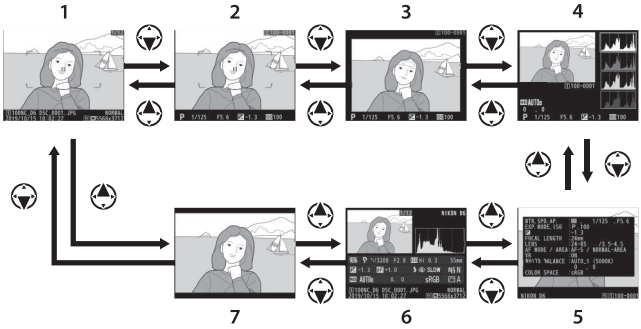
※ハイライト表示またはRGBヒストグラム表示にしたときのみ表示されます。

■■ 動画再生一時停止時

項目		内容
	［**始点/終点の設定**］	動画の必要な部分だけを残します（🕮300）。
	［**表示中のフレームを保存**］	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します（🕮306）。
	［**インデックスマーキング追加**］	再生中の動画にインデックスマークを追加します。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の位置へ素早く移動できます（🕮307）。
	［**インデックスマーキング削除**］	動画に追加したインデックスマークを削除します（🕮307）。

画像情報を表示する

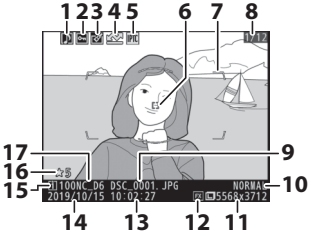
1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセレクターの▲▼を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



1	標準表示	5	撮影情報※
2	露出情報※	6	統合表示※
3	ハイライト表示※	7	画像のみ表示※
4	RGBヒストグラム※		

※再生メニュー［**再生画面設定**］で設定している場合のみ表示します。

標準表示

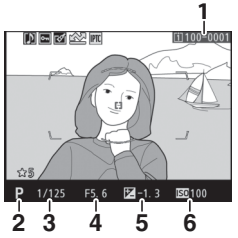


1	音声メモの有無（🕮436）
2	プロテクト設定の有無（🕮421）
3	画像編集の有無（🕮958）
4	送信指定の有無（🕮425）
5	IPTCプリセット添付の有無（🕮400、914）
6	フォーカスポイント※1（🕮164）
7	AFエリアフレーム※2（🕮164）
8	コマ番号/フォルダー内全画像数
9	ファイル名（🕮760）
10	画質モード（🕮118、144）
11	画像サイズ（🕮120、145）
12	撮像範囲（🕮136）
13	撮影時刻（🕮43）
14	撮影日付（🕮43）
15	スロット（🕮38）
16	レーティング（🕮423）
17	フォルダー名（🕮755）

※1 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**フォーカスポイント**］を設定した場合のみ表示します。

※2 再生メニュー［**再生画面設定**］で［**フォーカスポイント**］を設定して、ファインダー撮影した画像を選んだ場合のみ表示します。

露出情報

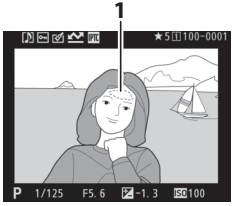


1	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字（🕮755）
2	露出モード（🕮108、182）
3	シャッタースピード（🕮185、188）
4	絞り値（🕮186、188）
5	露出補正値（🕮117、199）
6	ISO感度※（🕮114、213）

※感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

ハイライト表示

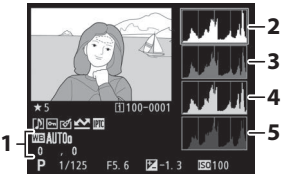
iメニューで［**RGB切り換え**］を選んで◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。



1	画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します。

RGBヒストグラム

iメニューで［**RGB切り換え**］を選んで◀▶を押すと、ハイライト表示させる色を切り換えられます。



1	ホワイトバランス（🕮121、221） ホワイトバランス色温度（🕮231） プリセットマニュアル（🕮234） ホワイトバランス微調整（🕮227）
2	RGBのヒストグラム
3	赤色（R）のヒストグラム
4	緑色（G）のヒストグラム
5	青色（B）のヒストグラム

☑ 拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で🔍ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示時にマルチセレクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。🔍（⚡）ボタンを押すと画像を縮小表示します。



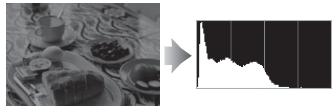
ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。



- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。



- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



露出補正を＋側にすれば山が右側に寄り、－側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

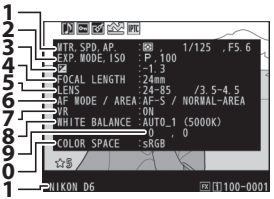
ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

撮影情報

撮影時の設定の詳細を表示します。撮影情報では複数の詳細情報のページがあり、マルチセレクターの㊤㊦で表示を切り換えます。表示する詳細情報のページは、再生メニュー［**再生画面設定**］の［**撮影情報の詳細**］で設定できます。

■■ 撮影基本情報

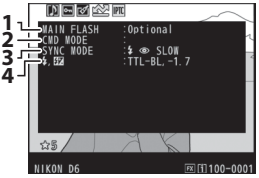


1	測光モード（🕮111、178） シャッタースピード（🕮185、188） 絞り値（🕮186、188）
2	露出モード（🕮108、182） ISO感度※1（🕮114、213）
3	露出補正値（🕮117、199） 基準露出レベルの調節値※2（🕮821）
4	焦点距離※3
5	レンズ情報
6	AFモード（🕮98、149） AFエリアモード（🕮101、153）
7	レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※4
8	ホワイトバランス※5（🕮121、221）
9	ホワイトバランス微調整（🕮227）
10	色空間（🕮765）
11	カメラ名

※1 露出モード**P**、**S**、**A**で感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2 カスタムメニュー b7［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定している場合のみ表示します。
※3 テレコンバーターを使用して撮影した場合は、焦点距離のほかに拡大倍率も表示されます。
※4 VRレンズ装着時のみ表示します。
※5［**オート**］または［**自然光オート**］で撮影した場合は、撮影時の色温度が表示されます。

■■ フラッシュ情報

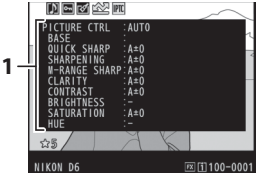
別売のスピードライト使用時にのみ表示します。



1	フラッシュの種類
2	リモートフラッシュの制御方法
3	フラッシュモード（🕮131、648）
4	フラッシュ発光モード（🕮645） 調光補正値（🕮133、653） フラッシュ発光量※

※TTL調光（🕮645）で撮影した場合は、撮影時の発光量をマニュアル発光量相当に換算した値を表示します。

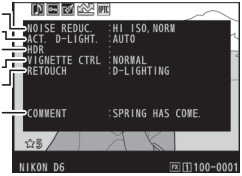
■■ ピクチャーコントロール情報



1	ピクチャーコントロール（🕮125、271）

※表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。

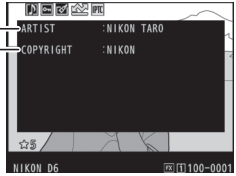
■■ 撮影情報その他



1	高感度ノイズ低減（🕮768） 長秒時ノイズ低減（🕮767）
2	アクティブD-ライティング（🕮281）
3	HDRの露出差（🕮283） HDRのスムージング（🕮283）
4	ヴィネットコントロール（🕮769）
5	画像編集メニュー（🕮958）で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
6	画像コメント（🕮911）

■■ 著作権情報

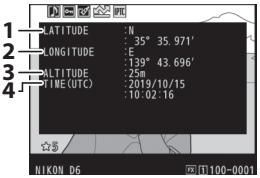
セットアップメニュー［**著作権情報**］を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。



1	撮影者名（🕮912）
2	著作権者名（🕮912）

■■ 位置情報

位置情報を取得して撮影した画像の場合のみ表示します。



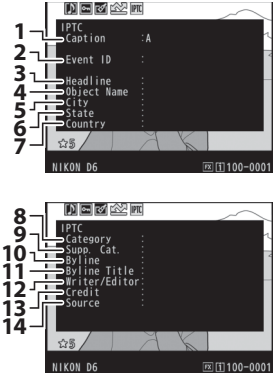
1 緯度

2 経度

3 標高

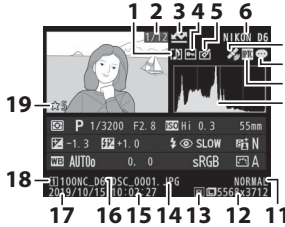
4 UTC（協定世界時）

IPTC情報

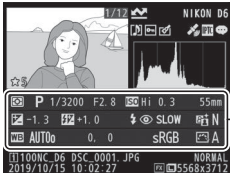


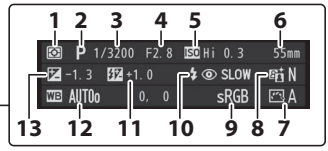
1	Caption
2	Event ID
3	Headline
4	Object Name
5	City
6	State
7	Country
8	Category
9	Supp. Cat. （Supplemental Categories）
10	Byline
11	Byline Title
12	Writer/Editor
13	Credit
14	Source

統合表示



1	音声メモの有無（🕮436）
2	コマ番号/フォルダー内全画像数
3	送信指定の有無（🕮425）
4	プロテクト設定の有無（🕮421）
5	画像編集の有無（🕮958）
6	カメラ名
7	位置情報の有無（🕮384）
8	画像コメントの有無（🕮911）
9	IPTCプリセット添付の有無（🕮400、914）
10	画像のヒストグラム（🕮409）
11	画質モード（🕮118、144）
12	画像サイズ（🕮120、145）
13	撮像範囲（🕮136）
14	ファイル名（🕮760）
15	撮影時刻（🕮43）
16	フォルダー名（🕮755）
17	撮影日付（🕮43）
18	スロット（🕮38）
19	レーティング（🕮423）

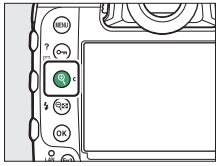




1 測光モード（🕮111、178）
2 露出モード（🕮108、182）
3 シャッタースピード（🕮185、188）
4 絞り値（🕮186、188）
5 ISO感度※1（🕮114、213）
6 焦点距離
7 ピクチャーコントロール（🕮125、271）
8 アクティブD-ライティング（🕮281）
9 色空間（🕮765）
10 フラッシュモード※2（🕮131、648）
11 調光補正値※2（🕮133、653）
コマンダーモードの有無※2
12 ホワイトバランス（🕮121、221）
ホワイトバランス色温度（🕮231）
プリセットマニュアル（🕮234）
ホワイトバランス微調整（🕮227）
13 露出補正値（🕮117、199）

※1 露出モード**P**、**S**、**A**で感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
※2 別売のスピードライト使用時にのみ表示します。

画像を拡大表示する



1コマ表示モードのときに🔍ボタンまたはマルチセレクターの中央ボタンを押すか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約21倍、**M** では約16倍、**S**では約10倍です（撮像範囲が［**FX (36×24)**］の場合）。拡大表示時に人物の顔を認識した場合、顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。

拡大表示時の操作方法

操作	内容	
拡大率を上げる/拡大率を下げる	• 🔍ボタンを押すか、画面で広げる操作をするごとに拡大率が上がります。 • 🔍（⚡）ボタンを押すか、画面でつまむ操作をするごとに拡大率が下がります。	 拡大表示時に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクターを押すか、画像モニターでスライド操作すると見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	

操作	内容
拡大表示部分を切り抜く※	**i**ボタンを押して表示されるメニューから［**簡易トリミング**］を選ぶと、画像の拡大表示された部分だけを切り抜きます。
人物の顔へ移動させる	拡大表示時に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、認識した顔に順次移動します。
前後の画像を見る	メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される◀▶をタッチしても画像を切り換えられます。
画像を保護する	**O-n**（**?**）ボタンを押すと、表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（🕮421）。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しするか、**▶**ボタンを押すと、画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	**MENU**ボタンを押すと、メニューが表示されます。

※RGBヒストグラム表示（🕮408）では、**i**ボタンを押して表示されるメニューで［**簡易トリミング**］は選べません。

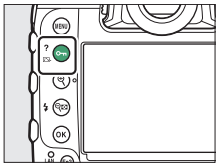
プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：🕮887）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

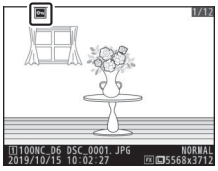
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターで選びます。

2 （/?）ボタンを押す



- アイコン が表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、（/）ボタンを押します。

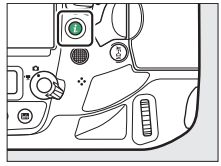


ヒント：音声メモ付き画像のプロテクトについて
音声メモが録音された画像にプロテクトをかけると、画像と音声メモの両方にプロテクトがかかります。個別に設定することはできません。

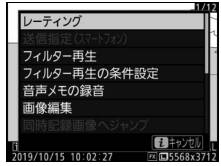
ヒント：プロテクトの一括解除について
画像の再生中に、（/）ボタンと（）ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像にレーティングを設定する

1 **マルチセレクターでレーティングを設定する画像を選んで i ボタンを押す**



2 **[レーティング] を選んでマルチセレクターの ▶ を押す**



3 **レーティングを設定する**

メインコマンドダイヤルを回してレーティングを選び、Ⓚボタンを押します。レーティングは、★★★★★～★、星なし、🗑（削除候補）から選びます。



ヒント：レーティングについて
画像に設定したレーティングは、NX Studioにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

ヒント：ボタンとメインコマンドダイヤルでレーティングを設定する
カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］で［**縦位置Fnボタン**］または［**Fn3ボタン**］に［**レーティング**］を割り当てている場合、再生画面でボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとレーティングを画像に設定できます。

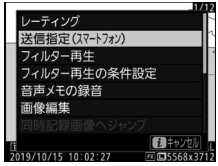
画像を選んで送信指定する

スマートフォンやパソコン、FTPサーバーに取り込みたい画像をカメラで選んで送信指定することができます。

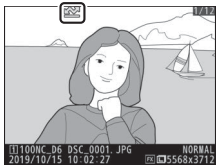
- **i**メニューに表示される項目は、現在カメラと接続している機器によって異なります。
  - カメラのBluetoothを使用して、セットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］でスマートフォンと接続（🕮929）している場合：［**送信指定（スマートフォン）**］
  - カメラのWi-Fi通信機能を使用して、セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］でパソコンと接続（🕮932）している場合：［**送信指定（PC）**］
  - 有線LANまたは別売のワイヤレストランスミッター WT-6を使用して、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］でパソコンまたはFTPサーバーに接続（🕮937）している場合：［**送信指定（有線LAN/WT）**］
- SnapBridgeアプリを使用してスマートフォンと接続している場合、動画は送信指定できません。
- ファイル容量が4GBを超える動画は送信指定できません。

1 送信指定する画像を選んで i ボタンを押す

2 [送信指定（スマートフォン）] / [送信指定（PC）] / [送信指定（有線LAN/WT）] を選んで Ⓚ ボタンを押す



スマートフォンと接続している場合は アイコンが、パソコンまたはFTPサーバーに接続している場合は アイコンが表示されます。



送信指定を解除するには

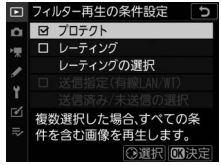
解除したい画像を選んで、手順1と2を行います。

フィルター再生する

iメニューで［**フィルター再生**］を選ぶと、再生メニューまたは再生時の**i**メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定された条件に当てはまる画像のみを再生します。

［フィルター再生の条件設定］の設定項目

項目を選び、マルチセレクターの▶を押すとオン☑とオフ☐を切り換えられます。フィルター再生時は、オン☑にした項目に全て当てはまる画像が表示されます。



項目	内容
［**プロテクト**］	オン☑にすると、プロテクトされた画像を再生対象にします。
［**レーティング**］	オン☑にしたレーティングの画像を再生対象にします。
［**送信指定（有線LAN/WT）**］	• ［**送信済みの画像**］をオン☑にすると、有線LANまたはワイヤレストランスミッター WT-6を使用して接続しているパソコンまたはFTPサーバーに送信済みの画像を再生対象にします。 • ［**未送信の画像**］をオン☑にすると未送信の画像を再生対象にします。 • 両方をオン☑にすると、送信指定した全ての画像が表示対象になります。

- フィルター再生時は、画像モニターの周りに白枠が表示されます。
- もう一度［**フィルター再生**］を選ぶとフィルター再生を解除します。



画像を削除する

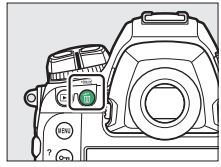
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

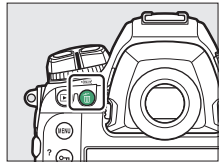
1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押す

- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



2 もう一度🗑（FORMAT）ボタンを押す

表示中の画像が削除されます。



ヒント：同時記録した画像を削除する場合

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］で［**順次記録**］以外に設定してスロット1とスロット2に同時記録した画像を選んでいる場合に🗑（Q）ボタンを押すと、削除確認画面で両方のスロットから同時に画像を削除するかどうかを選べます（🕮311）。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの［**削除**］では、複数の画像を一括して削除できます。
たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

項目		内容
▪▫▫ ▫▫▪	［**画像を選択して削除**］	選んだ画像を削除します。
🗑	［**削除候補画像を一括削除**］	レーティングで🗑（削除候補）に設定した全ての画像を削除します。
DATE	［**日付を選択して削除**］	選んだ日付に撮影した画像を一括で削除します（🕮434）。
ALL	［**全画像を削除**］	選択したメモリーカードスロットのフォルダーに記録された全ての画像を削除します。削除対象のフォルダーは、再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定します。

■■ 画像を選択して削除

1 削除する画像を選ぶ

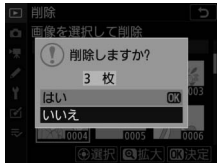
- マルチセレクターで画像を選び、中央ボタンを押すと、🗑が表示されて削除設定されます。もう一度中央ボタンを押すと解除されます。



- 削除する画像全てに設定してください。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

2 画像を削除する

- ⓚボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んでⓚボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



■■ 削除候補画像を一括削除

1 削除する画像を選ぶ

- レーティングで（削除候補）に設定した画像が一覧表示されます。マルチセレクターで画像を選び、中央ボタンを押すと、削除設定が解除されます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

2 画像を削除する

- ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んでボタンを押すと、画像が全て削除されます。

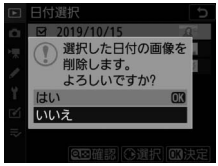
■■ 日付を選択して削除

1 日付を選ぶ



- マルチセレクターで日付を選んで⊛を押すと、日付の横にチェック☑が入ります。もう一度⊛を押すと解除されます。
- 削除する日付全てにチェックを入れてください。

2 画像を削除する

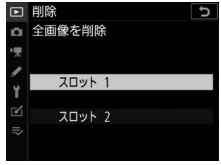


- ⊛ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- 確認画面で［**はい**］を選んで⊛ボタンを押すと、選んだ日付の画像が全て削除されます。

■ 全画像を削除

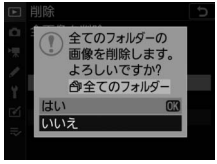
1 メモリーカードスロットを選ぶ

マルチセレクターの▲▼で、画像を削除するメモリーカードスロットを選んで⊛を押します。



2 画像を削除する

- 確認画面で［**はい**］を選んで⊛ボタンを押すと、再生メニュー［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の画像が全て削除されます。
- たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。



音声メモ

音声メモを録音する

撮影した画像に、最長で約60秒の音声メモを録音できます。

再生時に音声メモを録音する

再生画面で、選んだ画像に音声メモを録音できます。

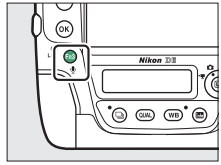
1 音声メモを録音する画像を選ぶ

画像の再生時は、すでに音声メモが録音されている画像（[♪]アイコンが表示されている画像）に対して音声メモを録音することができません。音声メモを削除してから録音してください（🕮444）。



2 Fn3（🎙）ボタンを押す

- 音声メモの録音を開始します。
- 音声メモ録音中は、画像上に🎙アイコンが表示されます。



3 Fn3（🎙）ボタンを放す

録音を終了します。

ヒント：音声メモ録音中の表示について

音声メモ録音中は、背面表示パネルで🎙アイコンが点滅し、背面表示パネルに録音可能な残り時間のカウントダウンが秒単位で表示されます。



ヒント：*i*メニューを使う

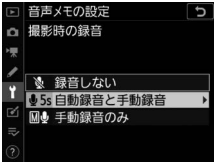
再生時の*i*メニューで［**音声メモの録音**］を選んでOKボタンを押しても録音できます。マルチセレクターの中央ボタンを押すと録音を終了します。

撮影時に音声メモを録音する

最後に撮影した画像に音声メモを録音できます。撮影時の録音には、自動録音と手動録音があります。

■■ 撮影直後に自動的に録音する

セットアップメニュー［**音声メモの設定**］の［**撮影時の録音**］で［**自動録音と手動録音**］を選ぶと、撮影の後にシャッターボタンから指を放すと（半押しを解除すると）、音声メモが自動的に録音されます。



- 音声メモを録音する時間も［**自動録音と手動録音**］で選べます。



撮影直後の画像確認についてのご注意

再生メニューの［**撮影直後の画像確認**］が［**する**］の場合は、自動録音されません。

撮影時の音声メモ録音の制限について

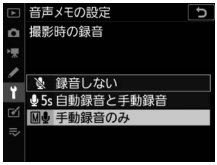
次の場合は、音声メモは録音できません。

- ライブビュー表示中
- フォーカスシフト撮影時
- タイムラプス動画撮影時

■■ 撮影後に手動で録音する

最後に撮影した画像に対して手動で音声メモを録音できます。

- セットアップメニュー［**音声メモの設定**］の［**撮影時の録音**］を［**手動録音のみ**］に設定してください。



- 画像の撮影後に**Fn3**（🎙）ボタンを押し続けると、その間音声メモが録音されます。

ヒント：撮影時の録音設定表示について

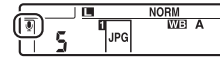
［**撮影時の録音**］が［**自動録音と手動録音**］または［**手動録音のみ**］に設定されている場合、背面表示パネルに設定が表示されます。



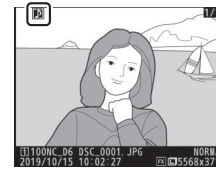
自動録音と手動録音　　手動録音のみ

ヒント：音声メモ録音後の表示について

最後に撮影された画像に、音声メモが録音されている場合は、背面表示パネルで🎙アイコンが点灯します。



音声メモが録音された画像には♫アイコンが表示されます。



ヒント：音声メモの録音終了について

音声メモの録音中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、録音が自動的に終了することがあります。また、電源をOFFにしたときや、インターバルタイマー撮影中に撮影時刻の約2秒前になったときも音声メモの録音を終了します。

ヒント：音声メモの録音先について

メモリーカードを2枚使用しており、静止画撮影メニューの［**スロット2の機能**］が［**バックアップ記録**］、［**RAW＋JPEG分割記録**］または［**JPEG+JPEG分割記録**］の場合、音声メモは両方のスロットの画像に記録されます。撮影後に手動または**i**メニューで録音する場合も、両方のスロットの画像に録音します。

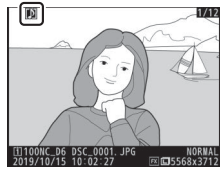
ヒント：音声メモのファイル名について

音声メモを録音すると、DSC_nnnn.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。nnnnには対応する画像ファイルの名称と同じ数字が入ります。たとえば、DSC_0002.JPGという画像ファイルに音声メモを録音した場合、DSC_0002.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。音声ファイル名はパソコンで確認することができます。

- 静止画撮影メニューの［**色空間**］で［**Adobe RGB**］に設定して撮影した画像の場合、音声ファイル名は_DSCnnnn.WAVになります。
- 静止画撮影メニューの［**ファイル名設定**］でファイル名の［**DSC**］の3文字を変更して撮影した画像の場合、音声ファイルの［**DSC**］の3文字も同様に変更されます。

音声メモを再生する

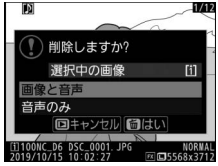
画像の再生時に♫アイコンの付いた画像を選んで**Fn3**（🎙）ボタンを押すと音声メモを再生できます。



ヒント：*i*メニューを使う
再生時の*i*メニューで［**音声メモの再生**］を選んでOKボタンを押しても再生できます。

ヒント：音声メモの再生終了について
音声メモの再生中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、再生が自動的に終了することがあります。また、電源をOFFにしたときや、他の画像を選んだときも音声メモの再生を終了します。

音声メモを削除する



音声メモを削除する場合は、再生画面で🗑（FORMAT）ボタンを押すと図のような音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。

- [**画像と音声**] を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、表示中の画像と音声メモを削除します。
- [**音声のみ**] を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。
- 削除確認画面の表示中に▶ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、再生画面に戻ります。
- 静止画撮影メニューの [**スロット2の機能**] が [**バックアップ記録**]、[**RAW＋JPEG分割記録**]、[**JPEG+JPEG分割記録**] の場合、[**選択中の画像**] または [**[1]と[2]の同一画像**] を選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと音声メモつき画像の削除画面が表示されます。[**選択中の画像**] を選んでから [**音声のみ**] を選ぶと、一方のスロットの画像から音声メモのみ削除できます。

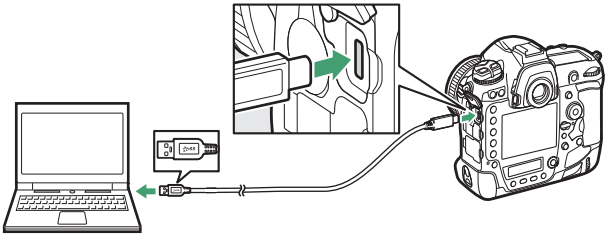
パソコンやテレビとの接続

パソコンと接続する

カメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに取り込めます。カメラとパソコンを接続するには、USBケーブルを使用する方法と無線LANで接続する方法があります。

USBケーブルで接続する

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続できます。ニコンのソフトウェアNX Studioをインストールすると、画像の転送、閲覧、および調整ができます。



■■ NX Studioをインストールする

NX Studioのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

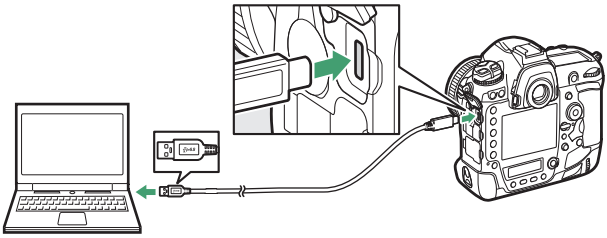
- 下記のホームページからNX Studioの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/
- 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことがあります。

■ NX Studioを使ってパソコンに画像を取り込む

NX Studioの詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

1 パソコンに接続する

メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。



ヒント：カードリーダーを使用する場合

市販のカードリーダーを使用して画像を転送することもできます。その場合、カードリーダーがお使いのメモリーカードに対応しているかご確認ください。

2 カメラの電源をONにする

- NX StudioのNikon Transfer 2が起動します。Nikon Transfer 2は、NX Studioをインストールすると一緒にインストールされる画像転送ソフトウェアです。
- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選んでください。
- 自動で起動しない場合、NX Studioを起動して「取り込む」アイコンをクリックしてください。

3 [転送開始] をクリックする

記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



4 カメラの電源をOFFにする

USBケーブルを抜いて接続を解除してください。

Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。



この場合は、表示されたダイアログをクリックしてから、［**画像ファイルを取り込む- Nikon Transfer 2**］をクリックしてNikon Transfer 2を選びます。



macOSをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、macOS付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

動画を転送する場合のご注意

このカメラで使用したメモリーカードを他機種のカメラに入れて、そのカメラから動画を転送しないでください。動画が転送されないままファイルが削除されるおそれがあります。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- カメラとパソコンを接続するときは、充分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンに接続すると、正しく動作しないことがあります。カメラはパソコンに標準装備されたUSBポートへ接続してください。

無線LAN（Wi-Fi）または有線LANで接続する

詳しい接続方法については、「内蔵の無線機能でネットワークへ接続する」（🕮457）および「有線LANまたはWT-6でネットワークに接続する」（🕮514）をご覧ください。

■■ カメラのWi-Fi通信機能を使用して接続する

セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］を使用すると、カメラとパソコンをWi-Fiで接続できます。アクセスポイントにカメラを接続してネットワーク上のパソコンに画像を送信したり、カメラとパソコンを直接Wi-Fiで接続できます。



アクセスポイントを経由したネットワーク接続



パソコンと無線接続

■■ WT-6を使用して接続する



カメラに別売のワイヤレストランスミッターWT-6を装着すると、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］でパソコンやFTPサーバーに接続できます。別売のCamera Control Pro 2でカメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存することも可能です。カメラのWi-Fi通信機能よりも安定した接続が可能です。

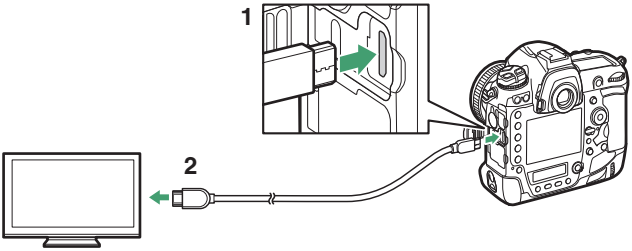
■■ 有線LANを使用して接続する



カメラに市販のイーサネットケーブルを接続すると、［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］でパソコンやFTPサーバーに接続できます。別売のCamera Control Pro 2でカメラをコントロールしたり、撮影した画像をパソコンに保存することも可能です。

HDMI対応機器と接続する

カメラをHDMI端子のあるテレビや外部レコーダーなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（🕮1060）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



1 HDMI端子（カメラ側）　**2** HDMI端子※（外部機器側）

※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

テレビと接続する

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。
- カメラとSnapBridgeアプリをインストールしたスマートフォンをペアリングしておくと、テレビの画面に表示した画像の再生操作をスマートフォンで行うことができます。詳しくは、SnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。

外部レコーダーと接続する



HDMIに対応した外部レコーダーに接続すると、直接HDMI機器で録画することもできます。セットアップメニュー［**HDMI**］で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。一部の外部レコーダーと接続した場合、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの録画の開始および終了を行うこともできます。

■■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。［**オート**］を選んだ場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。

■■ 詳細設定

HDMI対応機器接続時の詳細設定を行えます。

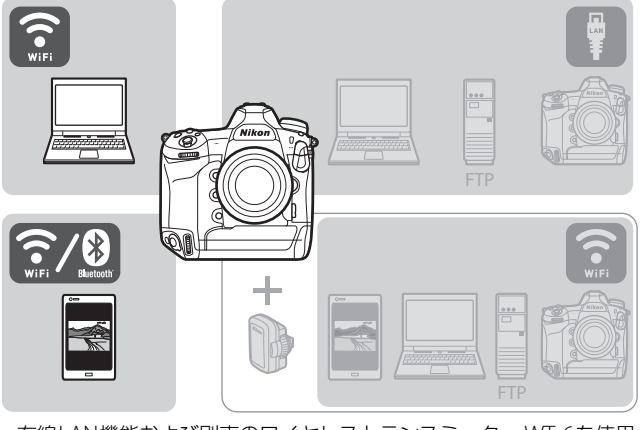
項目	内容
［**出力レンジ**］	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える［**オート**］をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 • ［**リミテッドレンジ**］：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • ［**フルレンジ**］：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
［**ライブビュー時の情報表示**］	HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。［**する**］に設定していても動画の画像サイズ（🕮294）を3840×2160に設定している場合は、撮影情報が表示されません。
［**モニターの同時表示**］	HDMI対応機器との接続時に、カメラの画像モニターを点灯させるかどうかを設定します。［**しない（HDMIのみ）**］を選ぶと、画像モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 • ［**ライブビュー時の情報表示**］が［**しない**］の場合、［**モニターの同時表示**］は［**する**］に固定されます。

項目	内容
［**外部記録制御**］	［**する**］に設定すると、Atomos Open Protocolに対応した市販の外部レコーダーとカメラをHDMIケーブルで接続したときに、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの動画記録の開始と終了を行えます。 • Atomos社製Monitor Recorder（SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ）に対応しています。機能や動作の詳細などについては、外部レコーダーの使用説明書をご覧になるか、Atomos社にお問い合わせください。 • カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］で設定した時間が経過すると、画像モニターが自動的に消灯して外部レコーダーにも映像が送られなくなります。［**半押しタイマー**］の設定は、動画を撮影する時間よりも長い時間を設定するか、［**制限なし**］にすることをおすすめします。 • ［**する**］に設定すると、カメラの画像モニターにアイコン（動画記録待機中：**⊡STBY**、動画記録中：**⊡REC**）が表示されます。動画を記録するときは、外部レコーダーの表示や、外部レコーダーで動画が記録されていることをご確認ください。 • ［**する**］に設定すると、テレビなどに外部出力している場合に画像が乱れることがあります。

内蔵の無線機能でネットワークへ接続する

カメラのネットワークシステム図

この章では、主にカメラに内蔵された無線機能（無線LANおよびBluetooth）を使用してネットワークに無線接続する方法と、ネットワークに接続後の操作方法を説明しています。



- 有線LAN機能および別売のワイヤレストランスミッター WT-6を使用したネットワーク接続の詳しい方法については、「有線LANまたはWT-6を使用してネットワークに接続する」（🕮514）をご覧ください。

スマートフォンと接続する

SnapBridgeアプリについて

SnapBridgeアプリを使用すると、カメラとスマートフォンを無線で接続できます。

- SnapBridgeアプリはApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロードできます。





- SnapBridgeアプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。

SnapBridgeアプリを使ってできること

SnapBridgeアプリを使用すると、次のようなことが行えます。詳しい使い方などは、アプリのヘルプをご覧ください。
https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html

■■ スマートフォンに画像を転送する

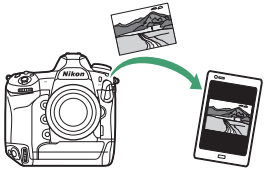
カメラで撮影した画像を、スマートフォンに転送できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

■■ スマートフォンからカメラを操作する（リモート撮影）

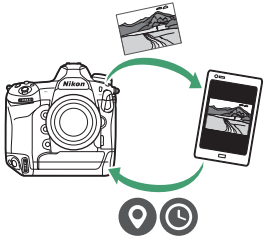
スマートフォンからカメラをリモート操作して撮影できます。

スマートフォンと無線接続するには

カメラとスマートフォンを無線接続するには、SnapBridgeアプリを使用します。接続方法には、Wi-Fiで接続する方法（🕮461）と、Bluetoothで接続する方法（🕮469）があります。SnapBridgeアプリを使用してカメラとスマートフォンを無線接続すると、スマートフォンの日時や、スマートフォンで取得した位置情報をカメラに同期できます。Bluetoothで無線接続した場合、撮影した画像を自動で転送することもできます。



Wi-Fiで接続



Bluetoothで接続

Wi-Fiモード（Wi-Fiで接続）

Wi-Fi接続する前に

- あらかじめスマートフォンのWi-Fi機能をONにしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるメモリーカードを入れてください。

1 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動する

SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は、［**Skip**］をタップしてください。すでにSnapBridgeを起動したことがある場合は、手順2に進んでください。



2 タブの ボタンをタップして［Wi-Fi mode］を選ぶ



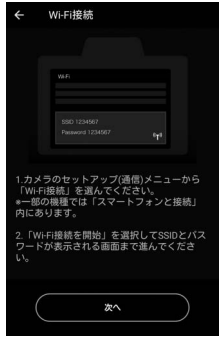


3 スマートフォン：表示されたダイアログで［Wi-Fi接続］をタップする

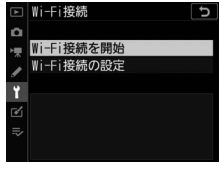


4 **カメラ/スマートフォン：スマートフォンにカメラ操作の説明画面が表示されたら、カメラの電源をONにする**

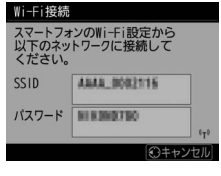
まだ［**次へ**］をタップしないでください。



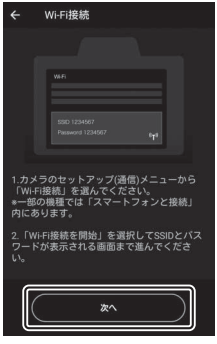
5 **カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［Wi-Fi接続］で［Wi-Fi接続を開始］を選んでⓄKボタンを押す**



SSIDとパスワードが表示されます。



6 スマートフォン：スマートフォンの操作に戻り、［次へ］をタップする



7 スマートフォン：スマートフォン操作の説明画面が表示されたら、内容をよくお読みの上、［OSの「設定」を開く］をタップする

- Androidの場合、スマートフォンのWi-Fi接続画面が表示されます。



- iOSの場合、設定アプリが表示されます。［**< 設定**］をタップして［**設定**］画面へ移動し、画面上部の［**Wi-Fi**］をタップします。



8 **スマートフォン：手順5でカメラに表示されているSSIDを選び、パスワードを入力する**

- 画面はお使いのスマートフォンの機種やOSによって異なります。

- **Androidの例：**



- **iOSの例：**



- 2回目以降の接続時は、パスワードの入力は不要です。

9 スマートフォン：手動で SnapBridgeアプリに戻る

- カメラとのWi-Fi接続が完了すると、Wi-Fiモード画面が表示されます。
- 接続後の操作方法などはSnapBridgeアプリのヘルプをご覧ください。



Wi-Fiモードの解除方法

ボタンをタップしてWi-Fi接続を解除してください。表示が に切り替わったら、 ボタンをタップして［**Wi-Fi modeの解除**］をタップします。



Bluetooth接続

カメラとスマートフォンを初めてBluetoothで接続する場合、ペアリングを行う必要があります。ペアリングの手順はAndroidとiOSで多少異なります。

ペアリングの前に

- あらかじめスマートフォンのBluetooth機能をONにしてください。詳しくはスマートフォンの使用説明書を参照してください。
- 途中で電源が切れないよう、スマートフォンとカメラのどちらも充分にバッテリー残量がある状態でご使用ください。
- カメラに残量のあるメモリーカードを入れてください。

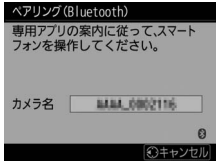
■■ Androidで初めて接続する場合（ペアリング）

iOSでの接続方法は「iOSで初めて接続する場合（ペアリング）」（🕮476）をご覧ください。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［ペアリング（Bluetooth）］で［ペアリング開始］を選んでⓄKボタンを押す



画像モニターにカメラ名が表示されます。



2 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動する

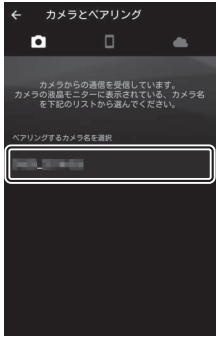
- SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は［**カメラと接続する**］をタップします。



- SnapBridgeアプリを起動したことがある場合は、タブの［**カメラと接続する**］をタップします。



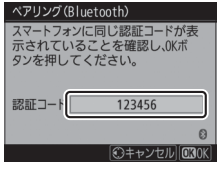
3 スマートフォン：カメラ名をタップする



4 カメラ/スマートフォン：スマートフォンとカメラに同じ番号が表示されていることを確認する

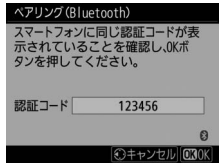
図の枠内の番号を確認してください。





5 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。



- **スマートフォン**：画面の枠内の箇所をタップしてください。スマートフォンの機種やOSのバージョンにより、［**ペア設定する**］の文言は異なる場合があります。

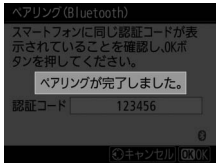


ペアリング中にエラーが表示されたときは

カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎるとペアリングできずにスマートフォンにエラーが表示されます。表示されたダイアログで［**OK**］をタップすると、手順2に戻ります。

6 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

- **カメラ**：ペアリングに成功すると、図の画面が表示されます。



- **スマートフォン**：ペアリングが完了します。［**OK**］をタップすると タブが表示されます。





SnapBridgeアプリのインストール後、初めてペアリングした場合

- ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。
- 2回目以降のペアリング時は表示されません。タブの［**自動連携**］から設定してください。

Bluetooth機能をオフにするには

カメラのセットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth通信機能**］で［**無効**］を選ぶと、Bluetooth機能をオフにできます。

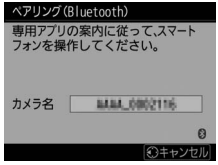
■■ iOSで初めて接続する場合（ペアリング）

Androidでの接続方法は「Androidで初めて接続する場合（ペアリング）」（🕮470）をご覧ください。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］にある［ペアリング（Bluetooth）］で［ペアリング開始］を選んでⓄKボタンを押す



画像モニターにカメラ名が表示されます。



2 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動する

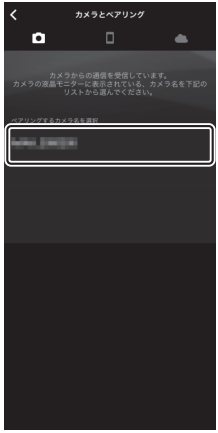
- SnapBridgeアプリをダウンロード後、初めて起動する場合は［**カメラと接続する**］をタップします。



- SnapBridgeアプリを起動したことがある場合は、タブの［**カメラと接続する**］をタップします。

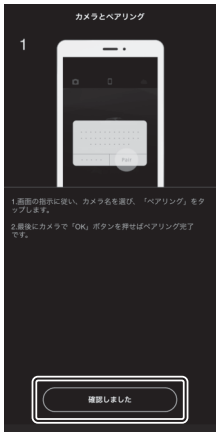


3 スマートフォン：カメラ名をタップする



4 スマートフォン：ペアリング方法を確認する

ペアリング方法の説明画面が表示されます。内容をよくお読みになり、［**確認しました**］をタップします。



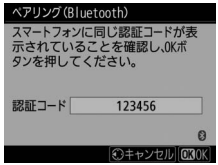
5 スマートフォン：再度カメラ名をタップする

カメラ名が表示されたダイアログが表示されます。カメラ名を再度タップしてください。



6 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンを操作してペアリングする

- **カメラ**：Ⓚボタンを押します。



- **スマートフォン**：画面の枠内の箇所をタップしてください。OSのバージョンにより、［**ペアリング**］の文言は異なる場合があります。



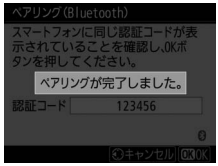
ペアリング中にエラーが表示されたときは

カメラまたはスマートフォンのボタンを押してから、もう片方のボタンを押すまでに時間が開きすぎるとペアリングできずにスマートフォンにエラーが表示されます。SnapBridgeを完全に終了（バックグラウンドからも終了）してiOS上でデバイスの登録を解除し、手順1からやり直してください。デバイスの登録解除は、iOSの設定アプリで行います。



7 カメラ/スマートフォン：画面の指示に従ってペアリングを完了する

- **カメラ**：ペアリングに成功すると、図の画面が表示されます。



- **スマートフォン**：ペアリングが完了します。［**OK**］をタップすると［●］タブが表示されます。





SnapBridgeアプリのインストール後、初めてペアリングした場合

- ペアリング完了後、自動連携機能（カメラで撮影した画像の自動転送、日時情報の同期、位置情報の同期）の設定画面が表示されます。
- 2回目以降のペアリング時は表示されません。タブの［**自動連携**］から設定してください。

Bluetooth機能をオフにするには

カメラのセットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］>［**ペアリング（Bluetooth）**］>［**Bluetooth通信機能**］で［**無効**］を選ぶと、Bluetooth機能をオフにできます。

■■ 2回目以降に接続する場合

一度カメラとスマートフォンをペアリングしておくと、次の手順で簡単にBluetooth接続ができるようになります。

1 カメラ：セットアップメニュー［スマートフォンと接続］→［ペアリング（Bluetooth）］→［Bluetooth通信機能］→［有効］を選んでⓄⓀボタンを押す



2 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動する

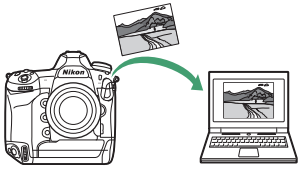
自動的にカメラとBluetoothで接続されます。



内蔵のWi-Fi機能を使用してパソコンと無線接続する

Wi-Fi接続してできること

カメラの内蔵Wi-Fi機能を使用してパソコンと無線接続すると、選んだ画像をパソコンに転送できます。



Wireless Transmitter Utilityについて

カメラとパソコンをWi-Fi接続して画像を転送するには、パソコン用のニコンソフトウェアWireless Transmitter Utility（ワイヤレストランスミッターユーティリティー）を使用してペアリングする必要があります。

- ペアリングを行うと、パソコンがカメラの接続先として設定されます。
- Wireless Transmitter Utilityはニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

カメラとパソコンの接続方法について

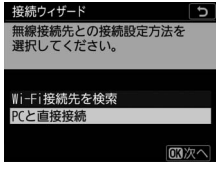
カメラとパソコンを無線接続するには、次の2通りの方法があります。

■■ パソコンと直接接続（アクセスポイントモード）



カメラとパソコンを直接無線接続します。カメラをアクセスポイントとして使用するため、野外など無線LAN環境がない場合でも無線接続ができ、複雑な設定も不要です。カメラと無線接続中は、パソコンはインターネットを使用できません。

- 接続設定を新規作成する場合に、接続ウィザードで［**PCと直接接続**］を選びます。

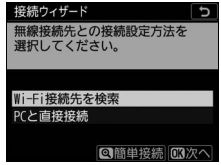


■■ 既存のネットワークに接続（インフラストラクチャーモード）



ご自宅などにすでに構築されているネットワークに、無線LANアクセスポイントを経由してパソコンと接続します。カメラと無線接続中でも、パソコンはインターネットを使用できます。

- 接続設定を新規作成する場合に、接続ウィザードで［**Wi-Fi接続先を検索**］を選びます。

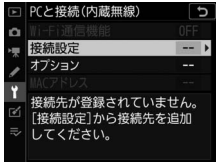


インフラストラクチャーモードで接続する場合

- 本書はすでに無線LAN環境が設定されているお客様を対象としています。
- ルーターを越えて別のネットワークに接続することはできません。同じネットワーク内のパソコンとのみ接続できます。

アクセスポイントモードの接続設定

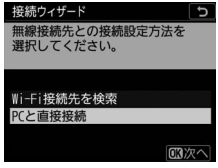
1 カメラのセットアップメニュー［PCと接続（内蔵無線）］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



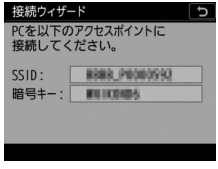
2 ［新規追加］を選び、Ⓚボタンを押す



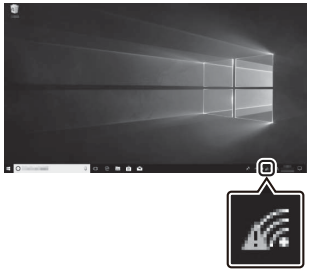
3 ［PCと直接接続］を選び、Ⓚボタンを押す



カメラのSSIDと暗号キーが表示されます。

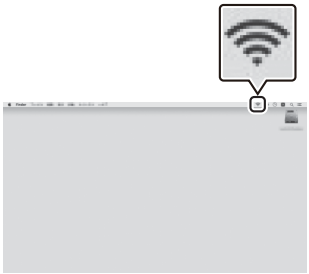


4 パソコンをカメラに接続する



Windowsの場合：

- 画面の右下にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- 手順3でカメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順3で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。

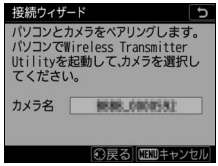


macOSの場合：

- 画面の右上にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- 手順3でカメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、手順3で表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。

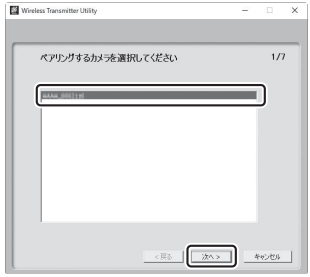
5 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。

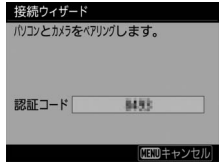


6 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

手順5でカメラに表示されているカメラ名を選択し、[**次へ**]をクリックします。

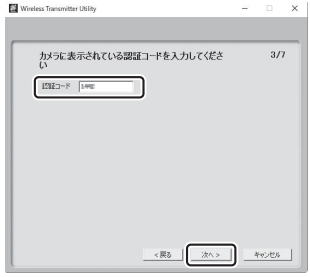


7 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utilityに入力する



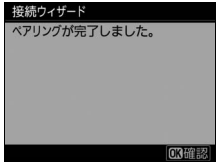
- カメラに認証コードが表示されます。

- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、[**次へ**] をクリックします。

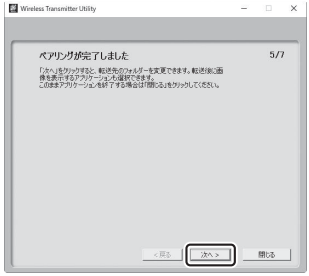


8 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらⓄⓀボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

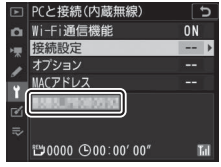


- ペアリング完了後、カメラとパソコンの接続が開始されます。

9 カメラとパソコンの接続を確認する

カメラとパソコンが接続されると、［**PCと接続（内蔵無線）**］画面に接続中のSSIDが緑色で点灯します。

- カメラのSSIDが緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

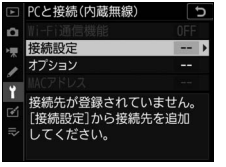


カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンに画像を送信する」（🕮503）をご覧ください。

インフラストラクチャーモードの接続設定

1 **カメラのセットアップメニュー［PCと接続（内蔵無線）］で［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す**

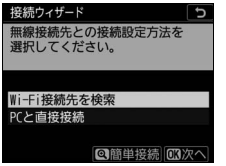


2 **［新規追加］を選び、Ⓚボタンを押す**



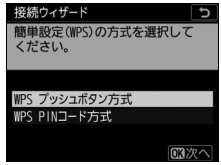
3 **［Wi-Fi接続先を検索］を選び、Ⓚボタンを押す**

カメラの周辺にある無線LANアクセスポイントを検索して、検出した接続先のSSIDを表示します。



［簡単接続］で接続する

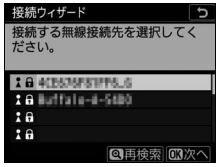
- 手順3で🔍ボタンを押すと、SSIDや暗号キーを入力せずに無線LANアクセスポイントに接続できます。OKボタンを押して接続方法を選んでください。



接続方法	内容
［**WPSプッシュボタン方式**］	無線LANアクセスポイントにWPSプッシュボタンがある場合に使用できます。WPSプッシュボタンを押した後にカメラのOKボタンを押すと、無線LANアクセスポイントに接続できます。
［**WPS PINコード方式**］	カメラにPINコードが表示されます。パソコンを使用して無線LANアクセスポイントにPINコードを入力します。無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する方法については、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

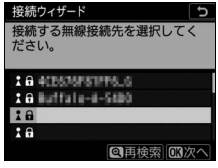
- 接続が完了したら、手順6に進んでください。

4 接続先のSSIDを選ぶ



- 接続先のSSIDを選んでⓄKボタンを押します。
- 暗号ありのSSIDには🔒が表示されます。暗号あり🔒のSSIDを選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順6へお進みください。
- 🔍ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

☑ SSIDが非公開に設定されている場合

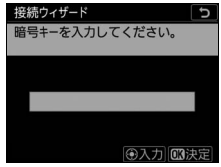


無線LANアクセスポイントがSSIDを非公開に設定している場合、検出されたSSID一覧にSSID名が表示されません。

- 非公開のSSIDに接続したい場合、空欄になっている項目を選択してⓄKボタンを押してください。続いてマルチセレクターの中央ボタンを押すと、SSID入力画面になります。
- 接続したいSSID名を入力し、ⓄKボタンを押してください。もう一度ⓄKボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

5 暗号キーを入力する

- マルチセレクターの中央ボタンを押して、無線LANアクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



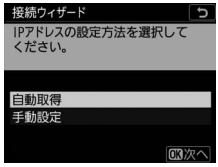
- 無線LANアクセスポイントの暗号キーについては、無線LANアクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- Ⓚボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



- もう一度Ⓚボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。



6 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



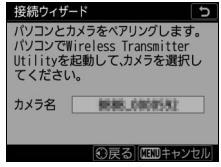
- IPアドレスの設定方法を選んでOKボタンを押します。

設定方法	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押します。 • OKボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度OKボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、OKボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

- IPアドレス設定完了画面が表示されたらOKボタンを押します。

7 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。

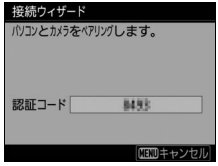


8 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

手順7でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

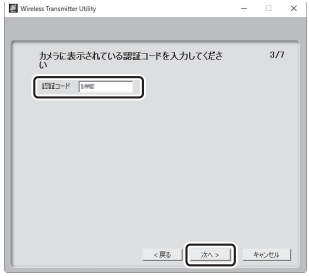


9 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utilityに入力する



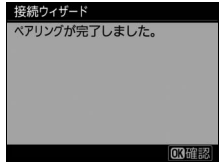
- カメラに認証コードが表示されます。

- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、[**次へ**] をクリックします。



10 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらOKボタンを押してください。



- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

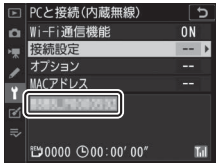


- ペアリング完了後、カメラとパソコンの接続が開始されます。

11 カメラとパソコンの接続を確認する

カメラとパソコンが接続されると、［**PCと接続（内蔵無線）**］画面に接続中のSSIDが緑色で点灯します。

- カメラのSSIDが緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。



カメラとパソコンの無線接続が完了しました。

カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコンに画像を送信する」（🕮503）をご覧ください。

パソコンに画像を送信する

再生画面で選んだ画像をパソコンに送信できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

保存先のフォルダーについて

送信された画像は、次のフォルダーに転送されます。

- Windows：\Users\"ユーザー名"\Pictures\Wireless Transmitter Utility
- macOS：/Users/"ユーザー名"/Pictures/Wireless Transmitter Utility

Wireless Transmitter Utilityを使うと、転送先のフォルダーを変更できます。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

アクセスポイントモードで接続時のご注意

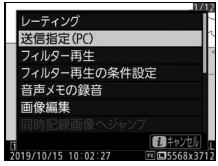
アクセスポイントモードでカメラとパソコンを接続している場合、パソコンはインターネットを使用できません。パソコンでインターネットを使用する場合は、カメラとの接続を解除し、インターネットに接続し直してください。

■■ 画像を選んで送信する

1 カメラの▶ボタンを押して1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードにする

2 送信したい画像を選んで*i*ボタンを押す

3 [送信指定（PC）]を選び、Ⓚボタンを押す



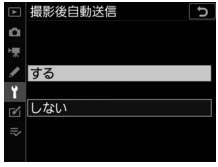


- 優先送信マーク（白色）が付加されます。ネットワークに接続済みの場合、すぐに送信が始まります。
- 送信指定した画像がある状態でネットワークに接続すると、自動的に送信が開始されます。
- 複数の画像を送信する場合は、手順2～3を繰り返してください。

送信指定を解除するには

- 解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。
- セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］にある［**オプション**］の［**全送信マーク解除**］で一括削除できます。

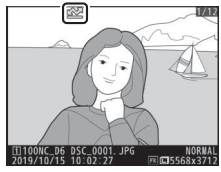
■■ 撮影した画像を自動で送信する



セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］にある［**オプション**］の［**撮影後自動送信**］を［**する**］に設定すると、静止画を撮影するたびにパソコンに転送します。

- 画像はメモリーカードに記録されてから自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画撮影時に撮影した静止画、および動画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

■ マーク表示について



送信する画像には次のようなマークが表示されます。

（白）：送信予定の画像（優先送信マーク）

手動で送信設定した画像に表示されます。の画像がある場合でも、優先して画像が送信されます。

（白）：送信予定の画像（送信設定マーク）

自動送信で送信設定され、これから送信される画像の送信設定マークは白色で表示されます。

（緑）：送信中の画像（送信中マーク）

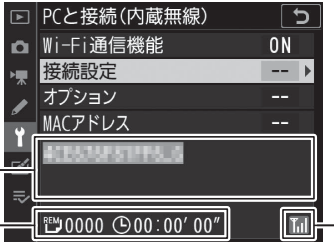
画像の送信中は送信設定マークが緑色で表示されます。

（青）：送信済みの画像（送信済みマーク）

画像が正常に送信された場合に表示されます。

■■ 画像送信時の［PCと接続（内蔵無線）］画面

［**PCと接続（内蔵無線）**］画面では、次の状態が確認できます。



1 **接続状態**：接続状態を表します。接続されたときはSSIDが緑色で表示されます。
データを送信中の場合、接続先名の下に「(送信中のファイル名)」＋「送信中」と表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容が表示されます。

2 **残り**：送信予定のコマ数と、残りの送信予定時間を表示します。表示される時間は目安です。

3 **電波状態**：電波の状態がアイコンで表示されます。

電波状態による送信の中断について

無線LAN接続時、電波状態によっては送信が一時中断されることがあります。この場合、電波状態が回復した後、カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると、送信設定マークが表示された画像の送信を再開します。

ネットワーク接続を解除/再接続する

■■ ネットワーク接続を解除する

パソコンとのネットワーク接続を解除するには、次の方法があります。

- カメラの電源をOFFにする
- セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］の［**Wi-Fi通信機能**］で［**無効**］を選ぶ
- スマートフォンとWi-Fi接続またはBluetooth接続を開始する

☑ アクセスポイントモードで接続している場合

パソコンの無線接続を先に解除すると通信エラーになります。カメラのWi-Fi通信機能を先にオフにしてください。

■ ネットワークに再度接続する

接続設定を行ったカメラをネットワークに再度接続するには、次の方法があります。

- セットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］の［**Wi-Fi通信機能**］で［**有効**］を選ぶ

☑ アクセスポイントモードで接続する場合

カメラのWi-Fi通信機能をオンにした後に、パソコンを無線接続してください。

☑ 複数の接続設定がある場合

カメラのWi-Fi通信機能をオンにすると、最後に接続していたネットワークに接続されます。接続設定を切り換えたい場合はセットアップメニュー［**PCと接続（内蔵無線）**］の［**接続設定**］で接続設定を選んでください。

内蔵無線機能使用時のトラブルシューティング

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

- SnapBridgeアプリの動作や症状などについてはSnapBridgeアプリのオンラインヘルプをご覧ください。
  https://nikonimglib.com/snbr/onlinehelp/ja/index.html
- Wireless Transmitter UtilityについてはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

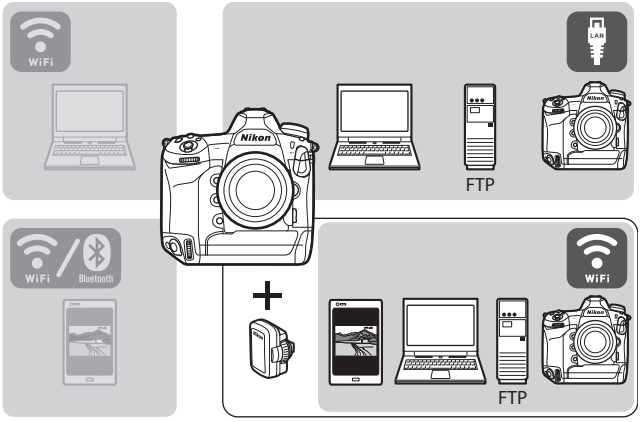
こんなときは	対処方法
「TCP/IPエラーが発生しました」と表示される。	接続設定が正しくありません。無線LANアクセスポイントやパソコンの設定を確認し、カメラの設定をやり直してください（🕮933）。
「メモリーカードが入っていません」と表示される。	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。メモリーカードを正しくセットしてください（🕮38）。
途中で送信が中断して画像を送信できなかった。	カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると送信設定マークが表示された画像の送信を再開します（🕮503）。

こんなときは	対処方法
通信が不安定になる。	スマートフォンとの接続時に［**チャンネル**］の設定が［**オート**］になっている場合、［**マニュアル**］でチャンネルを設定してください（🕮931）。
	パソコンとの接続時にインフラストラクチャーモードで接続している場合、アクセスポイントのチャンネルの設定を、1～8chの間で設定してください（🕮933）。
［**スマートフォンと接続**］および［**PCと接続（内蔵無線）**］がグレーで表示されて選べない。	有線LANおよびワイヤレストランスミッター WT-6を使用している間は無効になります。セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］を［**無効**］に設定してください（🕮937）。

有線LANまたはWT-6でネットワークに接続する

有線LANおよびWT-6について

有線LAN接続端子に市販のイーサネットケーブルを接続するか、拡張端子に別売のワイヤレストランスミッター WT-6を装着すると、既存のネットワークに接続できます。カメラのWi-Fi通信機能よりも安定した接続が可能です。



Wireless Transmitter Utilityについて

カメラとパソコンをWi-Fi接続して画像を転送するには、パソコン用のニコンソフトウェアWireless Transmitter Utility（ワイヤレストランスミッターユーティリティー）を使用してペアリングする必要があります。

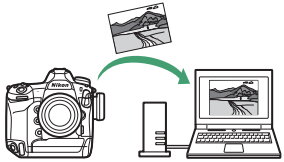
- ペアリングを行うと、パソコンがカメラの接続先として設定されます。
- Wireless Transmitter Utility はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。
  https://downloadcenter.nikonimglib.com/

有線LANまたはWT-6を使ってできること

有線LANまたはWT-6を使用すると、次のようなことが行えます。

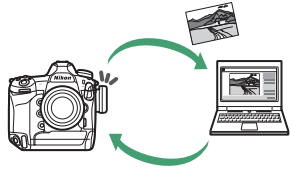
パソコンやFTPサーバーに画像を送信する（PC画像送信モード/FTP画像送信モード）

画像をパソコンだけでなく、FTPサーバーにも送信できます（🕮585）。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。



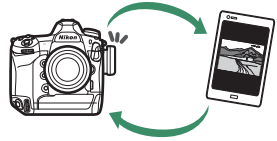
パソコンからカメラを操作する（カメラコントロールモード）

ネットワーク接続しているパソコンに、別売ソフトウェアのCamera Control Pro 2をインストールしていると、露出などの細かい設定をしながらカメラのリモート操作ができます（🕮595）。



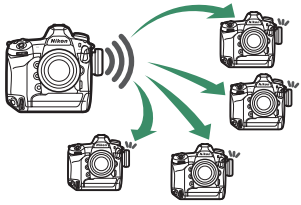
Webブラウザーでカメラを操作する（HTTPサーバーモード）

ネットワーク接続しているスマートフォンやパソコンにインストールされているWebブラウザーを使用して、カメラをリモート操作できます（🕮601）。専用のアプリなどを使用せず、手軽にリモート操作を行えます。



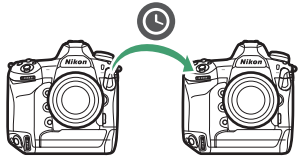
他のカメラと連動してレリーズする（連動レリーズ）

マスターカメラのレリーズに連動して、複数のリモートカメラをレリーズさせて撮影できます（🕮628）。WT-6装着時のみ使用できます。



カメラの時計を同期する（日時を同期）

2台のカメラの日時を、ネットワークを使用して同期できます（🕮633）。



ヒント：有線LAN接続について
イーサネットケーブルを接続して使用する場合は、無線LANの設定は不要です。

ヒント：FTPサーバーについて
- Windows 10 Enterprise/Windows 10 Pro/Windows 10 Home、Windows 8.1 Enterprise/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1の場合は、OSに標準装備されているFTPサーバー機能（IIS（Internet Information Services）やFTPサービスなど）を利用してFTPサーバーを構築できます。
- インターネットを経由したFTPサーバーへの通信、およびサードパーティー製FTPソフトによって構築したFTPサーバーでの動作はサポートしておりません。

ヒント：HTTPサーバーモードについて
インターネットを経由したHTTPサーバーモードの動作はサポートしておりません。

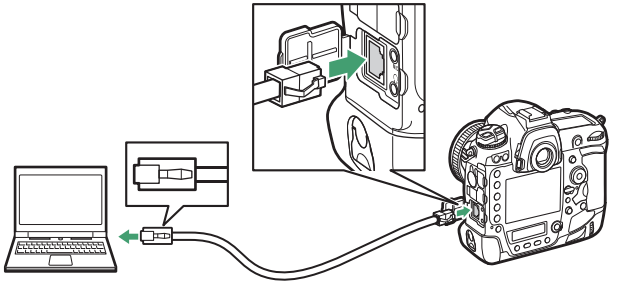
ヒント：ルーターを経由した接続について
- 接続先がパソコンの場合、ルーターを越えて別のネットワークに接続することはできません。同じネットワーク内のパソコンとのみ接続できます。
- 接続先がFTPサーバーの場合は、ルーターを経由して接続することができます。

ヒント：ポート番号について
FTPサーバーに接続する場合、FTPサーバーの種類が［**FTP**］のときはTCPポート21、32768～61000、［**SFTP**］のときはTCPポート22、32768～61000を使用します。パソコンに接続する場合のポートは、TCPポート15740、UDPポート5353を使用します。ファイアーウォールを設定しているパソコンでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとパソコン間で転送ができない場合があります。

イーサネットケーブルまたはWT-6を取り付ける

イーサネットケーブルを接続する（有線LANで接続する場合）

カメラの有線LAN接続端子にイーサネットケーブルを差し込んでください。ケーブルは無理な力を加えず、端子に真っ直ぐに差し込んでください。イーサネットケーブルの反対側の端子は、パソコンまたはルーターに接続してください。

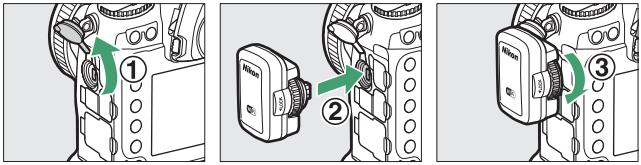


- セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**ハードウェアの選択**］で、［**有線LAN**］を選んでください。



WT-6を装着する（無線LANで接続する場合）

カメラの拡張端子カバーを外して真上まで回し（①）、WT-6のコネクターをカメラの拡張端子に奥まで差し込みます（②）。取り付けダイヤルを回して、しっかりと固定してください（③）。



- セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**ハードウェアの選択**］で、［**無線LAN**］を選んでください。



カメラに使用する電源について

接続設定中や画像送信時に電源がきれないように、残量が充分にあるバッテリーを使用するか、カメラに対応した別売のACアダプターをお使いください。

有線LANで接続する場合の接続設定を作成する

［**PC画像送信モード**］、［**FTP画像送信モード**］、［**カメラコントロールモード**］、［**HTTPサーバーモード**］でカメラとパソコン、またはカメラとFTPサーバーを接続するためには接続設定を作成する必要があります。

- 接続設定を作成する前に、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］を［**有効**］に設定してください。



- セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**ハードウェアの選択**］で［**有線LAN**］を選んでください。

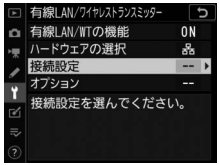


- WT-6を使用した無線LANで接続する場合は「WT-6で接続する場合の接続設定を作成する」（🕮544）をご覧ください。

PC画像送信モード、カメラコントロールモードの接続設定

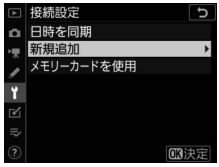
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（FORMAT）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んで▶を押す

接続ウィザード画面が表示されます。

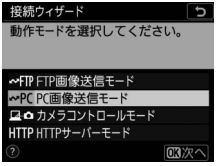


手動設定について

[**手動設定**] は [**FTP画像送信モード**] および [**HTTPサーバーモード**] の設定を手動で設定できます。[**PC画像送信モード**] および [**カメラコントロールモード**] では [**接続ウィザード**] を選んでください。

4 動作モードを選ぶ

[**PC画像送信モード**] または [**カメラコントロールモード**] を選んでⓀボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

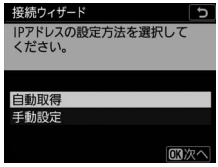


5 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのまま㊀ボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



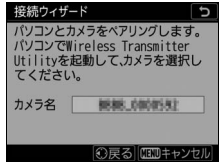
• IPアドレスの設定方法を選んでⓀボタンを押します。

項目	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • Ⓚボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度Ⓚボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、Ⓚボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

• IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓀボタンを押します。

7 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。

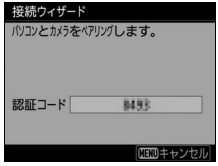


8 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

手順7でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

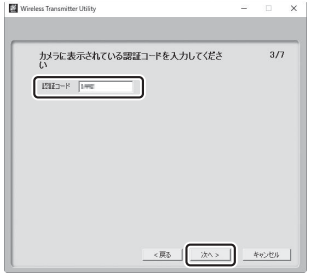


9 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utilityに入力する



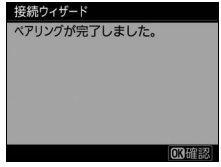
- カメラに認証コードが表示されます。

- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、[**次へ**] をクリックします。



10 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらⓄⓀボタンを押してください。

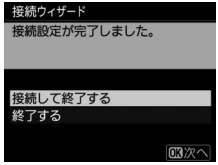


- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。



11 接続設定を完了する

終了の方法を選んでOKボタンを押します。



項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

カメラとパソコンの接続設定が完了しました。

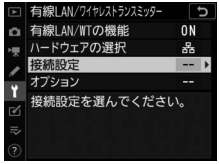
カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコン/FTPサーバーに画像を送信する」（🕮585）をご覧ください。

パソコンにインストールしたCamera Control Pro 2でカメラを操作するには、「カメラコントロールモードを使用する」（🕮595）をご覧ください。

HTTPサーバーモードの接続設定

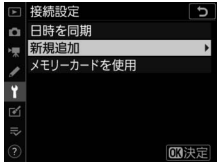
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

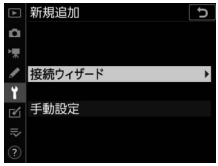
2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（FORMAT）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んで⊛を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



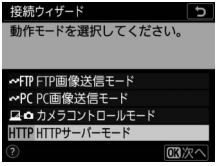
☑ 手動設定を行う

[**手動設定**] を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。



4 動作モードを選ぶ

［**HTTPサーバーモード**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

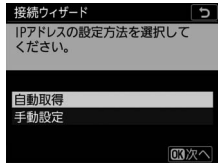


5 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのままⓄⓀボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



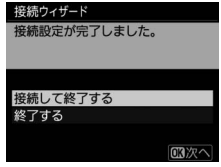
• IPアドレスの設定方法を選んでⓀボタンを押します。

項目	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • Ⓚボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度Ⓚボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、Ⓚボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

• IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓀボタンを押します。

7 接続設定を完了する

終了の方法を選んで㊗ボタンを押します。



項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

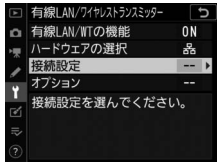
カメラとパソコンの接続設定が完了しました。

パソコンやスマートフォンのWebブラウザーからカメラにアクセスして操作するには、「HTTPサーバーモードを使用する」（🕮601）をご覧ください。

FTP画像送信モードの接続設定

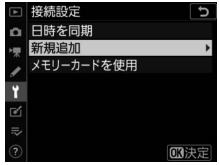
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（RESET）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んで⊛を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



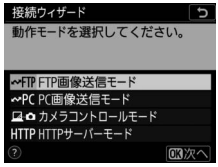
☑ 手動設定を行う

［**手動設定**］を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。



4 [FTP画像送信モード] を選ぶ

Ⓚボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

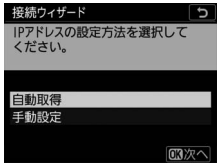


5 接続設定名を入力する



- 変更しない場合は、そのままⓀボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



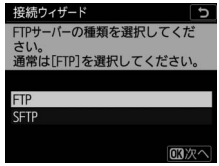
- IPアドレスの設定方法を選んでⓄⓀボタンを押します。

項目	内容
［**自動取得**］	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
［**手動設定**］	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • ⓄⓀボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度ⓄⓀボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、ⓄⓀボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

- IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓄⓀボタンを押します。

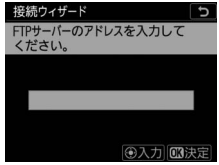
7 FTPサーバーの種類を選ぶ

［**FTP**］または［**SFTP**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、アドレス入力画面が表示されます。



8 FTPサーバーのアドレスを入力する

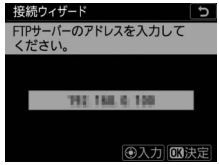
- マルチセレクターの中央ボタンを押して、FTPサーバーのIPアドレスまたはURLを入力します。



- ⓄⓀボタンを押して、入力を完了します。

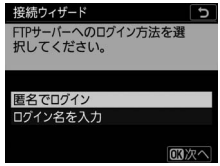


- もう一度ⓄⓀボタンを押すと、カメラがFTPサーバーに接続します。接続に成功した場合は、ログイン方法の選択画面が表示されます。



9 ログイン方法を選ぶ

FTPサーバーへのログイン方法を選んで㊎ボタンを押します。



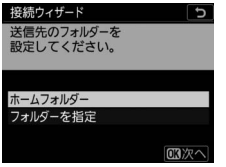
項目	内容
［**匿名でログイン**］	匿名でFTPサーバーにログインします。FTPサーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。
［**ログイン名を入力**］	ログイン名とパスワードを手動で入力します。入力を完了して㊎ボタンを押すと、FTPサーバーにログインします。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。

ヒント：ポート番号について

FTPサーバーに接続する場合、FTPサーバーの種類が［**FTP**］のときはTCPポート21、32768～61000、［**SFTP**］のときはTCPポート22、32768～61000を使用します。ファイアーウォールを設定しているFTPサーバーでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとFTPサーバー間で転送ができない場合があります。

10 送信先フォルダーを設定する

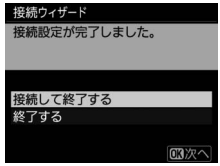
送信先のフォルダーを選んで㊗ボタンを押します。



項目	内容
［**ホームフォルダー**］	送信先をFTPサーバーのホームフォルダーに設定します。設定に成功した場合は、接続設定完了画面が表示されます。
［**フォルダーを指定**］	送信先のフォルダー名を手動で入力します。送信先のフォルダーは、あらかじめFTPサーバー側で作成しておく必要があります。入力を完了して㊗ボタンを押すと、送信先のフォルダーを設定して接続設定完了画面が表示されます。

11 接続設定を完了する

終了の方法を選んで㊗ボタンを押します。



項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

カメラとFTPサーバーの接続設定が完了しました。

カメラで撮影した画像をFTPサーバーに転送するには、「パソコン/FTPサーバーに画像を送信する」（🕮585）**をご覧ください。**

WT-6で接続する場合の接続設定を作成する

［**PC画像送信モード**］、［**FTP画像送信モード**］、［**カメラコントロールモード**］、［**HTTPサーバーモード**］でカメラとパソコン、またはカメラとFTPサーバーを接続するためには接続設定を作成する必要があります。

- 接続設定を作成する前に、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］を［**有効**］に設定してください。



- セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**ハードウェアの選択**］で［**無線LAN**］を選んでください。



- 有線LANを使用して接続する場合は「有線LANで接続する場合の接続設定を作成する」（凸522）をご覧ください。

WT-6を使用した場合の無線LAN接続設定方法について

WT-6を装着したカメラと、パソコンおよびFTPサーバーを無線接続するには、次の4通りの方法があります。

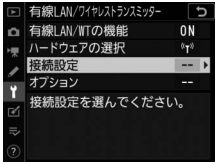
項目	内容
［**無線接続先を検索**］	ご自宅などにすでに構築されているネットワークに、無線LANアクセスポイントを経由してパソコンと接続します。カメラと無線接続中でも、パソコンはインターネットを使用できます。
［**WPSプッシュボタン方式**］	無線LANアクセスポイントにWPSプッシュボタンがある場合に、ボタンを押すだけでカメラが無線LANアクセスポイントに接続できます。
［**WPS PINコード方式**］	カメラに表示されたPINコードを、パソコンで無線LANアクセスポイントに入力してカメラを接続します。
［**直接接続（アクセスポイント）**］	カメラとパソコンまたはFTPサーバーを直接無線接続します。カメラをアクセスポイントとして使用するため、野外など無線LAN環境がない場合でも無線接続ができ、複雑な設定も不要です。カメラと無線接続中は、パソコンはインターネットを使用できません。

- 無線接続の方法は、接続設定を新規作成する場合に接続ウィザードでそれぞれの項目を選びます。

PC画像送信モード、カメラコントロールモードの接続設定

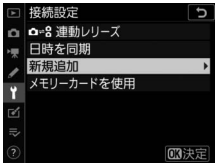
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

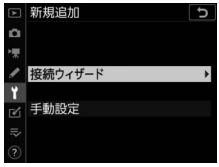
2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（FORMAT）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んでを押す

接続ウィザード画面が表示されます。

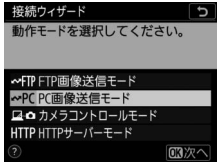


手動設定について

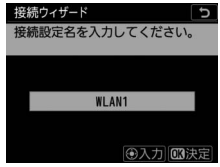
［**手動設定**］は［**FTP画像送信モード**］および［**HTTPサーバーモード**］の設定を手動で設定できます。［**PC画像送信モード**］および［**カメラコントロールモード**］では［**接続ウィザード**］を選んでください。

4 動作モードを選ぶ

［**PC画像送信モード**］または［**カメラコントロールモード**］を選んでボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

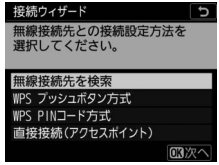


5 接続設定名を入力する



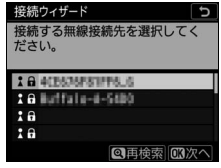
- 変更しない場合は、そのまま⊛ボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 無線LANの接続設定方法を選ぶ



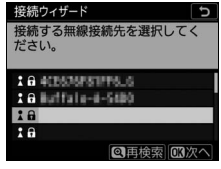
- 無線LANの接続設定方法を選んで⊛を押すと、設定画面が表示されます。
- ［**無線接続先を検索**］を選んだ場合は手順7にお進みください。
- ［**WPSプッシュボタン方式**］を選んだ場合は手順9にお進みください。
- ［**WPS PINコード方式**］を選んだ場合は手順10にお進みください。
- ［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は手順11にお進みください。

7 接続先のSSIDを選ぶ



- [**無線接続先を検索**] を選んだ場合、カメラの周辺にある無線LANアクセスポイントを検索して、検出した接続先のSSIDが表示されます。
- 接続先のSSIDを選んでⓄボタンを押します。暗号ありのSSIDには🔒が表示されます。暗号あり🔒のSSIDを選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順12へお進みください。
- 🔍ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

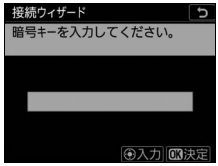
☑ SSIDが非表示に設定されている場合



無線LANアクセスポイントがSSIDを非公開に設定している場合、検出されたSSID一覧にSSID名が表示されません。

- 非公開のSSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択してⓄボタンを押してください。続いてマルチセレクターの中央ボタンを押すと、SSID入力画面になります。
- 接続したいSSID名を入力し、Ⓞボタンを押してください。もう一度Ⓞボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

8 暗号キーを入力する



- マルチセレクターの中央ボタンを押して、無線LANアクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



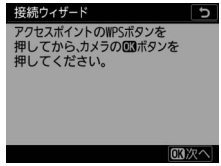
- 無線LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線LANアクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⓚボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



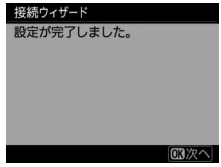
- もう一度ⓚボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

- 接続が完了するとIPアドレス設定画面が表示されます。手順12にお進みください。

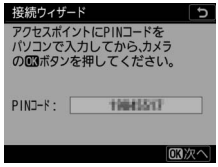
9 無線LANアクセスポイントのWPSボタンを押す



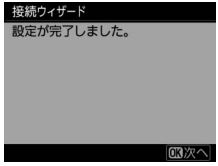
- [**WPSプッシュボタン方式**] を選んだ場合は、WPS設定の待機画面が表示されます。
- WPSプッシュボタンを押した後にカメラのⓀボタンを押すと、無線LANアクセスポイントに接続できます。
- WPSボタンについては、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。
- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。Ⓚボタンを押して手順12にお進みください。



10 無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する



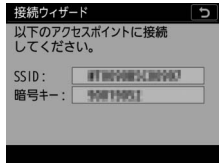
- [**WPS PINコード方式**] を選んだ場合は、WPS接続に必要なPINコードが表示されます。
- パソコンを使用して無線LANアクセスポイントにPINコードを入力します。無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する方法については、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。



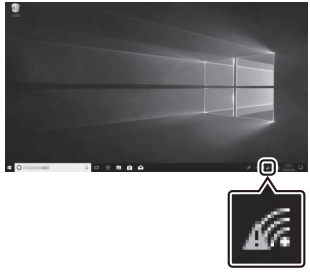
- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。Ⓚボタンを押して手順12にお進みください。

11 パソコンをカメラに接続する

［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は、カメラのSSID と暗号キーが表示されます。

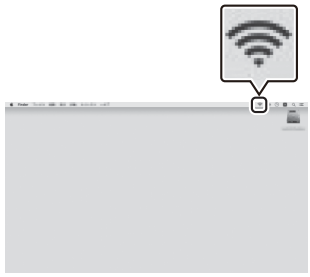


Windowsの場合：



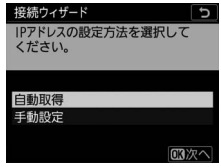
- 画面の右下にある無線LAN のアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、ペアリング画面が表示されます。手順13にお進みください。

macOSの場合：



- 画面の右上にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、ペアリング画面が表示されます。手順13にお進みください。

12 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



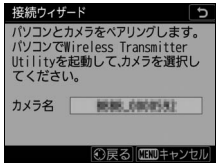
- IPアドレスの設定方法を選んでOKボタンを押します。

項目	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • OKボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度OKボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、OKボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

- IPアドレス設定完了画面が表示されたらOKボタンを押します。

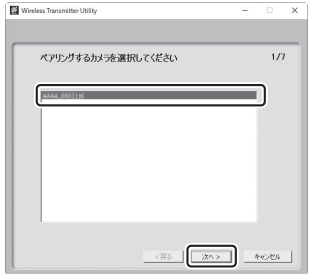
13 パソコンとのペアリングを開始する

カメラに図のような画面が表示されたら、パソコンでWireless Transmitter Utilityを起動してください。

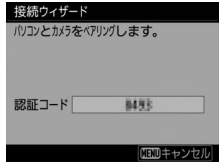


14 Wireless Transmitter Utilityでカメラ名を選ぶ

手順13でカメラに表示されているカメラ名を選択し、［**次へ**］をクリックします。

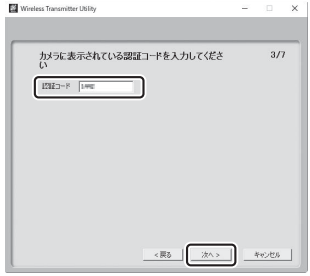


15 カメラに表示される認証コードを Wireless Transmitter Utilityに入力する



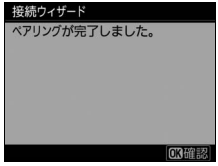
- カメラに認証コードが表示されます。

- Wireless Transmitter Utility に認証コードを入力し、[**次へ**] をクリックします。

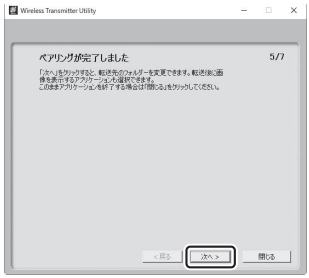


16 ペアリングを完了する

- カメラに図のような画面が表示されたらⓄⓀボタンを押してください。

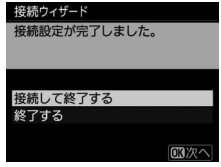


- Wireless Transmitter Utilityは［**次へ**］をクリックすると画像を転送するフォルダーを設定する画面になります。詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。



17 接続設定を完了する

終了の方法を選んで㊗ボタンを押します。



項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

カメラとパソコンの無線接続設定が完了しました。

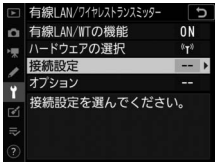
カメラで撮影した画像をパソコンに転送するには、「パソコン/FTPサーバーに画像を送信する」（🕮585）**をご覧ください。**

パソコンにインストールしたCamera Control Pro 2でカメラを操作するには、「カメラコントロールモードを使用する」（🕮595）**をご覧ください。**

HTTPサーバーモードの接続設定

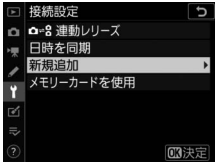
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

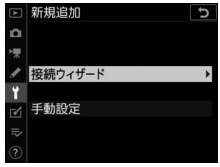
2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（QUAL）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んで▶を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



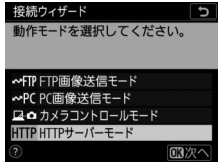
☑ 手動設定を行う

[**手動設定**] を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。



4 動作モードを選ぶ

[**HTTPサーバーモード**] を選んでⓄⓀボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

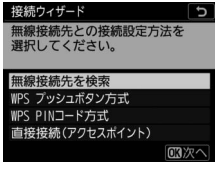


5 接続設定名を入力する



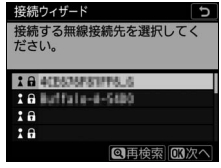
- 変更しない場合は、そのまま⊛ボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 無線LANの接続設定方法を選ぶ



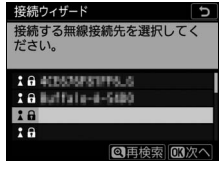
- 無線LANの接続設定方法を選んで⊛を押すと、設定画面が表示されます。
- ［**無線接続先を検索**］を選んだ場合は手順7にお進みください。
- ［**WPSプッシュボタン方式**］を選んだ場合は手順9にお進みください。
- ［**WPS PINコード方式**］を選んだ場合は手順10にお進みください。
- ［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は手順11にお進みください。

7 接続先のSSIDを選ぶ



- [**無線接続先を検索**] を選んだ場合、カメラの周辺にある無線LANアクセスポイントを検索して、検出した接続先のSSIDが表示されます。
- 接続先のSSIDを選んでⓄボタンを押します。暗号ありのSSIDには🔒が表示されます。暗号あり🔒のSSIDを選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順12へお進みください。
- 🔍ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

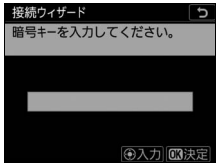
☑ SSIDが非表示に設定されている場合



無線LANアクセスポイントがSSIDを非公開に設定している場合、検出されたSSID一覧にSSID名が表示されません。

- 非公開のSSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択してⓄボタンを押してください。続いてマルチセレクターの中央ボタンを押すと、SSID入力画面になります。
- 接続したいSSID名を入力し、Ⓞボタンを押してください。もう一度Ⓞボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

8 暗号キーを入力する



- マルチセレクターの中央ボタンを押して、無線LANアクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



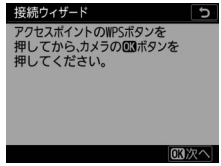
- 無線LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線LANアクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⓚボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



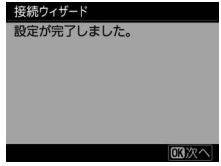
- もう一度ⓚボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

- 接続が完了するとIPアドレス設定画面が表示されます。手順12にお進みください。

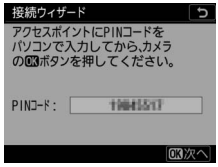
9 無線LANアクセスポイントのWPSボタンを押す



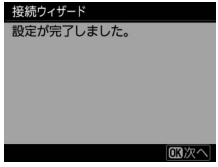
- [**WPSプッシュボタン方式**] を選んだ場合は、WPS設定の待機画面が表示されます。
- WPSプッシュボタンを押した後にカメラのⓀボタンを押すと、無線LANアクセスポイントに接続できます。
- WPSボタンについては、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。
- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。Ⓚボタンを押して手順12にお進みください。



10 無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する



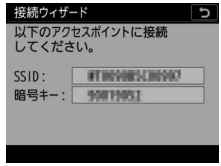
- [**WPS PINコード方式**] を選んだ場合は、WPS接続に必要なPINコードが表示されます。
- パソコンを使用して無線LANアクセスポイントにPINコードを入力します。無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する方法については、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。



- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。Ⓚボタンを押して手順12にお進みください。

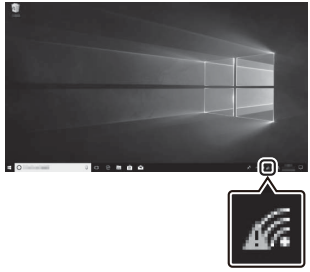
11 パソコンをカメラに接続する

［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は、カメラのSSID と暗号キーが表示されます。

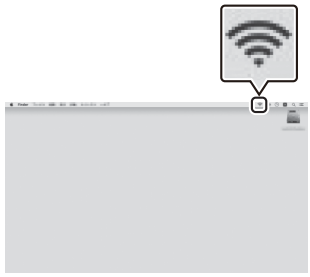


Windowsの場合：

- 画面の右下にある無線LAN のアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、接続設定完了画面が表示されます。手順13にお進みください。

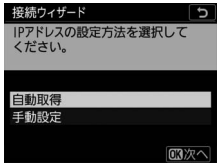


macOSの場合：



- 画面の右上にある無線LANのアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、接続設定完了画面が表示されます。手順13にお進みください。

12 IPアドレスの設定方法を選んで設定する



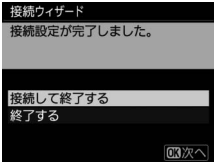
• IPアドレスの設定方法を選んでⓄⓀボタンを押します。

項目	内容
［**自動取得**］	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
［**手動設定**］	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • ⓄⓀボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度ⓄⓀボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、ⓄⓀボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

• IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓄⓀボタンを押します。

13 接続設定を完了する

終了の方法を選んでⓄKボタンを押します。



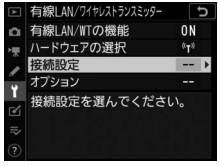
項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

カメラとパソコンの無線接続設定が完了しました。
パソコンやスマートフォンのWebブラウザーからカメラにアクセスして操作するには、「HTTPサーバーモードを使用する」（🕮601）をご覧ください。

FTP画像送信モードの接続設定

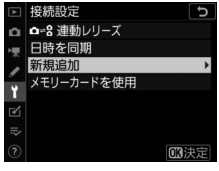
カメラの接続ウィザードに従って、接続設定を登録します。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［接続設定］を選び、マルチセレクターの▶を押す



カメラに登録されている接続設定の一覧が表示されます。

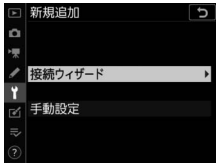
2 ［新規追加］を選び、▶を押す



- 追加方法の選択画面が表示されます。
- 接続設定がすでに9カ所設定されている場合は、［**新規追加**］は選べません。🗑（FORMAT）ボタンを押すと、不要な接続設定を削除できます。

3 [接続ウィザード] を選んで▶を押す

接続ウィザード画面が表示されます。



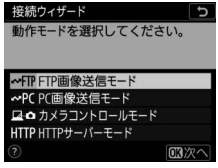
☑ 手動設定を行う

[**手動設定**] を選ぶと、接続設定の内容を全て手動で設定できます。



4 [FTP画像送信モード] を選ぶ

Ⓚボタンを押すと、初期設定の接続設定名が表示されます。

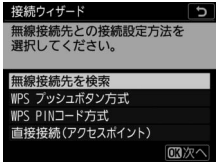


5 接続設定名を入力する



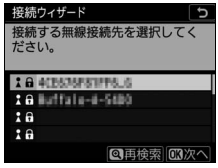
- 変更しない場合は、そのまま㊀ボタンを押すと、IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 設定した接続設定名は、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**接続設定**］に一覧で表示されます。
- 接続設定名を変更するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。

6 無線LANの接続設定方法を選ぶ



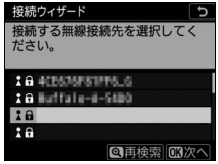
- 無線LANの接続設定方法を選んで㊀を押すと、設定画面が表示されます。
- ［**無線接続先を検索**］を選んだ場合は手順7にお進みください。
- ［**WPSプッシュボタン方式**］を選んだ場合は手順9にお進みください。
- ［**WPS PINコード方式**］を選んだ場合は手順10にお進みください。
- ［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は手順11にお進みください。

7 接続先のSSIDを選ぶ



- [**無線接続先を検索**] を選んだ場合、カメラの周辺にある無線LANアクセスポイントを検索して、検出した接続先のSSIDが表示されます。
- 接続先のSSIDを選んでⓄⓀボタンを押します。暗号ありのSSIDには🔒が表示されます。暗号あり🔒のSSIDを選んだ場合は、暗号キーの設定画面が表示されます。暗号なしの接続先を選んだ場合は手順12へお進みください。
- 🔍ボタンを押すと無線接続先を再検索します。

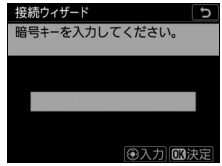
☑ SSIDが非表示に設定されている場合



無線LANアクセスポイントがSSIDを非公開に設定している場合、検出されたSSID一覧にSSID名が表示されません。

- 非公開のSSID に接続したい場合、空欄になっている項目を選択してⓄⓀボタンを押してください。続いてマルチセレクターの中央ボタンを押すと、SSID入力画面になります。
- 接続したいSSID名を入力し、ⓄⓀボタンを押してください。もう一度ⓄⓀボタンを押すと、暗号キーの設定画面が表示されます。

8 暗号キーを入力する



- マルチセレクターの中央ボタンを押して、無線LANアクセスポイントで使用している暗号キーを入力します。



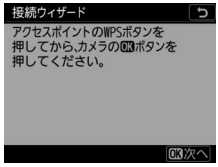
- 無線LAN アクセスポイントの暗号キーについては、無線LANアクセスポイントの使用説明書などをご覧ください。
- ⓚボタンを押して、暗号キーの入力を完了します。



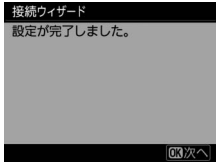
- もう一度ⓚボタンを押すと、接続を開始します。接続に成功すると、図のような画面が数秒間表示されます。

- 接続が完了するとIPアドレス設定画面が表示されます。手順12にお進みください。

9 無線LANアクセスポイントのWPSボタンを押す

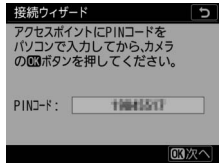


- [**WPSプッシュボタン方式**] を選んだ場合は、WPS設定の待機画面が表示されます。
- WPSプッシュボタンを押した後にカメラのOKボタンを押すと、無線LANアクセスポイントに接続できます。
- WPSボタンについては、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。

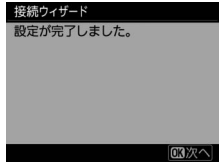


- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。OKボタンを押して手順12にお進みください。

10 無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する

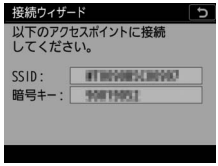


- [**WPS PINコード方式**] を選んだ場合は、WPS接続に必要なPINコードが表示されます。
- パソコンを使用して無線LANアクセスポイントにPINコードを入力します。無線LANアクセスポイントにPINコードを入力する方法については、お使いの無線LANアクセスポイントの使用説明書をご覧ください。
- 接続に成功すると、図のような画面が表示されます。Ⓚボタンを押して手順12にお進みください。

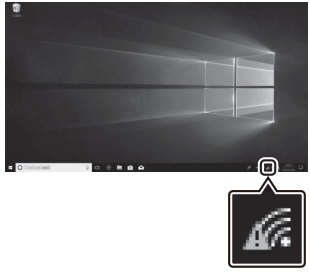


11 パソコンをカメラに接続する

［**直接接続（アクセスポイント）**］を選んだ場合は、カメラのSSID と暗号キーが表示されます。

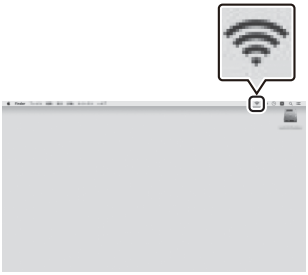


Windowsの場合：



- 画面の右下にある無線LAN のアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、FTPサーバーの設定画面が表示されます。手順13にお進みください。

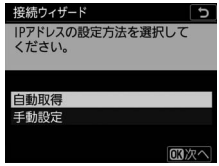
macOSの場合：



- 画面の右上にある無線LAN のアイコンをクリックしてください。
- カメラに表示されたSSIDを選んでクリックしてください。
- ネットワークキーを入力する画面が表示されたら、カメラに表示された暗号キーを入力してください。カメラとパソコンの接続が開始されます。接続に成功すると、FTPサーバーの設定画面が表示されます。手順13にお進みください。

12 IPアドレスの設定方法を選んで設定する

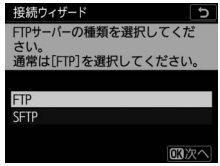
• IPアドレスの設定方法を選んでⓄⓀボタンを押します。



項目	内容
[**自動取得**]	カメラが自動でIPアドレスを取得します。IPアドレスを取得するとIPアドレス設定完了画面が表示されます。
[**手動設定**]	IPアドレス、サブネットマスクを手動で入力します。 • マルチセレクターの中央ボタンを押すと、IPアドレス入力画面が表示されます。 • メインコマンドダイヤルを回して、変更したい桁を選びます。 • ◀▶を押して数値を変更し、中央ボタンを押して決定します。 • ⓄⓀボタンを押すと、IPアドレス設定完了画面が表示されます。再度ⓄⓀボタンを押すと、サブネットマスク入力画面が表示されます。 • サブネットマスクは▲▼を押して数値を変更し、ⓄⓀボタンを押して決定すると、IPアドレス設定完了画面が表示されます。

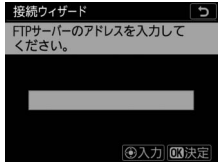
• IPアドレス設定完了画面が表示されたらⓄⓀボタンを押します。

13 FTPサーバーの種類を選ぶ



- [**FTP**] または [**SFTP**] を選んでⓀボタンを押すと、アドレス入力画面が表示されます。
- 手順6で [**直接接続（アクセスポイント）**] を選んだ場合は手順15にお進みください。

14 FTPサーバーのアドレスを入力する

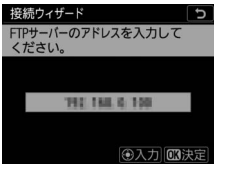


- マルチセレクターの中央ボタンを押して、FTPサーバーのIPアドレスまたはURLを入力します。



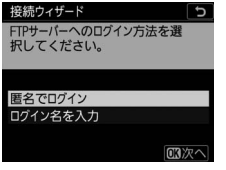
- Ⓚボタンを押して、入力を完了します。

• もう一度Ⓚボタンを押すと、カメラがFTPサーバーに接続します。接続に成功した場合は、ログイン方法の選択画面が表示されます。



15 ログイン方法を選ぶ

FTPサーバーへのログイン方法を選んでⓀボタンを押します。



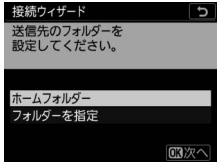
項目	内容
[**匿名でログイン**]	匿名でFTPサーバーにログインします。FTPサーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。
[**ログイン名を入力**]	ログイン名とパスワードを手動で入力します。入力を完了してⓀボタンを押すと、FTPサーバーにログインします。ログインに成功した場合は、送信先フォルダーの設定画面が表示されます。

ヒント：ポート番号について

FTPサーバーに接続する場合、FTPサーバーの種類が［**FTP**］のときはTCPポート21、32768～61000、［**SFTP**］のときはTCPポート22、32768～61000を使用します。ファイアーウォールを設定しているFTPサーバーでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとFTPサーバー間で転送ができない場合があります。

16 送信先フォルダーを設定する

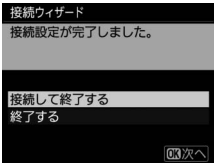
送信先のフォルダーを選んでOKボタンを押します。



項目	内容
［**ホームフォルダー**］	送信先をFTPサーバーのホームフォルダーに設定します。設定に成功した場合は、接続設定完了画面が表示されます。
［**フォルダーを指定**］	送信先のフォルダー名を手動で入力します。送信先のフォルダーは、あらかじめFTPサーバー側で作成しておく必要があります。入力を完了してOKボタンを押すと、送信先のフォルダーを設定して接続設定完了画面が表示されます。

17 接続設定を完了する

終了の方法を選んでOKボタンを押します。



項目	内容
［**接続して終了する**］	接続設定をカメラに登録して、登録された接続設定で通信を開始します。
［**終了する**］	接続設定をカメラに登録して接続ウィザードを終了します。

カメラとFTPサーバーの無線接続設定が完了しました。
カメラで撮影した画像をFTPサーバーに転送するには、「パソコン/FTPサーバーに画像を送信する」（🕮585）をご覧ください。

パソコン/FTPサーバーに画像を送信する

再生画面で選んだ画像をパソコンまたはFTPサーバーに送信できます。カメラで撮影するたびに自動で送信することもできます。

パソコンまたはFTPサーバーに接続する

有線LANまたはワイヤレストランスミッターを使用して、パソコンまたはFTPサーバーに接続します。

1 [有線LAN/WTの機能] で [有効] を選ぶ



- ⓞⓚボタンを押すと、最後に接続した接続設定でネットワークに接続します。接続設定を変更したい場合は手順2に進んでください。
- 接続が完了すると、[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**] 画面で接続設定名が緑色で表示されます。
- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。



2 [接続設定]でPC画像送信モードまたはFTP画像送信モードの接続設定を選ぶ



- PC画像送信モードの接続設定には PC が、FTP画像送信モードの接続設定には FTP が表示されています。
- ⓞボタンを押すと、[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**]画面に戻って接続が開始されます。接続が完了すると、[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**]画面で接続設定名が緑色で表示されます。



- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

保存先のフォルダーについて

PC画像送信モードで送信された画像は、次のフォルダーに転送されます。

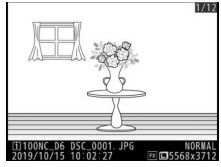
- Windows：\Users\"ユーザー名"\Pictures\Wireless Transmitter Utility
- macOS：/Users/"ユーザー名"/Pictures/Wireless Transmitter Utility

Wireless Transmitter Utilityを使うと、転送先のフォルダーを変更できます。
詳しくはWireless Transmitter Utilityのヘルプをご覧ください。

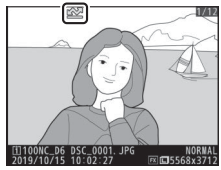
■ 画像を選んで送信する

1 カメラの▶ボタンを押して1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードにする

2 送信したい画像を選ぶ



3 ⓞⓚボタンを押しながらマルチセレクターの中央ボタンを押す



- 優先送信マーク（白色）が付加されます。ネットワークに接続済みの場合、すぐに送信が始まります。
- 送信指定した画像がある状態でネットワークに接続すると、自動的に送信が開始されます。
- 複数の画像を送信する場合は、手順2～3を繰り返してください。

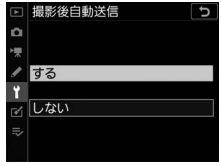
送信指定を解除するには

- 再度Ⓚボタンを押しながらマルチセレクターの中央ボタンを押すと、送信指定が解除されます。
- 再生時の**i**メニュー［**送信指定（有線LAN/WT）**］でも送信指定を解除できます。
- セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］にある［**オプション**］の［**全送信マーク解除**］で一括削除できます。

ヒント：iメニューで送信指定する

送信する画像を選んだ後に**i**ボタンを押し、再生時の**i**メニューで［**送信指定（有線LAN/WT）**］を選んでも送信指定できます。

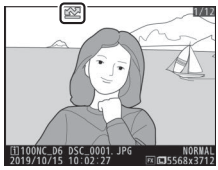
■■ 撮影した画像を自動で送信する



セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］にある［**オプション**］の［**撮影後自動送信**］を［**する**］に設定すると、静止画を撮影するたびにパソコンに転送します。

- 画像はメモリーカードに記録されてから自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画撮影時に撮影した静止画、および動画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

■■ マーク表示について



送信する画像には次のようなマークが表示されます。

（白）：送信予定の画像（優先送信マーク）

手動で送信設定した画像に表示されます。
の画像がある場合でも、優先して画像が送信されます。

（白）：送信予定の画像（送信設定マーク）

自動送信で送信設定され、これから送信される画像の送信設定マークは白色で表示されます。

（緑）：送信中の画像（送信中マーク）

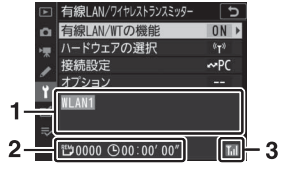
画像の送信中は送信設定マークが緑色で表示されます。

（青）：送信済みの画像（送信済みマーク）

画像が正常に送信された場合に表示されます。

■ 画像送信時の［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］画面

［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面では、次の状態が確認できます。



1	**接続状態**：接続状態を表します。接続されたときは接続設定名が緑色で表示されます。 データを送信中の場合、接続先名の下に「(送信中のファイル名)」＋「送信中」と表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容およびエラーコードが表示されます（🕮636）。
2	**残り**：送信予定のコマ数と、残りの送信予定時間を表示します。表示される時間は目安です。
3	**電波状態**：有線LAN接続時には、有線LANアイコン品が表示されます。無線LAN接続時には、電波の状態がアイコンで表示されます。

☑ 電波状態による送信の中断について

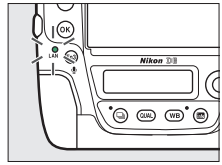
無線LAN接続時、電波状態によっては送信が一時中断されることがあります。この場合、電波状態が回復した後、カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると、送信設定マークが表示された画像の送信を再開します。

☑ 送信中のご注意

送信中はメモリーカードやイーサネットケーブルの抜き差し、およびワイヤレストランスミッターの取り外しを絶対に行わないでください。

ヒント：通信状態について

カメラとパソコンの通信状態は、カメラのネットワークインジケーターで確認できます。



ネットワークインジケーター	状態
●（消灯）	• セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］が［**無効**］になっています。 • イーサネットケーブルが接続されていません。
○（緑点灯）	パソコンとの接続を待っています。
☼（緑点滅）	パソコンと接続しています。
☼（橙点滅）	パソコンとの通信エラーです。

ヒント：カメラのファインダー内表示について

カメラとパソコンの通信状態はファインダー内表示に表示されます。有線LAN通信時は品マークが、無線LAN通信時は((ｲ))マークが点灯します。エラーが発生した場合はマークが点滅します。



ヒント：ポート番号について
パソコンに接続する場合のポートは、TCPポート15740、UDPポート5353を使用します。ファイアーウォールを設定しているパソコンでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとパソコン間で転送ができない場合があります。

ヒント：音声メモを録音した画像の送信
録音した音声メモも同時に送信されます。ただし、音声メモのみを送信することはできません。

ヒント：インターバルタイマー撮影について
インターバルタイマー撮影中は、半押しタイマーがオフになると画像の送信が中断されるため、半押しタイマーを長めに設定することをおすすめします。

ヒント：画像転送中にカメラの電源をOFFにした場合
送信設定は保持されるため、再度電源をONにすると、送信設定マークが表示された画像は送信が再開されます。

カメラコントロールモードを使用する

別売のCamera Control Pro 2を使って、パソコンからカメラをコントロールできます。Camera Control Pro 2のカメラコントロールで撮影した静止画はパソコンに直接取り込めるため、カメラにメモリーカードを挿入しない状態でも使用できます。

- 動画を撮影する場合は、メモリーカードをカメラに挿入してください。
- カメラコントロールモードのときは、半押しタイマーはオフになりません。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［有線LAN/WTの機能］で［有効］を選ぶ



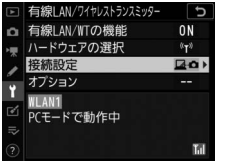
- ⓚボタンを押すと最後に接続した接続設定でネットワークに接続します。接続設定を変更したい場合は手順2に進んでください。変更する必要がない場合は手順3に進んでください。
- 接続が完了すると、［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面で接続設定名が緑色で表示されます。
- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。



2 [接続設定] でカメラコントロールモードの接続設定を選ぶ



- カメラコントロールモードの接続設定には🖵📷が表示されています。
- ⓞⓚボタンを押すと、[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**] 画面に戻って接続が開始されます。接続が完了すると、[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**] 画面で接続設定名が緑色で表示されます。



- 接続設定名が緑色で点灯していない場合は、パソコンの無線接続設定でカメラと接続し直してください。

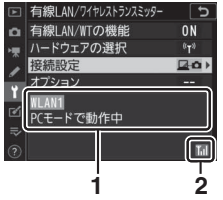
3 パソコンにインストールされている Camera Control Pro 2を起動する

4 Camera Control Pro 2を使用して、カメラを操作する

Camera Control Pro 2を使用して撮影する方法については、Camera Control Pro 2の使用説明書またはオンラインヘルプをご覧ください。

カメラコントロールモード時の［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］画面

［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面では、次の状態が確認できます。



1	**接続状態**：接続状態を表します。接続されたときは接続設定名が緑色で表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容およびエラーコードが表示されます（🕮636）。
2	**電波状態**：有線LAN接続時には、有線LANアイコンが表示されます。無線LAN接続時には、電波の状態がアイコンで表示されます。

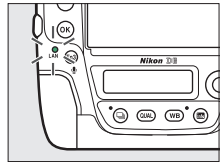
☑ 電波状態による送信の中断について

無線LAN接続時、電波状態によっては、送信が中断され、「Camera Control Pro 2」との接続が切断される場合があります。カメラのネットワークインジケーターが橙色に点滅している場合は、［**有線LAN/WTの機能**］を一度［**無効**］にして再度 ［**有効**］にしてください。電波状態が回復すれば、Camera Control Pro 2との接続が回復し、未送信画像が再送信されます。再送信する前にカメラの電源をOFFにすると、未送信画像が消去され、再送信できませんのでご注意ください。

有線LAN接続中のご注意
パソコンとの通信中やカメラの電源がONのときには、イーサネットケーブルの抜き差しおよびワイヤレストランスミッターの取り外しは行わないでください。

無線LAN接続時のご注意
無線LAN接続時には、有線LANで接続した場合に比べて、操作に時間的なずれが生じる場合があります。

ヒント：通信状態について
カメラとパソコンの通信状態は、カメラのネットワークインジケーターで確認できます。



ネットワークインジケーター	状態
●（消灯）	• セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］が［**無効**］になっています。 • イーサネットケーブルが接続されていません。
○（緑点灯）	パソコンとの接続を待っています。
☼（緑点滅）	パソコンと接続しています。
☼（橙点滅）	パソコンとの通信エラーです。

ヒント：カメラのファインダー内表示について

カメラとパソコンの通信状態はファインダー内表示に表示されます。有線LAN通信時は品マークが、無線LAN通信時はマークが点灯します。エラーが発生した場合はマークが点滅します。



ヒント：ポート番号について

パソコンに接続する場合のポートは、TCPポート15740、UDPポート5353を使用します。ファイアーウォールを設定しているパソコンでは、ファイアーウォールにポート番号の例外設定を行わないと、カメラとパソコン間で転送ができない場合があります。

HTTPサーバーモードを使用する

パソコンやスマートフォンのWebブラウザーからカメラにアクセスして、メモリーカード内の画像などを表示したり、カメラを操作して撮影できます。

- HTTPサーバーモードの動作環境については、「HTTPサーバーモードの動作環境について」（🕮608）をご覧ください。
- 最大で同時に5台の端末からログインできます。撮影および文字情報編集は1台の端末のみ可能です。
- HTTPサーバーモードのときは、半押しタイマーはオフになりません。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［有線LAN/WTの機能］で［有効］を選ぶ



- ⓞⓚボタンを押すと最後に接続した接続設定でネットワークに接続します。接続設定を変更したい場合は手順2に進んでください。変更する必要がない場合は手順3に進んでください。

• 接続が完了すると、［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面にパソコンやスマートフォンからカメラにアクセスするためのURLが表示されます。



2 ［接続設定］でHTTPサーバーモードの接続設定を選ぶ



• HTTPサーバーモードの接続設定には**HTTP**が表示されています。

• ⓞⓚボタンを押すと、［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面に戻って接続が開始されます。接続が完了すると、［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面で接続設定名が緑色で表示されます。

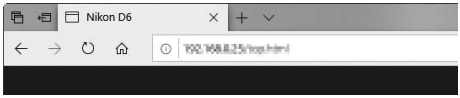


3 パソコンまたはスマートフォンのWebブラウザーを起動する

4 WebブラウザーのURL入力欄に「http://（カメラのIPアドレス）」を入力する

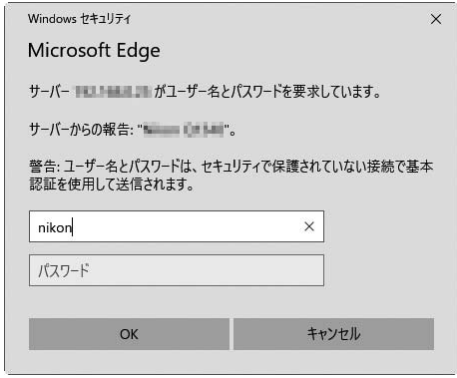
- ［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面に表示されているURLを入力してください。
- ログイン画面が表示されます。





5 ユーザー名とパスワードを入力してWebブラウザーからカメラにログインする

• ログインに成功すると、トップ画面が表示されます。



ヒント：HTTPログイン設定

Webブラウザーからカメラに接続するときのユーザー名とパスワードは、セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］にある［**オプション**］の［**HTTPログイン設定**］で設定できます。

6 [Language] をクリックして言語を選ぶ

使用する言語を選びます。



7 [撮影&ビューアー]、[ビューアー]、または［文字情報編集］を選ぶ

項目	内容
［**撮影&ビューアー**］	パソコンのWebブラウザーやスマートフォンのWebブラウザーからカメラを操作して撮影するときに選びます。撮影した画像を表示することもできます（🕮610、622）。 • 1台の端末のみ接続できます。他の端末からすでに［**撮影&ビューアー**］または［**文字情報編集**］でカメラに接続されている場合は表示されません。
［**ビューアー**］	パソコンのWebブラウザーでカメラのメモリーカードに保存された画像を表示するときやスマートフォンのWebブラウザーでカメラのメモリーカードに保存された画像を表示するときに選びます（🕮614、625）。 • 最大5台の端末から接続できます。他の端末からすでに［**撮影&ビューアー**］または［**文字情報編集**］でカメラに接続されている場合は、最大4台の端末から接続できます。
［**文字情報編集**］	パソコンのWebブラウザーやスマートフォンのWebブラウザーから、カメラで設定している文字情報（画像コメント、著作権情報、IPTC情報）を編集するときに選びます（🕮617、627）。 • 1 台の端末のみ接続できます。他の端末からすでに［**撮影&ビューアー**］または［**文字情報編集**］でカメラに接続されている場合は表示されません。

HTTPサーバーモード時の［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］画面

［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面では、次の状態が確認できます。



1 **接続状態**：接続状態を表します。接続されたときはパソコンやスマートフォンからカメラにアクセスするためのURLが表示されます。エラーが発生した場合には、エラーの内容およびエラーコードが表示されます（🕮636）。

2 **電波状態**：有線LAN接続時には、有線LANアイコンが表示されます。無線LAN接続時には、電波の状態がアイコンで表示されます。

ヒント：HTTPサーバーモードの動作環境について

次の環境で動作を確認しています。

Windows	
OS	Windows 10、Windows 8.1
Webブラウザー	• Windows 10：Microsoft Edge • Windows 8.1：Internet Explorer 11

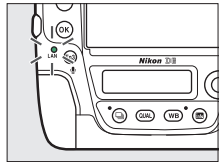
macOS	
OS	macOS 10.14、macOS 10.13、macOS 10.12
Webブラウザー	• macOS 10.14：Safari 12 • macOS 10.13：Safari 11 • macOS 10.12：Safari 10

Android OS	
OS	Android 9.0、Android 8.1
Webブラウザー	Chrome

iOS	
OS	iOS12、iOS11
Webブラウザー	OS標準のSafari

ヒント：通信状態について

カメラとパソコンの通信状態は、カメラのネットワークインジケーターで確認できます。



ネットワークインジケーター	状態
●（消灯）	• セットアップメニュー［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］の［**有線LAN/WTの機能**］が［**無効**］になっています。 • イーサネットケーブルが接続されていません。
○（緑点灯）	パソコンとの接続を待っています。
☼（緑点滅）	パソコンと接続しています。
☼（橙点滅）	パソコンとの通信エラーです。

ヒント：カメラのファインダー内表示について

カメラとパソコンの通信状態はファインダー内表示に表示されます。有線LAN通信時は品マークが、無線LAN通信時は((T))マークが点灯します。エラーが発生した場合はマークが点滅します。



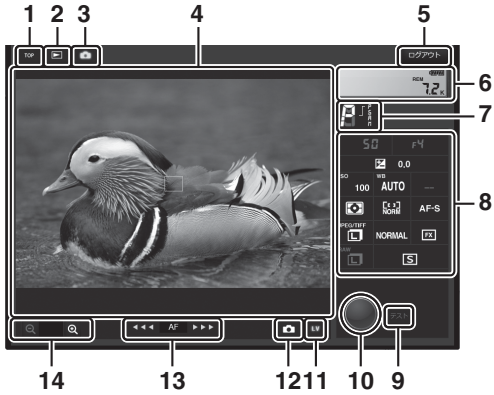
パソコンまたはAndroid OS、iPadのWebブラウザーで操作する場合

撮影設定をクリックまたはタップして、撮影の設定を行います。

- iPhoneで接続している場合は「iPhoneのWebブラウザーで操作する場合」（🕮622）をご覧ください。

■■ 撮影画面

トップ画面で［**撮影＆ビューアー**］を選ぶと、Webブラウザーからカメラを操作して撮影できます。ライブビューボタンをクリックまたはタップすると、画像表示エリアにライブビューが表示されます。



1	トップ画面ボタン	8	撮影設定
2	ビューアー画面ボタン	9	テスト撮影ボタン
3	撮影画面ボタン	10	撮影ボタン
4	画像表示エリア	11	ライブビューボタン
5	ログアウトボタン	12	静止画/動画モード切り換え
6	表示パネル	13	フォーカス調整
7	露出モード	14	縮小/拡大

項目	内容
表示パネル	表示パネルでは、露出インジケーター、記録可能コマ数、バッテリーの残量が表示されます。
撮影設定	静止画/動画モードの設定に応じて、各項目を設定できます。設定を変更するには、各項目のアイコンをクリックまたはタップします。
撮影ボタン	• **静止画モード時**：シャッターがきれます。 • **動画モード時**：動画撮影を開始します。もう一度クリックまたはタップすると動画撮影を終了します。
テスト撮影ボタン	静止画撮影時にテスト撮影を行い、画像表示エリアに画像を表示します。撮影した画像はメモリーカードには記録されません。

ヒント：カメラでライブビュー表示するには

画面表示エリアでライブビューを表示しているときにカメラのLvボタンを押すと、カメラの画像モニターにもライブビューが表示されます。もう一度Lvボタンを押すと、カメラの画像モニターのライブビューを終了します。

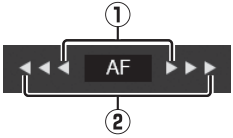
ヒント：レリーズモードボタンについて



カメラのレリーズモードダイヤルを（クイック設定ポジション）に合わせるとレリーズモードボタンが有効になり、撮影設定で1コマ撮影、高速連続撮影、低速連続撮影のレリーズモードが設定できます。レリーズモードを高速連続撮影または低速連続撮影に設定した場合、撮影ボタンを押し続けている間、カメラで設定した速度で連続撮影します。

ヒント：フォーカス調整

フォーカス調整は押す位置によって、調整量が異なります。①は調整量が小さく、②は調整量が大きくなります。



ヒント：ピントの合わせ方

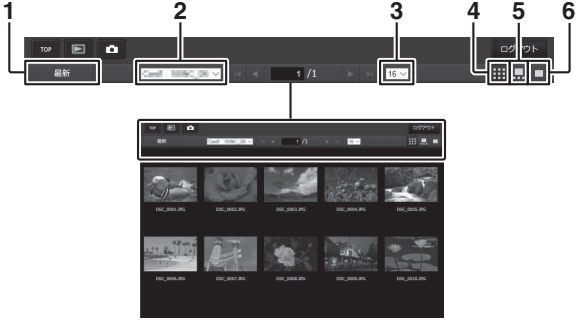
ライブビュー中に画像表示エリアをクリックまたはタップすると、その場所にピントを合わせます。

ビューアー画面

トップ画面で［**ビューアー**］を選ぶか、撮影画面でビューアー画面ボタンをクリックまたはタップすると、ビューアー画面が表示されます。ビューアー画面では、サムネイル一覧表示、イメージビューアー、全画面表示に切り換えられます。

サムネイル一覧表示

サムネイル一覧表示では、サムネイル領域に小さな画像を複数表示できます。



1	記録フォルダー内の最新画像を表示
2	フォルダー指定
3	表示コマ数切り換え
4	サムネイル一覧表示
5	イメージビューアー表示
6	全画面表示

イメージビューアー表示

画面の下に表示されているサムネイルの中から見たい画像を選んで、画像表示エリアに大きく表示できます。



全画面表示

サムネイル一覧表示で画像をクリックまたはタップすると、選ばれている画像が画面いっぱいに表示されます。



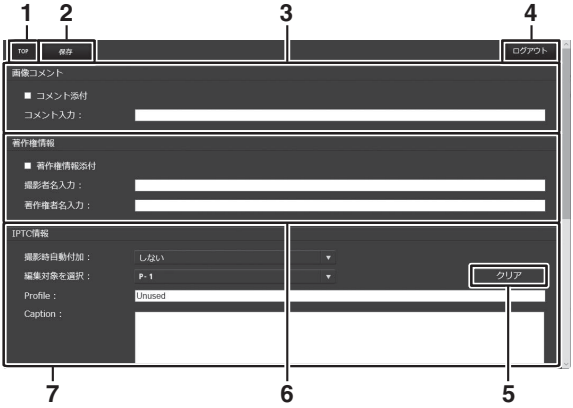
ヒント：[ダウンロード] ボタンについて
ボタンをクリックまたはタップすると、表示している画像をパソコンまたはスマートフォンに保存できます。

ヒント：音声メモ
音声メモは、画像とは別のファイルとして表示されます。

ヒント：動画ファイル
動画ファイルには▶アイコンが表示されます。

■ 文字情報編集画面

トップ画面で［**文字情報編集**］を選ぶと、文字情報編集画面が表示されます。文字情報編集画面では、Webブラウザーからカメラで設定している文字情報（画像コメント、著作権情報、IPTC情報）を編集できます。



1 トップ画面ボタン
2 保存ボタン
3 画像コメント
4 ログアウトボタン
5 クリアボタン
6 著作権情報
7 IPTC情報

☑ 編集した文字情報の保存について
編集した情報は自動保存されません。編集した情報を保存するには、保存ボタンをクリックまたはタップしてください。

☑ 登録内容の削除について
クリアボタンをクリックまたはタップすると表示されている内容は削除されます。保存ボタンを押さなくても削除されますので、ご注意ください。

［**画像コメント**］

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

項目	内容
［**コメント添付**］	登録したコメントを画像に添付したいときは、チェックボックスをオン☑にします。保存ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。
［**コメント入力**］	36文字までのコメントを登録できます。

［**著作権情報**］

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

項目	内容
［**著作権情報添付**］	登録した著作権情報を画像に添付したいときは、チェックボックスをオン☑にします。保存ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。
［**撮影者名入力**］、［**著作権者名入力**］	36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。

☑ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

ヒント：画像情報に表示される画像コメントについて

- 画像に添付されたコメントは、再生画面の撮影情報にある［**撮影情報その他**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**撮影情報その他**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**撮影情報その他**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

ヒント：画像情報に表示される著作権情報について

- 画像に添付された著作権情報は、再生画面の撮影情報にある［**著作権情報**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**著作権情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**著作権情報**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

［**IPTC情報**］

IPTC情報を編集して、撮影した静止画に添付することができます。

項目	内容
［**撮影時自動付加**］	［**撮影時自動付加**］タブを選ぶと、IPTCプリセットのリストが表示されます。IPTCプリセットを選んで保存ボタンを押すと、その後撮影した静止画には選んだIPTCプリセットが添付されます。［**しない**］を選ぶと、IPTCプリセットは添付されません。
［**編集対象を選択**］	［**編集対象を選択**］タブを選ぶと、IPTCプリセットのリストが表示されます。カメラに登録したいIPTCプリセットを選びます。

ヒント：IPTCプリセット（IPTC情報）について

画像に添付されたIPTC情報は、カメラの1コマ表示モードで「IPTC情報」に切り換えた場合に表示されます。

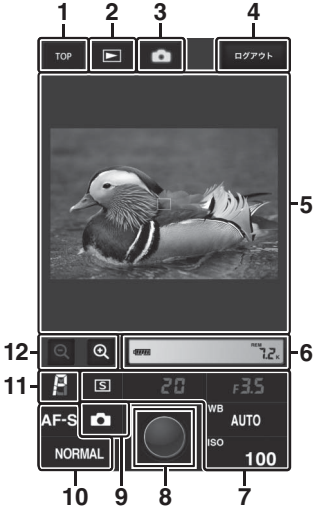
iPhoneのWebブラウザーで操作する場合

撮影設定をタップして、撮影の設定を行います。

- パソコン、Android OSまたはiPadに接続している場合は「パソコンまたはAndroid OS、iPadのWebブラウザーで操作する場合」（🕮610）をご覧ください。

■■ 撮影画面

トップ画面で［**撮影＆ビューアー**］を選ぶと、Webブラウザーからカメラを操作して撮影できます。ライブビュー切り換えボタンで静止画ライブビュー（📷）または動画ライブビュー（🎥）に切り換えると、画像表示エリアにライブビューが表示されます。ライブビューを終了するには、ライブビュー切り換えボタンでライブビュー OFFに設定してください。



1	トップ画面ボタン
2	ビューアー画面ボタン
3	撮影画面ボタン
4	ログアウトボタン
5	画像表示エリア
6	表示パネル
7	撮影設定
8	撮影ボタン
9	ライブビュー切り換えボタン
10	撮影設定
11	露出モード
12	縮小/拡大

ヒント：カメラでライブビュー表示するには

画面表示エリアでライブビューを表示しているときにカメラのLVボタンを押すと、カメラの画像モニターにもライブビューが表示されます。もう一度LVボタンを押すと、カメラの画像モニターのライブビューを終了します。

ヒント：レリーズモードボタンについて



カメラのレリーズモードダイヤルを（クイック設定ポジション）に合わせるとレリーズモードボタンが有効になり、撮影設定で1コマ撮影、高速連続撮影、低速連続撮影のレリーズモードが設定できます。レリーズモードを高速連続撮影または低速連続撮影に設定した場合、撮影ボタンを押し続けている間、カメラで設定した速度で連続撮影します。

ヒント：ピントの合わせ方

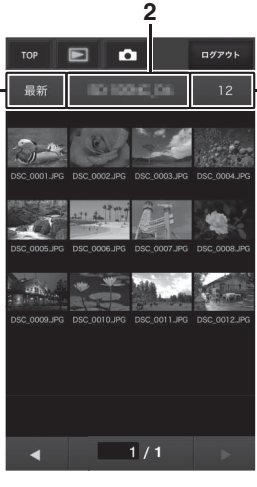
ライブビュー中に、ピントを合わせたい場所をタップすると、タップした場所にピントを合わせます。

ビューアー画面

トップ画面で［**ビューアー**］を選ぶか、撮影画面でビューアー画面ボタンをタップすると、ビューアー画面が表示されます。iPhoneのビューアー画面では、サムネイル一覧表示または全画面表示に切り換えられます。

サムネイル一覧表示

サムネイル領域に小さな画像を複数表示できます。サムネイルの画像をタップすると、全画面表示になります。

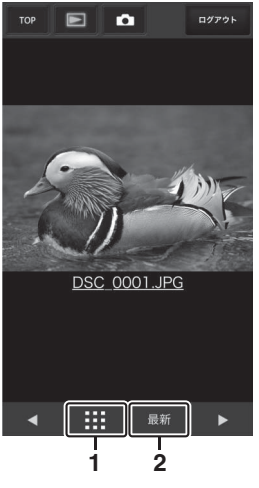


1	記録フォルダー内の最新画像を表示
2	フォルダー指定
3	表示コマ数切り換え

ヒント：音声メモ
音声メモは、画像とは別のファイルとして表示されます。

ヒント：動画ファイル
動画ファイルには▛アイコンが表示されます。

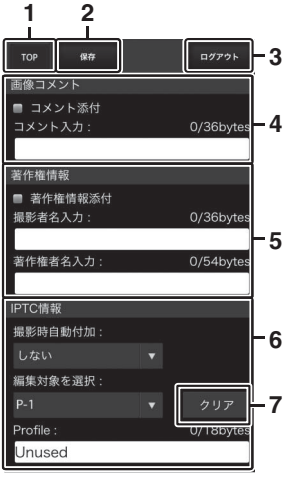
全画面表示
サムネイル一覧表示でタップされた画像が画面いっぱいに表示されます。



1	サムネイル一覧表示
2	記録フォルダー内の最新画像を表示

■ 文字情報編集画面

トップ画面で［**文字情報編集**］を選ぶと、文字情報編集画面が表示されます。文字情報編集画面では、Webブラウザーからカメラで設定している文字情報（画像コメント、著作権情報、IPTC情報）を編集できます。



1 トップ画面ボタン
2 保存ボタン
3 ログアウトボタン
4 画像コメント（🕮617）
5 著作権情報（🕮617）
6 IPTC情報（🕮617）
7 クリアボタン

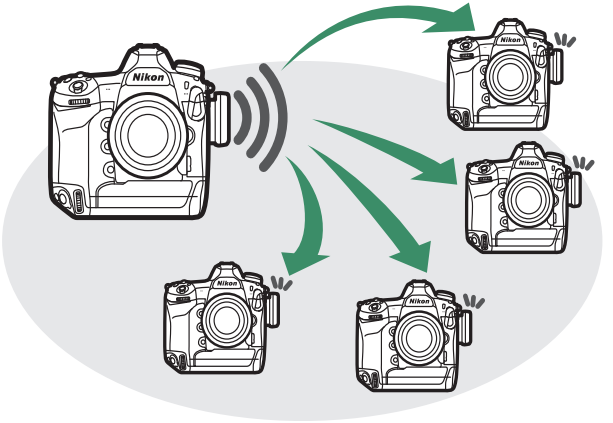
☑ 編集した文字情報の保存について

編集した情報は自動保存されません。編集した情報を保存するには、保存ボタンをタップしてください。

連動レリーズモードを使用する

連動レリーズモードについて

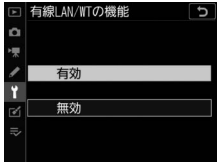
別売のワイヤレストランスミッター WT-6を装着した複数のD6およびD5を用意すると、1台のマスターカメラと10台までのリモートカメラをグループにして、マスターカメラのレリーズに連動してリモートカメラをレリーズさせて撮影できます。



連動レリーズモードの撮影方法

連動レリーズモードで撮影する全てのカメラで、同様の設定を行ってください。

1 **セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［有線LAN/WTの機能］で［有効］を選ぶ**



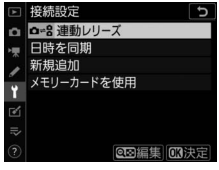
2 **［ハードウェアの選択］で［無線LAN］を選ぶ**

Ⓚボタンを押すと［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面に戻ります。



3 **［接続設定］で［連動レリーズ］を選び、Q (ϟ) ボタンを押す**

連動レリーズモードの設定画面が表示されます。



4 連動レリーズの設定を行う

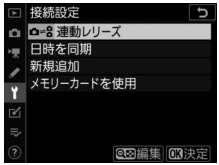
マスターカメラおよび全てのリモートカメラで設定を行ってください。設定後はマルチセレクターの◀ボタンを押して前の画面に戻ってください。

項目	内容
［**グループ名**］	連動レリーズモードを行うカメラのグループ名を設定できます。グループ名は16文字まで入力できます。 • 連動レリーズを行う全てのカメラに同じグループ名を設定してください。
［**マスター /リモート選択**］	カメラをマスターカメラにするか、リモートカメラにするかを設定できます。 • ［**マスターカメラ**］：マスターカメラに設定したカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラのシャッターがきれます。マスターカメラは1台のみ設定してください。 • ［**リモートカメラ**］：マスターカメラのレリーズに連動してシャッターがきれます。

項目	内容
［**リモートカメラのチェック**］	［**する**］に設定すると、リモートカメラがレリーズできる状態にあるかをマスターカメラからチェックできます。 • ［**マスター /リモート選択**］を［**マスターカメラ**］に設定している場合のみ設定できます。 • レリーズ可能な状態にあるリモートカメラの台数が、［**リモートカメラの台数**］で設定した台数より少ない場合にカメラのネットワークインジケーターが橙色に点滅します。
［**リモートカメラの台数**］	リモートカメラの台数を［**1**］～［**10**］から設定できます。［**リモートカメラのチェック**］を［**する**］に設定している場合のみ設定できます。

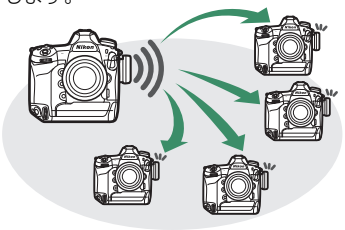
5 ［接続設定］で［連動レリーズ］を選び㊎を押す

ネットワークに接続します。



6 撮影する

- マスターカメラのレリーズボタンを押すと、連動してリモートカメラが動作します。



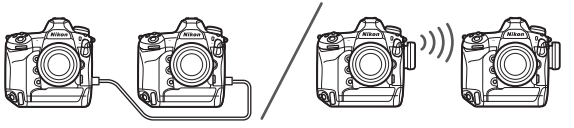
- 連動レリーズモードのときは、半押しタイマーはオフになりません。

ヒント：リモートカメラのチェック
マスターカメラで［**リモートカメラのチェック**］を［**する**］に設定している場合は、リモートカメラの状態によって警告が表示されます。

ネットワークを使用してカメラの時計を同期する

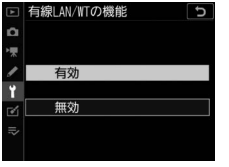
2台のカメラの日時を、ネットワークを使用して同期できます。一方のカメラをマスターカメラに設定し、もう一方をリモートカメラに設定すると、リモートカメラがマスターカメラの日時情報を取得して内蔵時計を合わせます。日時情報にはセットアップメニュー［**地域と日時**］の全ての内容が含まれます。

- カメラはイーサネットケーブルで2台のカメラを接続するか、マスターカメラおよびリモートカメラ両方にWT-6を装着してください。



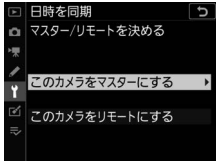
1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］の［有線LAN/WTの機能］で［有効］を選ぶ

マスターカメラとリモートカメラの両方で行ってください。



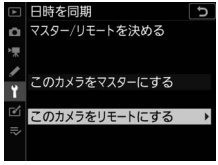
2 マスターに設定したいカメラで［接続設定］の［日時を同期］で［このカメラをマスターにする］を選んで⊛を押す

- 日時同期待機状態になります。
- 現在マスターカメラで設定されている日時が表示されます。



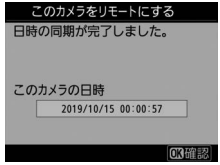
3 リモートに設定したいカメラで［接続設定］の［日時を同期］で［このカメラをリモートにする］を選んで⊛を押す

- 日時同期待機状態になります。
- 現在リモートカメラで設定されている日時が表示されます。



4 リモートカメラのⓄⓀボタンを押す

- リモートカメラからマスターカメラにネットワーク接続し、日時の設定を同期します。
- 日時の同期が成功すると、リモートカメラにメッセージが表示され、［**接続設定**］画面に戻ります。
- 複数のカメラの日時を同期するには、手順3～4を繰り返してください。



5 マスターカメラでⓄⓀボタンを押す

日時同期待機状態が解除され、［**接続設定**］画面に戻ります。

有線LAN/ワイヤレストランスミッター使用時のトラブルシューティング

有線LANまたはWT-6使用時にエラーが発生した場合はこちらをご覧ください。

問題と対処方法について

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

こんなときは	対処方法
• 「無線エラーが発生しました。」と表示される。 • 「TCP/IPエラーが発生しました」と表示される。 • 「FTPエラーが発生しました」と表示される。	接続設定が正しくありません。無線LANアクセスポイントやFTPサーバー（またはパソコン）の設定を確認し、設定をやり直してください（🕮522、544）。 表示されているエラーコードによって対処方法が異なります。「エラーコードについて」をご覧ください（🕮638）。

こんなときは	対処方法
「PCに接続中です」と表示されたまま画面が変化しない。	ファイアーウォールの設定を確認してください（🕮519）。
「イーサネットケーブルが接続されていません」と表示される。	イーサネットケーブルを接続するか、［**ハードウェアの選択**］の設定を［**無線LAN**］に変更してください（🕮520、521）。
「カードが入っていません」と表示される。	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。メモリーカードを正しくセットしてください（🕮38）。
途中で送信が中断して画像を送信できなかった。	カメラの電源をいったんOFFにして再度ONにすると送信設定マークが表示された画像の送信を再開します（🕮592）。
HTTP サーバーモードでWebブラウザーにカメラのURL を入力しても画面が表示されない。	Webブラウザーがプロキシサーバーを使用しない設定になっているか確認してください。

エラーコードについて

有線LANまたはWT-6使用時にエラーが発生した場合、次のメッセージとエラーコードが表示されます。

● **[無線エラーが発生しました。]**

エラーコード	対処方法
Err.11	接続先機器の電源がオンになっているかどうかをご確認ください。
	SSIDの確認をしてください（🕮941）。
Err.12	選んだSSIDに対してパスワードが正しいかご確認ください。
	認証方式が正しいかご確認ください（🕮941）。
Err.13	接続先機器の電源がオンになっているかどうかをご確認ください。
	カメラの電源スイッチを入れ直してください。
Err.1F	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

● **[TCP/IPエラーが発生しました。]**

エラーコード	対処方法
Err.21	TCP/IPのアドレス、マスクが正しいかご確認ください（🕮944）。
Err.22	TCP/IPのアドレスが重複しています。アドレスを変更してください（🕮944）。

● **[PTP/IPエラーが発生しました。]**

エラーコード	対処方法
Err.41	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

● **[FTPエラーが発生しました。]**

エラーコード	対処方法
Err.31	FTPサーバーのアドレスが正しいかご確認ください（🕮945）。
Err.32	ログイン名、パスワードが正しいかご確認ください（🕮945）。
Err.34	指定したフォルダーの名前が正しいかご確認ください（🕮945）。
Err.35	FTP サーバーのフォルダーの書き込みが許可に設定されているか確認してください。
Err.36	DNSの設定が正しいかご確認ください（🕮944）。
Err.37	ファイアーウォールの設定を確認してください（🕮519）。
	パッシブモードの有効/無効を変更してください（🕮945）。
Err.3F	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

● **[HTTPエラーが発生しました。]**

エラーコード	対処方法
Err.5F	カメラの電源スイッチを入れ直してください。

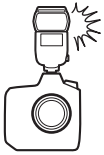
スピードライトをカメラに装着して撮影する

フラッシュ撮影の方法

このカメラで別売スピードライトを使用するには、次の方法があります。

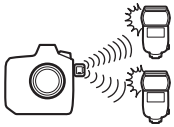
一灯撮影

カメラに装着した別売スピードライトを発光させて撮影します。次ページ以降で詳しく説明します（🕮641）。



増灯撮影

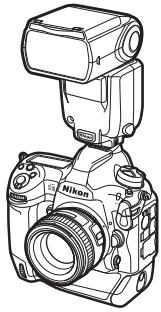
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。詳しくは「複数のスピードライトをワイヤレスで制御する」（🕮663）をご覧ください。



別売スピードライトをカメラに装着して撮影する（一灯撮影）

1 **カメラのアクセサリーシューにスピードライトを装着する**

スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



2 **カメラとスピードライトの電源をONにする**

スピードライトの充電が開始されて撮影ができる状態になると、ファインダー内表示に⚡（レディーライト）が点灯します。

3 **発光モード（🕮645）とフラッシュモード（🕮131、648）を設定する**

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

5 撮影する

☑ 別売スピードライト使用時のシャッタースピード

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードは次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード
P、**A**	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※
S	1/250～30秒
M	1/250～30秒、**Bulb**（バルブ）、**Time**（タイム）

※フラッシュモードをスローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

☑ 他社製フラッシュについてのご注意

カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるフラッシュや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうフラッシュを使用することはできません。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

スピードライトの調光方式について

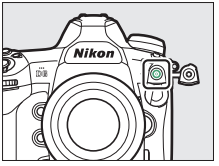
別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトをカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

調光方式	内容
i-TTL-BL調光	主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

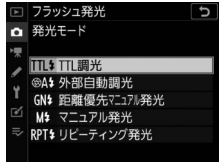
- カメラの測光モードが［**スポット測光**］に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

ヒント：シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリーシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。



カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する



ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**発光モード**］で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります。選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。

- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。

• SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。

項目	内容
［**TTL調光**］	• スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。 • ［**TTL調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。SB-500、SB-400、またはSB-300を装着した場合は、（ ）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと設定できます。
［**外部自動調光**］	• スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。 • ［**外部自動調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。 •「絞り連動外部自動調光」（ A）と「外部自動調光」（A）があります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。
［**距離優先マニュアル発光**］	• スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。 • ［**距離優先マニュアル発光設定**］の［**距離**］で被写体までの距離を、［**調光補正**］でスピードライトの調光補正値を設定します。

項目	内容
［**マニュアル発光**］	• 指定した発光量でスピードライトが発光します。 • ［**マニュアル発光量**］でスピードライトの発光量を設定します。
［**リピーティング発光**］	• 1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。 • ［**リピーティング発光設定**］の［**発光量**］でスピードライトの発光量を、［**回数**］で連続発光する回数を設定できます。［**周波数**］で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。 • 最大連続発光回数は［**発光量**］と［**周波数**］の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売のCamera Control Pro 2からスピードライトの設定を変更したり、スピードライトで変更した設定をカメラやCamera Control Pro 2に反映したりできます。カメラに装着するスピードライトは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応している必要があります。

フラッシュモードを設定する

設定できるフラッシュモードは、露出モードにより異なります。

項目		内容	露出モード
	[**通常発光**] （先幕シンクロ）	通常のフラッシュ撮影の場合はこのモードに設定します。露出モードを**P**または**A**にセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250～1/60秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000 ～ 1/60秒）に自動的にセットします。	**P**、**S**、**A**、**M**
	[**赤目軽減発光**] （赤目軽減）	人物撮影に適しています。撮影前にフラッシュが発光して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。 • 赤目軽減発光機能付きのスピードライトをご使用ください。 • シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。	**P**、**S**、**A**、**M**

項目		内容	露出モード
	**[通常発光+スローシャッター]**（スローシンクロ）	通常発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**
	**[赤目軽減+スローシャッター]**（赤目軽減スローシンクロ）	夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。赤目軽減発光に加え、背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードを遅くする「スローシャッター」が行われます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**A**

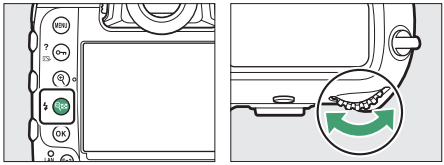
項目		内容	露出モード
REAR	[**後幕発光**]（後幕シンクロ）	通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光しますが、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 • 露出モードを**P**または**A**に設定した場合、スローシンクロモードも自動的にセットされます。 • シャッタースピードが遅くなるため、手ブレにご注意ください。 • 三脚の使用をおすすめします。	**P**、**S**、**A**、**M**
	[**発光禁止**]	発光しません。	**P**、**S**、**A**、**M**

スタジオ用大型ストロボ使用時について

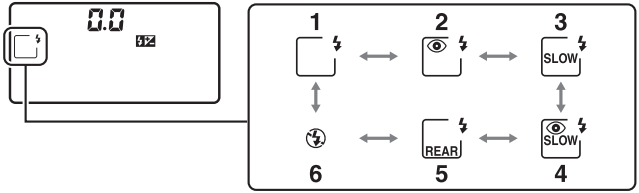
スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕発光は使用できません。

フラッシュモードを変更する

（ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すとフラッシュモードを設定できます。



• フラッシュモードは、上面表示パネルに表示されます。



1 通常発光

2 赤目軽減発光※1

3 通常発光+スローシャッター※2

4 赤目軽減+スローシャッター※1、3

5 後幕発光※4

6 発光禁止

※1 スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、フラッシュモード表示の赤目軽減マーク👁が点滅します。

※2 露出モードが**S**または**M**の場合、通常発光+スローシャッターは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に通常発光に変更されます。

※3 露出モードが**S**または**M**の場合、赤目軽減+スローシャッターは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に赤目軽減発光に変更されます。

※4 露出モードが**P**または**A**の場合は、スローシャッターも自動的にセットされ、⊖🖂（ϟ）ボタンから指を放すと図のように表示されます。

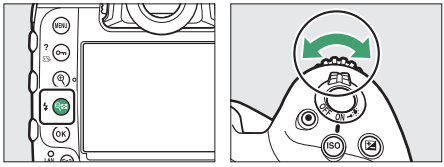


調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とはフラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

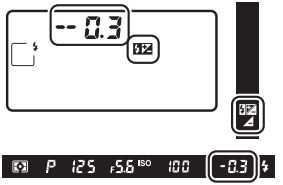
調光補正の設定方法

（ ）ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと調光補正値を設定できます。



- 調光補正は、－3段～＋1段の範囲で設定できます。
- 補正ステップは、初期設定では1/3段ステップです。調光補正のステップ幅は、カスタムメニューb3［**露出・調光補正ステップ幅**］で変更できます。

- 被写体をより明るく照らしたいときは＋側に、被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正が設定されていると、上面表示パネルとファインダー内表示にマークが表示されます。
- （）ボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



－0.3段補正

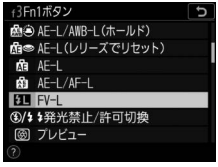
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFF にしても、補正量の設定は解除されません。

FVロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時は、調光量を固定（FVロック）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f3［カスタムボタンの機能］で任意のボタンに［FV-L］を割り当てる



2 FVロック対応スピードライトをカメラのアクセサリーシューに装着する

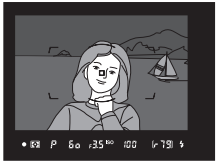
3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」の㊎AまたはAのいずれかにセットする

- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**発光モード**］を［**TTL調光**］または［**外部自動調光**］に設定します。
- SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300以外のスピードライトをカメラに装着した場合の発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



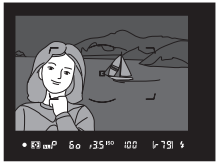


5 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にFVロックマーク（**FL**）が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

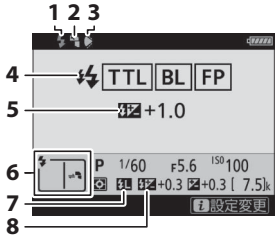
もう一度［**FV-L**］を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示のFVロックマーク（**FL**）が消灯します。

カメラに装着したスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリーシューに、ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトSB-5000、SB-500、SB-400、SB-300を取り付けた場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、ファインダー撮影時にinfoボタンを押してインフォ画面（🕮1026）を表示し、再度infoボタンを押すと表示されます。

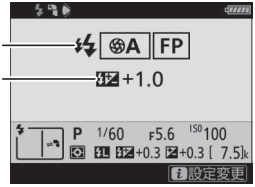
各発光モードの表示について

■■ TTL調光



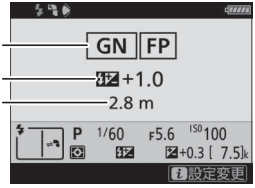
1	レディーライト（🕮641）
2	バウンスマーク（スピードライトのフラッシュヘッドを上または左右方向に設定している場合に表示されます）
3	照射角不適合マーク（照射角の設定が適切ではない場合に表示されます）
4	発光モード（🕮645） FP発光表示（🕮836）
5	TTL調光補正量（🕮645）
6	フラッシュモード（🕮131、648）
7	FVロックマーク（🕮655）
8	フラッシュ調光補正量（🕮133、653）

■■ 外部自動調光



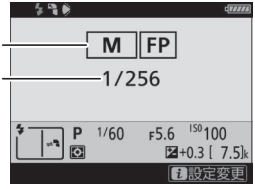
1 発光モード（🕮645）
FP発光表示（🕮836）
2 外部自動調光補正量（🕮645）

■■ 距離優先マニュアル発光



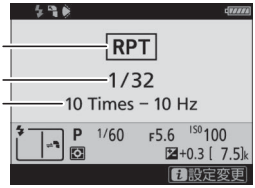
1 発光モード（🕮645）
FP発光表示（🕮836）
2 距離優先マニュアル発光調光補正量（🕮645）
3 距離（🕮645）

■■ マニュアル発光



1 発光モード（🕮645）
FP発光表示（🕮836）
2 発光量（🕮645）

■■ リピーティング発光



1	発光モード（🕮645）
2	発光量（🕮645）
3	回数（🕮645） 周波数（🕮645）

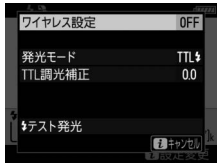
☑ フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、露出モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認をすることもできます。



☑ 設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中に i ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



複数のスピードライトをワイヤレスで制御する

増灯撮影とは

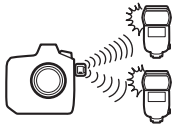
カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL））。カメラにスピードライトを装着して撮影する方法については、「スピードライトをカメラに装着して撮影する」（🕮640）をご覧ください。

この章では、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を📷、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を🔦で表しています。🔦の手順での詳しい設定方法などは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

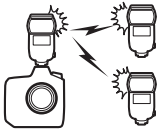
増灯撮影の方法について

増灯撮影には次の方法があります。

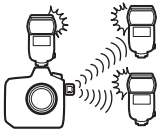
- **電波でリモートフラッシュを制御する※**（🕮665）



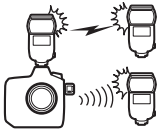
- **カメラに装着したスピードライトの光でリモートフラッシュを制御する**（🕮680）



- **電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる※**（🕮679）



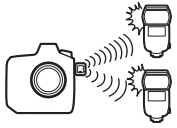
- **電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する※**（🕮694）



※電波でリモートフラッシュを制御するには、カメラにWR-R10を装着する必要があります。

電波でリモートフラッシュを制御する

カメラに装着したWR-R10からの電波によって電波制御に対応したリモートフラッシュを制御することを電波制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。電波制御に対応するスピードライトはSB-5000です。



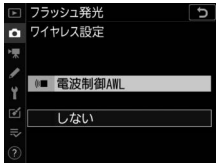
電波制御の準備をする

電波制御するには、カメラに装着したWR-R10とリモートフラッシュを無線接続する必要があります。

1 📷：WR-R10をカメラに装着する

装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 📷：静止画撮影メニュー［フラッシュ発光］の［ワイヤレス設定］で［電波制御AWL］を選ぶ

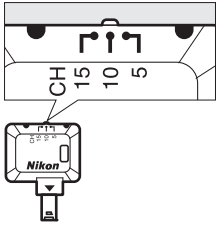


ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- 電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

3 📷：WR-R10のチャンネルを設定する

WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 : WR-R10のリンクモードを設定する

カメラのセットアップメニュー［**リモコン（WR）設定**］の［**リンクモード**］で次のどちらかを設定します。



項目	内容
［**ペアリング**］	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。
［**PINコード**］	同一の4桁の数字（PINコード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します）。

5 : リモートフラッシュとWR-R10を接続する

- スピードライトを電波制御リモートモードにします。
- リモートフラッシュのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- リモートフラッシュのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
  - [**ペアリング**] を選んだ場合、リモートフラッシュでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とリモートフラッシュのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。
  - [**PINコード**] を選んだ場合、カメラで入力したものと同じPINコードをリモートフラッシュで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのリモートフラッシュで手順5を繰り返す

7 ：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認する

電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。

☑ 電波制御で接続しているスピードライトをカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**電波リモートフラッシュ情報**］では、接続中のスピードライトを一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます（リモートフラッシュネーム設定）。



1	接続しているスピードライト
2	グループ
3	レディーライト

☑ 一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順3～6を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけでWR-R10と接続できます。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

増灯発光モードを設定して撮影する

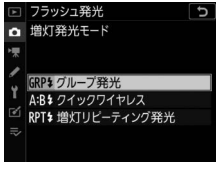
静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**増灯発光モード**］を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■■ グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

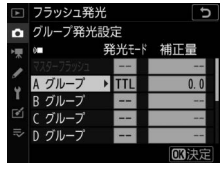
1 **📷**：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［グループ発光］を選ぶ



2 **📷**：［フラッシュ発光］画面で［グループ発光設定］を選んでマルチセレクターの㊐を押す



3 📷：発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する



- リモートフラッシュグループの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL調光を行います。
㊎A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
––（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。

4 🎛：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 📷/📱：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでⓄⓀボタンを押します（🕮697）。

6 📷：撮影する

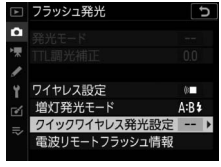
■ クイックワイヤレスモードで撮影する

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ



2 📷：［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 : クイックワイヤレスモードの設定をする

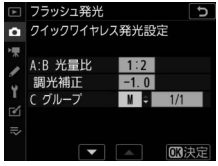
- **AグループとBグループの光量比を設定する**



- **AグループとBグループの調光補正量を設定する**



- **Cグループの設定をする**
  - [**M**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

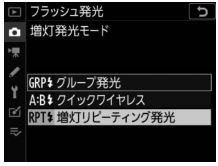
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面でiボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでボタンを押します（🕮697）。

6 : 撮影する

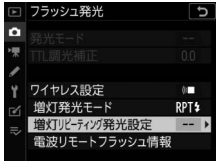
■■ 増灯リピーティング発光モードで撮影する

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 **📷：[フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ**



2 **📷：[フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセレクターの▶を押す**



3 📷：増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**
  - [**ON**] に設定すると発光し、[**--**] に設定すると発光しません。



4 🔦：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 📷/📱：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押し、[**テスト発光**]を選んでⓄⓀボタンを押します（🕮697）。

6 📷：撮影する

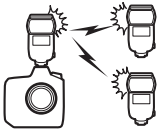
電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる



電波制御でワイヤレス増灯をした場合（🕮665）に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリーシューに装着したスピードライトも発光させることができます。

- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上に🔁((▪が表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は［**グループ発光設定**］の［**マスターフラッシュ**］、増灯リピーティング発光は［**増灯リピーティング発光設定**］の［**M**］（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの［**グループ発光設定**］の［**マスターフラッシュ**］で設定してください。

光でリモートフラッシュを制御する



カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュとして使用し、リモートフラッシュを光で制御することを光制御アドバンストワイヤレスライティングと呼びます。光制御に対応するスピードライトについては「使用できるスピードライト」（🕮1051）をご覧ください。

- SB-5000またはSB-500をマスターフラッシュとして使用する場合は、スピードライトの設定をカメラ側で行います。詳しくは「SB-5000またはSB-500を使用して撮影する」（🕮681）をご覧ください。リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- SB-5000またはSB-500以外のスピードライトを使用する場合は、スピードライト側で設定を行う必要があります。詳しくは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

SB-5000またはSB-500を使用して撮影する



SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリーシューに装着します。静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］の［**ワイヤレス設定**］で［**光制御AWL**］を選び、増灯発光モード（SB-500は［**グループ発光**］のみ）を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。

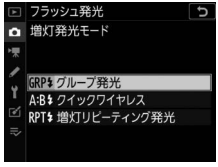
SB-5000装着時の設定について

SB-5000を装着している場合は、［**フラッシュ発光**］の設定をスピードライト側でも変更できます。

■■ グループ発光モードで撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

1 **📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［グループ発光］を選ぶ**



2 **📷：［フラッシュ発光］画面で［グループ発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す**



3 : 発光モードと調光補正量（または発光量）、チャンネルを設定する



- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

項目	内容
TTL	i-TTL調光を行います。
A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
--（非発光）	リモートフラッシュは発光しません。［**補正量**］は設定できません。



- ［**チャンネル**］で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを［**3**］に設定してください。

4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

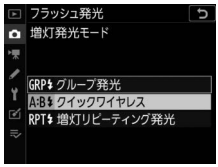
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮697）。

7 **📷/🔦：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する**

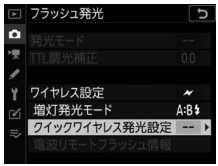
■■ クイックワイヤレスモードで撮影する（SB-5000のみ）

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定して撮影します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

1 **📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［クイックワイヤレス］を選ぶ**



2 **📷：［フラッシュ発光］画面で［クイックワイヤレス発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す**



3 : クイックワイヤレスモードの設定をする

- **AグループとBグループの光量比を設定する**



- **AグループとBグループの調光補正量を設定する**



- **Cグループの設定をする**
  - [**M**] に設定すると発光し、[**---**] に設定すると発光しません。
  - [**M**] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



- **チャンネルを設定する**
  - ［**チャンネル**］で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを［**3**］に設定してください。



4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 📷/📱：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

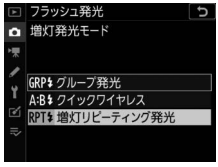
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮697）。

7 📷/📱：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

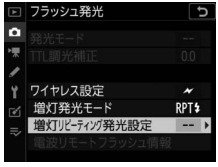
■■ 増灯リピーティング発光モードで撮影する（SB-5000のみ）

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 📷：［フラッシュ発光］画面の［増灯発光モード］で［増灯リピーティング発光］を選ぶ



2 📷：［フラッシュ発光］画面で［増灯リピーティング発光設定］を選んでマルチセレクターの▶を押す



3 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- **発光量、発光回数、周波数を設定する**



- **発光するかどうかをグループごとに設定する**
  - [**ON**] に設定すると発光し、[**--**] に設定すると発光しません。



- **チャンネルを設定する**
  - [**チャンネル**] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
  - SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [**3**] に設定してください。



4 ：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

手順3の［**チャンネル**］で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

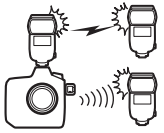
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で**i**ボタンを押して［**テスト発光**］を選びます（🕮697）。

7 📷/📱：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

光制御で増灯撮影する場合のご注意

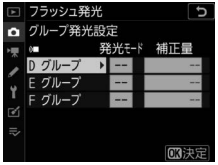
- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[**TTL**]設定時）や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓（[**A**]設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [**マスターフラッシュ**]の[**発光モード**]を[**---**]にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する



WR-R10と、光制御でマスターフラッシュとして使うスピードライト（SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500）またはSU-800をカメラに装着すると、光制御と電波制御のリモートフラッシュを併用できます。

- 電波で制御するリモートフラッシュは、全てWR-R10と接続してください（🕮665）。
- SB-500を装着した場合は、［**ワイヤレス設定**］で［**光制御/電波制御 AWL**］を選んでください。SB-500以外のスピードライトまたはSU-800を装着した場合、［**ワイヤレス設定**］は［**光制御/電波制御 AWL**］に設定されます。
- ［**増灯発光モード**］は［**グループ発光**］のみ使用できます。
- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。D～Fグループの設定画面を表示するには、［**グループ発光設定**］画面でマルチセレクターの🔼🔽を押します。

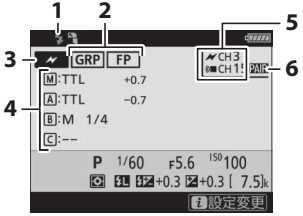


フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリーシューにSB-5000またはSB-500を取り付けて光制御でマスターフラッシュとして使う場合、またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、ファインダー撮影時にinfoボタンを押してインフォ画面（🕮1026）を表示し、再度infoボタンを押すと表示されます。

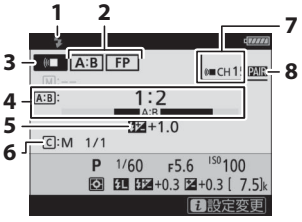
各発光モードの表示について

■■ グループ発光



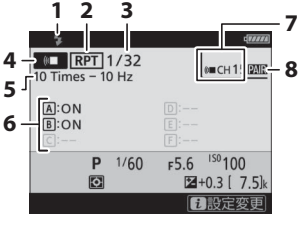
1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮777） FP発光表示（🕮836）
3	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮776）
4	各グループの制御方法※3 各グループの発光モード（🕮670、682） 調光補正量（または発光量）（🕮670、682）
5	チャンネル※2（🕮665、682）
6	リンクモード※4（🕮926）

■■ クイックワイヤレス



1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮777） FP発光表示（🕮836）
3	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮776）
4	AグループとBグループの光量比（🕮673、686）
5	調光補正量（🕮673、686）
6	Cグループの発光の有無と発光量（🕮673、686）
7	チャンネル※2（🕮665、686）
8	リンクモード※4（🕮926）

■■ 増灯リピーティング発光

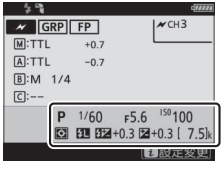


1	レディーライト※1
2	増灯発光モード（🕮777）
3	発光量（🕮676、690）
4	リモートフラッシュの制御方法※2（🕮776）
5	回数（🕮676、690） 周波数（🕮676、690）
6	各グループの発光の有無（🕮676、690）
7	チャンネル※2（🕮665、690）
8	リンクモード※4（🕮926）

※1 電波制御時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。
※2 光制御時は、電波制御時は、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして使用している場合のみです。
※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。
※4 電波制御時、または光制御と電波制御を併用している場合のみ表示されます。

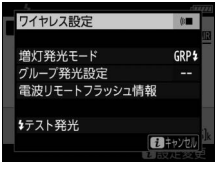
フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、露出モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認をすることもできます。



フラッシュインフォ画面表示中にiボタンで設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中にiボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[削除]	—
[再生フォルダー設定]	全てのフォルダー
[再生画面設定]	
[フォーカスポイント]	☐
[露出情報]	☐
[ハイライト]	☐
[RGBヒストグラム]	☐
[撮影情報]	☐
[統合表示]	☐
[画像のみ]	☐
[撮影基本情報]	☑
[フラッシュ情報]	☑
[ピクチャーコントロール情報]	☑
[撮影情報その他]	☑
[著作権情報]	☑
[位置情報]	☑
[IPTC情報]	☑

再生メニュー項目		初期設定
［**Wスロット同時削除の設定**］		する（選択肢あり）
［**分割記録時の再生スロット**］		スロット1
［**フィルター再生の条件設定**］		
	［**プロテクト**］	□
	［**レーティング**］	□
	［**送信指定（有線LAN/WT）**］	□
［**撮影直後の画像確認**］		しない
［**削除後の次再生画像**］		後ろのコマ
［**連続撮影後の再生画像**］		最後の画像
［**縦位置自動回転**］		する
［**画像コピー**］		—
［**非表示設定**］		—
［**スライドショー**］		
	［**再生画像の種類**］	静止画と動画
	［**インターバル設定**］	2秒

静止画撮影メニューの初期設定

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[静止画撮影メニューの管理]	A
[静止画撮影メニューの拡張]	しない
[記録フォルダー設定]	
[フォルダーグループ名変更]	NC_D6
[フォルダー番号指定]	100
[既存フォルダーから選択]	—
[ファイル名設定]	DSC
[スロット2の機能]	順次記録
[撮像範囲]	
[撮像範囲設定]	FX（36×24）
[DX自動切り換え]	する
[画質モード]	NORMAL
[画像サイズ]	
[JPEG]	サイズL
[RAW]	サイズL

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[RAW記録]	
[圧縮方式]	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード]	14ビット記録
[ISO感度設定]	
[ISO感度]	100
[感度自動制御]	しない
[制御上限感度]	102400
[ϟ使用時の制御上限感度]	フラッシュなしの設定と同じ
[低速限界設定]	オート
[ホワイトバランス]	オート：白を優先する
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール]	オート
[カスタムピクチャーコントロール]	—
[色空間]	sRGB
[アクティブD-ライティング]	しない
[長秒時ノイズ低減]	しない

静止画撮影メニュー項目		初期設定
［高感度ノイズ低減］		標準
［ヴィネットコントロール］		標準
［回折補正］		する
［自動ゆがみ補正］		しない
［フリッカー低減］		
	［フリッカー低減機能］	無効
	［フリッカー検出の表示］	する
［フラッシュ発光］		
	［発光モード］	TTL調光
	［ワイヤレス設定］	しない
	［増灯発光モード］	グループ発光
［オートブラケティング］		
	［オートブラケティングのセット］	AE・フラッシュ ブラケティング
	［コマ数］	0F
	［補正ステップ］	1.0

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［多重露出］	
［多重露出モード］	しない
［コマ数］	2
［合成モード］	加算平均
［合成前の画像を保存（RAW）］	する
［確認撮影］	する
［1コマ目の画像（RAW）の指定］	—
［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	
［HDRモード］	しない
［露出差］	オート
［スムージング］	標準
［合成前の画像を保存（RAW）］	しない

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［インターバルタイマー撮影］	
［開始日時の設定］	即時
［撮影間隔］	1分
［撮影回数×1回のコマ数］	0001×1
［露出平滑化］	する
［サイレント撮影］	する
［撮影間隔優先］	しない
［撮影間隔毎のAF駆動］	しない
［オプション］	しない
［撮影開始時の記録フォルダー］	
［新規フォルダー作成］	□
［ファイル番号リセット］	□

静止画撮影メニュー項目	初期設定
［タイムラプス動画］	
［撮影間隔］	5秒
［撮影時間］	25分
［露出平滑化］	する
［サイレント撮影］	する
［撮像範囲］	
［撮像範囲設定］	FX
［DX自動切り換え］	する
［画像サイズ/フレームレート］	1920×1080 60p
［撮影間隔優先］	しない
［撮影間隔毎のAF駆動］	しない
［動画記録先］	スロット1

静止画撮影メニュー項目			初期設定
［フォーカスシフト撮影］			
	［撮影回数］		100
	［フォーカスステップ幅］		5
	［待機時間］		0
	［露出固定］		する
	［サイレント撮影］		する
	［撮影開始時の記録フォルダー］		
		［新規フォルダー作成］	□
		［ファイル番号リセット］	□
［サイレント撮影（静止画Lv）］			しない

動画撮影メニューの初期設定

動画撮影メニュー項目	初期設定
［動画撮影メニューのリセット］	—
［ファイル名設定］	DSC
［動画記録先］	スロット1
［撮像範囲］	
［撮像範囲設定］	FX
［DX自動切り換え］	する
［画像サイズ/フレームレート］	1920×1080 60p
［動画の画質］	高画質
［動画記録ファイル形式］	MOV
［ISO感度設定］	
［制御上限感度］	102400
［Mモード時の感度自動制御］	しない
［Mモード時のISO感度］	100
［ホワイトバランス］	静止画の設定と同じ
［微調整値］	A-B: 0、G-M: 0
［色温度設定］	5000K
［プリセットマニュアル］	d-1

動画撮影メニュー項目		初期設定
［ピクチャーコントロール］		静止画の設定と同じ
［カスタムピクチャーコントロール］		—
［アクティブD-ライティング］		しない
［高感度ノイズ低減］		標準
［回折補正］		する
［フリッカー低減］		オート
［電子手ブレ補正］		しない
［マイク感度］		オート
［アッテネーター］		無効
［録音帯域］		広帯域
［風切り音低減］		しない
［ヘッドホン音量］		15
［タイムコード］		
	［タイムコード記録］	しない
	［カウントアップ方式］	レックラン
	［タイムコードの起点］	—
	［ドロップフレーム］	する

カスタムメニューの初期設定

カスタムメニュー項目		初期設定
［カスタムメニューの管理］		A
a1	［AF-Cモード時の優先］	レリーズ
a2	［AF-Sモード時の優先］	フォーカス
a3	［AFロックオン］	
	［横切りへの反応］	3
	［被写体の動き］	スムーズ
a4	［AF点数］	105点
a5	［縦/横位置フォーカスポイント切換］	しない
a6	［半押しAFレンズ駆動］	する
	［非合焦時のレリーズ］	許可
a7	［シングルポイントAFの捕捉領域］	標準
a8	［3D-トラッキング時の顔認識］	する
a9	［グループエリアAF時の顔認識］	する
a10	［グループエリアAF（C1/C2）の設定］	
	［グループエリアAF（C1）］	15×1
	［グループエリアAF（C2）］	15×1
a11	［オートエリアAF時の顔認識］	する

カスタムメニュー項目		初期設定
a12	［オートエリアAFの開始位置設定］	しない
a13	［フォーカスポイントの引き継ぎ］	オート
a14	［AFエリアモードの限定］	
	［シングルポイントAF］	☑（固定）
	［ダイナミックAF（9点）］	☑
	［ダイナミックAF（25点）］	☑
	［ダイナミックAF（49点）］	☑
	［ダイナミックAF（105点）］	☑
	［3D-トラッキング］	☑
	［グループエリアAF］	☑
	［グループエリアAF（C1）］	☑
	［グループエリアAF（C2）］	☑
	［オートエリアAF］	☑
a15	［AFモードの制限］	制限しない
a16	［フォーカスポイント循環選択］	しない
a17	［フォーカスポイント表示の設定］	
	［マニュアルフォーカス時の表示］	する
	［フォーカスポイントの明るさ設定］	標準
	［ダイナミックAF時のアシスト表示］	する

カスタムメニュー項目			初期設定
a18	[AF設定時のフォーカスリング操作]		有効
b1	[ISO感度設定ステップ幅]		1/3段
b2	[露出設定ステップ幅]		1/3段
b3	[露出・調光補正ステップ幅]		1/3段
b4	[露出補正簡易設定]		しない
b5	[マルチパターン測光]		顔認識する
b6	[中央部重点測光範囲]		φ12 mm
b7	[基準露出レベルの調節]		
		[マルチパターン測光]	0
		[中央部重点測光]	0
		[スポット測光]	0
		[ハイライト重点測光]	0
c1	[シャッターボタンAEロック]		しない
c2	[半押しタイマー]		6秒
c3	[セルフタイマー]		
		[時間]	10秒
		[撮影コマ数]	1
		[連続撮影間隔]	0.5秒

カスタムメニュー項目		初期設定
c4	[モニターのパワーオフ時間]	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10秒
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[ライブビュー表示]	10分
d1	[連続撮影速度]	
	[高速連続撮影]	14コマ/秒
	[低速連続撮影]	5コマ/秒
	[静音撮影]	1コマ撮影
d2	[連続撮影コマ数]	200
d3	[レリーズモードの限定]	
	[1コマ撮影]	☑（固定）
	[低速連続撮影]	☑
	[高速連続撮影]	☑
	[静音撮影]	☑
	[セルフタイマー]	☑
	[ミラーアップ撮影]	☑

カスタムメニュー項目		初期設定
d4	[連動レリーズモード設定]	連動する
d5	[露出ディレーモード]	しない
d6	[電子先幕シャッター]	無効
d7	[Mモード時のシャッタースピード延長]	しない
d8	[撮像範囲設定の限定]	
	[FX（36×24）]	☑（固定）
	[1.2x（30×20）]	☑
	[DX（24×16）]	☑
	[5:4（30×24）]	☑
	[1:1（24×24）]	☑
	[16:9（36×20）]	☑
d9	[連番モード]	する
d10	[ピーキング表示]	
	[ピーキングの検出]	しない
	[ピーキング表示色]	赤
d11	[格子線表示]	しない
d12	[背面表示パネルの表示]	レリーズモード
d13	[イルミネーター点灯]	しない

カスタムメニュー項目		初期設定
d14	[**連続撮影中の表示（Lv）**]	する
d15	[**光学手ブレ補正**]	する
e1	[**フラッシュ撮影同調速度**]	1/250秒
e2	[**フラッシュ時シャッタースピード制限**]	1/60秒
e3	[**フラッシュ使用時の露出補正**]	全体を補正
e4	[**ϟ使用時の感度自動制御**]	被写体と背景
e5	[**フラッシュ連続撮影時の優先**]	調光精度優先
e6	[**モデリング発光**]	する
e7	[**BKT変化要素（Mモード）**]	フラッシュ・シャッタースピード
e8	[**BKTの順序**]	[0] → [−] → [+]
e9	[**BKT自動連写の設定**]	無効

カスタムメニュー項目		初期設定
f1	[**z メニューのカスタマイズ**]	ピクチャーコントロール、 色空間、 静止画撮影メニュー切り換え、 カスタムメニュー切り換え、 フラッシュモード、 測光モード、 有線LAN/ ワイヤレストランスミッター、 アクティブD-ライティング、 AFモード、 AFエリアモード、 AFロックオン、 カスタムボタンの機能

カスタムメニュー項目		初期設定
f2	[**i メニューのカスタマイズ（Lv）**]	ピクチャーコントロール、 色空間、 ピーキング表示、 2点拡大、 フラッシュモード、 測光モード、 有線LAN/ ワイヤレストランスミッター、 アクティブD-ライティング、 AFモード、 AFエリアモード、 静止画Lv画面のホワイトバランス、 カスタムボタンの機能

カスタムメニュー項目			初期設定
f3	［**カスタムボタンの機能**］		
		［**プレビューボタン**］	プレビュー
		［**Fn1ボタン**］	撮像範囲選択
		［**Fn2ボタン**］	プレビュー
		［**縦位置Fnボタン**］	AE-L（レリーズでリセット）
		［**Fn3ボタン**］	音声メモ
		［**AF-ONボタン**］	AF-ON
		［**サブセレクター**］	フォーカスポイント選択
		［**サブセレクター中央**］	AE-L/AF-L
		［**縦位置AF-ONボタン**］	AF-ONボタンと同じ
		［**縦位置マルチセレクター**］	マルチセレクターと同じ
		［**測光モードボタン**］	測光モード
		［**BKTボタン**］	オートブラケティング
		［**動画撮影ボタン**］	設定しない
		［**レンズのフォーカス作動ボタン**］	AE-L

カスタムメニュー項目			初期設定
f4	［中央ボタンの機能］		
	［ファインダー撮影時］		フォーカスポイント 中央リセット
	［ライブビュー撮影時］		フォーカスポイント 中央リセット
	［再生時］		拡大画面との切り換え
		［拡大画面との切り換え］	等倍（100%）
f5	［シャッタースピードと絞り値のロック］		
	［シャッタースピードのロック］		しない
	［絞り値のロック］		しない
f6	［コマンドダイヤルの設定］		
	［回転方向の変更］		露出補正の設定時：□、 シャッタースピード/絞り値 設定時：□
	［メインとサブの入れ換え］		露出設定：しない、 AF設定：しない
	［絞り値の設定方法］		サブコマンドダイヤル
	［再生/メニュー画面で使用］		しない
	［サブコマンドダイヤルで画像送り］		10コマ

カスタムメニュー項目			初期設定
f7	[マルチセレクターの半押し起動]		しない
f8	[ボタンのホールド設定]		しない
f9	[インジケーターの+/−方向]		
f10	[ライブビューボタンの設定]		有効
f11	[☀スイッチの機能]		☀の点灯/消灯
f12	[1 コマ再生時のフリック操作]		
		[上にフリック]	設定しない
		[下にフリック]	設定しない
		[1コマ送りの操作方向]	左→右

カスタムメニュー項目			初期設定
g1	[**i メニューのカスタマイズ**]		ピクチャーコントロール、 ホワイトバランス、 画像サイズ/フレームレート/画質、 マイク感度、 風切り音低減、 測光モード、 有線LAN/ ワイヤレストランスミッター、 電子手ブレ補正、 AFモード、 AFエリアモード、 動画記録先、 カスタムボタンの機能
g2	[**カスタムボタンの機能**]		
		[**プレビューボタン**]	設定しない
		[**Fn1ボタン**]	設定しない
		[**Fn2ボタン**]	設定しない
		[**Fn3ボタン**]	設定しない
		[**サブセレクター中央**]	AE-L/AF-L
		[**シャッターボタン**]	静止画撮影

カスタムメニュー項目		初期設定
g3	[**中央ボタンの機能**]	フォーカスポイント中央 リセット
g4	[**ハイライト表示**]	
	[**表示パターン**]	しない
	[**ハイライト表示のしきい値**]	248

セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
［カードの初期化（フォーマット）］	—
［言語（Language）］	（国や地域により異なります）
［地域と日時］	
［現在地の設定］	（国や地域により異なります）
［日時の設定］	—
［日付の表示順］	（国や地域により異なります）
［夏時間の設定］	しない
［モニターの明るさ］	0
［モニターのカラーカスタマイズ］	A-B: 0、G-M: 0
［水準器表示］	—
［インフォ画面の表示設定］	自動
［手動］	黒文字

セットアップメニュー項目	初期設定
［AF微調節の設定］	
［AF微調節の適用］	しない
［レンズの調節と登録］	—
［未登録レンズの調節］	—
［登録済みレンズリスト］	—
［装着レンズの調節値を選択］	—
［レンズ情報手動設定］	
［レンズNo.］	1
［焦点距離（mm）］	—
［開放絞り値］	—
［イメージセンサークリーニング］	
［電源スイッチに連動］	電源ONとOFFで実行
［クリーニングミラーアップ］	—
［イメージダストオフデータ取得］	—
［ピクセルマッピング］	—
［画像コメント］	
［コメント添付］	□

セットアップメニュー項目	初期設定
［著作権情報］	
［著作権情報添付］	□
［IPTC］	
［編集と登録］	—
［削除］	—
［撮影時自動付加］	しない
［メモリーカードを使用］	—
［音声メモの設定］	
［撮影時の録音］	録音しない
［撮影時の上書き録音］	禁止
［録音の操作］	押し続けている間録音
［音声の出力］	スピーカー /ヘッドホン
［電子音］	
［電子音設定］	無効
［音量］	2
［音の高さ］	低音

セットアップメニュー項目			初期設定
［タッチ操作］			
	［タッチ操作の設定］		有効
	［グローブモード］		無効
［HDMI］			
	［出力解像度］		オート
	［詳細設定］		
		［出力レンジ］	オート
		［ライブビュー時の情報表示］	する
		［モニターの同時表示］	する
		［外部記録制御］	しない
［位置情報（内蔵）］			
	［位置情報記録］		しない
	［半押しタイマー］		有効
	［衛星による日時合わせ］		しない
	［ログ取得］		—
	［ログリスト］		—
	［情報表示］		—

セットアップメニュー項目	初期設定
［リモコン（WR）設定］	
［LEDランプの点灯］	する
［リンクモード］	ペアリング
［リモコン（WR）のFnボタンの機能］	設定しない
［機内モード］	無効
［スマートフォンと接続］	
［ペアリング（Bluetooth）］	
［Bluetooth通信機能］	無効
［送信指定（Bluetooth）］	
［撮影後自動送信指定］	しない
［Wi-Fi接続］	—
［電源OFF中の通信］	する
［位置情報（スマートフォン）］	—

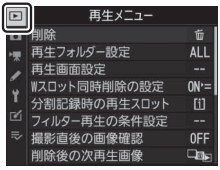
セットアップメニュー項目	初期設定
［**PCと接続（内蔵無線）**］	
［**Wi-Fi通信機能**］	無効
［**接続設定**］	—
［**オプション**］	
［**撮影後自動送信**］	しない
［**送信後ファイル削除**］	しない
［**RAW+JPEG送信設定**］	RAW+JPEG
［**JPEG＋JPEG送信設定**］	スロット1
［**全送信マーク解除**］	—
［**MACアドレス**］	—

セットアップメニュー項目	初期設定
［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］	
［有線LAN/WTの機能］	無効
［ハードウェアの選択］	有線LAN
［接続設定］	—
［オプション］	
［撮影後自動送信］	しない
［送信後ファイル削除］	しない
［RAW+JPEG送信設定］	RAW+JPEG
［JPEG＋JPEG送信設定］	スロット1
［同名ファイルの上書き］	しない
［未送信画像プロテクト］	しない
［送信記録の保存］	しない
［フォルダー送信］	—
［全送信マーク解除］	—
［HTTPログイン設定］	—
［省電力設定］	通信速度優先
［MACアドレス］	—
［認証マークの表示］	—

セットアップメニュー項目	初期設定
［電池チェック］	—
［カードなし時レリーズ］	レリーズ許可
［メニュー設定の保存と読み込み］	—
［カメラの初期化］	—
［ファームウェアバージョン］	—

[▶]再生メニュー：再生で使える便利な機能

メニュー画面で[▶]タブを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	🕮
[削除]	731
[再生フォルダー設定]	732
[再生画面設定]	733
[Wスロット同時削除の設定]	734
[分割記録時の再生スロット]	735
[フィルター再生の条件設定]	735
[撮影直後の画像確認]	735

メニュー項目	🕮
[削除後の次再生画像]	736
[連続撮影後の再生画像]	737
[縦位置自動回転]	738
[画像コピー]	738
[非表示設定]	746
[スライドショー]	748

削除

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

複数の画像を一括して削除できます。詳しくは、「複数の画像をまとめて削除する」（🕮431）をご覧ください。

項目		内容
▪▫▫ ▫▫▪	［**画像を選択して削除**］	選んだ画像を削除します。
🗑	［**削除候補画像を一括削除**］	レーティングで🗑（削除候補）に設定した全ての画像を削除します。
DATE	［**日付を選択して削除**］	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL	［**全画像を削除**］	再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 • メモリーカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。

再生フォルダー設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

項目	内容
（フォルダーグループ名）	表示されているフォルダーグループ名のフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー［**記録フォルダー設定**］の［**フォルダーグループ名変更**］で変更できます。
［**全てのフォルダー**］	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
［**記録中のフォルダー**］	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

再生画面設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

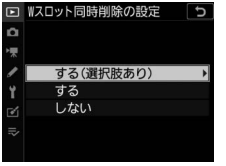
撮影時に使用したフォーカスポイントを再生画面の1コマ表示モードで表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示の種類を追加します。

- [**撮影情報**] にチェックを入れたときに表示する内容は [**撮影情報の詳細**] で設定できます。
- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの▶を押すとオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- ⓚボタンを押すと、設定を完了します。

Wスロット同時削除の設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**バックアップ記録**］、［**RAW+JPEG分割記録**］または［**JPEG+JPEG分割記録**］に設定して同時記録または分割記録した画像の一方を削除する場合に、もう一方も同時に削除するかどうかを設定できます。



項目	内容
［**する（選択肢あり）**］	一方の画像を削除しようとしたときに、削除確認の画面を表示して、同時削除するかどうかを選べます。マルチセレクターの▶を押すと、削除確認画面でどちらの選択肢にカーソルが当たっているかを設定できます。
［**する**］	削除確認の画面で［**[1]と[2]の同一画像**］が固定で表示され、［**はい**］を選ぶと同時削除を行います。
［**しない**］	同時記録していない画像と同じ削除確認の画面が表示されます。画像の同時削除は行いません。

分割記録時の再生スロット

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**RAW+JPEG分割記録**］または［**JPEG+JPEG分割記録**］に設定して分割記録したときに再生するスロットを選びます。

フィルター再生の条件設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

フィルター再生（🕮427）する場合に、どの条件の画像を再生するかを設定できます。

撮影直後の画像確認

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。［**しない**］を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、▶ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

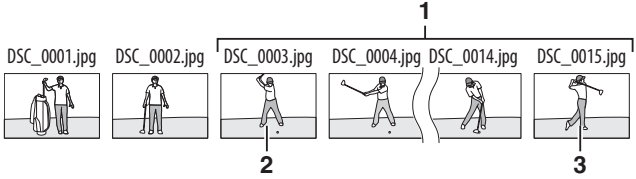
項目		内容
	［**後ろのコマ**］	• 削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 • 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
	［**前のコマ**］	• 削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 • 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
	［**直前コマ送り方向に従う**］	• 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、［**後ろのコマ**］と同じ動作になります。 • 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、［**前のコマ**］と同じ動作になります。

連続撮影後の再生画像

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。

- 再生メニュー［**撮影直後の画像確認**］が［**しない**］に設定されている場合のみ有効です。



1 最後に撮影した画像（連続撮影）

2 ［**先頭の画像**］設定時に表示

3 ［**最後の画像**］設定時に表示

縦位置自動回転

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

［**する**］のときは、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

☑ 縦位置自動回転についてのご注意

［**縦位置自動回転**］を［**する**］に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

画像コピー

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

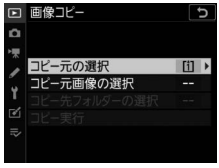
メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

項目	内容
［**コピー元の選択**］	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
［**コピー元画像の選択**］	コピーしたい画像を選びます。
［**コピー先フォルダーの選択**］	［**コピー元の選択**］で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
［**コピー実行**］	コピーを実行します。

画像のコピー方法

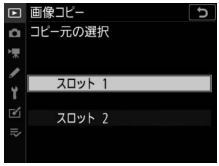
1 [コピー元の選択] を選ぶ

[**コピー元の選択**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**コピー元の選択**] 画面が表示されます。



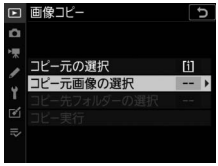
2 コピー元画像があるスロットを選ぶ

コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んでOKボタンを押すと、[**画像コピー**] 画面に戻ります。



3 [コピー元画像の選択] を選ぶ

[**コピー元画像の選択**] を選んで⊛を押すと、[**コピー元画像の選択**] 画面が表示されます。



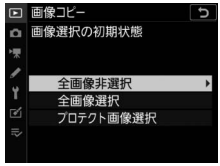
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ



- コピー元画像のあるフォルダーを選んで⊛を押すと、[**画像選択の初期状態**] 画面が表示されます。
- スロットにある全ての画像をコピーする場合は、[**スロット内の全画像**] を選んでⓀボタンを押し、手順10に進んでください。

5 画像の選択方式を選ぶ

コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



項目	内容
［**全画像非選択**］	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
［**全画像選択**］	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
［**プロテクト画像選択**］	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

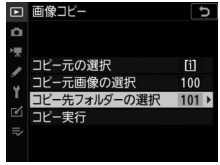
6 コピーする画像を選ぶ



- マルチセレクターで画像を選んで中央ボタンを押すと、✔が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、✔が消えます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✔を入れてから㊎ボタンを押すと、［**画像コピー**］画面に戻ります。

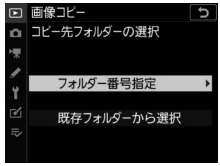
7 ［コピー先フォルダーの選択］を選ぶ

［**コピー先フォルダーの選択**］を選んで㊨を押すと、［**コピー先フォルダーの選択**］画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

コピー先フォルダーの選択方法を選んで⊛を押します。



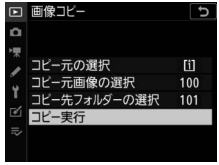
項目	内容
［**フォルダー番号指定**］	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します（🕮756）。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。
［**既存フォルダーから選択**］	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。

9 コピー先フォルダーを選ぶ

それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んでⓄⓀボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して［**画像コピー**］画面に戻ります。

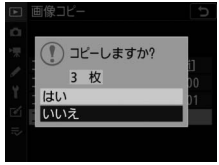
10 ［コピー実行］を選ぶ

［**コピー実行**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



11 ［はい］を選ぶ

- ［**コピーしますか？**］というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- ［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度ⓄⓀボタンを押してコピーを完了します。



画像コピーについてのご注意



- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、図のような画面が表示されます。このとき、［**上書き**］または［**全て上書き**］を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトが設定されている場合は、上書きできません。［**スキップ**］を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。［**キャンセル**］を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクトおよびレーティングの設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。

非表示設定

MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 [設定] を選ぶ



[**設定**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像の選択画面が表示されます。

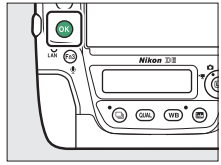
2 非表示する画像を選ぶ



- マルチセレクターを操作して画像を選び、中央ボタンを押して設定します。設定すると🖼が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、🖼が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
- 🔍ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

3 設定を完了する

㊗ボタンを押して、設定を終了します。



非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

ヒント：設定した非表示設定を一括で解除したいときは

［**非表示設定**］画面で［**一括解除**］を選ぶと、［**非表示設定**］で設定した内容を全て解除します。

スライドショー

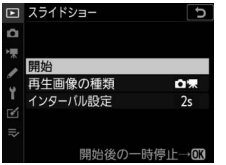
MENUボタン ➡ ▶再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。［**再生フォルダー設定**］（🕮732）で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、［**非表示設定**］（🕮746）されている画像は再生されません。

項目	内容
［**開始**］	スライドショーを開始します。
［**再生画像の種類**］	• スライドショーで再生する画像の種類を選べます。 • ［**レーティングの選択**］を選ぶと、特定のレーティングの画像のみを再生します。再生したいレーティングを選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ☐を切り換えられます。
［**インターバル設定**］	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

スライドショーを再生する

［**開始**］を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが始まります。



スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。

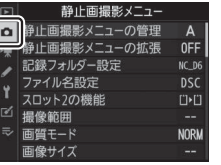
操作	内容
1コマ進む/戻る	マルチセレクターの◀を押すと前の画像が、▶を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	▲▼を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます。画像情報を［**画像のみ**］に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する	Ⓚボタンを押すと、スライドショーが一時停止します。［**再開**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に音量を調節する	🔍ボタンを押すと音量が大きくなり、🔍（⚡）ボタンを押すと小さくなります。
再生メニューに戻る	MENUボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶ボタンを押すと、スライドショーを中止して、1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、メニューが表示されます。［**再開**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが再開します。［**終了**］を選んでⓀボタンを押すと、スライドショーが終了します。



静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で静止画撮影タブを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
[**静止画撮影メニューの管理**]	752
[**静止画撮影メニューの拡張**]	754
[**記録フォルダー設定**]	755
[**ファイル名設定**]	760
[**スロット2の機能**]	761
[**撮像範囲**]	761
[**画質モード**]	761
[**画像サイズ**]	762
[**RAW記録**]	762

メニュー項目	🕮
[**ISO感度設定**]	764
[**ホワイトバランス**]	764
[**ピクチャーコントロール**]	764
[**カスタムピクチャーコントロール**]	765
[**色空間**]	765
[**アクティブD-ライティング**]	766
[**長秒時ノイズ低減**]	767
[**高感度ノイズ低減**]	768
[**ヴィネットコントロール**]	769
[**回折補正**]	770
[**自動ゆがみ補正**]	771

メニュー項目	🕮
［フリッカー低減］	772
［フラッシュ発光］	774
［オートブラケティング］	778
［多重露出］	779
［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	779

メニュー項目	🕮
［インターバルタイマー撮影］	780
［タイムラプス動画］	780
［フォーカスシフト撮影］	780
［サイレント撮影（静止画Lv）］	781

静止画撮影メニューの管理

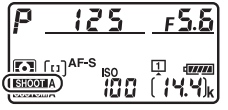
MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

カメラは、静止画撮影メニューの設定内容を、「A」～「D」の4パターン記憶できます。それぞれの静止画撮影メニューで設定した内容は、他の静止画撮影メニューには反映されません。ただし、［**静止画撮影メニューの拡張**］、［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルのデータ、［**多重露出**］、［**インターバルタイマー撮影**］、［**タイムラプス動画**］、［**フォーカスシフト撮影**］での設定は、全ての静止画撮影メニューで共通になります。

［**静止画撮影メニューの管理**］で「A」～「D」のいずれかを選んでから静止画撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。

ヒント：静止画撮影メニュー設定表示について

上面表示パネルとインフォ画面には、SHOOTと静止画撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。



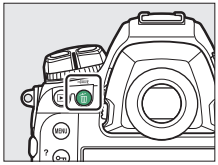


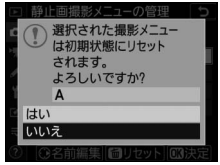
名前編集

静止画撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい静止画撮影メニューを選んでマルチセレクターの▶を押します。名前は20文字まで入力できます。

静止画撮影メニューのリセット

静止画撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい静止画撮影メニューを選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、選んだ静止画撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します。





- 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまではリセットできません。

静止画撮影メニューの拡張

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

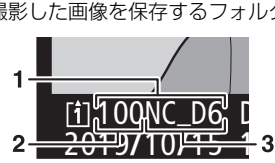
［**する**］を選ぶと、静止画撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モード**S**、**M**のみ）、絞り値（露出モード**A**、**M**のみ）、フラッシュモードを記憶できます。

- ［**静止画撮影メニューの管理**］で「A」～「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の静止画撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- ［**しない**］を選ぶと、［**する**］を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードに戻ります。

記録フォルダー設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。



1 フォルダー名
2 フォルダー番号
3 フォルダーグループ名

フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「NC_D6」というフォルダーグループ名が付きます。［**フォルダーグループ名変更**］では、新規フォルダーを作成する場合の「NC_D6」の5文字を任意に変更できます。

- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で🗑（RESET）ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

フォルダー番号指定

画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ



- [**フォルダー番号指定**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**フォルダー番号指定**] 画面が表示されます。
- [**フォルダー番号指定**] 画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー [**スロット2の機能**] の設定によって異なります。

2 フォルダー番号の桁を選び、番号を変更する

- ◀▶を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。
- ▲▼を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

3 フォルダー番号を設定する

- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（🗀、🗁、🗎）が表示されます。🗀または🗁が表示されたフォルダーを選んでⓄKボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力してⓄKボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、**MENU**ボタンを押してください。

フォルダーマークについて

［**フォルダー番号指定**］画面では、画像の入っていないフォルダーのときは🗀、フォルダー内のファイル数が5000個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは🗎、その他のフォルダーのときは🗁のフォルダーマークが表示されます。🗎が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

[**既存フォルダーから選択**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[**既存フォルダーから選択**] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

▲▼を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- ⓚボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

- フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- ただし次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。
  - フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
  - 動画撮影時に、動画撮影メニュー［**画像サイズ/フレームレート**］および［**動画の画質**］の設定を変更した場合

多数のフォルダーや画像が記録されたメモリーカードを使用する場合

メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。［**ファイル名設定**］では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（凸86）をご覧ください。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
  - NEF：RAWの場合
  - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
  - MOV：MOV形式の動画の場合
  - MP4：MP4形式の動画の場合
  - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニュー［**色空間**］で［**Adobe RGB**］を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録された画像のファイル名は同じです。RAW画像とJPEG画像を同時記録した場合、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

スロット2の機能

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するときの、スロット2の機能を設定できます。詳しくは、「2枚のメモリーカードに記録する（スロット2の機能）」（🕮308）をご覧ください。

撮像範囲

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

撮像範囲についての設定ができます。詳しくは、「撮像範囲に関する設定を変更する」（🕮136）をご覧ください。

画質モード

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。詳しくは、「画質モードを変更する」（🕮142）をご覧ください。

画像サイズ

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

画像を記録するときのJPEG画像またはRAW画像の画像サイズ（大きさ）を設定できます。詳しくは、「画像サイズを変更する」（🕮145）をご覧ください。

RAW記録

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

RAW画像を記録するときの圧縮方式および記録ビットモードを設定できます。

圧縮方式

項目		内容
ON	［**ロスレス圧縮RAW**］	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は［**非圧縮RAW**］と同等の画質になります。
ON	［**圧縮RAW**］	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。［**非圧縮RAW**］に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は［**非圧縮RAW**］とほぼ同等の画質になります。
［**非圧縮RAW**］		圧縮しないため、［**ロスレス圧縮RAW**］や［**圧縮RAW**］に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

記録ビットモード

項目		内容
12-bit	［**12ビット記録**］	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit	［**14ビット記録**］	RAW画像を14ビットで記録します。［**12ビット記録**］の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは［**12ビット記録**］よりも大きくなります。

ISO感度設定

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます。詳しくは、「光に対する感度を設定する（ISO感度）」（🕮213）をご覧ください。

ホワイトバランス

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。詳しくは、「光源に合わせて見た目に近い色で撮影する（ホワイトバランス）」（🕮221）をご覧ください。

ピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。詳しくは、「画像の仕上がりを調整する（ピクチャーコントロール）」（🕮271）をご覧ください。

カスタムピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。詳しくは「カスタムピクチャーコントロールを登録する」（🕮276）をご覧ください。

色空間

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。［**sRGB**］色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。
［**Adobe RGB**］色空間は［**sRGB**］色空間に比べて色域が広いため、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、このカメラで設定した色空間と異なる設定の色空間に置き換えられることがあります。NX Studioをお使いになると、このカメラで設定した色空間で画像を開くことができます。

Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネージメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブD-ライティング

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。詳しくは「アクティブD-ライティングで撮影する」（🕮281）をご覧ください。

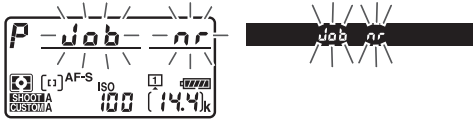
長秒時ノイズ低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

項目	内容
［**する**］	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
［**しない**］	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

- 長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、上面表示パネルとファインダー内表示に**Job nr**が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



長秒時ノイズ低減についてのご注意

処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

項目	内容
［**強め**］	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。ノイズ低減の効果は、強い順に［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
［**標準**］	
［**弱め**］	
［**しない**］	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は［**弱め**］に設定したときよりもさらに弱くなります。

ヴィネットコントロール

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

項目	内容
▢H［**強め**］	効果が強い順に、［**強め**］、［**標準**］、［**弱め**］になります。
▢N［**標準**］	
▢L［**弱め**］	
［**しない**］	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
  - 静止画撮影メニューの［**多重露出**］を設定しているとき
  - 動画撮影時
- JPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

回折補正

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**する**］にすると、レンズの絞りを絞り込んだときに画像の解像感が低下する、回折現象を補正します。

- 非CPUレンズをお使いの場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］で使用するレンズを登録すると、回折補正の効果が適用されます。

自動ゆがみ補正

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

［**する**］にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- ［**自動ゆがみ補正**］は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

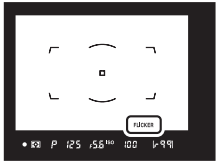
自動ゆがみ補正についてのご注意

- ［**する**］の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］を［**する**］に設定するか、［**撮像範囲設定**］を［**DX (24×16)**］に設定してください。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

フリッカー低減

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ファインダー撮影時に蛍光灯や水銀灯などの光源下で発生する、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）の影響を低減できます。フリッカー現象が発生している場合、撮影した画像の一部に露出むらが生じたり、連続撮影時に露出や色味にばらつきが生じることがあります。

項目	内容
［**フリッカー低減機能**］	［**有効**］にすると、「フリッカー現象」の影響が少ないタイミングで撮影できます。 • ［**有効**］に設定した場合、連続撮影時に撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
［**フリッカー検出の表示**］	フリッカーを検出したとき、ファインダー内に**FLICKER**アイコンを表示するかどうかを設定できます。 • ［**フリッカー低減機能**］を［**有効**］、［**フリッカー検出の表示**］を［**する**］にしてファインダー撮影する場合、フリッカー検出時にシャッターボタンを半押しするとファインダー内に**FLICKER**アイコンが点灯します。**FLICKER**アイコンが点滅する場合は［**フリッカー低減機能**］の設定が［**無効**］になっています。 

フリッカー低減の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー［**フリッカー低減**］が無効になります。

- ライブビュー撮影時
- レリーズモードが**MUP**の場合
- インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画、またはフォーカスシフト撮影を行うときに、それぞれの機能の［**サイレント撮影**］を［**する**］にしている場合
- HDRモードに設定している場合
- 露出ディレーモードが有効の場合
- シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合

フリッカー低減についてのご注意

- 撮影の前に、試し撮りをすることをおすすめします。
- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。また、連続撮影時は撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。

フラッシュ発光

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー



別売のスピードライトを取り付けた場合の発光モードや補正量などを設定したり、ワイヤレス増灯撮影時の設定を行います。

- 別売スピードライトをカメラに取り付けた場合の撮影については「スピードライトをカメラに装着して撮影する」（🕮640）を合わせてご覧ください。
- 別売スピードライトをワイヤレスで制御した場合の撮影については「複数のスピードライトをワイヤレスで制御する」（🕮663）を合わせてご覧ください。

発光モード

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合のスピードライトの発光モードや補正量などを設定できます。

- 選んだ項目によって［**発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更されます。
- SB-5000、SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。
- SB-5000はスピードライト本体でも設定できます。

項目	内容
［**TTL調光**］	スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
［**外部自動調光**］	スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。
［**距離優先マニュアル発光**］	スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。
［**マニュアル発光**］	指定した発光量でスピードライトが発光します。
［**リピーティング発光**］	1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

ワイヤレス設定

複数のスピードライトを同時に発光させて撮影（ワイヤレス増灯撮影）する場合に、制御方法を選びます。カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着したときのみ表示されます。

項目		内容
↗	［**光制御AWL**］	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します（🕮680）。
↗/((■	［**光制御/電波制御AWL**］	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います（🕮694）。
((■	［**電波制御AWL**］	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します（🕮665）。
［**しない**］		リモートフラッシュの制御を行いません。

増灯発光モード

フラッシュの増灯発光モードを設定できます。選んだ項目によって［**増灯発光モード**］の下に表示されるメニュー項目が変更され、それぞれの増灯発光モードでの設定が変更できます。

項目		内容
GRP	［**グループ発光**］	グループごとに発光モードを設定できます（🕮670、682）。
A:B	［**クイックワイヤレス**］	リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します（🕮673、686）。
RPT	［**増灯リピーティング発光**］	1回の露光中に、増灯したスピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます（🕮676、690）。

電波リモートフラッシュ情報

電波制御で接続されているスピードライトの情報を表示します。



オートブラケティング

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。詳しくは、「明るさやWBなどを変えながら撮影する（オートブラケティング）」（🕮249）をご覧ください。

項目	内容
［**オートブラケティングのセット**］	オートブラケティングの種類を設定できます。 • ［**AE・フラッシュブラケティング**］：露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。 • ［**AEブラケティング**］：露出値（AE）を変えながら撮影します。 • ［**フラッシュブラケティング**］：フラッシュの発光量を変えながら撮影します。 • ［**WBブラケティング**］：ホワイトバランスの色温度を変えながら撮影します。 • ［**ADLブラケティング**］：アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。
［**コマ数**］	オートブラケティングで撮影するコマ数を設定できます。

項目	内容
［**補正ステップ**］	［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］以外の場合、ブラケティングの変化の度合いを設定できます。
［**効果の度合い**］	［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、アクティブD-ライティングの効果の度合いを設定できます。

多重露出

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。詳しくは、「複数の画像を重ねて1枚の画像として写し込む（多重露出）」（🕮318）をご覧ください。

HDR（ハイダイナミックレンジ）

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。詳しくは「HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う」（🕮283）をご覧ください。

インターバルタイマー撮影

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。詳しくは、「設定した間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）」（🕮331）をご覧ください。

タイムラプス動画

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。詳しくは、「静止画をつないで動画にする（タイムラプス動画）」（🕮348）をご覧ください。

フォーカスシフト撮影

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行います。ピント面の異なる複数の画像を合成して被写界深度の深い画像を作成する、深度合成の素材を撮影できます。詳しくは、「ピント位置を変えながら連続撮影する（フォーカスシフト撮影）」（🕮360）をご覧ください。

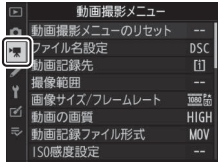
サイレント撮影（静止画Lv）

MENUボタン ➡ 静止画撮影メニュー

ライブビュー撮影時に電子シャッターを使用して、シャッター動作による振動とシャッター音を出さずに撮影できます。詳しくは、「電子シャッターを使って撮影する（サイレント撮影（静止画Lv））」（🕮374）をご覧ください。

動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能

メニュー画面で動画タブを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
[動画撮影メニューのリセット]	783
[ファイル名設定]	783
[動画記録先]	783
[撮像範囲]	784
[画像サイズ/フレームレート]	784
[動画の画質]	785
[動画記録ファイル形式]	785
[ISO感度設定]	786
[ホワイトバランス]	787
[ピクチャーコントロール]	788
[カスタムピクチャーコントロール]	788

メニュー項目	🕮
[アクティブD-ライティング]	788
[高感度ノイズ低減]	789
[回折補正]	789
[フリッカー低減]	790
[電子手ブレ補正]	791
[マイク感度]	792
[アッテネーター]	793
[録音帯域]	793
[風切り音低減]	794
[ヘッドホン音量]	794
[タイムコード]	795

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

ファイル名設定

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます（🕮760）。

動画記録先

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。

撮像範囲

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時の撮像範囲を変更できます。

DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに、自動的に撮像範囲を［**DX**］に切り換えるかどうかを設定できます。

画像サイズ/フレームレート

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画を撮影するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。詳しくは、「画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について」（凸294）をご覧ください。

動画の画質

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画の画質を［**高画質**］と［**標準**］から選べます。詳しくは、「画像サイズ/フレームレートおよび動画の画質について」（🕮294）をご覧ください。

動画記録ファイル形式

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

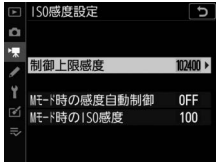
動画のファイル形式をMOVとMP4から選べます。

- 動画のファイル形式によって、音声の記録方式も異なります。MOVの場合はリニアPCM、MP4の場合はAACで記録されます。

ISO感度設定

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



項目	内容
［**制御上限感度**］	• 感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 5）を設定できます。 • 露出モードが**P**、**S**、または**A**の場合と、露出モード**M**で［**Mモード時の感度自動制御**］が［**する**］の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。
［**Mモード時の感度自動制御**］	• ［**する**］：露出モードが**M**のときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。 • ［**しない**］：露出モードが**M**のときに、［**Mモード時のISO感度**］で設定したISO感度に固定されます。 • 露出モードが**M**以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
［**Mモード時のISO感度**］	露出モード**M**での動画撮影時のISO感度（100～Hi 5）を設定できます。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、［**ISO感度設定**］の［**制御上限感度**］を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

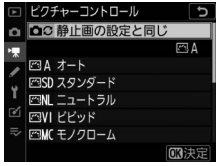
動画撮影時のホワイトバランスを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります（🕮764）。



ピクチャーコントロール

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。［**静止画の設定と同じ**］を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります（🕮764）。



カスタムピクチャーコントロール

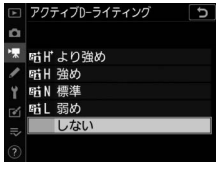
MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（🕮765）。

アクティブD-ライティング

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時のアクティブD-ライティングを設定できます（🕮281）。



高感度ノイズ低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します（🕮768）。

回折補正

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

動画撮影時の回折補正を設定できます（🕮770）。

フリッカー低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

ライブビュー表示中や動画記録中に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ［**オート**］をお使いください。［**オート**］にしていても、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、［**50 Hz**］と［**60 Hz**］から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では［**50 Hz**］を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では［**60 Hz**］を選んでください。

フリッカー低減についてのご注意

- ［**オート**］に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをすることをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 露出モードが**M**以外の場合、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、露出モードを**M**に設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
  - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
  - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

電子手ブレ補正

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

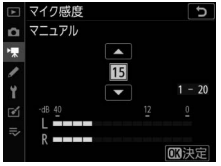
動画撮影時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	• 動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。 • 動画の画像サイズを3840×2160または1920×1080クロップに設定している場合、電子手ブレ補正は機能しません。 • ［**する**］に設定すると、画角が小さくなり表示が少し拡大されます。 • 動画のISO感度の上限は102400に制限されます。
［**しない**］	電子手ブレ補正を行いません。

マイク感度

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵の動画用マイクまたは外部マイクの感度の程度を設定します。

項目	内容
［**オート**］	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
［**マニュアル**］	マイク感度を手動調整します。［**1**］～［**20**］の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
［**録音しない**］	音声は記録しません。

音声が記録されていない動画の表示について

［**マイク感度**］を［**録音しない**］にして撮影した動画の場合、🔇（音声なしマーク）が表示されます。



アッテネーター

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**有効**］を選ぶと、大音量の環境下で動画撮影をするときに、マイク感度を減衰させて音割れを抑えます。

録音帯域

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

内蔵の動画用マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。

項目		内容
WIDE	［**広帯域**］	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
VOICE	［**音声帯域**］	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

［**する**］を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵の動画用マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で［**風切り音低減**］を［**する**］に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

ヘッドホン音量

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

ヘッドホン音量を、▲▼を押して調整できます。

タイムコード

MENUボタン ➡ 動画撮影メニュー

フレームごとに「時・分・秒・フレーム」の情報（タイムコード）を記録した動画を撮影できます。タイムコードはファイル形式がMOVの動画にのみ記録できます。あらかじめセットアップメニュー［**地域と日時**］で日時が正確に設定されていることを確認してください。

項目	内容
［**タイムコード記録**］	• ［**する**］：動画にタイムコードを記録します。画像モニターにタイムコードが表示されます。 • ［**する（HDMI外部出力あり）**］：カメラと外部レコーダーをHDMIケーブルで接続している場合、外部レコーダーに記録される動画にタイムコードを記録します。外部レコーダーはAtomos社製Monitor Recorder（SHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ）に対応しています。 • ［**しない**］：タイムコードを記録しません。

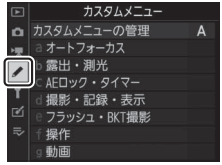
項目	内容
［**カウントアップ方式**］	• ［**レックラン**］：動画記録中のみタイムコードをカウントアップします。 • ［**フリーラン**］：常にタイムコードをカウントアップします。カメラの電源がOFFになっている場合もカウントアップしています。
［**タイムコードの起点**］	• ［**リセット**］：現在表示されているタイムコードをリセットして「00:00:00.00」に戻します。 • ［**手動入力**］：時、分、秒、フレームをそれぞれ手動で設定できます。 • ［**現時刻**］：カメラに設定されている現在の時刻をそのままタイムコードとして使用します。
［**ドロップフレーム**］	［**する**］に設定すると、動画のフレームレートが30fpsまたは60fpsの場合に生じる実時間とタイムコードのずれを補正します。

HDMI接続時のご注意

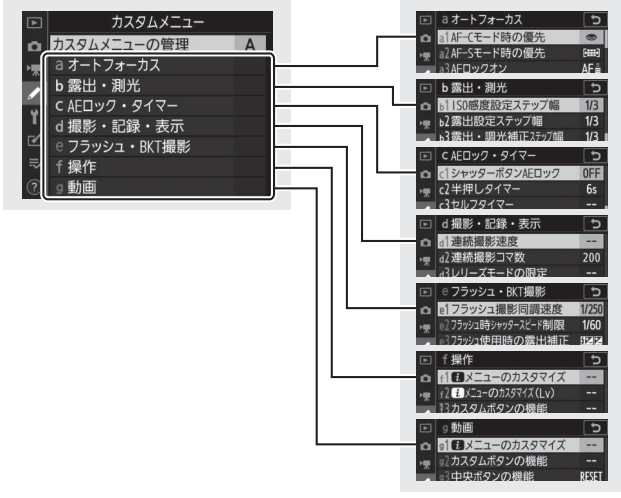
HDMI接続でテレビなどに外部出力している場合に、［**タイムコード記録**］が［**する（HDMI外部出力あり）**］に設定されていると、画像が乱れることがあります。

カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定

メニュー画面で✎タブを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。



カスタムメニューの項目は次の通りです。※1

メニュー項目		🕮
［**カスタムメニューの管理**］		802
a［**オートフォーカス**］		
a1	［**AF-Cモード時の優先**］	804
a2	［**AF-Sモード時の優先**］	805
a3	［**AFロックオン**］	805
a4	［**AF点数**］	807
a5	［**縦/横位置フォーカスポイント切換**］	808
a6	［**半押しAFレンズ駆動**］	810
a7	［**シングルポイントAFの捕捉領域**］	811
a8	［**3D-トラッキング時の顔認識**］	811
a9	［**グループエリアAF時の顔認識**］	812
a10	［**グループエリアAF（C1/C2）の設定**］	812
a11	［**オートエリアAF時の顔認識**］	812
a12	［**オートエリアAFの開始位置設定**］	813
a13	［**フォーカスポイントの引き継ぎ**］	813
a14	［**AFエリアモードの限定**］	814
a15	［**AFモードの制限**］	815
a16	［**フォーカスポイント循環選択**］	815
a17	［**フォーカスポイント表示の設定**］	815
a18	［**AF設定時のフォーカスリング操作**］※2	817

メニュー項目		🕮
b［露出・測光］		
b1	［**ISO感度設定ステップ幅**］	818
b2	［**露出設定ステップ幅**］	818
b3	［**露出・調光補正ステップ幅**］	818
b4	［**露出補正簡易設定**］	819
b5	［**マルチパターン測光**］	820
b6	［**中央部重点測光範囲**］	820
b7	［**基準露出レベルの調節**］	821
b8	［**絞り値変化時の露出維持**］	1144
c［**AEロック・タイマー**］		
c1	［**シャッターボタンAEロック**］	822
c2	［**半押しタイマー**］	822
c3	［**セルフタイマー**］	823
c4	［**モニターのパワーオフ時間**］	823

メニュー項目		🕮
d［撮影・記録・表示］		
d1	［**連続撮影速度**］	824
d2	［**連続撮影コマ数**］	825
d3	［**レリーズモードの限定**］	826
d4	［**連動レリーズモード設定**］	826
d5	［**露出ディレーモード**］	827
d6	［**電子先幕シャッター**］	827
d7	［**Mモード時のシャッタースピード延長**］	828
d8	［**撮像範囲設定の限定**］	829
d9	［**連番モード**］	830
d10	［**ピーキング表示**］	832
d11	［**格子線表示**］	832
d12	［**背面表示パネルの表示**］	833
d13	［**イルミネーター点灯**］	833
d14	［**連続撮影中の表示（Lv）**］	835
d15	［**光学手ブレ補正**］※3	835

メニュー項目		🕮
e［フラッシュ・BKT撮影］		
e1	［フラッシュ撮影同調速度］	836
e2	［フラッシュ時シャッタースピード制限］	838
e3	［フラッシュ使用時の露出補正］	838
e4	［ϟ使用時の感度自動制御］	839
e5	［フラッシュ連続撮影時の優先］	840
e6	［モデリング発光］	840
e7	［BKT変化要素（Mモード）］	841
e8	［BKTの順序］	842
e9	［BKT自動連写の設定］	843

メニュー項目		🕮
f［操作］		
f1	［▮メニューのカスタマイズ］	844
f2	［▮メニューのカスタマイズ（Lv）］	846
f3	［カスタムボタンの機能］	850
f4	［中央ボタンの機能］	863
f5	［シャッタースピードと絞り値のロック］	867
f6	［コマンドダイヤルの設定］	867
f7	［マルチセレクターの半押し起動］	872
f8	［ボタンのホールド設定］	872
f9	［インジケーターの＋/－方向］	873
f10	［ライブビューボタンの設定］	874
f11	［☀スイッチの機能］	874
f12	［1 コマ再生時のフリック操作］	875
f13	［サブセレクター中央を優先］	1146

メニュー項目		🕮
g［**動画**］		
g1	［**メニューのカスタマイズ**］	877
g2	［**カスタムボタンの機能**］	879
g3	［**中央ボタンの機能**］	884
g4	［**ハイライト表示**］	884

※1 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（✱）を表示します。
※2 このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。
※3 手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。

カスタムメニューの管理

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」～「D」の4パターン記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

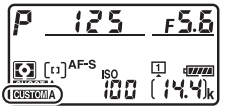
［**カスタムメニューの管理**］で「A」～「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。

名前編集

カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセレクターの⊛を押します。名前は20文字まで入力できます。

ヒント：カスタムメニュー設定表示について

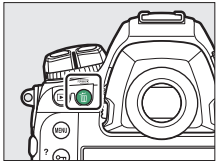
上面表示パネルとインフォ画面には、CUSTOMとカスタムメニュー名（「A」～「D」）が表示されます。

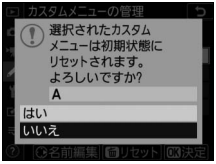




カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで🗑（FORMAT）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します。





a：オートフォーカス

a1：AF-Cモード時の優先

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFモードが**AF-C**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
	［**フォーカス/レリーズ**］	撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するとき、1コマ目は撮影タイミングよりピント合わせを優先します。2コマ目以降はピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。連続撮影時に1コマ目のピント状態を優先したいときにお使いください。
	［**レリーズ/フォーカス**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

AFモードが**AF-C**のときは、［**AF-Cモード時の優先**］の設定にかかわらずにフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2：AF-Sモード時の優先

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

AFモードが**AF-S**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**レリーズ**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
	［**フォーカス**］	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

AFモードが**AF-S**のときに、シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行い、そのまま半押しを続けると、［**AF-Sモード時の優先**］の設定にかかわらずフォーカスロックします。

a3：AFロックオン

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

AFモードが**AF-C**のときに、カメラと被写体の間を障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。



横切りへの反応

項目	内容
［**5（鈍感）**］	カメラと被写体の間を障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。 • ［**5（鈍感）**］に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。 • ［**1（敏感）**］に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。
［**4**］	
［**3**］	
［**2**］	
［**1（敏感）**］	

- AFエリアモードが［**3D-トラッキング**］の場合は、常に［**3**］を選んだときと同じ動作になります。
- AFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合は、［**2**］、［**1（敏感）**］に設定していても、［**3**］を選んだときと同じ動作になります。

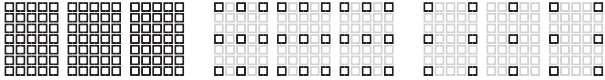
被写体の動き

項目	内容
［**スムーズ**］	一定のスピードの被写体を撮影する場合にピントが不安定になることを防ぎます。
［**ランダム**］	動作の速度が急激に変わるような被写体を撮影する場合にピント合わせの追従性が向上します。

a4：AF点数

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

ファインダー撮影時にAFエリアモードが［**オートエリアAF**］以外の場合、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。



［**105点**］　［**27点**］　［**15点**］

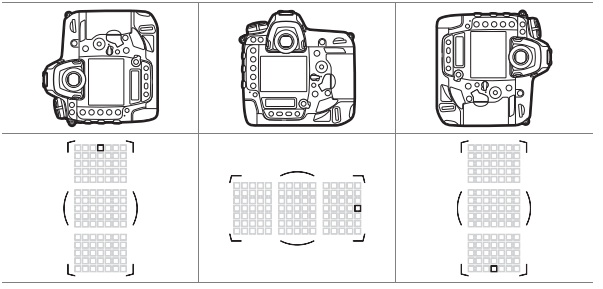
- ［**27点**］または［**15点**］に設定すると、フォーカスポイントの位置を素早く動かせます。
- AFエリアモードが［**グループエリアAF**］の場合、選べる範囲が異なります。
- ［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］の場合、設定しているフォーカスエリアの形状によって選べる範囲が異なります。

a5：縦/横位置フォーカスポイント切換

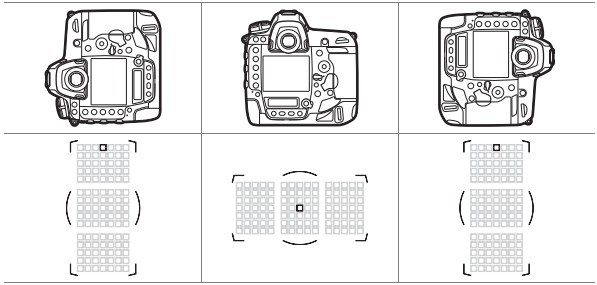
MENUボタン ➡ カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントとAFエリアモードを設定できます。フォーカスポイントの位置は、ファインダー撮影時のみ設定できます。

- [**しない**] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



- [**フォーカスポイント**] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。[**フォーカスポイントとAFエリアモード**] に設定した場合、フォーカスポイントに加えてAFエリアモードも個別に設定できます。



a6：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。
［**しない**］	シャッターボタンを半押ししてもピント合わせを行いません。

- ［**しない**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［**非合焦時のレリーズ**］を設定できます。

項目	内容
［**許可**］	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
［**禁止**］	• 次の場合、ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。 - a1［**AF-Cモード時の優先**］を［**フォーカス**］に設定してAFエリアモードを［**オートエリアAF**］以外に設定したとき - a2［**AF-Sモード時の優先**］を［**フォーカス**］に設定してAFエリアモードを［**オートエリアAF**］以外に設定したとき • **AF-ON**ボタンなどを使用してピントを合わせてからシャッターボタンを全押ししてください。

a7：シングルポイントAFの捕捉領域

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードが［**シングルポイントAF**］および［**ダイナミックAF**］の場合に、ピント合わせをするための捕捉領域を設定できます。

項目	内容
［**標準**］	選択したフォーカスポイント付近の情報を使用して被写体をとらえます。
［**広め**］	選択したフォーカスポイントから被写体が少し外れても、周辺の情報を使用して被写体をとらえます。被写体の動きが速い場合に便利です。 • AFエリアモードが［**シングルポイントAF**］の場合に［**広め**］に設定すると、上面表示パネルおよびファインダー内表示のAFエリアモードの表示が**S˜**に変更されます。

a8：3D-トラッキング時の顔認識

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードが［**3D-トラッキング**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a9：グループエリアAF時の顔認識

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードが［**グループエリアAF**］、［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a10：グループエリアAF（C1/C2）の設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**グループエリアAF（C1）**］または［**グループエリアAF（C2）**］のAFエリアの形状を17パターンから選べます。詳しくは「グループエリアAFの形状を設定する」（🕮167）をご覧ください。

a11：オートエリアAF時の顔認識

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a12：オートエリアAFの開始位置設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］に設定すると、AFモードが**AF-C**でAFエリアモードが［**オートエリアAF**］の場合にマルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。選んだフォーカスポイントで一度ピント合わせを行った後に、通常のオートエリアAFが動作します。

a13：フォーカスポイントの引き継ぎ

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］で任意のボタンに［**AFエリアモード**］または［**AFエリアモード+AF-ON**］を割り当て、ボタンを押してAFエリアモードを変更した場合にフォーカスポイントの位置を変更後のAFエリアモードでも引き継ぐかを設定できます。フォーカスポイントの引き継ぎは、シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行っている間にAFエリアモードを変更した場合に行われます。

- 元のAFエリアモードが［**オートエリアAF**］などのカメラが自動でフォーカスポイントを選ぶ設定で、ボタンを押している間のAFエリアモードが自分でフォーカスポイントを選ぶ設定の場合に有効です。

項目	内容
[**オート**]	AFエリアモードを変更する前にカメラが自動で選んだフォーカスポイントを使用します。
[**しない**]	前回のピント合わせ時に自分で選んだフォーカスポイントを使用します。

a14：AFエリアモードの限定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べるAFエリアモードを設定できます。

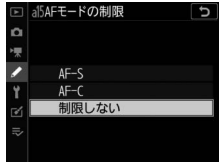


- 項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。チェックボックスをオン☑にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
- ⓞⓚボタンを押すと、設定を完了します。
- [**AFエリアモードの限定**] ではファインダー撮影時のAFエリアモードを限定できます。ライブビュー時のAFエリアモードは限定しません。

a15：AFモードの制限

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードを固定できます。［**AF-S**］または［**AF-C**］を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもAFモードは変わりません。



a16：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

［**する**］を選んだ場合、たとえば右端のフォーカスポイントを選んでいるときにマルチセレクターの▶を押すと、フォーカスポイントが左端に移動します。

a17：フォーカスポイント表示の設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

マニュアルフォーカス時の表示

項目	内容
［**する**］	マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。
［**しない**］	フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

フォーカスポイントの明るさ設定

ファインダー内のフォーカスポイントの明るさを設定できます。

ダイナミックAF時のアシスト表示

ダイナミックAFモード時に、自分で選んだフォーカスポイントの周辺にアシスト用のフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。

項目	内容
［**する**］	周辺のフォーカスポイントも同時に表示します。
［**しない**］	自分で選んだフォーカスポイントのみ表示します。



［**する**］（［**ダイナミックAF（9点）**］の例）



［**しない**］

a18：AF設定時のフォーカスリング操作

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。レンズのフォーカスリングの操作を有効にするかどうかを設定できます。

項目	内容
［**有効**］	オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。
［**無効**］	フォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

b：露出・測光

b1：ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2：露出設定ステップ幅

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。

b3：露出・調光補正ステップ幅

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

±ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

項目	内容
［**する（自動リセット）**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
［**する**］	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
［**しない**］	±ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

- 露出モード**P**、**S**、**A**の場合に有効です。露出モード**M**の場合、露出補正簡易設定は機能しません。
- 露出補正値を設定できるコマンドダイヤルは、露出モードによって異なります。

b5：マルチパターン測光

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

測光モードが［**マルチパターン測光**］の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

項目		内容
ON	［**顔認識する**］	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
OFF	［**顔認識しない**］	カメラが顔を認識した場合も顔を優先した測光を行いません。

b6：中央部重点測光範囲

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

測光モードを［**中央部重点測光**］にすると、ファインダー中央部を重点的に測光して露出値を決定します。b6［**中央部重点測光範囲**］では、［**中央部重点測光**］設定時の測光範囲を変更できます。

- 非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E EDを装着しているときの測光範囲は、φ12mm相当になります。

b7：基準露出レベルの調節

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（＋側）または暗め（－側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b7［**基準露出レベルの調節**］は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニュー b7の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニュー b7［**基準露出レベルの調節**］を0以外に設定しても、±マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b7の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c：AEロック・タイマー

c1：シャッターボタンAEロック

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。

項目		内容
ON	［**する（半押し）**］	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行います。
ON	［**する（連続撮影時）**］	シャッターボタンを半押ししたときにはAEロックを行わず、全押ししたときにAEロックを行います。
［**しない**］		シャッターボタンを押してもAEロックを行いません。

c2：半押しタイマー

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、上面表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c3：セルフタイマー

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

項目	内容
[**時間**]	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
[**撮影コマ数**]	マルチセレクターの▲▼を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
[**連続撮影間隔**]	[**撮影コマ数**] を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4：モニターのパワーオフ時間

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [**画像の再生**]、[**メニュー表示**]、[**インフォ画面表示**]、[**撮影直後の画像確認**]、[**ライブビュー表示**] で画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 画像モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d：撮影・記録・表示

d1：連続撮影速度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

CH（高速連続撮影）時と**CL**（低速連続撮影）時、および**Q**の連続撮影速度を設定できます。

項目	内容
［**高速連続撮影**］	高速連続撮影（**CH**）するときの連続撮影速度を［**14コマ/秒**］～［**10コマ/秒**］の間で設定できます。
［**低速連続撮影**］	低速連続撮影（**CL**）時の連続撮影速度を、［**10コマ/秒**］～［**1コマ/秒**］の間で設定できます。
［**静音撮影**］	**Q**の連続撮影時の速度を［**5コマ/秒**］～［**1コマ/秒**］の間で設定できます。［**1コマ撮影**］を選ぶと、シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。

d2：連続撮影コマ数

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるか1コマ～200コマの間で設定します。

- 露出モードが**S**または**M**のときにシャッタースピードが4秒または4秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

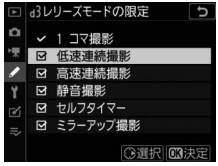
☑ 連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d2［**連続撮影コマ数**］で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります。このコマ数を超えると「**r00**」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3：レリーズモードの限定

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

レリーズモードダイヤルを□に合わせたときに、□ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して選べるレリーズモードを設定できます。



- 項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。チェックボックスをオン☑にした項目のみ、メインコマンドダイヤルで選べるようになります。
- ⓚボタンを押すと、設定を完了します。

d4：連動レリーズモード設定

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

別売のワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動レリーズモードに設定した場合に、マスターカメラのレリーズに連動してリモートカメラをレリーズさせるかどうかを設定できます。

d5：露出ディレーモード

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.2～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d6：電子先幕シャッター

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、レリーズモードを**Q**または**MUP**に設定してください。

項目	内容
［**有効**］	電子先幕シャッターで撮影します。
［**無効**］	メカニカルシャッターで撮影します。

電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、［**無効**］に設定して撮影してください。
- **Q**および**MUP**以外のレリーズモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒、ISO感度の上限が102400に制限されます。

d7：Mモード時のシャッタースピード延長

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

［**する**］を選ぶと、露出モード**M**で撮影するときのシャッタースピードを、最長900秒（15分）まで延長できます。天体撮影時など、長時間シャッターを開いて撮影したい場合に便利です。

- ［**する**］を選んでシャッタースピードを60秒または60秒よりも遅く設定した場合は、設定したシャッタースピードの表示と同じ秒時でシャッターがきれます。

d8：撮像範囲設定の限定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］で［**撮像範囲設定**］を割り当てたボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して選べる撮像範囲を設定できます。



- 項目を選んでマルチセレクターの▶を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度▶を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。チェックボックスをオン☑にした項目のみ、コマンドダイヤルで選べるようになります。
- ⓚボタンを押すと、設定を完了します。

d9：連番モード

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

項目	内容
［**する**］	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
［**しない**］	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。連番モードを［**する**］から［**しない**］に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に［**する**］に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
［**リセット**］	［**する**］に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
  - フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
  - ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）

  この場合は、カスタムメニュー d9［**連番モード**］を［**リセット**］した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 記録フォルダー内に5000個のファイルが記録された後またはファイル番号が9999となった後に撮影すると、フォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 自動で作成されるフォルダーの番号は、使用中のフォルダー番号+1になります。ただし、既存フォルダーの番号と重複する場合、重複しない数字の中で最も若い数字になります。

d10：ピーキング表示

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

マニュアルフォーカスで撮影するときに、ピントが合っている部分の輪郭を色付きで表示するかどうかを設定できます。色の変更も可能です。

項目	内容
［**ピーキングの検出**］	ピーキングの感度を［**3（高感度）**］、［**2（標準）**］、［**1（低感度）**］、または［**しない**］から選びます。感度を高くするとピントが合っていると判断される範囲が広くなり、感度を低くすると範囲が狭くなります。
［**ピーキング表示色**］	ピーキング表示で強調する部分の色を［**赤**］、［**黄**］、［**青**］、［**白**］から変更できます。

d11：格子線表示

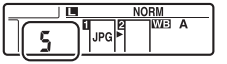
MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

撮影時に構図用格子線を表示するかどうかを設定できます。

d12：背面表示パネルの表示

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

背面表示パネルの図の場所に表示する内容を設定します。



項目	内容
［**レリーズモード**］	現在のレリーズモードを表示します。
［**撮影コマ数**］	記録中フォルダー内の撮影済みコマ数を表示します。

d13：イルミネーター点灯

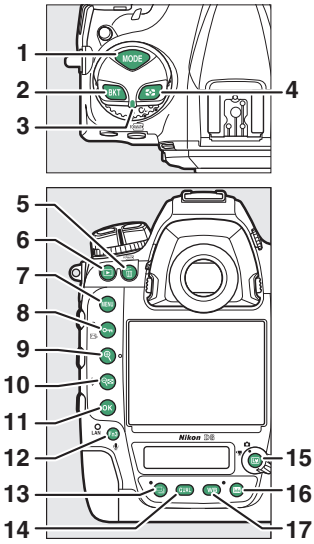
MENUボタン ➡ カスタムメニュー

上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）点灯の設定を変更できます。

- ［**しない**］に設定すると、電源スイッチを☀に合わせたときだけイルミネーターを点灯します。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯します。
- ［**する**］に設定すると、半押しタイマーの作動中にイルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯しますが、シャッターボタンを放すと再度点灯します。

ヒント：ボタンの照明について

レリーズモードダイヤル指標および次のボタンが点灯します：



1	**MODE**ボタン
2	**BKT**ボタン
3	レリーズモードダイヤル指標
4	ボタン
5	（）ボタン
6	ボタン
7	**MENU**ボタン
8	（/**?**）ボタン
9	ボタン
10	（）ボタン
11	ボタン
12	**Fn3**（）ボタン
13	ボタン
14	**QUAL**ボタン
15	ボタン
16	ボタン
17	**WB**ボタン

d14：連続撮影中の表示（Lv）

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ライブビュー撮影で連続撮影をしているときに、画像モニターを点灯するかどうかを設定します。［**しない**］を選んだときは、露光中の画像モニターのバックライトも消灯します。

d15：光学手ブレ補正

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。［**する**］を選ぶと、手ブレ補正機能がONになり、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。［**しない**］を選ぶと手ブレ補正機能がOFFになります。

e：フラッシュ・BKT撮影

e1：フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

項目	内容
［**1/250秒（オートFP）**］	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を1/250秒に設定しますが、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は1/250秒より速いシャッタースピードになると自動的にFP発光に切り替わります。 • 露出モードが**P**または**A**で、上面表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードが1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。オートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。 • 露出モードが**S**または**M**でオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/8000秒まで設定できます。

項目	内容
[**1/250秒**]	フラッシュ撮影時の同調する最高速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
[**1/200秒**]	
[**1/160秒**]	
[**1/125秒**]	
[**1/100秒**]	
[**1/80秒**]	
[**1/60秒**]	

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1［**フラッシュ撮影同調速度**］で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒または**- -**）の次の位置を選んでください。上面表示パネルまたはファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

FP発光について

- フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます。［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。
- ［**1/250秒（オートFP）**］に設定すると、フラッシュインフォ画面に「FP」が表示されます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

露出モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードが**S**、**M**の場合には、カスタムメニュー e2［**フラッシュ時シャッタースピード制限**］の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

項目		内容
±Z ▣	［**全体を補正**］	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
▣	［**背景のみ補正**］	背景の露出だけを補正します。

e4：使用時の感度自動制御

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

項目		内容
	［被写体と背景］	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
	［被写体のみ］	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5：フラッシュ連続撮影時の優先

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

別売スピードライトをカメラに装着し、**CL**または**CH**で連続撮影をする場合の動作を設定できます。

項目		内容
	［**速度優先**］	1コマ目撮影時にモニター発光を行い、2コマ目以降は調光量を固定します。［**調光精度優先**］に設定したときよりも、連続撮影速度の低下を抑えます。 • 連続撮影中はファインダー内表示にFVロックマーク（**FL**）が表示されます。
	［**調光精度優先**］	2コマ目以降も毎回モニター発光を行い、全てのコマで調光量を計算します。撮影状況によっては連続撮影速度が低下することがあります。

e6：モデリング発光

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

［**する**］の場合、別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時にカメラの**Pv**ボタンを押して、モデリング発光ができます。

e7：BKT変化要素（Mモード）

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

露出モード**M**でオートブラケティングを行うときに変化する内容は、静止画撮影メニュー［**オートブラケティングのセット**］とe7［**BKT変化要素（Mモード）**］との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニューe7［BKT変化要素（Mモード）］		静止画撮影メニュー［オートブラケティングのセット］	
		AE・フラッシュブラケティング※	AEブラケティング※
±+◑	［**フラッシュ・シャッタースピード**］	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
±◑⊛	［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
±+⊛	［**フラッシュ・絞り値**］	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
±	［**フラッシュ**］	フラッシュの調光レベル	—

※カスタムメニューe7が［**フラッシュ・シャッタースピード**］、［**フラッシュ・シャッタースピード・絞り値**］、［**フラッシュ・絞り値**］のいずれかのときに、［**感度自動制御**］が［**する**］に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

ヒント：フラッシュ調光レベルについて
フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光（㊎A）時のみ変化します。

e8：BKTの順序

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

項目		内容
N	[0] → [−] → [+]	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順になります。
−→+	[−] → [0] → [+]	「−側に補正」→「補正なし」→「+側に補正」の順になります。

- 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］が［**ADLブラケティング**］の場合、e8［**BKTの順序**］の設定を変更しても補正順序は変わりません。

e9：BKT自動連写の設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

オートブラケティング撮影時に、シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影するかどうかを設定します。

項目	内容
［**有効**］	シャッターボタンを全押しし続けている間は連続撮影します。 • レリーズモードが**S**または**Q**のときは、シャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 • レリーズモードが**CH**、**CL**のとき、または**Q**の静音連続撮影のときは、シャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。 • 静止画撮影メニュー［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］の場合、レリーズモードにかかわらず全押ししている間は連続撮影して各コマに対してWBブラケティングを行います。
［**無効**］	• レリーズモードが**S**または**Q**のときは、1コマずつシャッターボタンを全押ししてブラケティング撮影を行います。 • レリーズモードが**CH**、**CL**のとき、または**Q**の静音連続撮影のときは、シャッターボタンを全押しし続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。

f：操作

f1：iメニューのカスタマイズ

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

ファインダー撮影時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮377）をご覧ください。

項目		🕮
SHOOT	［静止画撮影メニュー切り換え］	752
FX	［撮像範囲設定］	136
QUAL	［画質モード］	142
SIZE	［画像サイズ］	145
±	［露出補正］	199
ISO	［ISO感度設定］	213
WB	［ホワイトバランス］	221

項目		🕮
	［ピクチャーコントロール］	271
RGB	［色空間］	765
	［アクティブD-ライティング］	281
	［長秒時ノイズ低減］	767
ISO NR	［高感度ノイズ低減］	768
	［測光モード］	178

項目		🕮
ϟ	［フラッシュモード］	648
ϟ±	［フラッシュ調光補正］	653
GRPϟ	［グループ発光設定］	670
AF	［AFモード］	149
[•]	［AFエリアモード］	153
BKT	［オートブラケティング］	249
▣	［多重露出］	318
HDR	［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	283
◔	［インターバルタイマー撮影］	331
◔	［タイムラプス動画］	348

項目		🕮
FOCUS	［フォーカスシフト撮影］	360
CUSTOM	［カスタムメニュー切り換え］	802
AF LOCK-ON	［AFロックオン］	805
☰	［カスタムボタンの機能］	850
DLY	［露出ディレーモード］	827
▣	［電子先幕シャッター］	827
ᛒ	［Bluetooth通信機能］	929
(ᵀ)	［Wi-Fi通信機能］	932
品/WT	［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］	937

f2：iメニューのカスタマイズ（Lv）

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

ライブビュー時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮377）をご覧ください。

項目		🕮
	［撮像範囲設定］	136
QUAL	［画質モード］	142
SIZE	［画像サイズ］	145
	［露出補正］	199
ISO	［ISO感度設定］	213
WB	［ホワイトバランス］	221
	［ピクチャーコントロール］	271
RGB	［色空間］	765
	［アクティブD-ライティング］	281

項目		🕮
OLR	［長秒時ノイズ低減］	767
ISONR	［高感度ノイズ低減］	768
	［測光モード］	178
	［フラッシュモード］	648
	［フラッシュ調光補正］	653
GRP	［グループ発光設定］	670
AF	［AFモード］	151
	［AFエリアモード］	160
BKT	［オートブラケティング］	249
	［多重露出］	318

項目		🕮
HDR	［HDR（ハイダイナミックレンジ）］	283
	［インターバルタイマー撮影］	331
	［タイムラプス動画］	348
FOCUS	［フォーカスシフト撮影］	360
SL	［サイレント撮影（静止画Lv）］	374
	［カスタムボタンの機能］	850

項目		🕮
DLY	［露出ディレーモード］	827
	［電子先幕シャッター］	827
PEAK	［ピーキング表示］	832
	［モニターの明るさ］	889
LvWB	［静止画Lv画面のホワイトバランス］	848
	［Bluetooth通信機能］	929
	［Wi-Fi通信機能］	932
品/WT	［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］	937
	［2点拡大］	849

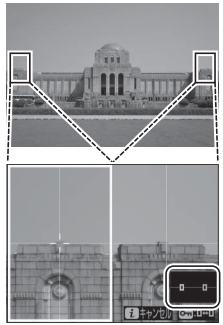
静止画Lv画面のホワイトバランス

ライブビュー撮影時には、撮影用のホワイトバランスとは別に、画像モニター用のホワイトバランス（画像モニターの色味）を設定できます。撮影用のホワイトバランスを［**フラッシュ**］や［**プリセットマニュアル**］などに設定していると、実際に撮影される画像の色味と画像モニターで表示されている色味が異なることがあります。あらかじめ画像モニターの色味を撮影する画像の色味に合わせておくことで、撮影画像の仕上がりをイメージしやすくなります。

項目	内容
［**撮影時と同じ**］	撮影用ホワイトバランスと同じになります。
［**オート**］	［**白を優先する**］で画像モニターに表示します。
［**色温度設定**］	画像モニター用のホワイトバランスの色温度を設定します。

画像モニター用ホワイトバランスは、カメラの電源をOFFにすると解除されます。

2点拡大



同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などの水平合わせの確認に便利です。実行すると、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます（2点拡大表示）。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。

- ⊕ボタンを押すごとに拡大率が上がり、⊖（ϟ）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクターの◀▶を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合はO-（🖼/?）ボタンを押します。
- マルチセレクターの▲▼を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。
- *i*ボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

f3：カスタムボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

静止画撮影時にカメラのボタンを押したときの機能またはボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、Ⓚボタンを押してください。



Pv	［**プレビューボタン**］
Fn1	［**Fn1ボタン**］
Fn2	［**Fn2ボタン**］
Fn	［**縦位置Fnボタン**］
Fn3	［**Fn3ボタン**］
AF-ON	［**AF-ONボタン**］
	［**サブセレクター**］
	［**サブセレクター中央**］
AF-ON	［**縦位置AF-ONボタン**］
	［**縦位置マルチセレクター**］
	［**測光モードボタン**］
BKT	［**BKTボタン**］
	［**動画撮影ボタン**］
LFn	［**レンズのフォーカス作動ボタン**］

• 割り当てられる機能は次の通りです。ボタンによって割り当てられる機能は異なります。

割り当てられる機能		内容
PRE[n]	[**プリセットフォーカスポイント**]	ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 • a5［**縦/横位置フォーカスポイント切換**］を［**しない**］以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 • ［**プリセットフォーカスポイント**］を選んでマルチセレクターの⊛を押すと、割り当てたボタンを押したときの動作を設定できます。 - ［**AFポイントを移動**］：ボタンを押すと、プリセットフォーカスポイントに移動します。 - ［**押している間のみ移動**］：ボタンを押している間のみプリセットフォーカスポインが選ばれます。ボタンを放すと、元のフォーカスポイントの位置に戻ります。

割り当てられる機能		内容
[▫]	[**AFエリアモード**]	ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更します。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。 • [**AFエリアモード**] を選んで⊛を押すと、AFエリアモードを選べます。
[▫]AF	[**AFエリアモード+AF-ON**]	ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更され、ピント合わせも行います。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。 • [**AFエリアモード+AF-ON**] を選んで⊛を押すと、AFエリアモードを選べます。
AF-ON	[**AF-ON**]	ボタンを押すと、**AF-ON**ボタンを押したときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
AF	[**AF-L**]	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AE	[**AE-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE AWB	[**AE-L/AWB-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。また、ホワイトバランスの設定が [**オート**] または [**自然光オート**] の場合は、直前に撮影した画像のホワイトバランスに固定されます（オートホワイトバランスロック）。シャッターをきってもAEロックおよびオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとどちらも解除されます。

割り当てられる機能		内容
AE	[**AE-L（レリーズでリセット）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AE	[**AE-L**]	ボタンを押している間、AEロックを行います。
AE AF	[**AE-L/AF-L**]	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
FV	[**FV-L**]	別売のスピードライト使用時は、FVロックを行い、もう一度ボタンを押すと解除します。
⊛/ϟ	[**ϟ発光禁止/許可切換**]	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
◎	[**プレビュー**]	• **ファインダー撮影時**：ボタンを押している間はレンズの絞り羽根が絞り込まれ、被写界深度が確認できます。 • **ライブビュー時**：ボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントがどこに合っているかを確認しやすくなります。もう一度ボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます。

割り当てられる機能		内容
	［**撮影機能の呼び出し**］	ボタンを押している間、露出モードや測光モードなどの設定が、あらかじめ登録した内容に変更されます。 • ［**撮影機能の呼び出し**］を選んで▶を押すと、割り当てたボタンを押したときの設定の登録を行えます。 - ▲▼で設定したい項目を選び、▶を押すと設定内容が表示されます。Ⓚボタンを押して決定します。 - ［**現在の設定を登録**］を選ぶと、現在カメラに設定している露出モードなどを設定内容として登録できます。 • ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、絞り値やシャッタースピードが変更できます。 - 露出モードが**P**の場合はプログラムシフトを行えます。 - カスタムメニュー b4［**露出補正簡易設定**］が［**しない**］以外の場合、コマンドダイヤルを回して露出補正を行えます。 • 次の場合、設定の登録および呼び出しはできません。 - 非CPUレンズまたはPC マイクロ 85mm F2.8Dを装着した場合 - 絞りリングのあるCPU レンズを装着し、カスタムメニュー f6［**コマンドダイヤルの設定**］にある［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定している場合 - 絞りリングのあるCPUレンズを、絞りリングを最小絞りにせずに装着した場合

割り当てられる機能		内容
BKT	［**BKT自動連写**］	• 静止画撮影メニュー［**オートブラケティング**］の［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］以外の場合でレリーズモードが**CH**、**CL**、または**Q**の静音連続撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、レリーズモードが**S**または**Q**のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 • ［**オートブラケティングのセット**］が［**WBブラケティング**］の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。 • カスタムメニューe9［**BKT自動連写の設定**］が［**有効**］の場合は、常にボタンを押した状態になります。

割り当てられる機能		内容
	［**連動レリーズ切り換え**］	別売のワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動レリーズモードで撮影する場合の、連動レリーズの機能を切り換えます。カスタムメニュー d4［**連動レリーズモード設定**］の設定により、選択できる内容が異なります。 • ［**連動レリーズモード設定**］が［**連動する**］の場合 - ［**マスターカメラのみレリーズ**］ ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。 - ［**リモートカメラのみレリーズ**］ ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。 • ［**連動レリーズモード設定**］が［**連動しない**］の場合 - ［**マスターとリモートが連動**］ ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。 - ［**リモートカメラのみレリーズ**］ ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。

割り当てられる機能		内容
+RAW	[**プラスRAW記録**]	• 画質モードがJPEG形式に設定されている場合、ボタンを押すと背面表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと［**プラスRAW記録**］を解除します。 • RAW画像は静止画撮影メニュー［**画像サイズ**］の［**RAW**］で設定した画像サイズ、［**RAW記録**］の設定で記録されます。
▦	[**格子線表示**]	ボタンを1回押すと、ファインダーや画像モニターに構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。
⊕	[**ファインダー内水準器**]	ボタンを1回押すと、ファインダーに水準器インジケーターを表示します。もう一度ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
🎙	[**音声メモ**]	ボタンを押すと、音声メモ機能を使用できます。
品/WT	[**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**]	すでに有線LANまたはワイヤレストランスミッターを使用してネットワークに接続したことがある場合、前回接続したネットワークに接続できます。ネットワークに接続したことがない場合、ネットワークの設定画面が表示されます。
☰	[**マイメニュー**]	ボタンを押すと、マイメニューを表示します。

割り当てられる機能		内容
	[**マイメニューのトップ項目へジャンプ**]	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
	[**再生**]	ボタンを押すと再生画面を表示します。
	[**フィルター再生**]	ボタンを押すと再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定した条件に合った画像を再生します。
	[**送信指定（有線LAN/WT)**]	1コマ再生時にボタンを押すと、有線LANまたはワイヤレストランスミッターで接続するパソコンに画像を送信指定できます。
RESET	[**フォーカスポイント中央リセット**]	ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	[**AF-ON ボタンと同じ**]	AF-ONボタンの設定と同じです。
	[**静止画撮影メニュー切り換え**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、静止画撮影メニューを切り換えられます。
AF/[+]	[**AFモード/AFエリアモード**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとAFモード、サブコマンドダイヤルを回すとAFエリアモードの設定を変更できます。
	[**撮像範囲選択**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲の設定を変更できます。選べる撮像範囲は、カスタムメニュー d8［**撮像範囲設定の限定**］で設定できます。

割り当てられる機能		内容
	[**アクティブD-ライティング設定**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティングの設定を変更できます。
DLY	[**露出ディレーモード**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモードの設定を変更できます。
L	[**シャッタースピードと絞り値のロック**]	露出モードが**S**または**M**のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。露出モードが**A**または**M**のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。
	[**シャッター・絞り値1段選択**]	カスタムメニュー b2［**露出設定ステップ幅**］の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 • 露出モードが**S**または**M**のとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 • 露出モードが**A**または**M**のとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU	[**手動設定済みレンズの選択**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニュー［**レンズ情報手動設定**］で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
MODE	[**露出モード**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを切り換えられます。
±	[**露出補正**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出補正を設定できます。

割り当てられる機能		内容
ISO	[**ISO感度**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ISO感度を変更できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、感度自動制御の設定を変更できます。
	[**測光モード**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、測光モードの設定を変更できます。
★	[**レーティング**]	画像再生時にボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、レーティング（重要度）を画像に設定できます。 • [**レーティング**] を選んでⓀを押すと、レーティングの設定画面が表示されます。[**設定しない**] 以外を選ぶと、画像再生時にボタンを押すだけで選んだレーティングを画像に設定できます。もう一度ボタンを押すと、レーティングを星なしに変更します。
BKT	[**オートブラケティング**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップまたはアクティブD-ライティングの度合いを変更できます。
	[**多重露出**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと多重露出モード、サブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数の設定を変更できます。
HDR	[**HDR（ハイダイナミックレンジ）**]	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すとHDRモード、サブコマンドダイヤルを回すとHDRの露出差を設定できます。

割り当てられる機能		内容
= ⊕	[**マルチセレクターと同じ**]	サブセレクターまたは縦位置マルチセレクターを上下左右に倒したときはマルチセレクターの▲▼◀▶と同じ機能になります。 • サブセレクターに割り当てる場合、画像を拡大表示したときのサブセレクターの動作を［**拡大位置移動**］または［**コマ送り**］に設定できます。 • 縦位置マルチセレクターに割り当てる場合、［**上下左右機能入れ換え**］で再生時の機能を設定できます。［**する**］を選んだ場合、上下に倒すと表示画像を、左右に倒すと画像情報のページを切り換えられるようになります。 • 縦位置マルチセレクターに割り当てた場合、中央ボタンを押したときの機能はマルチセレクターの中央ボタンを押したときと同じです。
[▫]	[**フォーカスポイント選択**]	サブセレクターまたは縦位置マルチセレクターを上下左右に倒すとフォーカスポイントを選べます。 • 縦位置マルチセレクターに割り当てた場合、中央ボタンを押したときの機能は［**サブセレクター中央**］と同じです。
[**設定しない**]		ボタンは機能しません。

☑ 水準器インジケーターについて

［**押し時の動作**］を［**ファインダー内水準器**］に設定して割り当てたボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケーターを表示します。この「水準器インジケーター」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが反時計回りに傾いている場合
		
◂■■■■■■■■■■▏	▏▲	▕■■■■■■■■■■▸

ピッチング方向

カメラが前に傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが後ろに傾いている場合
		
		

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。
- カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向とピッチング方向の水準器の表示位置が入れ替わります。

f4：中央ボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

静止画撮影時または再生時にマルチセレクターの中央ボタンを押したときの機能を設定できます。

ファインダー撮影時

割り当てられる機能		内容
RESET	［**フォーカスポイント中央リセット**］	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
PRE[E]	［**プリセットフォーカスポイント**］	中央ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら中央ボタンを長押しします。 • a5［**縦/横位置フォーカスポイント切換**］を［**しない**］以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 •［**プリセットフォーカスポイント**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、割り当てたボタンを押したときの動作を設定できます。 -［**AFポイントを移動**］：中央ボタンを押すと、プリセットフォーカスポイントに移動します。 -［**押している間のみ移動**］：中央ボタンを押している間のみプリセットフォーカスポイントが選ばれます。中央ボタンを放すと、元のフォーカスポイントの位置に戻ります。
［**設定しない**］		中央ボタンは機能しません。

ライブビュー撮影時

割り当てられる機能		内容
RESET	［**フォーカスポイント中央リセット**］	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
⊕	［**拡大画面との切り換え**］	撮影時に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んで▶を押すと、拡大率を選べます。
［**設定しない**］		中央ボタンは機能しません。

再生時

1コマ表示している画像が動画の場合、設定にかかわらず中央ボタンを押すと動画を再生します。

割り当てられる機能		内容
▶▼	［**フィルター再生**］	中央ボタンを押すと再生メニュー［**フィルター再生の条件設定**］で設定した条件に合った画像を再生します。
▪	［**1コマとサムネイルの切り換え**］	中央ボタンを押すごとに、1コマ表示モードとサムネイル表示モード（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
▲	［**ヒストグラム表示**］	中央ボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
🔍	［**拡大画面との切り換え**］	中央ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • ［**拡大画面との切り換え**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、拡大率を選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
🗀	［**スロット/フォルダー指定**］	中央ボタンを押すと、［**スロット/フォルダー指定**］画面が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

f5：シャッタースピードと絞り値のロック

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**シャッタースピードのロック**］を［**する**］にすると、露出モード**S**または**M**ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。［**絞り値のロック**］を［**する**］にすると、露出モード**A**または**M**では絞り値を現在の設定でロックします。

- 露出モードが**P**の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。

f6：コマンドダイヤルの設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [**露出補正の設定時**] または [**シャッタースピード/絞り値 設定時**] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、オン☑とオフ☐を切り換えられます。
- ⓚボタンを押すと、設定が完了します。
- 縦位置コマンドダイヤルの回転方向も変更されます。

メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。縦位置コマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

項目	内容
[**露出設定**]	[**する**] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[**する（A モード）**] を選ぶと、露出モード**A**のときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
[**AF設定**]	[**する**] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードが**A**または**M**の場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

項目	内容
［**サブコマンドダイヤル**］	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（［**メインとサブの入れ換え**］の［**露出設定**］を［**する**］に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします）。
［**絞りリング**］	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズ）装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、［**絞り値の設定方法**］での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセレクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

項目		内容
［**する**］		**再生時**： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、［**サブコマンドダイヤルで画像送り**］で設定した方法でコマ送りします。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 **メニュー画面表示時**※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON Ⓢ	［**する（撮影後確認を除く）**］	［**する**］と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
［**しない**］		再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセレクターで行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、Ⓚボタンかマルチセレクターの▶または中央を押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り

1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。この設定を有効にするには、［**再生/メニュー画面で使用**］を［**する**］または［**する（撮影後確認を除く）**］にします。

項目		内容
［**10コマ**］		10コマずつコマ送りします。
［**50コマ**］		50コマずつコマ送りします。
★	［**レーティング**］	レーティングが設定された画像だけをコマ送りして表示します。［**レーティング**］を選んでマルチセレクターの⊛を押すと、表示するレーティングを限定できます。
⚿	［**プロテクト**］	プロテクト（保護）した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
📷	［**静止画のみ**］	静止画だけをコマ送りして表示します。
🎬	［**動画のみ**］	動画だけをコマ送りして表示します。
🗀	［**フォルダー**］	再生フォルダーを切り換えます。

f7：マルチセレクターの半押し起動

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

半押しタイマーがきれたときにマルチセレクターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f8：ボタンのホールド設定

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

［**する**］に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- ［**ボタンのホールド設定**］の対象ボタンは、ボタン、**ISO**（FORMAT）ボタン、**MODE**ボタン、**BKT**ボタン、ボタン、（）ボタン、ボタン、**QUAL**ボタン、**WB**ボタン、AFモードボタンです。
- f3［**カスタムボタンの機能**］で［**露出モード**］、［**露出補正**］、［**AFモード/AFエリアモード**］、［**ISO感度**］、［**アクティブD-ライティング設定**］、［**測光モード**］を割り当てたボタンも、［**ボタンのホールド設定**］の対象になります。

f9：インジケーターの＋/－方向

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

上面表示パネルとインフォ画面に表示される、インジケーターの＋と－方向を入れ換えることができます。

項目		内容
+0−		インジケーターの＋側を左に、－側を右に表示します。
−0+		インジケーターの－側を左に、＋側を右に表示します。

f10：ライブビューボタンの設定

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

意図せずにLvボタンを押したときにライブビューが開始しないように、Lvボタンを無効に設定できます。

項目		内容
[有効]		Lvボタンを押すとライブビューが開始されます。
ON	[半押しタイマー作動中のみ有効]	半押しタイマーがオンのときにLvボタンを押した場合のみ、ライブビューが開始されます。
[無効]		Lvボタンを押してもライブビューは開始しません。

f11：スイッチの機能

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

電源スイッチを☀マークの方向に回したときに、上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）のみ点灯するか、イルミネーターとインフォ画面を点灯するかを設定できます。

f12：1コマ再生時のフリック操作

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

1コマ表示時に画像モニターを上下または左右にフリックした場合の動作を割り当てられます。

上にフリック/下にフリック

画像モニターを上下にフリックした場合の動作を割り当てられます。

項目	内容
[**レーティング**]	フリックすると画像にレーティングを設定できます。★の数はあらかじめマルチセレクターの⊛を押して設定します。
[**送信指定（有線LAN/WT)**]	有線LANまたはワイヤレストランスミッターでカメラをパソコンやFTPサーバーと接続している場合、画像を送信指定できます。
[**プロテクト**]	画像をプロテクト（保護）します。
[**音声メモ**]	フリックすると音声メモの録音を開始します。すでに音声メモが録音されている画像の場合、再生が開始されます。音声メモの録音または再生を終了するには、マルチセレクターの中央ボタンを押します。
[**設定しない**]	画像モニターを上下にフリックしても機能しません。

- [**レーティング**]、[**送信指定（有線LAN/WT)**]、[**プロテクト**] を割り当てた場合、上または下にフリックすると画像にアイコンが表示されます（🕮406）。もう一度同じ方向にフリックすると設定した内容をキャンセルして元に戻します。

1コマ送りの操作方向

次の画像を表示するフリック操作を割り当てられます。

項目		内容
⬅	[左←右]	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
➡	[左→右]	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

g：動画

g1：iメニューのカスタマイズ

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

動画撮影時にiボタンを押して表示されるiメニューの割り当てを、次の機能から選んで変更できます。iメニュー項目の設定方法については、「iメニューの項目を変更する（iメニューのカスタマイズ）」（🕮377）をご覧ください。

項目		🕮
	［撮像範囲設定］	292
QUAL	［画像サイズ/フレームレート/画質］	294
	［動画記録先］	783
	［露出補正］	199
ISO	［ISO感度設定］	786
WB	［ホワイトバランス］	787
	［ピクチャーコントロール］	788

項目		🕮
	［アクティブD-ライティング］	788
	［測光モード］	178
AF	［AFモード］	151
	［AFエリアモード］	160
	［電子手ブレ補正］	791
	［マイク感度］	792
ATT	［アッテネーター］	793
	［録音帯域］	793

	項目	🕮
	[風切り音低減]	794
	[ヘッドホン音量]	794
	[カスタムボタンの機能]	879
PEAK	[ピーキング表示]	832
	[ハイライト表示]	884
	[モニターの明るさ]	889

	項目	🕮
	[Bluetooth通信機能]	929
	[Wi-Fi通信機能]	932
品/WT	[有線LAN/ワイヤレストランスミッター]	937
	[マルチセレクターによるパワー絞り]	878
	[マルチセレクターによる露出補正]	878

マルチセレクターによるパワー絞り

マルチセレクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。また、▼を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。

マルチセレクターによる露出補正

マルチセレクターによる露出補正を有効にするかどうかを設定できます。[**有効**] に設定すると、▲▼を押して露出補正を設定できます。

g2：カスタムボタンの機能

MENUボタン ➡ ✎カスタムメニュー

動画撮影時にカメラのボタンを押したとき、またはボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、⊛ボタンを押してください。



項目
Pv［**プレビューボタン**］
Fn1［**Fn1ボタン**］
Fn2［**Fn2ボタン**］
Fn3［**Fn3ボタン**］
◉［**サブセレクター中央**］
◒［**シャッターボタン**］

• 割り当てられる機能は次の通りです。ボタンによって割り当てられる機能は異なります。

割り当てられる機能		内容
	［**パワー絞り（開放絞り側）**］	**Pv**ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**Fn1ボタン**］が［**パワー絞り（最小絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**パワー絞り（最小絞り側）**］	**Fn1**ボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**プレビューボタン**］が［**パワー絞り（開放絞り側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（＋側）**］	**Pv**ボタンを押している間、＋側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**Fn1ボタン**］が［**露出補正（－側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**露出補正（－側）**］	**Fn1**ボタンを押している間、－側に露出補正を行います。カスタムメニュー g2［**カスタムボタンの機能**］の［**プレビューボタン**］が［**露出補正（＋側）**］のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
	［**格子線表示**］	ボタンを1回押すと、画像モニターに構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。

割り当てられる機能		内容
	[**拡大画面との切り換え**]	撮影時にボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度ボタンを押すと、元の表示に戻ります。[**拡大画面との切り換え**] を選んで⊛を押すと、拡大率を選べます。
	[**マイメニュー**]	ボタンを押すと、マイメニューを表示します。
	[**マイメニューのトップ項目へジャンプ**]	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
RESET	[**フォーカスポイント中央リセット**]	ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
AF	[**AF-L**]	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
AF	[**AE-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
AF	[**AE-L/AWB-L（ホールド）**]	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。また、ホワイトバランスの設定が [**オート**] または [**自然光オート**] の場合は、カメラが調整したホワイトバランスに固定されます（オートホワイトバランスロック）。シャッターをきってもAEロックおよびオートホワイトバランスロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになるとどちらも解除されます。

割り当てられる機能		内容
AE-L	[**AE-L**]	ボタンを押している間、AEロックを行います。
AE-L AF-L	[**AE-L/AF-L**]	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
📷	[**静止画撮影**]	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比16：9の静止画を撮影します。
🎬	[**動画撮影**]	シャッターボタンを半押しすると、ライブビューを開始します。フォーカスモードセレクターが**AF**の場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。また、全押しすると、動画記録を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画記録を終了します。 • [**動画撮影**] に設定すると、動画撮影以外にシャッターボタンを使う操作は行えません。 • ライブビューを終了するには、LVボタンを押してください。 • 別売のワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコード使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。

割り当てられる機能		内容
	[**撮像範囲選択**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画撮影時の撮像範囲の設定を切り換えられます。動画記録中は、撮像範囲の切り換えはできません。
	[**マイク感度**]	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、マイク感度の設定を変更できます。
[**設定しない**]		ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 露出モード**A**または**M**のときのみ動作します。
- マークが画像モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

g3：中央ボタンの機能

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

動画撮影時にマルチセレクターの中央ボタンを押したときの機能を設定できます。

割り当てられる機能		内容
RESET	［**フォーカスポイント中央リセット**］	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	［**拡大画面との切り換え**］	撮影時に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。［**拡大画面との切り換え**］を選んでを押すと、拡大率を選べます。
	［**動画撮影**］	動画記録を開始します。もう一度中央ボタンを押すと、動画記録を終了します。
［**設定しない**］		中央ボタンは機能しません。

g4：ハイライト表示

MENUボタン ➡ カスタムメニュー

動画撮影時に、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。

表示パターン

［**パターン1**］または［**パターン2**］を選ぶと、動画撮影時にハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示できます。



パターン1



パターン2

ハイライト表示のしきい値

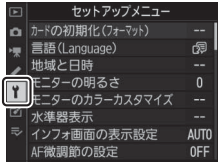
ハイライト表示時に、どの程度の明るさをハイライトとして扱うかを設定できます。値が小さいほど暗い部分もハイライトとして表示します。［**255**］を選ぶと白とびする部分だけがハイライトされます。

ハイライト表示について

マニュアルフォーカスで撮影するときに、ハイライト表示およびピーキング表示の両方を有効にしているとピーキング表示のみ表示されます。マニュアルフォーカス時にハイライト表示したい場合は、カスタムメニュー d10［**ピーキング表示**］の［**ピーキングの検出**］を［**しない**］に設定してください。

セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定

メニュー画面でタブを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	🕮
［カードの初期化（フォーマット）］	887
［言語（Language）］	888
［地域と日時］	889
［モニターの明るさ］	889
［モニターのカラーカスタマイズ］	890
［水準器表示］	892
［インフォ画面の表示設定］	893
［AF微調節の設定］	894
［レンズ情報手動設定］	904
［イメージセンサークリーニング］	905
［クリーニングミラーアップ］※	906

メニュー項目	🕮
［イメージダストオフデータ取得］	906
［ピクセルマッピング］	910
［画像コメント］	911
［著作権情報］	912
［IPTC］	914
［音声メモの設定］	920
［電子音］	923
［タッチ操作］	924
［HDMI］	925
［位置情報（内蔵）］	925
［リモコン（WR）設定］	925

メニュー項目	🕮
［**リモコン（WR）のFnボタンの機能**］	928
［**機内モード**］	929
［**スマートフォンと接続**］	929
［**PCと接続（内蔵無線）**］	932
［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］	937

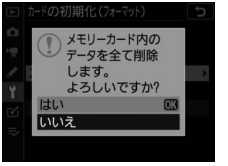
メニュー項目	🕮
［**認証マークの表示**］	949
［**電池チェック**］	950
［**カードなし時レリーズ**］	951
［**メニュー設定の保存と読み込み**］	952
［**カメラの初期化**］	957
［**ファームウェアバージョン**］	957

※バッテリー残量表示が以下のときは選べません。

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで［**はい**］を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。



☑ カードの初期化についてのご注意

［**カードの初期化（フォーマット）中です。**］のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ヒント：ボタン操作による初期化

- 🗑（FORMAT）ボタンと**ISO**（FORMAT）ボタンを同時に2秒以上押し、上面表示パネルとファインダー内表示に**For**が点滅している間に、もう一度🗑（FORMAT）ボタンと**ISO**（FORMAT）ボタンを同時に押すと、上面表示パネルで点滅しているメモリーカードを初期化します。
- メモリーカードが2枚入っている場合は、上面表示パネルで点滅している側のメモリーカードを初期化します。**For**が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

言語（Language）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を設定できます。お買い上げの国や地域によって、表示される言語は異なります。

地域と日時

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

項目	内容
［**現在地の設定**］	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、［**日時の設定**］で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
［**日時の設定**］	［**現在地の設定**］で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
［**日付の表示順**］	日付の年、月、日の表示順を選びます。
［**夏時間の設定**］	現在地で夏時間が実施されている場合は［**する**］に、そうでない場合は［**しない**］に設定します。［**する**］にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は［**しない**］です。

日時が設定されていない場合、上面表示パネルに時刻未設定マークCLOCKが点滅して警告します。

モニターの明るさ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターの明るさをマルチセレクターの▲▼を押して調整できます。+にすると明るく、−にすると暗くなります。

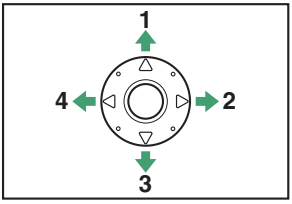
モニターのカラーカスタマイズ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- マルチセレクターで画像モニターの色味を調整できます。▲▼◀▶を押すたびに、画像モニターの色味が次のように変わります。⊛ボタンを押すと決定します。





1	グリーンが強くなる
2	アンバーが強くなる
3	マゼンタが強くなる
4	ブルーが強くなる

- 画像モニターの色味を調整すると、メニュー表示や画像再生時、ライブビュー中の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。

- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内にない場合、グレーで表示されます。
- Q（ϟ）ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んでOKボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面でQボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



水準器表示

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、画像モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

インフォ画面の表示設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

明るい場所や暗い場所で画像モニターが見づらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。

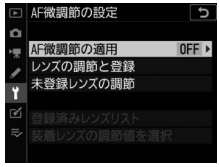


黒文字表示　　白文字表示

項目	内容
［**自動**］	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。
［**手動**］	手動でインフォ画面の表示を切り換えます。 **B**［**黒文字**］：明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターが点灯し、文字を黒く表示します。 **W**［**白文字**］：暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

AF微調節の設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー



装着したレンズのピント位置を、好みなどに合わせて微調節できます。

- 必要な場合のみAF微調節を行ってください。
- AF微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離でAF微調節を行った場合、遠い被写体に対してはAF微調節の効果が低下することがあります。

項目	内容
[**AF微調節の適用**]	• [**する**]：AF微調節の設定が有効になります。 • [**しない**]：AF微調節を行いません。
[**レンズの調節と登録**]	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます（🕮897）。 • 最大40種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズは登録できません。 • すでに登録してあるレンズを装着している場合、微調節値が上書きされます。
[**未登録レンズの調節**]	[**レンズの調節と登録**] で登録していないレンズを装着したときに一律で微調節する値を設定できます。

項目	内容
［**登録済みレンズリスト**］	［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで㊗を押すと、［**識別番号**］画面が表示されます。 • ［**識別番号**］画面では、レンズの識別番号を入力できます。たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号などを設定しておくと、どのレンズのAF微調節の設定かを識別できるので便利です。 • 登録するレンズによっては、シリアル番号が識別番号として自動的に入力されます。
［**装着レンズの調節値を選択**］	同じ種類のレンズを複数登録してある場合に、カメラに装着しているレンズにどの調整値を設定するかを選べます。



ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、［**AF微調節の設定**］で設定した微調節値は適用されません。

テレコンバーターを装着した場合

すでに登録してあるレンズでも、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

登録したレンズを削除するには

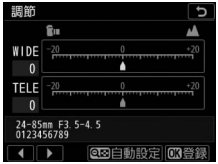
［**レンズの調節と登録**］で登録したレンズを削除するには、［**登録済みレンズリスト**］画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、🗑（Q）ボタンを押します。

AF微調節の設定と微調節値の登録方法

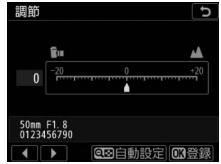
1 AF微調節の設定を行うレンズをカメラに装着する

2 セットアップメニューの［AF微調節の設定］で［レンズの調節と登録］を選んで⊛を押す

AF微調節の設定画面が表示されます。設定画面はズームレンズを装着した場合と単焦点レンズを装着した場合で異なります。



ズームレンズの場合



単焦点レンズの場合

3 ◀▶を押して微調節値を変更する

- ＋20～－20の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は▮で、前回設定した微調節値は△で表示されます。
- ズームレンズを装着している場合は、広角側（WIDE）と望遠側（TELE）で個別に調節できます。広角側と望遠側を切り換えるには▲▼を押します。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

4 Ⓚボタンを押して設定を登録する

ヒント：AF微調節の自動設定について

ライブビュー画面を見ながらピント合わせを行い、AF微調節の値を自動で設定することができます（🕮900）。手順3の設定画面で🔍（ϟ）ボタンを押すと、「AF微調節の自動設定」の手順2の画面に移動します。

未登録レンズ装着時の微調整値の設定方法

1 セットアップメニューの［AF微調節の設定］で［未登録レンズの調節］を選んで㊨を押す

2 ㊧㊨を押して微調節値を変更する

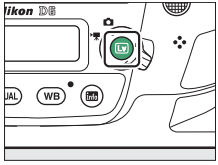
- ＋20～－20の範囲で調節できます。
- 今回の微調節値は▮で、前回設定した微調節値は△で表示されます。
- ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。

3 ㊫ボタンを押して設定を登録する

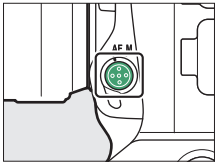
AF微調節の自動設定

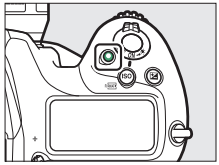
AF微調節を自動で行う方法は次の通りです。

1 ライブビューセレクターを📷に合わせてLvボタンを押す



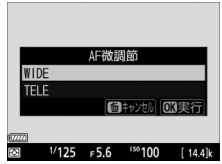
2 AFモードボタンと動画撮影ボタンを2秒以上同時に押す





ズームレンズの場合

- 広角側と望遠側を個別に設定するためのメニューが表示されます。



- [**WIDE**]（広角側）または［**TELE**］（望遠側）を選んでⓄⓀボタンを押すと、AF微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。

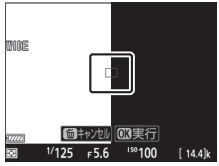


単焦点レンズの場合

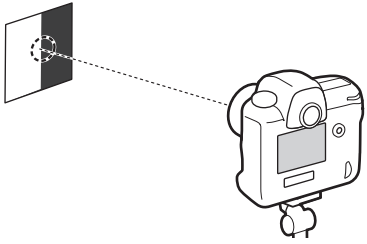
AF微調節の自動設定画面に切り替わり、フォーカスポイントが画面中央に表示されます。



3 シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行う



- ズームレンズの場合は、あらかじめレンズのズームリングを回してワイド端またはテレ端に合わせてから、ピント合わせを行ってください。
- ピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、コントラストの高い平面を被写体として選んでください。



- 絞りを開放にすることをおすすめします。
- ピント合わせの後に拡大表示をしてピントが正確に合っているか確認してください。必要に応じてマニュアルフォーカスでお好みのピント位置に調節してください。
- 暗い環境では、ライブビューでのオートフォーカスや、AF微調節の自動設定ができない場合があります。

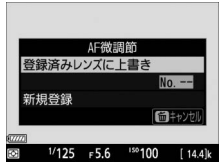
4 ⓞⓚボタンを押す



- AF微調節の自動設定が実行され、装着しているCPUレンズの微調節値が［**登録済みレンズリスト**］に登録されます。
- 自動設定が成功すると、［**AF微調節の適用**］が［**する**］に変更され、AF微調節が有効になります。

ズームレンズの場合

広角側と望遠側のどちらかの設定が終わったら、もう一方の設定を行います。⊕ボタンを押して［**登録済みレンズに上書き**］を選び、手順2～4と同じ手順で自動設定を行ってください。



5 ⓞⓚボタンを押して設定を終了する

AF微調節の自動設定に失敗したときは

AF微調節の自動設定に失敗したときは、画像モニターにメッセージが表示されます。再度自動設定を行うには🔍ボタンを、自動設定を中止するには🆗ボタンを押します。🔍ボタンを押した場合は、手順2の状態に戻ります。

AF微調節設定済みのレンズを装着している場合

すでにAF微調整をしてあるレンズを装着している場合、手順2で値を上書きするか新規で登録するかを選べます。

レンズ情報手動設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

非CPUレンズの情報を登録します。非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります。

項目	内容
[**レンズNo.**]	レンズ情報を登録するレンズNo.を選びます。
[**焦点距離（mm）**]	レンズの焦点距離を選びます。
[**開放絞り値**]	レンズの開放絞り値を選びます。

イメージセンサークリーニング

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

項目	内容
[**実行**]	イメージセンサークリーニングを実行します。
[**電源スイッチに連動**]	• [**電源ONで実行**]：電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**電源OFFで実行**]：電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**電源ONとOFFで実行**]：電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 • [**実行しない**]：電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

クリーニングミラーアップ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、[**クリーニングミラーアップ**]を選ぶと、ミラーが上った状態で固定され、ローパスフィルターを市販のブロアーでクリーニングできます。ローパスフィルターのクリーニング方法については、「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」(🕮1078)をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得

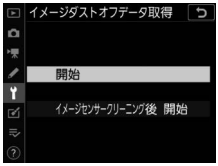
MENUボタン ➡ セットアップメニュー

NX Studioの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、NX Studioのヘルプをご覧ください。

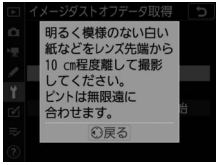
イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [**開始**] を選んでOKボタンを押すと、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。



- [**イメージセンサークリーニング後開始**] を選んでOKボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[**イメージダストオフデータ取得**] 画面が表示されます。



- 上面表示パネル、背面表示パネル、ファインダー内表示には、rEFが表示されます。



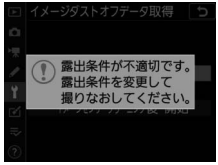
- データ取得を取り消したいときは、**MENU**ボタンを押してください。

2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押ししてイメージダストオフデータを取得する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、［**イメージセンサークリーニング後 開始**］を選択後に撮影することをおすすめします。

イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、［**イメージダストオフデータ取得**］を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、FXフォーマットで焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- ［**サイズM**］または［**サイズS**］で撮影したRAW画像は、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



ピクセルマッピング

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

撮像素子のチェックと最適化を行います。撮影した画像に予期しない輝点が記録されて気になる場合は、次の手順でピクセルマッピングを行ってください。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリーをお使いください。
- レンズにレンズキャップ（フロントキャップ）を付け、アイピースシャッターを閉じた状態でピクセルマッピングを行ってください。

1 セットアップメニューの［ピクセルマッピング］を選ぶ

カメラの電源をONにして、MENUボタンを押し、セットアップメニューの［**ピクセルマッピング**］を選びます。

2 ［実行］を選ぶ

ピクセルマッピングを開始します。実行中は、上面表示パネルにbuSyが点滅します。

3 ピクセルマッピングが終了したら、カメラの電源をOFFにする

ピクセルマッピングについてのご注意

- ピクセルマッピング中は、カメラの操作はできません。カメラの電源をOFFにしたり、バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- カメラ内部の温度が高くなっているときは、ピクセルマッピングを実行できない場合があります。

画像コメント

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。［**コメント入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮86）をご覧ください。

コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、［**コメント添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。⊛ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



☑ 画像情報に表示される画像コメントについて

- 入力・添付された画像コメントは、再生画面の撮影情報にある［**撮影情報その他**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**撮影情報その他**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**撮影情報その他**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

著作権情報

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studioの［**情報**］タブで確認できます。

撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。［**撮影者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと名前の入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」（🕮86）をご覧ください。

著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、［**著作権情報添付**］を選んで▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。OKボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



☑ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、［**著作権情報添付**］の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- ［**著作権情報**］の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

☑ 画像情報に表示される著作権情報について

- 入力・添付された著作権情報は、再生画面の撮影情報にある［**著作権情報**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**著作権情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**著作権情報**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

IPTC

MENUボタン ➡ セットアップメニュー



IPTC情報をカメラで新規作成または編集して、撮影した静止画に添付することができます。

- パソコンで作成したIPTCプリセット（IPTC情報）をカメラに読み込んで登録することもできます。
- パソコンでIPTCプリセットを作成したり、メモリーカードに保存したりするには、IPTCプリセット登録用ソフトウェア（🕮919）をご使用ください。

IPTCプリセットの新規作成/編集

［**編集と登録**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、［**編集/登録対象を選択**］画面が表示され、IPTCプリセットの新規作成または編集が行えます。

- IPTCプリセットを選んで▶を押すと、IPTCプリセット名の変更や、内容の編集ができます。IPTCプリセットを新規作成したい場合は、「Unused」の項目を選んで▶を押します。
  - ［**登録名の変更**］：IPTCプリセット名を変更できます。
  - ［**登録内容の編集**］：IPTCプリセット項目が一覧表示されます（🕮918）。項目を選ぶと、登録内容変更画面が表示されます。
- IPTCプリセットを選んでQボタンを押すと、IPTCプリセットの内容を複製できます。登録先を選んでOKボタンを押し、登録名を入力してください。

登録内容の削除

［**削除**］を選んで▶を押すと、登録したIPTCプリセットを削除できます。

登録内容の添付



［**撮影時自動付加**］を選んで▶を押すと、図のようなIPTCプリセットの選択画面が表示されます。IPTCプリセットを選んでⓄⓀボタンを押すと、その後撮影した静止画には選んだIPTCプリセットが添付されます。［**しない**］を選ぶと、IPTCプリセットは添付されません。

☑ 画像情報に表示されるIPTCプリセットについて

- 入力・添付されたIPTCプリセットは、再生画面の撮影情報にある［**IPTC情報**］ページに表示されます。
- 撮影情報の［**IPTC情報**］ページを表示するには、再生メニュー［**再生画面設定**］で［**撮影情報**］および［**IPTC情報**］のチェックボックスをオン☑にしてください。

カメラに登録したIPTCプリセットをメモリーカードに保存

［**メモリーカードを使用**］にある［**スロット1**］または［**スロット2**］の［**メモリーカードにコピー**］を選んで▶を押すと、カメラに登録されているIPTCプリセットをメモリーカードにコピーできます。IPTCプリセットとコピー先（1 ～ 99）を選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだIPTCプリセットがメモリーカードにコピーされます。

メモリーカードに保存したIPTCプリセットをカメラに登録



［**メモリーカードを使用**］にある［**スロット1**］または［**スロット2**］の［**カメラに登録**］を選んでマルチセレクターの▶を押すと、あらかじめメモリーカードに保存したIPTCプリセットを最大10個カメラに登録できます。

- カメラに登録したいIPTC プリセットを選び、OKボタンを押すと、［**登録先を選択**］画面が表示されます。選んだIPTCプリセットの内容を確認したい場合は、OKボタンの代わりに（ボタンを押します。確認を終了して［**登録先を選択**］画面に進むにはOKボタンを押します。
- 登録先を選んでOKボタンを押すと、名前の入力画面が表示されます。OKボタンを押すと、選んだIPTCプリセットがカメラに登録されます。
- パソコンで作成したXMP形式のXMP/IPTCプリセットがメモリーカードに保存されている場合、上記の10個に加えて最大3個XMP/IPTCプリセットをカメラに登録できます。XMP/IPTCプリセットを画像に添付した場合、再生画面の撮影情報にはIPTC情報は表示されません。また、カメラに登録したXMP形式のXMP/IPTCプリセットをメモリーカードに保存することもできません。

IPTCプリセット登録時のご注意

- カメラでは半角英数字のみ表示できます。その他の文字は、カメラでは伏せ文字で表示されますが、IPTCプリセットを添付した画像をパソコンで表示すると、正しく表示されます。
- 登録名（🕮915）は半角英数字18文字まで登録できます。IPTC プリセット登録用ソフトウェアを使ってカメラに登録する場合、IPTCプリセットの登録名が18文字以上のときは、18文字を超える文字は削除されます。
- 各IPTCプリセットには、登録可能な文字数の制限があります。下記の文字数を超える文字は削除されます。

IPTCプリセット	登録可能文字数（半角英数字）
Caption	2000
Event ID	64
Headline	256
Object Name	256
City	256
State	256
Country	256
Category	3

IPTCプリセット	登録可能文字数（半角英数字）
Supp. Cat.（Supplemental Categories）	256
Byline	256
Byline Title	256
Writer/Editor	256
Credit	256
Source	256

ヒント：IPTCプリセット（IPTC情報）
IPTC情報とは、国際新聞電気通信評議会（IPTC）が作成した基準で、写真をさまざまな出版物で共有する場合に必要な情報を簡易化し、明確化するために考案されています。

ヒント：IPTCプリセットをパソコンで作成するには
IPTC プリセット登録用ソフトウェアIPTC Preset Managerを使うと、パソコンでIPTCプリセットを作成して、メモリーカードに保存できます。IPTC Preset Managerは、下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。IPTC Preset Managerの使用方法は、IPTC Preset Managerのヘルプを参照してください。
https://downloadcenter.nikonimglib.com/

ヒント：WebブラウザーでIPTCプリセットを作成するには
HTTPサーバーモード（🕮601）でパソコンやスマートフォンまたはタブレットのWebブラウザーとカメラを接続している場合、Webブラウザー上でIPTCプリセットを作成して静止画に添付できます。

音声メモの設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

音声メモ（🕮436）に関する設定を行います。

撮影時の録音

画像を撮影するたびに音声メモを自動的に録音するか、手動で録音するかを設定できます。

項目		内容
	[**録音しない**]	撮影時には、音声メモを録音できません。
5s	[**自動録音と手動録音**]	撮影直後に音声メモを自動的に録音します。 • [**自動録音と手動録音**] を選ぶと [**自動録音の時間**] 画面が表示され、録音時間を設定できます。
M	[**手動録音のみ**]	最後に撮影した画像に対して音声メモを手動で録音します。

撮影時の上書き録音

撮影時に、すでに音声メモが録音されている画像に対して、音声メモを上書き録音できるように設定できます。

項目	内容
[**禁止**]	すでに音声メモが録音されている画像に上書き録音はできません。
[**許可**]	最後に撮影された画像に音声メモが録音されていても、音声メモを手動で上書き録音できます。

録音の操作

音声メモ録音時の**Fn3**（🎙）ボタンの操作方法について設定します。

項目		内容
🎙↓	[**押し続けている間録音**]	**Fn3**（🎙）ボタンを押し続けている間のみ録音します（最長約60秒）。
🎙↕	[**押して開始/終了**]	**Fn3**（🎙）ボタンを押して録音を開始し、もう一度押すか、約60秒経過すると録音を終了します。

音声の出力

再生時の音声の出力方法を設定できます。

項目		内容
	［**スピーカー / ヘッドホン**］	カメラ本体に内蔵のスピーカーやカメラに接続中のヘッドホンで音声メモを再生します。 • マルチセレクターの㊤㊦を押して、音量を［**1**］～［**15**］から選びます。 • ㊮ボタンを押すと設定を終了します。
HDMI	［**HDMI出力**］	HDMI機器から音声メモを一定音量で出力します。
	［**出力しない**］	**Fn3**（🎙）ボタンを押しても音声を出力しません。音声メモが録音されている画像には、🔇アイコンが表示されます。



電子音

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

電子音設定

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- [**電子音設定**] を [**有効**] に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
  - セルフタイマー作動中
  - ミラーアップ撮影で2回目にシャッターボタンを全押ししたとき
  - インターバルタイマー撮影、タイムラプス動画撮影、およびフォーカスシフト撮影終了時
  - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモードが**AF-C**のときおよびカスタムメニュー a2 [**AF-Sモード時の優先**] が [**レリーズ**] の場合は、電子音は鳴りません）
  - タッチパネルを使用して文字入力をしているとき
- [**タッチ音無効**] を選ぶと、タッチパネル操作時の電子音のみ鳴らないようにできます。
- 静止画撮影メニュー [**サイレント撮影（静止画Lv）**] が [**する**] の場合、動画撮影時、およびレリーズモードが**Q**の場合は、[**電子音**] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

音量

電子音の音量を設定できます。

音の高さ

電子音の音の高さを［**高音**］と［**低音**］から選べます。

タッチ操作

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

タッチ操作の設定

タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。［**再生時のみ有効**］を選ぶと、再生画面でのみタッチ操作ができます。

グローブモード

［**有効**］に設定すると画像モニターのタッチ感度が高くなり、手袋をしたままでもタッチ操作がしやすくなります。

HDMI

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます（🕮453）。

位置情報（内蔵）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに内蔵された位置情報機能を使用して位置情報を取得したときの設定を変更できます。詳しくは「位置情報を画像に記録する」（🕮384）をご覧ください。

リモコン（WR）設定

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を装着している場合に、LEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を使用するには

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- WR-R10のファームウェアをVer3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

LEDランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10の動作状態を表すLEDランプを点灯させるかどうかを設定できます。LEDランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10や、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

項目	内容
[**ペアリング**]	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。

項目	内容
［**PINコード**］	 同一の4桁の数字（PINコード）が設定された機器同士で通信を行うモードです。任意の数字4桁のPINコードを入力できます。 • マルチセレクターの◀▶で桁を選んで、▲▼で数値を変更します。Ⓚボタンを押すと設定が変更され、画面に設定したPINコードが表示されます。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます（その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します）。

• ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、［**リンクモード**］の設定にかかわらずWR-R10で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラー WR-1をご使用の場合、WR-1のリンクモードをペアリングモードに設定してください。

リモコン（WR）のFnボタンの機能

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

Fnボタンのある別売のワイヤレスリモートコントローラーで、**Fn**ボタンを押したときの機能を以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］をご覧ください。

項目	
AF-ON	［**AF-ON**］
AF	［**AF-L**］
AE	［**AE-L（レリーズでリセット）**］
AE	［**AE-L**］
AF	［**AE-L/AF-L**］
FEL	［**FV-L**］

項目	
⚡/⚡	［**⚡発光禁止/許可切換**］
	［**プレビュー**］
+RAW	［**プラスRAW記録**］
Lv	［**ライブビュー**］※
	［**撮影機能の呼び出し**］
［**設定しない**］	

※カメラのLvボタンと同じ機能になります。

機内モード

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

［**有効**］にすると、BluetoothおよびWi-Fiを使った無線通信をOFFにすることができます。

- 内蔵無線機能以外の無線通信機器との接続を無効にする場合は、カメラから無線通信機器を取り外してください。

スマートフォンと接続

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

スマートフォンとBluetooth接続またはWi-Fi接続する場合に使用します。



ペアリング（Bluetooth）

スマートフォンとBluetooth接続します。

項目	内容
［**ペアリング開始**］	スマートフォンとのペアリングを開始します（🕮469）。
［**ペアリング済み機器**］	カメラとペアリングしたことのあるスマートフォンを表示しています。接続するスマートフォンを切り換えたい場合、ここでスマートフォンを選びます。
［**Bluetooth通信機能**］	［**有効**］を選ぶと、Bluetooth接続を開始します。

送信指定（Bluetooth）

スマートフォンに送信する静止画を指定できます。カメラで撮影後すぐにスマートフォンに送信することもできます。

項目	内容
［**撮影後自動送信指定**］	［**する**］に設定すると、カメラで撮影した画像をスマートフォンに自動で送信します。カメラでの設定にかかわらず、ファイルは常に2MサイズのJPEG画像として送信されます。動画撮影時に撮影した静止画は自動送信されません。手動で送信指定を行ってください。
［**選択送信指定**］	画像を選んでスマートフォンに送信できます。選んだ画像には送信指定のマークがつきます。
［**送信指定の一括解除**］	送信設定マークを全て削除します。

Wi-Fi接続

スマートフォンとWi-Fi接続します。

■■ Wi-Fi接続を開始

Wi-Fi接続を開始します。

- カメラのSSIDとパスワードが表示されます。スマートフォンでSSIDを選び、パスワードを入力して接続してください（🕮461）。
- Wi-Fi接続中は［**Wi-Fi接続を停止**］に変更されます。
- ［**Wi-Fi接続を停止**］を選ぶとカメラとのWi-Fi接続を停止します。

■■ Wi-Fi接続の設定

Wi-Fi関連の情報を設定できます。

項目	内容
［**SSID**］	カメラのSSIDを変更できます。
［**認証/暗号**］	Wi-Fiの認証方式を［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。
［**パスワード**］	カメラのパスワードを変更できます。
［**チャンネル**］	通信で使用するチャンネルを設定します。 • ［**オート**］を選ぶとカメラが自動でチャンネルを選びます。 • ［**マニュアル**］を選ぶとチャンネルを手動で設定できます。
［**現在の設定**］	現在のWi-Fi関連の設定を確認できます。
［**接続設定の初期化**］	［**はい**］を選ぶとWi-Fiの接続設定を初期化します。

電源OFF中の通信

［**する**］に設定すると、カメラとスマートフォンをBluetooth接続している場合、カメラの電源をOFFにしてもスマートフォンとの通信を継続して画像を送信できます。

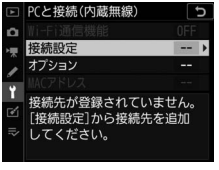
位置情報（スマートフォン）

スマートフォンから取得した緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を表示します。

PCと接続（内蔵無線）

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラとパソコンをWi-Fi接続する場合に使用します。



Wi-Fi通信機能

接続設定を行った後で［**有効**］を選ぶと、現在［**接続設定**］で選ばれている設定でWi-Fi接続を開始します。

接続設定

［**新規追加**］を選ぶと、接続設定を作成できます（🕮488、494）。

- 作成済みの接続設定が複数ある場合、㊎ボタンを押して使用する接続設定を変更して無線接続を開始します。
- 接続設定を選んでマルチセレクターの▶を押すと、接続設定の内容を変更できます。

項目	内容
［**全般**］	• ［**接続設定名**］：接続設定名を変更できます。初期設定では接続するネットワークのSSIDが設定されています。 • ［**パスワードによる保護**］：［**有効**］に設定すると、接続設定の内容を変更する場合にパスワード入力が必要になります。［**有効**］を選んで▶を押すと、パスワードが設定できます。

項目	内容
［**無線**］	• **インフラストラクチャーモードの接続設定の場合**：接続するネットワークに合わせて、無線接続の設定を行います。 -［**SSID**］：接続するネットワークのSSIDを設定します。 -［**チャンネル**］：自動的に設定されます。 -［**認証/暗号**］：［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。 -［**パスワード**］：接続するネットワークのパスワードを入力します。 • **アクセスポイントモードの接続設定の場合**：カメラの設定を変更できます。 -［**SSID**］：カメラのSSIDを変更できます。 -［**チャンネル**］：無線チャンネルを［**オート**］または［**マニュアル**］で設定できます。 -［**認証/暗号**］：［**OPEN**］または［**WPA2-PSK-AES**］から選びます。 -［**パスワード**］：［**認証/暗号**］を［**WPA2-PSK-AES**］に設定した場合、カメラのパスワードを変更できます。
［**TCP/IP**］	インフラストラクチャーモードの接続設定の場合、TCP/IPの情報を設定できます。IPアドレスは必ず入力してください。 •［**自動取得**］を［**有効**］に設定すると、IPアドレスとサブネットマスクをDHCPサーバーまたは自動プライベートIPアドレッシングによって取得します。 •［**無効**］に設定した場合は［**アドレス**］（IPアドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。

オプション

カメラの通信機能を設定できます。

■■ 撮影後自動送信

［**する**］に設定すると、撮影と同時に画像を自動送信します。

- 撮影された画像はいったんメモリーカードに記録され、自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画および動画撮影時に撮影した静止画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください（🕮504）。

■■ 送信後ファイル削除

［**する**］に設定すると、送信終了後にメモリーカード内のファイルが自動的に削除されます。

- ［**する**］に設定するよりも前に送信設定されたファイルは、送信が終了しても削除されません。
- カメラの状態によっては、ファイルの削除を一時停止する場合があります。

■■ RAW＋JPEG送信設定

RAWとJPEGを同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信する場合に、RAW画像とJPEG画像の両方を送信するか、JPEG画像のみを送信するかを選べます。

- 静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］で［**RAW+JPEG分割記録**］を選んでいる場合、［**RAW＋JPEG送信設定**］の設定は［**撮影後自動送信**］を［**する**］に設定して自動送信しているときのみ有効になります。

■■ JPEG+JPEG送信設定

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**JPEG+JPEG分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

■■ 全送信マーク解除

［**する**］を選ぶと、メモリーカード内の全ての画像送信マークを解除します。画像送信中の場合は、送信を中断します。

MACアドレス

MACアドレスが表示されます。

有線LAN/ワイヤレストランスミッター

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラにイーサネットケーブルを接続するか、別売のワイヤレストランスミッター WT-6を装着してパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います。

有線LAN/WTの機能

［**有効**］に設定すると、有線LANまたはワイヤレストランスミッターを使用してネットワークに接続します。カメラに内蔵されたBluetooth機能やWi-Fi機能は無効になります。

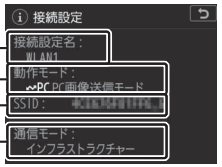
ハードウェアの選択

カメラとネットワークの接続方法を有線LANまたは無線LANから選べます。

接続設定

ネットワークの接続設定をカメラに登録や、登録した接続設定の切り換えができます。

- 一覧から接続設定を選んで㊗ボタンを押すと、接続先（パソコンやFTPサーバー）に接続します。
- カメラには最大9つの接続設定を登録することができます。
- 🗑（FORMAT）ボタンを押すと、選んでいる接続設定を削除できます。
- **O-n**（🖼/**?**）ボタンを押すと、選んでいる接続設定の情報が表示されます。



1	接続設定名
2	動作モード
3	SSID（無線LAN接続時に表示）
4	通信モード

- 接続設定を選んで⊖🏁（ϟ）ボタンを押すと、選んでいる接続設定を編集できます（🕮940）。

■■ 連動レリーズ

ワイヤレストランスミッター WT-6を装着した複数のカメラを連動してシャッターをきる連動レリーズを行えます。詳しくは「連動レリーズモードを使用する」（🕮628）をご覧ください。

■■ 日時を同期

2台のカメラを有線LANで接続し、カメラの内蔵時計を同期させます。詳しくは「ネットワークを使用してカメラの時計を同期する」（🕮633）をご覧ください。

■■ 新規追加

カメラに接続設定を新たに追加できます。詳しくは「有線LANで接続する場合の接続設定を作成する」（🕮522）または「WT-6で接続する場合の接続設定を作成する」（🕮544）をご覧ください。

項目	内容
［**接続ウィザード**］	ウィザードの指示に従って接続設定を登録できます。
［**手動設定**］	［**FTP画像送信モード**］、［**HTTPサーバーモード**］の全ての設定値を手動で入力して接続設定を登録できます。

■■ メモリーカードを使用

［**FTP画像送信モード**］または［**HTTPサーバーモード**］の接続設定を共有できます。

- カメラにメモリーカードが2枚挿入されている場合は、スロット1に挿入されたメモリーカードが対象になります。

項目	内容
［**カメラに登録**］	メモリーカードのルートディレクトリにある接続設定をカメラに登録できます。
［**メモリーカードにコピー**］	カメラにある接続設定をメモリーカードにコピーできます。コピーしたい接続設定を選んでⓄKボタンを押すと、メモリーカードにコピーされます。 • パスワードで保護されている接続設定はコピーできません。

■■ 編集

接続設定の設定内容（無線、TCP/IP、FTPなど）を変更できます。編集したい接続設定を選んでQ（ϟ）ボタンを押すと、［**編集**］画面が表示されます。



✓ 接続設定編集中のご注意

カメラのシャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、メニュー画面を終了します。液晶モニターが消灯すると、設定中の情報は失われますのでご注意ください。

●［全般］

接続設定名、パスワードによる保護の有無を設定できます。

項目	内容
［**接続設定名**］	接続設定の名称を変更できます。
［**パスワードによる保護**］	他人から接続設定の内容を見られないように、接続設定にパスワードを設定できます。

●［無線］

無線関連の情報を設定できます。

項目	内容
［**SSID**］	パソコンやFTPサーバーが所属しているネットワークの識別名称です。SSIDは必ず設定してください。
［**通信モード**］	ご使用の通信環境に合わせて通信モードを選びます。 • ［**インフラストラクチャー**］：無線LANアクセスポイントを経由して通信する場合に選びます。 • ［**アクセスポイント**］：カメラが無線LANアクセスポイントとして動作し、パソコンまたはFTPサーバーと直接接続します。

項目	内容
［**チャンネル**］	通信モードが［**アクセスポイント**］の場合にチャンネルを設定します。通信モードが［**インフラストラクチャー**］の場合、チャンネルは自動的に設定されます。
［**ネットワーク認証**］	［**オープンシステム**］、［**共有キー**］、［**WPA-PSK**］、［**WPA2-PSK**］のいずれかを選びます。［**共有キー**］、［**WPA-PSK**］は、［**通信モード**］が［**インフラストラクチャー**］の場合のみ選べます。
［**暗号化**］	暗号化を使用する場合に設定します。選んだ項目に合った暗号キーを入力してください。 • ［**暗号化しない**］：暗号化キーは設定する必要はありません。 • ［**WEP 64bit 16進**］/［**WEP 128bit 16進**］：10桁（64bit）または26桁（128bit）の暗号キーを入力します。㊦㊧で各桁の数値（16進数）を設定し、㊤㊨で入力位置を選びます。 • ［**WEP 64bit 文字**］/［**WEP 128bit 文字**］：5文字（64bit）または13文字（128bit）の暗号キーを入力します。 • ［**TKIP**］/［**AES**］：ASCII文字の暗号キーを使用する場合は、8～63文字の暗号キーを入力します。16進数の暗号キーを使用する場合は、64桁の16進数を入力します。

項目	内容
［キーインデックス］	［**通信モード**］が［**インフラストラクチャー**］で［**暗号化**］が［**WEP 64bit 16進**］、［**WEP 64bit 文字**］、［**WEP 128bit 16進**］、［**WEP 128bit 文字**］のいずれかの場合、パソコンまたはアクセスポイントの設定に合わせて設定します。

ヒント：ネットワーク認証と暗号化について

［**ネットワーク認証**］で設定した内容によって、選べる［**暗号化**］の種類は異なります。

ネットワーク認証の設定	選べる暗号化
［**オープンシステム**］	［**暗号化しない**］、［**WEP 64bit 16進**］、［**WEP 64bit 文字**］、［**WEP 128bit 16進**］、［**WEP 128bit 文字**］ • ［**通信モード**］が［**アクセスポイント**］の場合は［**暗号化しない**］のみ
［**共有キー**］	［**WEP 64bit 16進**］、［**WEP 64bit 文字**］、［**WEP 128bit 16進**］、［**WEP 128bit 文字**］
［**WPA-PSK**］	［**TKIP**］、［**AES**］
［**WPA2-PSK**］	［**AES**］

●［TCP/IP］

TCP/IP関連の情報を設定できます。

項目	内容
［**自動取得**］	カメラに割り振るIPアドレスとサブネットマスクを自動で取得します。IPアドレスは、自動取得または手動入力で必ず入力してください。 • ［**有効**］を選ぶと、IPアドレスとサブネットマスクをDHCPサーバーまたは自動プライベートIPアドレッシングによって取得します。 • ［**無効**］を選んだ場合は、［**アドレス**］（IPアドレス）と［**マスク**］（サブネットマスク）を手動で入力してください。
［**ゲートウェイ**］	送信先のネットワークにデフォルトゲートウェイのアドレスが必要な場合に入力します。
［**DNSサーバー**］	FTPサーバーが属するネットワークにDNSサーバーが存在する場合に入力します。

● **[FTP]**

FTP関連の情報を設定できます。

項目	内容
[**サーバーの種類**]	データ送信先のFTPサーバーの種類、アドレス（IPアドレスまたはURL）、フォルダー名、ポート番号を設定します。IPアドレスは必ず入力してください。
[**パッシブモード**]	[**有効**] を選ぶとパッシブモードで接続します。
[**匿名でログイン**]	[**有効**] を選ぶと匿名でFTPサーバーにログインします。FTPサーバーが匿名でのログインを許可している場合のみログインできます。[**無効**] を選んだ場合は、ログイン名とパスワードを手動で入力してください。
[**プロキシ**]	必要に応じて設定します。

オプション

カメラの通信機能を設定できます。設定できる項目は、現在選ばれている接続設定の種類により異なります。

■■ 撮影後自動送信

[**する**] に設定すると、撮影と同時に画像を自動送信します。

- 撮影された画像はいったんメモリーカードに記録され、自動的に送信設定が行われます。撮影する場合は必ずカメラにメモリーカードを挿入してください。
- 動画および動画撮影時に撮影した静止画は自動送信されません。これらのファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

■■ 送信後ファイル削除

［**する**］に設定すると、送信終了後にメモリーカード内のファイルが自動的に削除されます。

- ［**する**］に設定した場合、カメラのカスタムメニュー d9［**連番モード**］の設定にかかわらず、連番モードで動作します。
- ［**する**］に設定するよりも前に送信設定されたファイルは、送信が終了しても削除されません。
- カメラの状態によっては、ファイルの削除を一時停止する場合があります。

■■ RAW＋JPEG送信設定

RAWとJPEGを同時に記録する画質モードで撮影された画像を送信する場合に、RAW画像とJPEG画像の両方を送信するか、JPEG画像のみを送信するかを選べます。

- 静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］で［**RAW+JPEG分割記録**］を選んでいる場合、［**RAW＋JPEG送信設定**］の設定は［**撮影後自動送信**］を［**する**］に設定して自動送信しているときのみ有効になります。

■■ JPEG+JPEG送信設定

静止画撮影メニュー［**スロット2の機能**］を［**JPEG+JPEG分割記録**］に設定して分割記録した画像を、撮影後に自動送信する場合に、どちらのスロットに記録した画像を送信するかを選べます。

■■ 同名ファイルの上書き

［**する**］に設定すると、送信するファイルと同じ名前のファイルが送信先フォルダー内にすでに存在する場合にファイルを上書きします。［**しない**］に設定すると、上書きしないようにファイル名に番号を追加して送信します。

■■ 未送信画像プロテクト

［**する**］に設定すると、画像に送信設定マークを付加したときに自動的にプロテクトを設定します。送信を終了すると、プロテクトを解除します。

■■ 送信記録の保存

［**する**］に設定すると、画像が送信された日時をメモリーカード内の画像に記録します。

画像が送信された日時は、NX Studioで確認できます。詳しくは、NX Studioのヘルプをご覧ください。

■■ フォルダー送信

選んだフォルダー内の全ての画像に送信設定をします。送信済みの画像も再送信します。

動画には送信設定をしません。動画ファイルを送信するには、再生画面で送信設定してください。

■■ 全送信マーク解除

メモリーカード内の全ての画像送信マークを解除します。画像送信中の場合は、送信を中断します。

■■ HTTPログイン設定

HTTPサーバーモードで使用するときのユーザー名とパスワードを設定できます。



■■ 省電力設定

通信速度を優先するか、省電力を優先するかを設定できます。

- [**通信速度優先**] に設定すると、FTPサーバーと通信していない場合でもLANの接続を解除しません。有線LANで通信している場合、1000BASE-Tで高速通信を行います。
- [**省電力優先**] に設定すると、有線LANで通信している場合、100BASE-TXで通信を行い、消費電力を抑えます。FTPサーバーと通信していない場合は、有線LANも無線LANもLANの接続を解除します。この場合、カメラのネットワークインジケーターが消灯します。

■■ MACアドレス

[**有線LAN/WTの機能**] が [**有効**] になっている場合、[**ハードウェアの選択**] で設定しているハードウェアのMACアドレスが表示されます。

認証マークの表示

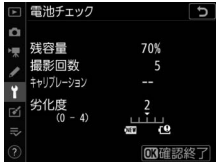
MENUボタン ➡ セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

電池チェック

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



項目	内容
[**残容量**]	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
[**撮影回数**]	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
[**キャリブレーション**]	キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと［CAL］が表示されます。 • ［CAL］が表示されているときは、キャリブレーションすることをおすすめします（🕮1114）。 • ［--］が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
[**劣化度**]	バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」（NEW）のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」（）のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

［**撮影回数**］に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

カードなし時レリーズ

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのレリーズ操作を設定できます。

項目		内容
LOCK	［**レリーズ禁止**］	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK	［**レリーズ許可**］	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には［**デモモード**］と表示され、画像は記録できません。

メニュー設定の保存と読み込み

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

メニューの設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数の同一機種を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを2枚使用している場合、スロット1に保存されます。
- 設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
再生メニュー	[再生画面設定]
	[撮影直後の画像確認]
	[削除後の次再生画像]
	[連続撮影後の再生画像]
	[縦位置自動回転]

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
静止画撮影メニュー	［静止画撮影メニューの管理］
	［静止画撮影メニューの拡張］
	［ファイル名設定］
	［スロット2の機能］
	［撮像範囲］
	［画質モード］
	［画像サイズ］
	［RAW記録］
	［ISO感度設定］
	［ホワイトバランス］
	［ピクチャーコントロール］（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［オート］で保存します）
	［色空間］
	［アクティブD-ライティング］
	［長秒時ノイズ低減］
	［高感度ノイズ低減］
	［ヴィネットコントロール］
	［回折補正］
	［自動ゆがみ補正］
	［フリッカー低減］
	［フラッシュ発光］
	［オートブラケティング］
	［サイレント撮影（静止画Lv）］

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
動画撮影メニュー	［ファイル名設定］
	［動画記録先］
	［撮像範囲］
	［画像サイズ/フレームレート］
	［動画の画質］
	［動画記録ファイル形式］
	［ISO感度設定］
	［ホワイトバランス］
	［ピクチャーコントロール］（登録されたカスタムピクチャーコントロールは［オート］で保存します）
	［アクティブD-ライティング］
	［高感度ノイズ低減］
	［回折補正］
	［フリッカー低減］
	［電子手ブレ補正］
	［マイク感度］
	［アッテネーター］
	［録音帯域］
	［風切り音低減］
	［ヘッドホン音量］
	［タイムコード］（［タイムコードの起点］を除く）

メニュー設定の保存と読み込みができる機能	
カスタムメニュー	全メニュー
セットアップメニュー	［**言語（Language）**］
	［**地域と日時**］（［**日時の設定**］を除く）
	［**インフォ画面の表示設定**］
	［**レンズ情報手動設定**］
	［**イメージセンサークリーニング**］
	［**画像コメント**］
	［**著作権情報**］
	［**IPTC**］
	［**音声メモの設定**］
	［**電子音**］
	［**タッチ操作**］
	［**HDMI**］
	［**位置情報（内蔵）**］（［**半押しタイマー**］、［**衛星による日時合わせ**］のみ）
	［**リモコン（WR）設定**］
	［**リモコン（WR）のFnボタンの機能**］
	［**カードなし時レリーズ**］
マイメニュー	登録した全メニュー
	［**このタブの機能変更**］
最近設定した項目	最近設定したメニュー（最大20項目）
	［**このタブの機能変更**］

保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、［**読み込み**］は選べません。

設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSET***」です。「***」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラの初期化

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

セットアップメニュー［**言語（Language）**］と［**地域と日時**］を除く、全ての設定をリセットして初期設定に戻します。著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのでご注意ください。

あらかじめセットアップメニュー［**メニュー設定の保存と読み込み**］で設定データを保存しておくことをおすすめします。

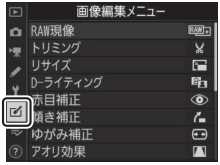
ファームウェアバージョン

MENUボタン ➡ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能

メニュー画面で画像編集タブを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。
- 編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。
- 画像編集メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		🕮
RAW	[**RAW現像**]	962
✂	[**トリミング**]	967
▣	[**リサイズ**]	968
◧	[**D-ライティング**]	973
👁	[**赤目補正**]	974
◢	[**傾き補正**]	975

メニュー項目		🕮
⌓	[**ゆがみ補正**]	976
▲	[**アオリ効果**]	978
■	[**モノトーン**]	979
⧉	[**画像合成**] ※	980
🎞	[**動画編集（始点/終点設定）**]	989

※**MENU**ボタンを押して、タブの画像編集アイコンを選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセレクターの▲▼でメニュー項目を選び、▶を押します。

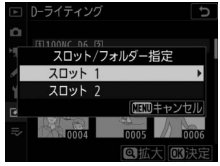


2 画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- 🔍ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



- ⊖/ϟ（ϟ）ボタンを押すと、［**スロット/フォルダー指定**］画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。
- 画像を選んでOKボタンを押すと、編集画面が表示されます。

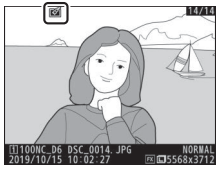


3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU**ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- ⓚボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には☑が付きます。



☑ 選んだ画像を編集する

編集したい画像を再生し、ⓚボタンを押しながら▶を押すか、**i**ボタンを押して［**画像編集**］を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

☑ 画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc4［**モニターのパワーオフ時間**］の［**メニュー表示**］の時間を長く設定することをおすすめします。

☑ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません（［**動画編集（始点/終点設定）**］を除く）。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

☑ 画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、［**画質モード**］が［**FINE★**］のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

☑ 画像サイズについて

画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます（［**トリミング**］および［**リサイズ**］を除く）。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

RAW画像をJPEG画像など他のファイル形式に変換することを「RAW現像」と呼びます。カメラでRAW画像をJPEG画像に変換する手順は次の通りです。

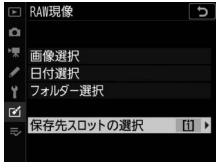
1 画像編集メニュー画面で［RAW現像］を選ぶ

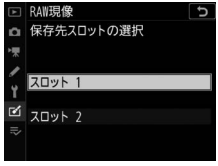
［**RAW現像**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。



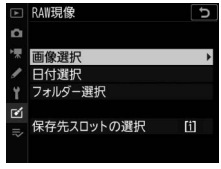
2 保存先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、［**保存先スロットの選択**］を選んで▶を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、［**保存先スロットの選択**］を選べません。手順3に進んでください。
- ▲▼でスロットを選び、OKボタンを押します。





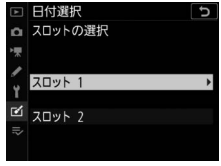
3 画像の選択方法を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだRAW画像をRAW現像します。複数のRAW画像を選んで一括でRAW現像することもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影したRAW画像を一括でRAW現像します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内のRAW画像を一括でRAW現像します。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順5にお進みください。

4 スロットを選択する



- RAW現像したい画像が記録されているスロットを選んで⊛を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

5 RAW現像する画像を選ぶ



［画像選択］を選んだ場合：

- マルチセレクターでRAW現像する画像を選びます。
- ⍰ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- マルチセレクターの中央ボタンを押して設定します。設定すると✔が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、✔が消えます。選んだ全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
- ⓚボタンを押して決定します。

［日付選択］を選んだ場合：

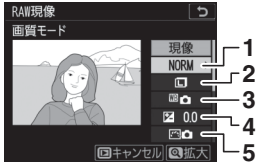


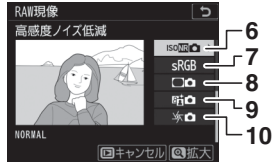
- 日付を選んで▶を押すと、チェックボックスのオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- チェックボックスがオン☑になった日付の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
- ⓚボタンを押して決定します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：
フォルダーを選んでⓄⓀボタンを押すと、選んだフォルダー内の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。

6 表示されている項目をそれぞれ設定する

- プレビュー画像の下には、撮影時の設定が表示されています。
- ［**撮影時設定**］を選ぶと（項目によっては選べないことがあります）、それぞれのRAW画像の撮影時の設定でRAW現像します。





1	画質モード（🕮142）
2	画像サイズ（🕮145）
3	ホワイトバランス（🕮221）
4	露出補正（🕮199）
5	ピクチャーコントロール（🕮271）
6	高感度ノイズ低減（🕮768）
7	色空間（🕮765）
8	ヴィネットコントロール（🕮769）
9	アクティブD-ライティング（🕮281）
10	回折補正（🕮770）

7 RAW現像する



- [**現像**] を選んでⓀボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- 複数の画像を一度に処理する場合、[**現像**] を選んでⓀボタンを押し、確認画面で [**はい**] を選んでⓀボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU**ボタンを押してください。

☑ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やCamera Control Pro 2を使用して撮影したRAW画像、RAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- [**露出補正**] で設定できる明るさ（−2〜＋2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

トリミング

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

項目	内容
切り抜く範囲を変更する	ボタンまたは（）ボタンを押して切り抜く範囲を変更できます。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する	メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセレクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。
トリミングを実行して画像を保存する	ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

トリミング画像についてのご注意

- トリミング後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。



リサイズ

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。メモリーカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

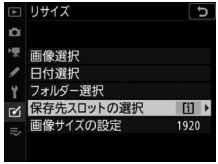
1 画像編集メニュー画面で［リサイズ］を選ぶ

［**リサイズ**］を選んでマルチセレクターの㊨を押します。

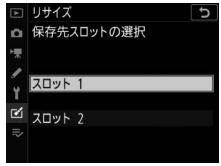


2 保存先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、［**保存先スロットの選択**］を選んで㊨を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、［**保存先スロットの選択**］を選べません。手順3に進んでください。

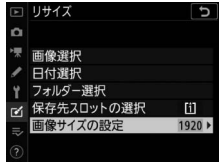


• ㊦㊧でスロットを選び、⊛ボタンを押します。



3 画像サイズを設定する

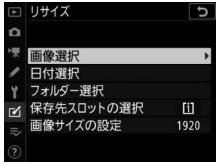
• [**画像サイズの設定**] を選んで㊨を押します。



• ㊦㊧で画像サイズ（長辺のピクセル数）を選び、⊛ボタンを押します。



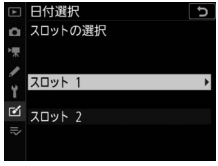
4 画像の選択方法を選ぶ



項目	内容
［**画像選択**］	選んだ画像のリサイズ画像を作成します。複数の画像を選んで一括でリサイズすることもできます。
［**日付選択**］	選択した日付に撮影した画像を一括でリサイズします。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を一括でリサイズします。

［**画像選択**］を選んだ場合は手順6にお進みください。

5 スロットを選択する



- リサイズしたい画像が記録されているスロットを選んで⊛を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

6 リサイズする画像を選ぶ

[画像選択] を選んだ場合：



- マルチセレクターでリサイズする画像を選びます。
- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- マルチセレクターの中央を押して設定します。設定すると▪が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、▪が消えます。選んだ全ての画像を手順3で設定した画像サイズにリサイズします。
- 画像を選択後、Ⓚボタンを押します。

[日付選択] を選んだ場合：



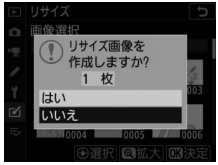
- 日付を選んで⊕を押すと、チェックボックスのオン☑とオフ☐を切り換えられます。
- チェックボックスがオン☑になった日付の全ての画像を手順3で設定した画像サイズにリサイズします。
- 日付を選択後、Ⓚボタンを押します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：

- フォルダーを選んでⓄボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順3で設定した画像サイズにリサイズします。

7 リサイズ画像を作成する

確認画面で［**はい**］を選んでⓄボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



☑ リサイズ画像についてのご注意

リサイズ後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。

D-ライティング

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクターの◀▶を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
- ⓞⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正についてのご注意

- 赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。
  - 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
  - ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。
- 赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

傾き補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー



画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの◀▶を押すと、傾きを補正できます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー



広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。［**オート**］を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。［**マニュアル**］を選ぶと自分でゆがみを補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**オート**］は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- ［**オート**］で補正を行った画像または静止画撮影メニュー［**自動ゆがみ補正**］で補正を行った画像の場合、［**マニュアル**］のみ選べます。一度［**マニュアル**］で補正を行った画像を再度補正することはできません。
- マルチセレクターの◀を押すと糸巻き型のゆがみを、▶を押すとたる型のゆがみを補正できます。
- ⓄⓀボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を［**DX（24×16）**］以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

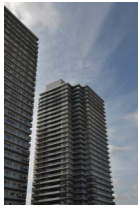
アオリ効果

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

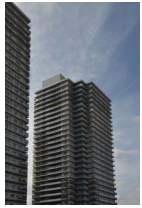


高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクターの◎◎◎◎でアオリの効果を調節できます。
- ⓞⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



アオリ効果処理前



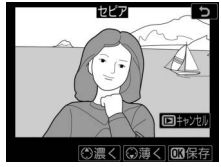
アオリ効果処理後

モノトーン

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。［**モノトーン**］を選ぶと色調を選ぶことができます。

項目	内容
［**白黒**］	モノクロになります。
［**セピア**］	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
［**クール**］	ブルー系のモノトーンになります。



- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- ［**セピア**］または［**クール**］を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
- ⓚボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

画像合成

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

メモリーカードに記録されている画像を重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAW画像2コマを重ねる［**加算**］と、複数の画像の最も明るい部分または暗い部分を重ねる［**比較明合成**］と［**比較暗合成**］から選べます。

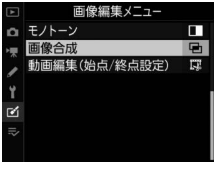
加算

RAW画像2コマを重ね合わせて1コマのJPEG画像に合成できます。



1 画像編集メニュー画面で［画像合成］を選ぶ

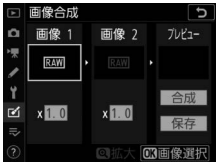
［**画像合成**］を選んでマルチセレクターの ▶ を押します。



2 [加算] を選ぶ



[**加算**] を選んで⊛を押すと、画像編集画面が表示され、[**画像1**] 欄がハイライト表示されます。



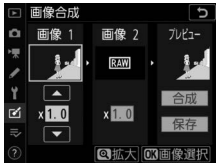
3 合成する画像の1コマ目を選ぶ



- ⊛ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ⊖（ϟ）ボタンを押すと、[**スロット/フォルダー指定**] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。

4 1コマ目の画像を決定する

Ⓚボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、［**画像1**］欄にプレビューが表示されます。



5 2コマ目の画像を選ぶ

◑を押して［**画像2**］を選び、手順3～4と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



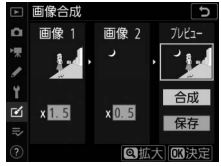
6 ゲインを調節する



- プレビュー欄に［**画像1**］と［**画像2**］を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、［**画像1**］または［**画像2**］を選んでから◓◒を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。

7 プレビュー欄に移動する

- ◀▶を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、［**保存**］を選んでOKボタンを押してください。



8 合成画像を確認する

- ［**合成**］を選び、OKボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、Q（ϟ）ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



9 合成画像を保存する

もう一度OKボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



［加算］についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像は［**画質モード**］が［**FINE★**］のJPEG画像になります。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
  - ［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］
  - ［**画像サイズ**］の［**RAW**］
  - ［**RAW記録**］の［**記録ビットモード**］
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、［**画像1**］で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

比較明合成、比較暗合成

複数の画像の最も明るい部分または暗い部分を重ね合わせて1コマのJPEG画像に合成できます。

1 [比較明合成] または [比較暗合成] を選ぶ

画像編集メニュー［**画像合成**］で［**比較明合成**］または［**比較暗合成**］を選んでマルチセレクターの▶を押します。

- 比較明合成：選んだ画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。



- 比較暗合成：選んだ画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。



2 画像の選択方法を選ぶ

項目	内容
［**画像選択（個別指定）**］	個別に選んだ画像を合成します。
［**画像選択（範囲指定）**］	2枚の画像を選択し、その間にある全ての画像を撮影時間順に合成します。
［**フォルダー選択**］	選んだフォルダー内の全ての画像を合成します。

3 スロットを選択する

- 合成したい画像が記録されているスロットを選んで⊛を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。

4 合成する画像を選ぶ

[画像選択（個別指定）] を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像を選びます。
- ⊕ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- マルチセレクターの中央ボタンを押して設定します。設定すると☑が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、☑が消えます。選んだ全ての画像を手順1の内容で合成します。
- 画像を選択後、⊛ボタンを押します。

［画像選択（範囲指定）］を選んだ場合：

- マルチセレクターで合成する画像の範囲を設定すると、範囲内の全ての画像が手順1の内容で合成されます。
  - 範囲の始点および終点はマルチセレクターの中央ボタンを押して設定します。
  - 始点および終点の画像には☑が表示され、その間の画像には☑が表示されます。
  - 範囲を変更する場合は、マルチセレクターを操作して始点および終点を設定し直します。Qボタン（🖼/?）ボタンを押すと、範囲の始点と終点を移動できます。
- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- 合成する画像の範囲を設定後、OKボタンを押します。

［フォルダー選択］を選んだ場合：

フォルダーを選んでOKボタンを押すと、選んだフォルダー内の全ての画像を手順1の内容で合成します。

5 合成画像を保存する

- 確認画面で［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。
- 画像合成の処理中にMENUボタンを押すと、画像合成を中止します。

［比較明合成］および［比較暗合成］についてのご注意

- 合成できる画像は、このカメラで撮影した画像だけです。機種の異なるカメラで撮影した画像は選べません。
- ［**撮像範囲**］の［**撮像範囲設定**］の設定が同じ画像のみ合成できます。
- 異なる画質モードで撮影した画像を合成した場合、合成画像の画質モードは一番高い画質で撮影された画像と同じになります。
- 合成する画像にRAW画像が含まれる場合、合成画像の画質モードは［**FINE★**］になります。
- 画像サイズの異なるRAW画像を合成する場合、画像サイズは小さい方のサイズと同じになります。
- RAW画像とJPEG画像を合成する場合、RAW画像の画像サイズがJPEG画像よりも小さいと合成できません。画像サイズはJPEG画像と同じになります。

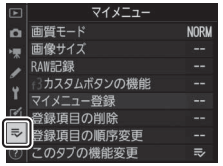
動画編集（始点/終点設定）

MENUボタン ➡ 画像編集メニュー

撮影した動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます（🕮300）。

マイメニュー/最近設定した項目

メニュー画面でタブを選ぶと、［**マイメニュー**］画面が表示されます。



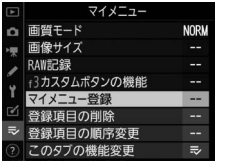
マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューを登録する

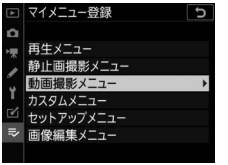
1 [マイメニュー]画面で［マイメニュー登録］を選ぶ

［**マイメニュー登録**］を選んで、マルチセレクターの▶を押します。



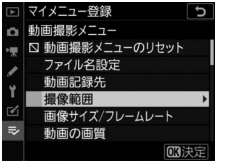
2 登録したいメニューを選ぶ

登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

マイメニューに登録する項目を選んでⓀボタンを押します。

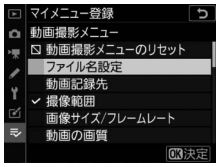


4 登録する項目の表示位置を選ぶ



㊧㊨で登録する項目の表示位置を選んで、㊎ボタンを押します。

5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する



- ✔が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☒が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。

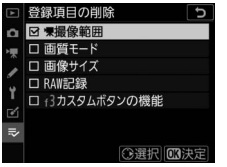
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

[**登録項目の削除**] を選び、マルチセレクターの▶を押します。

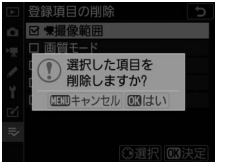
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- ▶を押すと、項目のチェックボックスが☑になります。
- 削除したい全ての項目に✔を入れます。



3 選んだ項目を削除する

Ⓚボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度Ⓚボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



登録した項目をボタン操作で削除するには

[**マイメニュー**] 画面で削除したい項目を選んで🗑（Ⓡ）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑（Ⓡ）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

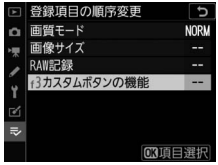
■■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

[**登録項目の順序変更**] を選び、マルチセレクターの▶を押します。

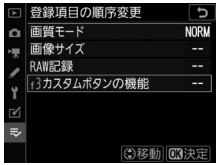
2 順番を変えたい項目を選ぶ

順番を変えたい項目を選んで、OKボタンを押します。



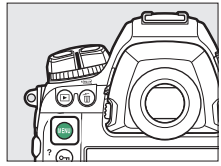
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

- ▲▼で移動したい位置を選んで、OKボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENUボタンを押すと、[マイメニュー]画面に戻ります。





■ マイメニューの機能を［最近設定した項目］に変更する

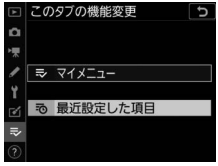
1 ［マイメニュー］画面で［このタブの機能変更］を選ぶ

［**このタブの機能変更**］を選び、マルチセレクターの▶を押します。



2 ［最近設定した項目］を選ぶ

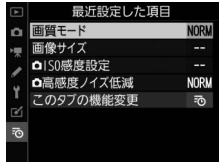
- ［**このタブの機能変更**］画面で［**最近設定した項目**］を選んで、OKボタンを押します。
- ［**マイメニュー**］が［**最近設定した項目**］に切り替わります。



最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■■［最近設定した項目］の設定方法

メニューを設定するたびに［**最近設定した項目**］に追加されます。最大20項目まで登録されます。



☑ 最近設定した項目を削除するには

［**最近設定した項目**］画面で削除したい項目を選んで🗑（Q）ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑（Q）ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

☑［最近設定した項目］からマイメニューに戻すには

［**最近設定した項目**］の［**このタブの機能変更**］を選ぶと、「マイメニューの機能を［最近設定した項目］に変更する」（🕮996）の手順2と同じ画面が表示されます。［**マイメニュー**］を選んでOKボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

困ったときは

お問い合わせになる前に

カメラの動作がおかしいときは、次の手順を行うことで問題が解決する場合があります。ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前にお試しください。

STEP 1	**カメラの動作がおかしいときの対処方法を確認して、カメラを点検する。** 次のページで対処方法が確認できます。 • 故障かな？と思ったら（🕮1000） • 警告表示と警告メッセージ（🕮1012）
STEP 2	**電源をOFFにしてバッテリーを取り出し、約1分後に再度バッテリーを入れてカメラの電源をONにする。** ☑ 撮影直後はメモリーカードに画像の記録を行っている場合があります。バッテリーを取り出すまで、撮影後は1分以上お待ちください。
STEP 3	**ニコンのホームページを確認する。** • サポートサイトのQ&A などで解決方法を探すことができます。 https://www.nikon-image.com/support/ • ニコンダウンロードセンターで、カメラの最新のファームウェアを確認してください。 https://downloadcenter.nikonimglib.com/
STEP 4	**ニコンサービス機関に問い合わせる。**

カメラの初期化について

- 機能の組み合わせによって、使用したい機能（メニュー項目）が設定できない場合があります。使用したいメニュー項目がグレーアウトしているときなどにセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を実行すると、メニューが選べるようになることがあります。
- カメラを初期化すると、無線接続設定や著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元に戻せないのでご注意ください。

故障かな？と思ったら

次のような症状が発生した場合の対処法については、こちらをご覧ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態で、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
  - 記録中であったデータは保存されません。
  - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモードを**AF-S**、AFエリアモードを［**シングルポイントAF**］に設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（🕮28、47）。

● ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニュー c2［**半押しタイマー**］やc4［**モニターのパワーオフ時間**］で、表示が消えるまでの時間を設定できます。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなることがあります。

● ファインダー内に模様が見える

液晶の特性上、フォーカスポイントを照明するときにファインダー内が赤くなることがありますが、故障ではありません。

撮影関連

● 電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるメモリーカードが入っていますか？
- Gタイプ、EタイプレンズCPU以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。上面表示パネルに**FE E**と表示されている場合、カスタムメニュー f6［**コマンドダイヤルの設定**］の［**絞り値の設定方法**］を［**絞りリング**］に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます。
- 露出モード**M**でシャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま露出モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。
- セットアップメニュー［**カードなし時レリーズ**］が［**レリーズ禁止**］になっていませんか？

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニュー d5［**露出ディレーモード**］を［**しない**］にしてください。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？　オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。明暗差がはっきりしない/遠くのものと近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● 電子音が鳴らない

- AFモードが**AF-C**の場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
- セットアップメニュー［**電子音**］の［**電子音設定**］を［**無効**］以外に設定すると電子音が鳴ります。

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1［**フラッシュ撮影同調速度**］で、1/250～ 1/60秒の範囲で設定できます。［**1/250秒（オート FP）**］に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFP ハイスピードシンクロが可能です。

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、サブセレクターの中央を押してフォーカスをロックしてください。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバーが**L**（ロック）の位置になっていませんか？
- AFエリアモードが［**オートエリアAF**］のときは、選べません。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください。

● AFモードを変更できない

カスタムメニューa15［**AFモードの制限**］を［**制限しない**］に設定してください。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］が［**する**］になっていませんか？

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度やシャッタースピード、アクティブD-ライティングなどのカメラの設定を変更してください。
- 長時間露出撮影や、カメラが高温になるような環境で撮影をする場合、ISO感度を高く設定しているとノイズが強調されることがあります。

● ライブビュー表示中の画像モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

ライブビュー時に画像モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません。

● 動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

動画撮影メニュー［**フリッカー低減**］の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください。

● ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください。

● ゴースト、フレアが目立つ

太陽や高輝度の照明などの明るい光源が含まれるなどのシーンを撮影したときに、画像上にゴーストやフレアが目立つ場合があります。レンズにフードを付ける、あるいは光源を画角から大きく外すことで目立ちにくくなります。また、レンズからフィルターを外す、シャッタースピードを変更する、サイレント撮影するなどを試していただくと目立ちにくくなることがあります。

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
  - 撮影時の気温が高い場合
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
  - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、🔍ボタンで画面を拡大すると、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの［**画像サイズ/フレームレート**］の設定によっては、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。
- 撮影した画像に発生するノイズは、画像モニターで表示されたノイズと見え方が異なることがあります。

● ライブビュー撮影時に画面の色味が大きく変わる

高感度（Hi 0.3～Hi 5）で撮影する場合、シャッターがきれた直後や連続撮影中に画像モニターの色味が大きく変わることがありますが故障ではありません。表示はしばらくすると元に戻ります。また、実際に記録される画像に影響はありません。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません。

● **ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない**

- RAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出またはHDR（ハイダイナミックレンジ）による撮影を同時に行うことはできません。

● **［ピクチャーコントロール］の効果が安定しない**

［**ピクチャーコントロール**］、［**カスタムピクチャーコントロール**］が［**オート**］に設定されているか、それぞれの調整画面で［**クイックシャープ**］、［**コントラスト**］、［**色の濃さ（彩度）**］のいずれかが［**A**］（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を［**A**］（オート）以外に設定してください。

● **測光モードが変更できない**

AEロック中は、測光モードを変更できません。

● **露出補正ができない**

露出モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません。

● **長時間露出撮影時に色むらが発生する**

シャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像に色むらが発生することがあります。この現象は、静止画撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を［**する**］に設定することで低減できます。

● **動画に音声が録音されない**

動画撮影メニュー［**マイク感度**］が［**録音しない**］になっていませんか？

再生関連

● RAW画像が表示されない

［**画質モード**］を［**RAW＋FINE★**］、［**RAW＋FINE**］、［**RAW＋NORMAL★**］、［**RAW＋NORMAL**］、［**RAW＋BASIC★**］、［**RAW＋BASIC**］にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー［**縦位置自動回転**］が［**しない**］になっていませんか？
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

● 画像が削除できない

画像にプロテクトが設定されていませんか？

● 画像が編集できない

- このカメラでは編集できない画像です。
- メモリーカードの残量は充分にありますか？

● 画像を記録したのに［撮影画像がありません］と表示される

再生メニュー［**再生フォルダー設定**］を［**全てのフォルダー**］にしてください。

● 画像がHDMI対応機器で再生できない

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください。

● **NX Studioでイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき

● **[ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴィネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない**

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はNX Studioをお使いください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

Wi-Fi（無線LAN）およびBluetooth関連

● スマートフォンにカメラのSSID（ネットワーク名）が表示されない

- セットアップメニュー［**機内モード**］が［**無効**］になっていること、および［**スマートフォンと接続**］にある［**ペアリング（Bluetooth）**］の［**Bluetooth通信機能**］が［**有効**］になっていることを確認してください。
- セットアップメニュー［**スマートフォンと接続**］の［**Wi-Fi接続**］が有効になっていることを確認してください。
- スマートフォンの無線機能をOFFにしてからONにし直してください。

● プリンターなどの無線通信機器と接続できない

このカメラは、スマートフォンやパソコン以外の機器とは無線接続できません。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない

カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

● 表示されているメニュー項目が選べない

- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
- セットアップメニュー［**電池チェック**］は電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません。

警告表示と警告メッセージ

上面表示パネル、ファインダー、画像モニターに表示される警告表示と警告メッセージの意味は次の通りです。

警告表示

上面表示パネルおよびファインダー内に次の警告が表示されます。

警告表示		原因と対処方法
上面表示パネル	ファインダー内表示	
FE E（点滅）	FE E（点滅）	**レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。** レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。
		バッテリー残量は残りわずかです。 バッテリー交換の準備をしてください。

警告表示		原因と対処方法
上面表示パネル	ファインダー内表示	
（点滅）	（点滅）	**バッテリーが消耗しています。** • バッテリーを交換してください。 • バッテリーを充電してください。
		バッテリーとの情報通信ができません。 • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。
		カメラと通信できないバッテリーを使用しています。 カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。
		バッテリーの温度が高くなっています。 バッテリーをカメラから取り出して、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。
CLOCK（点滅）	—	**内蔵時計の日時が設定されていません。** 日時を設定してください。
F	**F**	**開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。** レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。

警告表示		原因と対処方法
上面表示パネル	ファインダー内表示	
—	▶◀（点滅）	**オートフォーカスでピント合わせができません。** 構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。
bulb（点滅）	bulb（点滅）	**露出モードがSのときにシャッタース ピードが bulb（バルブ）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 露出モードMで撮影してください。
- -（点滅）	- -（点滅）	**露出モードがSのときにシャッタースピードが- -（タイム）にセットされています。** • シャッタースピードを変えてください。 • 露出モードMで撮影してください。
buSY（点滅）	bSY（点滅）	**カメラが処理を行っています。** カメラが処理を終えるまでお待ちください。
—	ϟ（点滅）	**スピードライトがフル発光しました。** 撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO 感度などをご確認ください。

警告表示		原因と対処方法
上面表示パネル	ファインダー内表示	
（シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケーターが点滅）		**被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。** • ISO感度を低くしてください。 • 露出モードが**P**のときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（**S**、**A**のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードが**S**のときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • 露出モードが**A**のときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。
		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。 • ISO感度を高くしてください。 • 露出モードが**P**のときは別売スピードライトを使用してください（**S**、**A**のときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • 露出モードが**S**のときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • 露出モードが**A**のときは絞りを開いてください（より小さい数値）。

警告表示		原因と対処方法
上面表示パネル	ファインダー内表示	
◉（点滅）	—	**赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードが設定され、赤目軽減発光機能に対応していないスピードライトが装着されています。** • 赤目軽減発光機能が可能な専用スピードライトをお使いください。 • フラッシュモードの設定を変更してください。
FuLL（点滅）	FuL（点滅）	**画像を記録する空き容量がありません。** • メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。
		カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 • メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。
Err（点滅）	Err（点滅）	**撮影中に何らかの異常を検出しました。** もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

警告メッセージ

画像モニターおよび上面表示パネルに次の警告が表示されます。

警告表示		原因と対処方法
画像モニター	上面表示パネル	
メモリーカードが入っていません。	[- E -]	**メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。** メモリーカードを正しくセットしてください。
このメモリーカードにアクセスできません。 カードを交換してください。	[Crd]、[Err]（点滅）	**メモリーカードへのアクセス異常です。** • このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 • 繰り返し抜き差ししてもエラーが解消しない場合は、メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。
		新規フォルダーが作成できません。 • メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。

警告表示		原因と対処方法
画像モニター	上面表示パネル	
このメモリーカードは初期化（フォーマット）されていません。フォーマットしてください。	〔For〕（点滅）	**メモリーカードが正しく初期化されていません。** • メモリーカードを初期化してください。 • 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	**カメラ内部の温度が高くなっています。** カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止してください。
撮影画像がありません。	—	**撮影画像がありません。** 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。
		再生するフォルダーの指定に問題があります。 再生メニューの［**再生フォルダー設定**］で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。
全ての画像が非表示に設定されています。	—	**記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。** 再生メニューの［**非表示設定**］で、画像の非表示設定を解除してください。

警告表示		原因と対処方法
画像モニター	上面表示パネル	
このファイルは表示できません。	—	**アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。** アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
		画像ファイルに異常があるため再生できません。 アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。
このファイルは選択できません。	—	**編集できない画像です。** このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。
この動画は編集できません。	—	**編集できない動画です。** • このカメラで撮影した動画しか編集できません。 • 2秒未満の動画は編集できません。

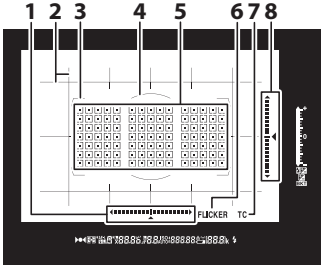
警告表示		原因と対処方法
画像モニター	上面表示パネル	
このファイルは保存先のメモリーカードには保存できません。詳しくは使用説明書をご覧ください。	—	**ファイルサイズが4GB以上の場合、exFATでフォーマットされたメモリーカードにのみ保存できます。FAT32など、exFAT以外でフォーマットされたカードには保存できません。** このカメラで初期化した32GBを超えるカードを使用するか、保存する画像のファイルサイズが4GB未満になるようにしてください。

資 料

全画面表示

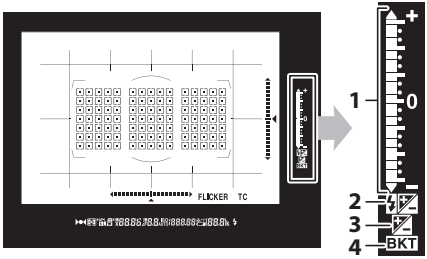
説明のため、全ての表示を点灯させています。

ファインダー



1 ローリング方向の水準器※1、2（🕮862）
2 構図用格子線※3（🕮832）
3 AFエリアフレーム（🕮50、164）
4 中央部重点測光参照エリア φ12mm（🕮111、178）
5 フォーカスポイント表示（🕮164）
スポット測光エリア（🕮111、178）
AFエリアモード表示（🕮157）
6 フリッカー検出（🕮772）
7 テレコンマーク※4
8 ピッチング方向の水準器※1、5（🕮862）

※1 カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］（🕮850）で、［**ファインダー内水準器**］を割り当てたボタンを押したときに表示されます。
※2 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ピッチング方向の水準器になります。
※3 カスタムメニュー d11［**格子線表示**］を［**する**］に設定している場合のみ表示されます。
※4 テレコンバーター内蔵のレンズを装着し、テレコンバーターを使用している場合のみ点灯します。
※5 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向の水準器になります。

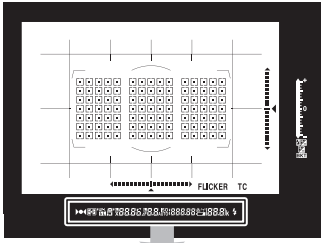


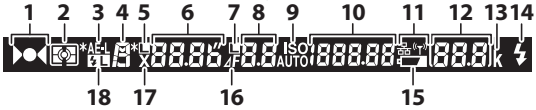
1 インジケーター
露出（🕮190）
露出補正（🕮117、199）
AE・フラッシュブラケティング（🕮251）

2 調光補正マーク（🕮133、653）

3 露出補正マーク（🕮117、199）

4 ブラケティングマーク
AE・フラッシュブラケティング（🕮251）
WBブラケティング（🕮259）
ADLブラケティング（🕮265）





1	ピント表示（🕮50、176）
2	測光モード（🕮111、178）
3	**AE-L**マーク（🕮170、196）
4	露出モード（🕮108、182）
5	シャッタースピードロックマーク（🕮194）
6	シャッタースピード（🕮185、188） AFモード（🕮98、149）
7	絞り値ロックマーク（🕮194）
8	絞り値（🕮186、188） 絞り込み段数（🕮187）
9	ISO感度マーク（🕮114、213） ISO AUTOマーク（🕮116、220）
10	ISO感度（🕮114、213） アクティブD-ライティング度合い表示（🕮281） AFエリアモード（🕮101、157）
11	ネットワーク表示（🕮593）

12 記録可能コマ数（🕮48、1120）
連続撮影可能コマ数（🕮207、1120）
ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示（🕮235）
露出補正値（🕮117、199）
調光補正量（🕮133、653）
PC接続中マーク（🕮1071）

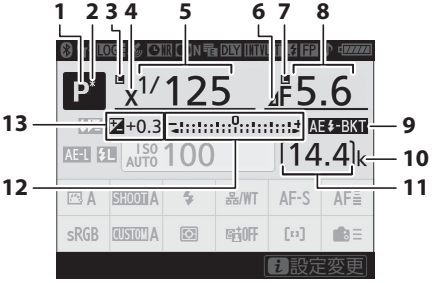
13 1000コマ以上補助表示（🕮48）
14 レディーライト※（🕮641）
15 バッテリー残量表示（🕮47）
16 絞り込み段数マーク（🕮187）
17 フラッシュシンクロマーク（🕮836）
18 FVロックマーク（🕮655、840）

※別売のスピードライト（🕮641）使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

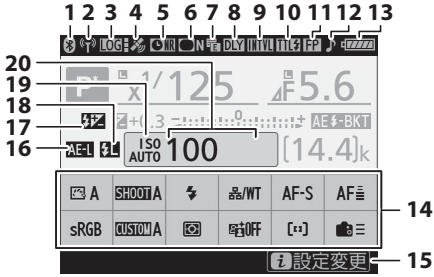
ファインダーについてのご注意
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

高温、低温下での液晶表示について
表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

インフォ画面



1	露出モード（🕮108、182）
2	プログラムシフトマーク（🕮184）
3	シャッタースピードロックマーク（🕮194）
4	フラッシュシンクロマーク（🕮836）
5	シャッタースピード（🕮185、188）
6	絞り込み段数マーク（🕮187）
7	絞り値ロックマーク（🕮194）
8	絞り値（🕮186、188） 絞り込み段数（🕮187）
9	AE・フラッシュブラケティングマーク（🕮251） WBブラケティングマーク（🕮259） ADLブラケティングマーク（🕮265） HDRマーク（🕮283） 多重露出マーク（🕮318）
10	1000コマ以上補助表示（🕮48）
11	記録可能コマ数（🕮48、1120）
12	インジケーター 露出（🕮190） 露出補正（🕮199） AE・フラッシュブラケティング（🕮251） WBブラケティング（🕮259） ADLブラケティング（🕮265）
13	露出補正マーク（🕮117、199） 露出補正値（🕮117、199）



1	Bluetooth通信マーク（🕮469、929） 機内モード（🕮929）
2	Wi-Fi通信マーク（🕮461、931、932）
3	ログ取得表示（🕮384）
4	衛星受信状態マーク（🕮386）
5	長秒時ノイズ低減マーク（🕮767）
6	ヴィネットコントロール（🕮769）
7	電子先幕シャッター（🕮827）
8	露出ディレーモード（🕮827）
9	インターバルタイマー設定マーク（🕮331） マーク（🕮1028）
10	発光モード（🕮645）
11	FP発光表示（🕮836）
12	電子音マーク（🕮923）
13	バッテリー残量表示（🕮47）
14	**i**メニュー表示領域（🕮88）
15	操作ガイド（🕮1028）
16	**AE-L**マーク（🕮170、196）
17	調光補正マーク（🕮653）
18	FVロックマーク（🕮655）
19	ISO感度マーク（🕮114、213） ISO AUTOマーク（🕮116、220）
20	ISO感度（🕮114、213）

✓ ⏲マークについて

⏲が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー［**地域と日時**］の［**日時の設定**］で日時設定をしてください。

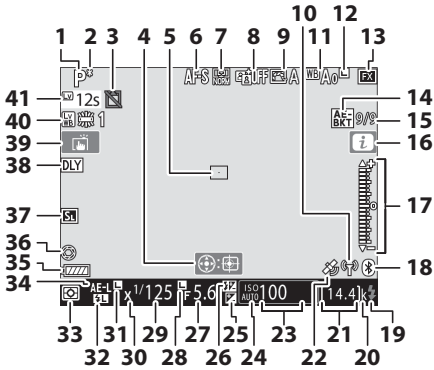
ヒント：インフォ画面から i メニューを設定する

インフォ画面表示時に i ボタンを押すか、操作ガイドをタッチすると i メニューが設定できるようになります。再度 i ボタンを押すか、INFO ボタンを押すとインフォ画面に戻ります。



ライブビュー画面（静止画/動画）

■■ 静止画撮影時



1	露出モード（🕮108、182）
2	プログラムシフトマーク（🕮184）
3	カードなしマーク
4	ターゲット追尾AF（🕮160）
5	フォーカスポイント（🕮164）
6	AFモード（🕮98、151）
7	AFエリアモード（🕮101、160）
8	アクティブD-ライティング（🕮281）
9	ピクチャーコントロール（🕮125、271）
10	Wi-Fi通信マーク（🕮461、931、932）
11	ホワイトバランス（🕮121、221）
12	オートホワイトバランスロックマーク（🕮850）

13 撮像範囲（🕮136）

14 AE・フラッシュブラケティングマーク（🕮251）
WBブラケティングマーク（🕮259）
ADLブラケティングマーク（🕮265）
HDRマーク（🕮283）
多重露出マーク（🕮318）

15 AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数表示（🕮251）
WBブラケティング撮影コマ数表示（🕮259）
ADLブラケティング度合い表示（🕮265）
HDR露出差（🕮283）
多重露出撮影コマ数（🕮318）

16 *i*メニュー（🕮88）

17 露出インジケーター（🕮190）

18 Bluetooth通信マーク（🕮469、929）
機内モード（🕮929）

19 レディーライト（🕮641）

20 1000コマ以上補助表示（🕮48）

21 記録可能コマ数（🕮48、1120）

22 衛星受信状態マーク（🕮386）

23 ISO感度（🕮114、213）

24 ISO感度マーク（🕮114、213）
ISO AUTOマーク（🕮116、220）

25 露出補正マーク（🕮117、199）

26 調光補正マーク（🕮133、653）

27 絞り値（🕮186、188）

28 絞り値ロックマーク（🕮194）

29 シャッタースピード（🕮185、188）

30 フラッシュシンクロマーク（🕮836）

31 シャッタースピードロックマーク（🕮194）

32 FVロックマーク（🕮655）

33 測光モード（🕮111、178）

34 **AE-L**マーク（🕮170、196）

35 バッテリー残量表示（🕮47）

36 開放絞りアイコン（🕮62）

37 サイレント撮影（🕮374）
電子先幕シャッターモード（🕮827）

38 露出ディレーモード（🕮827）

39 タッチ撮影機能（🕮18）

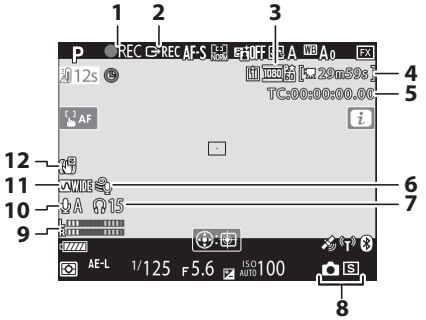
40 静止画Lv画面のホワイトバランス（🕮848）

41 ライブビュー残り時間（🕮60）
温度上昇警告（🕮1031）

温度上昇警告について

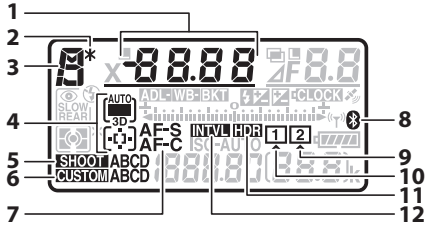
- カメラ内部の温度が上昇すると、温度上昇警告が表示され、カウントダウンが表示されます。カウントダウンが0になると、画像モニターの表示が消灯します。
- 消灯する30秒前から赤字で表示されます。撮影条件によっては、電源をONにした後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

■■ 動画撮影時

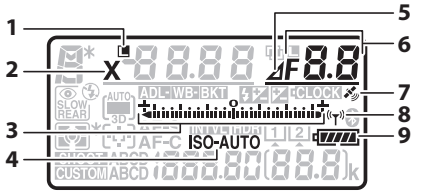


1	録画中マーク（🕮63） 動画記録禁止マーク（🕮297）	7	ヘッドホン音量（🕮794）
2	外部記録制御（🕮455）	8	静止画撮影のレリーズモード（🕮70）
3	画像サイズ/フレームレート/画質（🕮294）	9	音声レベルインジケーター（🕮66）
4	動画記録残り時間（🕮294）	10	マイク感度（🕮792）
5	タイムコード（🕮795）	11	録音帯域（🕮793）
6	風切り音低減マーク（🕮794）	12	電子手ブレ補正マーク（🕮791）

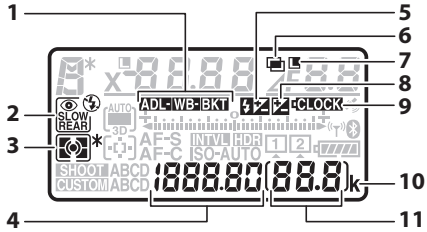
上面表示パネル



1	シャッタースピード（🕮185、188） AFエリアモード（🕮101、157） 露出補正値（🕮117、199） 調光補正量（🕮133、653） AE・フラッシュブラケティング撮影コマ数（🕮251） WBブラケティング撮影コマ数（🕮259） 合成モード（🕮328） インターバル回数（🕮331） 非CPUレンズ焦点距離（🕮383）
2	プログラムシフトマーク（🕮184）
3	露出モード（🕮108、182）
4	AFエリアモードマーク（🕮101、163）
5	静止画撮影メニュー設定表示（🕮752）
6	カスタムメニュー設定表示（🕮802）
7	AFモードマーク（🕮98、149）
8	Bluetoothマーク（🕮469、929）
9	メモリーカードマーク（スロット2）（🕮41、48）
10	メモリーカードマーク（スロット1）（🕮41、48）
11	HDRマーク（🕮283）
12	インターバルタイマー設定マーク（🕮331） タイムラプス動画撮影設定マーク（🕮358）

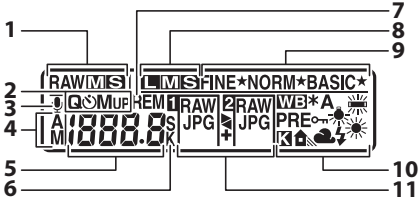


1	シャッタースピードロックマーク（🕮194）
2	フラッシュシンクロマーク（🕮836）
3	インジケーター 露出（🕮190） 露出補正（🕮117、199） AE・フラッシュブラケティング（🕮251） WBブラケティング（🕮259） ADLブラケティング（🕮265）
4	ISO感度マーク（🕮114、213） ISO AUTOマーク（🕮116、220）
5	絞り込み段数マーク（🕮187）
6	絞り値（🕮186、188） 絞り込み段数（🕮187） AE・フラッシュブラケティング補正ステップ（🕮251） WBブラケティング補正ステップ（🕮259） ADLブラケティング撮影コマ数（🕮265） インターバルタイマー撮影コマ数（🕮331） HDR露出差（🕮291） 多重露出撮影コマ数（🕮328） 非CPUレンズ開放絞り値（🕮383） PC接続中マーク（🕮1071）
7	衛星受信状態マーク（🕮386）
8	Wi-Fi通信マーク（🕮461、931、932）
9	バッテリー残量表示（🕮47）



1	オートブラケティングマーク AE・フラッシュブラケティング（🕮251） WBブラケティング（🕮259） ADLブラケティング（🕮265）
2	フラッシュモード（🕮131、648）
3	測光モードマーク（🕮111、178）
4	撮影済みコマ数（🕮10） ISO感度（🕮114、213） ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ番号（🕮234）
5	調光補正マーク（🕮133、653）
6	多重露出マーク（🕮321）
7	絞り値ロックマーク（🕮194）
8	露出補正マーク（🕮117、199）
9	時計用バッテリーチェックマーク（🕮46、1083）
10	1000コマ以上補助表示（🕮48）
11	記録可能コマ数（🕮48、1120） 連続撮影可能コマ数（🕮207、1120） ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ取得モード表示（🕮234） アクティブD-ライティング度合い表示（🕮281） HDRモード（🕮291） 多重露出モード（🕮328） 手動設定レンズNo（🕮383） タイムラプス動画撮影中マーク（🕮358） カメラコントロールモード表示（🕮595）

背面表示パネル



1	画像サイズ（RAW）（🕮147） スロット2のJPEG画像の画像サイズ（🕮308）
2	レリーズモード（🕮109、203）
3	音声メモ録音状態表示（🕮437、441）
4	音声メモ録音モード表示（🕮440）
5	レリーズモード（🕮109、203） 連続撮影速度（🕮109、203、824） セルフタイマー撮影コマ数/作動時間（🕮209、823） 記録可能コマ数（🕮48、1120） 撮影済みコマ数（🕮833） 音声メモ録音/再生残り時間（🕮437） ホワイトバランス［**オート**］/［**蛍光灯**］の種類（🕮121、225） ホワイトバランスプリセットマニュアルデータ番号（🕮234） ホワイトバランス色温度（🕮231） PC接続中マーク（🕮1071）
6	1000コマ以上補助表示（🕮48） ホワイトバランス色温度表示（🕮231） 秒数補助表示（🕮209、437）
7	記録可能コマ数マーク（🕮1120）
8	画像サイズ（JPEG）（🕮120、145）
9	画質モード（🕮118、144）
10	ホワイトバランスモード（🕮121、221） ホワイトバランス微調整設定マーク（🕮227） オートホワイトバランスロックマーク（🕮850） プリセットマニュアルデータプロテクトマーク（🕮240）
11	スロット2の機能（🕮308） 画質モード（🕮118、144）

使用できるFマウントレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。特にGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

CPUレンズ

レンズ※1/レンズ用アクセサリー	オートフォーカス※2	露出モード		測光モード			
		P S	A M	3D-RGB	RGB	⊡	⊡*
Gタイプレンズ※3、Eタイプレンズ※3、Dタイプレンズ※3、AF-Sレンズ、AF-Pレンズ、AF-Iレンズ	○	○	○	○	×	○※4	○
PC NIKKOR 19mm f/4E ED※5	×	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6	○※6
PC-E NIKKORシリーズ※5	×	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6	○※6
PCマイクロ 85mm F2.8D※5、7	×	×	○※8	○※6	×	○※4、6	○※6
AF-S/AF-Iテレコンバーター※9	○	○	○	○	×	○※4	○
Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※10	○	○	×	○	○※4	×
AI-Pニッコール	×	○	○	×	○	○※4	×

※1　IXレンズは装着できません。
※2　**M**（マニュアルフォーカス）は全てのレンズで使用可能です。
※3　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4　フォーカスポイントの選択により、測光モードを［**スポット測光**］にしたときの測光エリアの移動が可能。
※5　電子先幕シャッター使用時は、むら、すじなどが発生することがあります。その場合は、カスタムメニュー d6［**電子先幕シャッター**］を［**無効**］に設定して撮影してください。
※6　アオリ操作（シフトまたはティルト）をしていない場合のみ可能。
※7　カメラの測光、および調光制御機能は、アオリ操作をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
※8　露出モードは**M**で使用可能。
※9　オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」（🕮1042）をご覧ください。
※10　AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S（New）、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

- 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。また、動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5–5.6」などと記されています。

VRレンズ装着時のご注意

次のVRレンズは、高感度や長時間露出で撮影する場合に装着するとVR制御システムの特性により画像にむらが出ることがあるため、このような条件でお使いになることはおすすめしません。

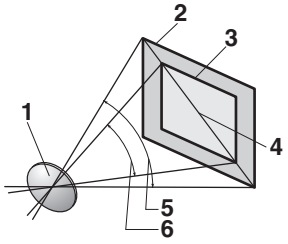
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–300mm f/4.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 300mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR

その他のVRレンズをお使いの場合、画像への影響を避けるためにVRはOFFにしてください。

☑ レンズの画角と焦点距離について

このカメラでは、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。35mm判カメラのレンズおよびFXフォーマット対応レンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）で撮影できます。

- 静止画撮影メニュー［**撮像範囲**］にある［**撮像範囲設定**］の設定を変更すると、使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば35mm判カメラのレンズまたはFXフォーマット対応レンズを装着していても、［**DX（24×16）**］に設定すると、画角を狭くできます。

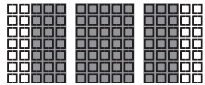
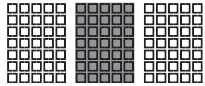


1	レンズ
2	［**FX（36×24）**］（35mm判カメラに準じた撮影画面サイズ相当 35.9×23.9 mm）
3	［**DX（24×16）**］時の撮影画面サイズ（23.5×15.7 mm）
4	画面対角線
5	［**FX（36×24）**］（35mm判カメラ）時の画角
6	［**DX（24×16）**］時の画角

- 対角線の長さで［**DX（24×16）**］のときの約1.5倍です。このため、撮像範囲を［**DX（24×16）**］にしている場合、35mm判カメラのレンズまたはFXフォーマット対応レンズに表記されている焦点距離は、約1.5倍に相当します。たとえば、焦点距離50mmのレンズを装着したときは、［**DX（24×16）**］では約75mmの焦点距離に相当する画角になります。

☑ クロスセンサーを使用できるフォーカスポイントについて

装着しているレンズにより、クロスセンサーを使用できるフォーカスポイントが異なります。

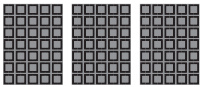
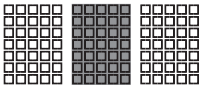
装着するレンズ	クロスセンサー※2 （グレーのエリア内にあるフォーカスポイント）
下記のレンズを除く開放絞り値※1がF4以上明るいAF-S/AF-Pレンズ	 クロスセンサー 105点
• AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED • AF-S NIKKOR 500mm f/4E FL ED VR • AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR • AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR • AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED II • AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED	 クロスセンサー 91点
• AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR • AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED II • AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED	 クロスセンサー 77点
• AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II • AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED • 開放絞り値※1がF4より暗いAF-S/AF-Pレンズ • AF-S/AF-Pレンズを除くその他のレンズ	 クロスセンサー 35点

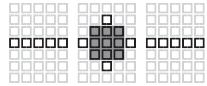
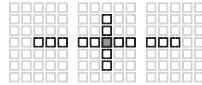
※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターを装着してファインダー撮影を行う場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

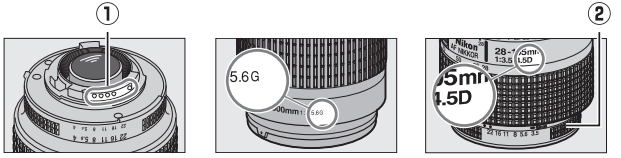
使用するテレコンバーター	装着するレンズの開放絞り値※1	使用可能なフォーカスポイント（グレーのエリア内にあるフォーカスポイントはクロスセンサー※2）
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III TC-17E II TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2	 • 105点 • クロスセンサー 105点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F2.8	
TC-17E II TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2.8	 • 105点 • クロスセンサー 35点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F4	

使用するテレコンバーター	装着するレンズの開放絞り値※1	使用可能なフォーカスポイント（グレーのエリア内にあるフォーカスポイントはクロスセンサー※2）
TC-17E II	F4	 • 23点 • クロスセンサー 9点
TC-800-1.25E ED	F5.6	
TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F4	 • 15点 • クロスセンサー 1点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F5.6	

※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。
※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

ヒント：CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点（①）があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリング（②）がありません。



CPUレンズ　G/Eタイプレンズ　Dタイプレンズ

非CPUレンズなど

レンズ※1/レンズ用アクセサリー	露出モード		測光モード			
	P S	A M	3D-RGB	RGB		*
AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ※2	×	○※3	×	○※4	○※5	×
メディカル120mm f/4	×	○※6	×	×	×	×
レフレックスレンズ	×	○※3	×	×	○※5	×
PCニッコール	×	○※7	×	×	○	×
AI-S、AIテレコンバーター※8	×	○※3	×	○※4	○※5	×
ベローズアタッチメントPB-6※9	×	○ ※10	×	×	○	×
オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※3	×	×	○	×

※1　一部装着不可能なレンズ（🕮1047）があります。

※2　AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

※3　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。

※4　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は［**中央部重点測光**］または［**スポット測光**］を選んで撮影してください。

※5　セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。

※6　露出モードが**M**でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。

※7　絞り込み測光で使用します。露出モードが**A**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードが**M**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。

※8　AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。

※9　オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。

※10 絞り込み測光で使用可能、露出モードが**A**の場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

- 動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

☑ 使用できないレンズ

次の非CPUレンズおよびアクセサリーは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

ヒント：非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの［**レンズ情報手動設定**］でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードを［**マルチパターン測光**］に設定しても、自動的に［**中央部重点測光**］になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。［**レンズ情報手動設定**］でレンズの開放絞り値を設定しない場合、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

フォーカスエイドの制限について

使用するレンズによってフォーカスエイドができる条件が異なります。

■■ CPUレンズ

レンズ/レンズ用アクセサリー	ファインダー撮影時	ライブビュー撮影時
Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズ、AF-Sレンズ、AF-Pレンズ、AF-Iレンズ	○	×
PC NIKKOR 19mm f/4E ED	○※1	×
PC-E NIKKORシリーズ	○※1	×
PCマイクロ 85mm F2.8D	○※1	×
AF-S/AF-Iテレコンバーター	○	×
Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※2	×
AI-Pニッコール	○※3	×

※1 アオリ操作をしていない場合のみ可能。

※2 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S (New)、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。

※3 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。

■■ 非CPUレンズなど

レンズ/レンズ用アクセサリー	ファインダー撮影時	ライブビュー撮影時
AI-S、AI、AI改造レンズ、シリーズEレンズ	○※1	×
メディカル120mm f/4	○	×
レフレックスレンズ	×	×
PCニッコール	○※2	×
AI-S、AIテレコンバーター	○※3	×
ベローズアタッチメントPB-6	○※3	×
オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	○※3	×

※1 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※2 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
※3 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。

使用できるスピードライト

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）について

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）はニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、さまざまな機能を提供します。

■■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

使用できる機能			スピードライト									
			SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○※2	○※2	○	○※2	○	—	—	○	○
	㊎A	絞り連動外部自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	—	○※3	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※4	—	—	○※4	○※4
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—

使用できる機能			スピードライト									
			SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
光制御アドバンストワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	リモートフラッシュへの発光指示	○	○	○	—	○ ※4	○	—	—	—
		i-TTL i-TTL調光	○	○	○	—	○ ※4	—	—	—	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	—	○	—	—	○ ※5	—	—	—
		㊎A 絞り連動外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—
		A 外部自動調光	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		M マニュアル発光	○	○	○	—	○ ※4	—	—	—	—
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	リモートフラッシュ	**i-TTL** i-TTL調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		[A : B] クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		㊎A/A 絞り連動外部自動調光/外部自動調光	○ ※6	○※6	—	—	—	—	—	—	—
		M マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—
		RPT リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—

使用できる機能	スピードライト									
	SB-5000	SB-910 SB-900 SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
電波制御アドバンスト ワイヤレスライティング	○ ※7	—	—	—	—	—	—	—	—
発光色温度情報伝達 （フラッシュ）	○	○	○	○	○	—	—	○	○
発光色温度情報伝達 （LEDライト）	—	—	—	—	○	—	—	—	—
オートFPハイスピード シンクロ※8	○	○	○	○	○	○	○	—	—
FVロック※9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤目軽減発光	○	○	○	○	○	—	—	○	—
カメラ起動モデリング発光	○	○	○	○	○	○	○	—	—
ユニファイドフラッシュ コントロール	○	—	—	—	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○	○※10	○	—	○	—	—	—	○

※1　スポット測光時は設定できません。
※2　スピードライト側でも設定できます。
※3　㊙AとAの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。
※4　カメラの［**フラッシュ発光**］で設定できます。
※5　クローズアップ撮影時のみ設定できます。
※6　㊙AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
※7　使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
※8　発光モードがi-TTL、㊙A、A、GN、Mの場合のみ動作します。
※9　発光モードがi-TTL、「モニター発光あり」の㊙Aまたは「モニター発光あり」のAの場合のみ動作します。
※10　SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800は、ワイヤレスで SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて光制御できます。SU-800には発光機能はありません。

☑ その他のスピードライトとの組み合わせで使用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（**A**）あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

使用できる機能			スピードライト				
			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 SB-21B SB-29S
区分	**A**	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
		マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ※2	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

☑ スピードライトのFVロック時の測光エリアについて

スピードライトを使用したFVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ6 mm相当
	絞り連動外部自動調光（㊎A）	スピードライトの外部測光エリア
アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光（㊎A）	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光（A）	

☑ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡（レディーライト）が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。

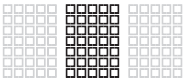
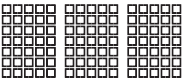
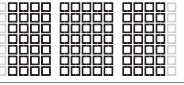
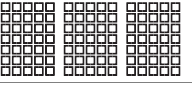
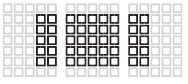
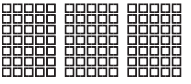
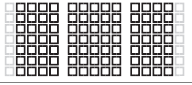
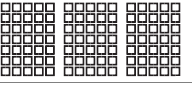
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 露出モードが**P**の場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）							
100	**200**	**400**	**800**	**1600**	**3200**	**6400**	**12800**
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- パワーアシストパックSD-8AまたはSD-9をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-8AまたはSD-9をカメラから離してお使いください。
- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を使用する場合、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライトのAF補助光を自動的に照射します。

- ファインダー撮影時にAF補助光が照射されるフォーカスポイントの位置は、焦点距離によって変化します。

スピードライト	AF補助光が照射されるフォーカスポイントの例	
SB-5000	焦点距離が24mmの場合	焦点距離が135mmの場合
		
SB-910、SB-900	焦点距離が17mmの場合	焦点距離が135mmの場合
		
SB-800、SB-600、ワイヤレスクリエイティブライトコマンダー SU-800	焦点距離が24mmの場合	焦点距離が105mmの場合
		
SB-700	焦点距離が24mmの場合	焦点距離が135mmの場合
		

- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

別売スピードライトの調光補正について

i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光（A）時に、（）ボタンを押して設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー［**フラッシュ発光**］で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

ヒント：モデリング発光について

- 別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、**Pv**ボタンを押すとモデリング発光が行われます。
- アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認できます。
- プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニューe6［**モデリング発光**］を［**しない**］に設定してください。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。

● 電源

- **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c**：ニコンデジタルカメラD6用のバッテリーです。EN-EL18cは、バッテリーチャージャー MH-26aを使用して充電、キャリブレーション（🕮1114）が行えます。
  - EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。ただし、EN-EL18を使用したときはEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（🕮1125）。
- **バッテリーチャージャー MH-26a**：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18用のチャージャーです。キャリブレーション機能も装備しています。
  - MH-26aの代わりにMH-26も使えます。
- **パワーコネクター EP-6、ACアダプター EH-6c**※：ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
  - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクター EP-6が必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」（🕮1069）をご覧ください。
  - EH-6cの代わりにACアダプター EH-6b/EH-6a/EH-6も使えます。

※日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

● アクセサリーシューカバー

アクセサリーシューカバー BS-3、BS-1：スピードライトを取り付けるアクセサリーシューを保護するためのカバーです（🕮1066）。

● ボディーキャップ

ボディーキャップBF-1B、BF-1A：レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

● ファインダー用アクセサリー

- **接眼目当てDK-19**：接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。
- **接眼補助レンズDK-17C**：遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－3、－2、0、＋1、＋2m^{-1}の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（－3～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください（🕮1067）。
- **マグニファイングアイピースDK-17M**：接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。
- **マグニファイヤー DG-2**：ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。
- **アイピースアダプター DK-18**：このカメラにマグニファイヤー DG-2やアングルファインダー DR-3を取り付けるためのアダプターです（🕮1067）。
- **アイピースアダプター DK-27**：このカメラの接眼部に標準で装着されているアイピースアダプターです。
- **アンティフォグファインダーアイピースDK-14、DK-17A**：寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアーなファインダー像を提供します。

- **フッ素コート付きファインダーアイピースDK-17F**：このカメラに標準で装着されているアイピースです。汚れが付着しにくく付着しても簡単に拭き取れる、ニコン独自のフッ素コートを両面に採用した保護ガラスを使用しています。
- **変倍アングルファインダー DR-5**：変倍アングルファインダー DR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍※の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。
  ※2倍では周辺部にケラレが生じます。
- **アングルファインダー DR-4**：アングルファインダー DR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

● フィルター

- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NCをお使いください。
- カメラ測光系の特性上、偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL Ⅱ）をお使いください。
- 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。
- 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを［**中央部重点測光**］に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。
- 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。

● ワイヤレストランスミッター ※1、2

ワイヤレストランスミッター WT-6：カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやスマートフォンのWebブラウザーから画像の閲覧やリモート撮影ができます。

※1 ワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、LANの知識および環境が必要です。ワイヤレストランスミッターで使用するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

※2 ワイヤレストランスミッター WT-5は使用できません。

● ワイヤレスリモートコントローラー

- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10**：WR-R10を10ピンターミナルに接続したWR用変換アダプター WR-A10に取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。
  - WR-R10を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。
  - WR-R10を装着したカメラを複数台用意してWR-R10をペアリングすると、複数のカメラを連動してシャッターをきる連動レリーズを行えます。
- **ワイヤレスリモートコントローラー WR-1**：WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。WR-R10または受信機に設定したWR-1をカメラの10ピンターミナルに取り付けると、WR-T10または送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影することができます。また、送信機に設定したWR-1からカメラの設定を変更したりすることができます。

※ワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降、WR-1のファームウェアをVer1.0.1以降の最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。WR-R10のファームウェアをVer.2.0以前からVer.3.0以降にバージョンアップする場合は、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

● 10ピンターミナルに接続するアクセサリー

10ピンターミナルに次のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。

使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

- **リモートコードMC-22、MC-22A（長さ：約1 m）**：コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。
- **リモートコードMC-30、MC-30A（長さ：約80 cm）**：カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。
- **リモートコードMC-36、MC-36A（長さ：約85 cm）**：一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。
- **延長コードMC-21、MC-21A（長さ：約3 m）**：MC-20、MC-22、MC-22A、MC-23、MC-23A、MC-25、MC-25A、MC-30、MC-30A、MC-36、MC-36A、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21またはMC-21Aを2本以上接続して使用することはできません）。
- **接続コードMC-23、MC-23A（長さ：約40 cm）**：10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。
- **変換コードMC-25、MC-25A（長さ：約20 cm）**：2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーター MT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。
- **WR用変換アダプター WR-A10**：ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を10ピンターミナル装備のカメラに装着するためのアダプターです。
- **ルミコントロールセットML-3**：最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。

● USBケーブル

- **USBケーブルUC-E24**：カメラ側がType-C、USB機器側がType-AのUSBケーブルです。
- **USBケーブルUC-E25**：両端がType-CのUSBケーブルです。

● HDMIケーブル

HDMIケーブルHC-E1：カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。

● 外部マイク

- **ステレオマイクロホンME-1**：ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画記録中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。
- **ワイヤレスマイクロホンME-W1**：Bluetooth無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収音できます。

● 端子カバー

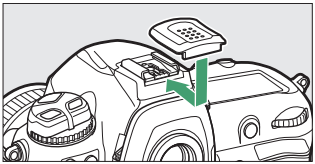
ステレオミニプラグケーブル用端子カバー UF-6：ステレオマイクロホンME-1（別売）のステレオミニプラグが不用意にカメラから外れることを防ぐことができます。

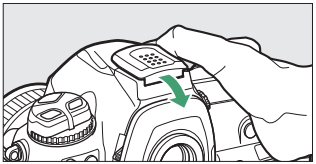
☑ 使用できるアクセサリーについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

☑ アクセサリーシューカバー BS-3の取り付けおよび取り外し方

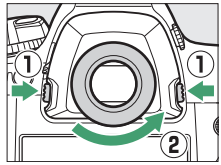
このカメラには、フラッシュ取り付け部の写り込みを防止したり、接点を保護するために、アクセサリーシューカバーが付属しています。アクセサリーシューカバーを取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリーシューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。





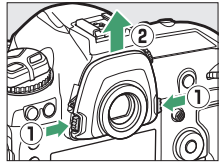
接眼補助レンズを取り付けるには

別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース（DK-17F）を取り外す必要があります。アイピースアダプターの左右のロックボタンを同時に押しながら（①）、アイピースを図の方向に回して取り外します（②）。



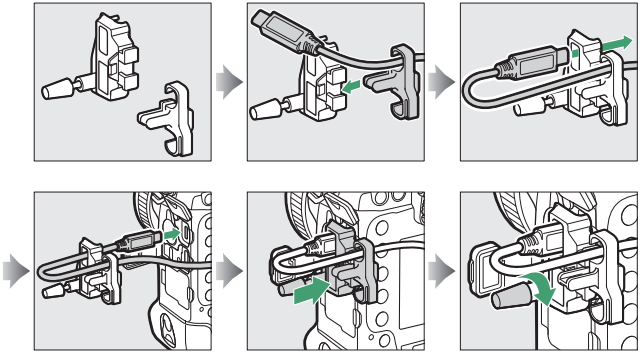
アイピースアダプターについて

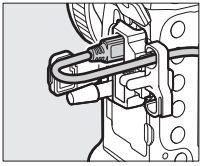
アイピースアダプターの左右のロックボタンを同時に押しながら上に押し上げると（①）、アイピースアダプターが取り外せます（②）。



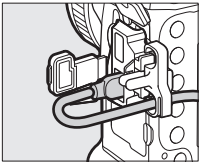
HDMI/USBケーブルクリップについて

付属のHDMI/USBケーブルクリップを取り付けると、カメラから別売のHDMIケーブルやUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（HDMI/USBケーブルクリップは、市販のHDMI端子用ケーブルで使用できない場合があります）。ここではUSBケーブルを使って説明しています。

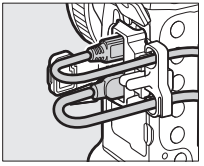




USBケーブルを使用する場合



HDMIケーブルを使用する場合



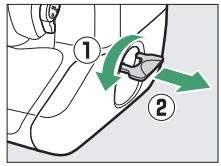
HDMIケーブルとUSBケーブルを同時に使用する場合

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

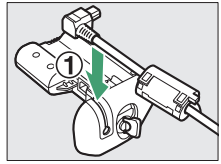
1 バッテリー室カバー BL-6を取り外す

バッテリー着脱ノブを引き起こしてから ☾方向に回し（①）、バッテリー室カバーを取り外します（②）。

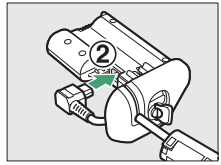


2 パワーコネクター EP-6にACアダプター EH-6cを接続する

- ACアダプターの接続コードをパワーコネクターのコード通し口に奥まで差し込みます（①）。

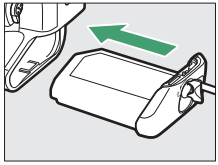


- ACアダプターのDCプラグをパワーコネクターのDCプラグコネクターに差し込みます（②）。



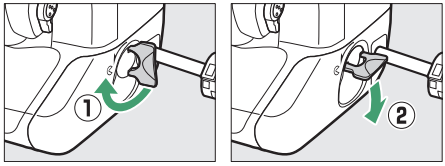
3 カメラにパワーコネクターを入れる

パワーコネクターは図で示されている向きで奥までしっかりと入れてください。



4 パワーコネクター着脱ノブをロックする

- パワーコネクター着脱ノブを図のように回してから（①）、凹みに倒して収納します（②）。



- カメラの操作中にパワーコネクターが外れないように、パワーコネクター着脱ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、上面表示パネルのバッテリー残量表示が消えます。

ソフトウェア/アプリケーション

このカメラで使用できるニコン純正ソフトウェアは次の通りです。

● パソコン用ソフトウェア

パソコン用ソフトウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアの最新情報や動作環境を確認し、必ず最新版をインストールしてください。

https://downloadcenter.nikonimglib.com/

- **Camera Control Pro 2**（有料）：パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、上面表示パネルにPC接続中マークが表示されます。
- **NX Tether**：パソコンとカメラを接続して撮影する「テザー撮影」ができるソフトウェアです。パソコンの画面上から露出やホワイトバランスなどのカメラの設定をリモート操作で変更することもできます。
- **NX Studio**※：ニコンデジタルカメラで撮影した静止画や動画の閲覧と編集を行うソフトウェアです。ニコン独自のRAW（NEF/NRW）ファイルを調整したり、JPEG またはTIFF 形式のファイルに変換（RAW現像）することができます。RAW画像だけでなく、ニコン製デジタルカメラで撮影したJPEG、TIFFの画像についても明るさやコントラスト、トーンカーブなどの豊富な機能を使った調整ができます。

  ※最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことや、RAW画像が開けないことがあります。

- **Wireless Transmitter Utility**：カメラをネットワークに接続する場合に必要なアプリケーションです。カメラとパソコンをWi-Fi接続し、Wireless Transmitter Utilityを使用してペアリングすると、画像の転送ができるようになります。

● スマートフォン用アプリ

スマートフォン用アプリはApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロードできます。アプリの最新情報については当社ホームページでご確認ください。

SnapBridge：カメラとスマートフォンを無線接続すると、画像や動画をスマートフォンへ送信できます。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

クリーニングする部分によって方法が異なります。次の方法で行ってください。

- クリーニングするときは、アルコールやシンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

■■ カメラ本体

ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、真水で湿らせた布で砂や塩を軽く拭き取り、よく乾かします。

ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

■■ レンズ・ミラー・ファインダー

ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶タイプのブロアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。

■■ 画像モニター

ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

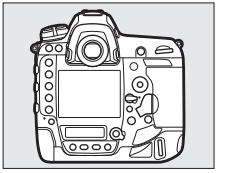
ローパスフィルターのお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

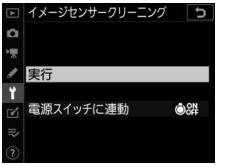
イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■■ メニューから操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（横位置で構えるときの向き）にしてください。



- セットアップメニューの［**イメージセンサークリーニング**］を選び、［**実行**］を選んでⓄⓀボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。



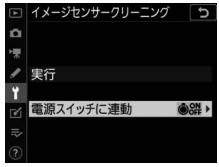
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

■■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

項目		内容
ON	［電源ONで実行］	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
OFF	［電源OFFで実行］	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
ON OFF	［電源ONとOFFで実行］	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
［実行しない］		電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

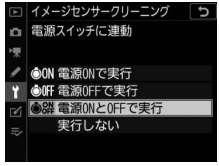
1 ［イメージセンサークリーニング］画面で［電源スイッチに連動］を選ぶ

［**電源スイッチに連動**］を選んでマルチセレクターのⒷを押すと、［**電源スイッチに連動**］画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

Ⓚボタンを押して設定します。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のブロアーで掃除する（🕮1078）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブロアーで掃除する

イメージセンサークリーニング（🕮1075）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

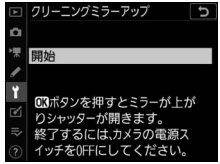
- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、充分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせてお使いください。
- セットアップメニューの［**クリーニングミラーアップ**］を使用します。Bluetoothを使ってスマートフォンと接続しているとき、USBケーブルで外部機器と接続しているとき、またはバッテリー残量表示が▮以下の場合、［**クリーニングミラーアップ**］は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

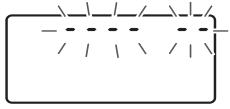
2 セットアップメニューで［クリーニングミラーアップ］を選んでマルチセレクターの▶を押す

クリーニングミラーアップの待機状態になります。



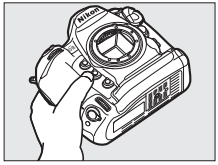
3 ⓞⓚボタンを押す

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、上面表示パネルは点滅表示になります。背面表示パネル、ファインダー内の表示は消灯します。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。

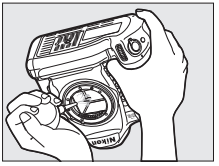


4 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

ゴミやほこりが付いていない場合は、手順6にお進みください。



5 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う



- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

6 カメラの電源をOFFにして、レンズを取り付ける

ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次のことにご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

ローパスフィルターに付着するゴミなどについて

ローパスフィルターには、カメラからレンズまたはボディーキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によってはローパスフィルターに付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディーキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディーキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。ローパスフィルターに付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（🕮1075）で取り除ききれないときは、「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（🕮1078）の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

☑ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

時計用電池の交換について

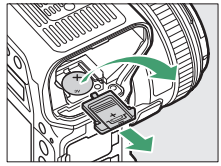
カメラ内蔵の時計は、Li-ionリチャージャブルバッテリーとは別のCR1616型リチウム電池で作動しています。この電池の寿命は約2年です。半押しタイマー作動時間中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点灯した場合は、電池残量が少なくなっていますので、市販の新しいCR1616型リチウム電池に交換することをおすすめします。さらに残量が減って、時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点滅した場合は、撮影は可能ですが日付時刻は正しく記録されません。

■■ 時計用電池の交換方法

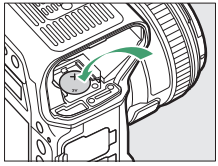
1 カメラの電源をOFFにして、バッテリーを取り外す

2 バッテリー室内の上部にある時計用電池カバーを外側に引き出す

3 古い時計用電池を取り出す

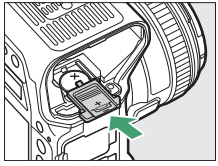


4 新しいCR1616型リチウム電池を、＋側（型番が印字されている側）が見えるように向け、くぼみにはめ込む



5 時計用電池カバーをスライドして、奥まで差し込む

カチッと音がするまで差し込んでください。



6 Li-ionリチャージャブルバッテリーをカメラに装着する

7 場所と日時を設定する

電池交換後は地域と日時の設定をするまで上面表示パネルの時計用バッテリーチェックマーク（CLOCK）が点滅します。



時計用電池の向きについて

時計用電池は正しい向きで入れてください。内蔵時計が機能しないばかりでなく、故障の原因となります。

カメラとバッテリーの使用上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない
カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない
カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない
極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、静電気が発生する環境では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● レーザー光などの光線について
レーザー光などの強い光線がレンズに向けて照射されると、撮像素子が破損を起こすおそれがあります。

● カメラ本体のお手入れについて
カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について
ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について
撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については、「ローパスフィルターのお手入れについて」（🕮1075）および「ローパスフィルターをブロアーで掃除する」（🕮1078）をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、革ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態で、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● 付属のアクセサリーシューカバーについて

カメラを雨の中で使用すると、付属のアクセサリーシューカバー内に水分が入り込む場合があります。雨天時にカメラを使用した後は、アクセサリーシューカバーを取り外して水分を拭き取ってください。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
  - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
  - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
  - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
  - 必ず指定のバッテリーを使う。
  - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
  - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの［**電池チェック**］で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。バッテリーの取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する
低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について
- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響を及ぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 充分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない
バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル
不要になった充電式電池は、接点部をビニールテープなどで絶縁しリサイクル協力店へお持ちください。
詳しくは一般社団法人JBRCホームページ（https://www.jbrc.com）をご覧ください。
※数字の有無と数値は、電池によって異なります。

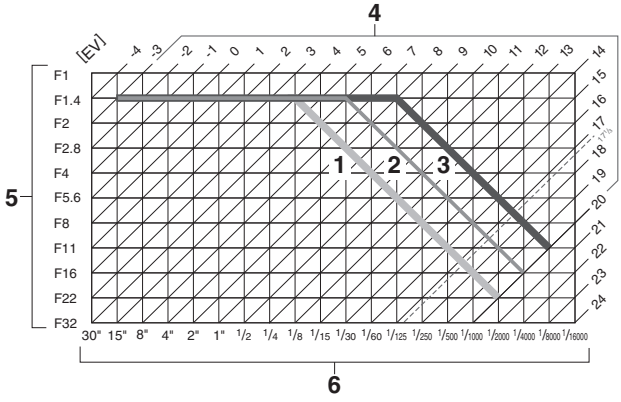


チャージャーの使用上のご注意

- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-26aに対応していないバッテリーは、バッテリーチャージャー MH-26aで充電しないでください。
- 落下などによる破損で内部が露出していたり、内部から異音がするような場合は、使用しないでください。

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードが**P**のときの露出制御プログラム（開放絞り値がF1.4のレンズを装着し、ISO 100に設定した場合）を表しています。



1	f（レンズの焦点距離）≦55mmの場合
2	55mm＜f≦135mmの場合
3	135mm＜fの場合
4	測光範囲：EV –3～20
5	絞り値
6	秒（シャッタースピード）

- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合17 1/3を超えるEV値では、全て17 1/3として制御されます。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D6

型式	
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット

有効画素数	
有効画素数	2082万画素

撮像素子	
方式	35.9×23.9 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2133万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（NX Studioが必要）

記録形式	
記録画素数	• **撮像範囲［FX（36×24）］の場合**： - 5568×3712ピクセル（サイズL：20.7 M） - 4176×2784ピクセル（サイズM：11.6 M） - 2784×1856ピクセル（サイズS：5.2 M） • **撮像範囲［1.2×（30×20）］の場合**： - 4640×3088ピクセル（サイズL：14.3 M） - 3472×2312ピクセル（サイズM：8.0 M） - 2320×1544ピクセル（サイズS：3.6 M） • **撮像範囲［DX（24×16）］の場合**： - 3648×2432ピクセル（サイズL：8.9 M） - 2736×1824ピクセル（サイズM：5.0 M） - 1824×1216ピクセル（サイズS：2.2 M） • **撮像範囲［5:4（30×24）］の場合**： - 4640×3712ピクセル（サイズL：17.2 M） - 3472×2784ピクセル（サイズM：9.7 M） - 2320×1856ピクセル（サイズS：4.3 M） • **撮像範囲［1:1（24×24）］の場合**： - 3712×3712ピクセル（サイズL：13.8 M） - 2784×2784ピクセル（サイズM：7.8 M） - 1856×1856ピクセル（サイズS：3.4 M） • **撮像範囲［16:9（36×20）］の場合**： - 5568×3128ピクセル（サイズL：17.4 M） - 4176×2344ピクセル（サイズM：9.8 M） - 2784×1560ピクセル（サイズS：4.3 M） • **動画の画像サイズを3840×2160に設定し、動画撮影時に静止画撮影した場合**： 3840×2160ピクセル • **動画の画像サイズを1920×1080に設定し、動画撮影時に静止画撮影した場合**： 1920×1080ピクセル • **動画の画像サイズを1280×720に設定し、動画撮影時に静止画撮影した場合**： 1280×720ピクセル

記録形式	
ファイル形式（画質モード）	• **NEF（RAW）**：12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮）、サイズL/M/S選択可能（サイズM/Sは12ビット、ロスレス圧縮に固定） • **JPEG**：JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 • **NEF（RAW）+JPEG**：RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	オート、スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、Creative Picture Control（ドリーム、モーニング、ポップ、サンデー、ソンバー、ドラマ、サイレンス、ブリーチ、メランコリック、ピュア、デニム、トイ、セピア、ブルー、レッド、ピンク、チャコール、グラファイト、バイナリー、カーボン）、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	CFexpress カード（Type B）、XQDカード
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、バックアップ記録、RAW＋JPEG分割記録、JPEG+JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.31

ファインダー	
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	• **FX**：上下左右とも約100%（対実画面） • **1.2×**：上下左右とも約97%（対実画面） • **DX**：上下左右とも約97%（対実画面） • **5:4**：上下約100%、左右約97%（対実画面） • **1:1**：上下約100%、左右約95%（対実画面） • **16:9**：上下約96%、左右約100%（対実画面）
倍率	約0.72倍（50mm f/1.4レンズ使用、∞、−1.0 m^{-1}のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から17 mm（−1.0 m^{-1}のとき）
視度調節範囲	−3～+1 m^{-1}
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンX（AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
被写界深度プレビュー	**Pv**ボタンによる絞り込み可能、露出モード**A**、**M**では設定絞り値まで絞り込み可能、**P**、**S**では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ	
交換レンズ	• **G、EまたはDタイプレンズ**（PCレンズ一部制限あり） • **G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ**（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • **Pタイプレンズ** • **DXレンズ**（撮像範囲は［**DX（24×16）**］） • **非CPUレンズ**（ただし、非AIレンズは使用不可）：露出モード**A**、**M**で使用可能 • ファインダー撮影時は、開放F値がF5.6以上明るいレンズでフォーカスエイド可能。フォーカスポイント15点は、F8以上明るいレンズでフォーカスエイド可能。

シャッター	
型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター、電子シャッター
シャッタースピード	1/8000～30秒（ステップ幅：1/3、1/2、1ステップに変更可能、露出モード**M**では900秒まで延長可能）、Bulb、Time、X250
フラッシュ同調シャッタースピード	X=1/250秒、1/250秒以下の低速シャッタースピードで同調 • オートFPハイスピードシンクロ可能

レリーズ機能	
レリーズモード	**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、**Q**（静音撮影）、⏲（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）
連続撮影速度	• **CL**：約1～10コマ/秒 • **CH**：約10～14コマ/秒 • **Q**：約1～5コマ/秒
セルフタイマー	作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御	
測光方式	• **ファインダー撮影時**：180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL開放測光方式 • **ライブビュー撮影時**：撮像素子によるTTL測光方式

露出制御	
測光モード	• **マルチパターン測光**：3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ（G、EまたはDタイプレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光Ⅲ（その他のCPUレンズ使用時）、RGBマルチパターン測光（非CPUレンズのレンズ情報手動設定時） • **中央部重点測光**：φ12 mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ8 mm、φ15 mm、φ20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能（非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時はφ12 mm） • **スポット測光**：約φ4 mm相当（全画面の約1.5%）を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動（非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E ED使用時は中央に固定） • **ハイライト重点測光**：G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ
測光範囲※	• **マルチパターン測光、中央部重点測光**：−3〜20 EV • **スポット測光**：2〜20 EV • **ハイライト重点測光**：0〜20 EV ※ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用

露出制御	
露出モード	**P**：プログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
露出補正	範囲：±5段（動画撮影時は±3段）、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップに変更可能
AEロック	輝度値ロック方式
ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～102400（ステップ幅：1/3、1/2、1ステップに変更可能）、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段（ISO 50相当）の減感、ISO 102400に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段（ISO 3280000相当）の増感、感度自動制御が可能
アクティブD-ライティング	オート、より強め2、より強め1、強め、標準、弱め、しない

オートフォーカス	
方式	• **ファインダー撮影時**：TTL位相差検出方式：フォーカスポイント105点（全点クロスタイプセンサー、15点はF8対応）、マルチCAM37Kオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能 • **ライブビュー撮影時**：コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）

オートフォーカス	
検出範囲	–4.5～+20 EV（ISO 100、常温20℃）
レンズサーボ	• **オートフォーカス（AF）**：シングルAFサーボ（**AF-S**）、コンティニュアスAFサーボ（**AF-C**、ファインダー撮影時のみ、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行）、常時AFサーボ（**AF-F**、ライブビュー撮影時または動画撮影時のみ） • **マニュアルフォーカス（M）**：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	105点（ファインダー撮影時、選択可能なフォーカスポイントを105点、27点、15点に変更可能）
AFエリアモード	• **ファインダー撮影時**：シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード（9点、25点、49点、105点）、3D-トラッキング、グループエリアAFモード、グループエリアAFモード（C1）、グループエリアAFモード（C2）、オートエリアAFモード • **ライブビュー撮影時**：顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカスロック	サブセレクターの中央押しまたはシングルAFサーボ（**AF-S**）時にシャッターボタン半押し

フラッシュ	
調光方式	**180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによるTTL調光制御**：i-TTL-BL調光（マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光）、スタンダードi-TTL調光（スポット測光）可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、赤目軽減、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロ、後幕シンクロ、発光禁止
調光補正	範囲：－3～+1段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップに変更可能
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリーシュー	ホットシュー（ISO 518）装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL調光、電波制御アドバンストワイヤレスライティング、光制御アドバンストワイヤレスライティング、モデリング発光、FVロック、発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、マルチポイントAF補助光（ファインダー撮影時）、ユニファイドフラッシュコントロール
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO 519）装備（外れ防止ネジ付）

ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート（3種）、自然光オート、晴天、曇天、晴天日陰、電球、蛍光灯（7種）、フラッシュ、色温度設定（2500K～10000K）、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、すべて微調整可能

ブラケティング	
ブラケティング	AE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング

ライブビュー機能	
撮影モード	📷（静止画ライブビュー）モード、🎥（動画ライブビュー）モード

動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光

動画機能	
記録画素数/フレームレート	• 3840×2160（4K UHD）：30p/25p/24p • 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p • 1280×720：60p/50p • 1920×1080クロップ：60p/50p/30p/25p/24p ※60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※標準/★高画質選択可能（3840×2160は★高画質のみ）
ファイル形式	MOV、MP4
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM（動画記録ファイル形式がMOVの場合）、AAC（動画記録ファイル形式がMP4の場合）
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能、アッテネーター機能
ISO感度（推奨露光指数）	• **露出モードM**：ISO 100～102400（ステップ幅：1/3、1/2、1ステップに変更可能）、ISO 102400に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段（ISO 3280000相当）の増感、感度自動制御（ISO 100～Hi 5）が可能、制御上限感度が設定可能 • **露出モードP、S、A**：感度自動制御（ISO 100～Hi 5）、制御上限感度が設定可能

動画機能	
アクティブ D-ライティング	より強め、強め、標準、弱め、しない
その他の機能	タイムラプス動画、電子手ブレ補正、タイムコード

画像モニター	
画像モニター	3.2型TFT液晶モニター（タッチパネル）、約236万ドット（XGA）、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能（マニュアル11段階）、カラーカスタマイズ可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、拡大再生中のトリミング、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、レーティング、撮影画像の縦位置自動回転、インデックスマーク、音声メモ入力/再生可能、IPTCプリセット添付/表示可能

インターフェース	
USB	Type-C端子（SuperSpeed USB）（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）
10ピンターミナル	あり（別売リモートコードMC-30A/MC-36Aなど使用可能）
有線LAN	RJ-45コネクター • **準拠規格**：IEEE802.3ab（1000BASE-T）/IEEE802.3u（100BASE-TX）/IEEE802.3（10BASE-T） • **データ転送速度（規格値※）**：10/100/1000Mbps（自動認識） • **ポート**：1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T兼用ポート（AUTO-MDIX） ※表示の数値は、規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
拡張端子	WT-6用

Wi-Fi（無線LAN）・Bluetooth	
Wi-Fi	• **準拠規格**：IEEE802.11b/g/n/a/ac • **周波数範囲（中心周波数）**：2412～2472 MHz（13ch）、5180～5700 MHz • **出力（EIRP）**： 6.8 dBm（2.4 GHz） 9.3 dBm（5 GHz） • **認証方式**：オープンシステム、WPA2-PSK

Wi-Fi（無線LAN）・Bluetooth	
Bluetooth	• **通信方式**：Bluetooth標準規格 Ver.4.2 • **周波数範囲（中心周波数）**： Bluetooth：2402～2480 MHz Bluetooth Low Energy：2402～2480 MHz • **出力（EIRP）**： Bluetooth：1.3dBm Bluetooth Low Energy：–0.2dBm
通信距離（見通し）	約10 m※ ※電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。

位置情報機能	
対応衛星	GPS衛星（アメリカ）、GLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）
取得情報	緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）
時刻合わせ	位置情報機能で取得した日時情報でカメラの日時合わせ可能
ログ	NMEAフォーマット準拠
ログ取得間隔	15、30秒、1、2、5分

位置情報機能	
ログ取得時間	6、12、24時間
ログの消去	可能

電源	
使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c※1個使用 ※EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。ただし、EN-EL18 を使用したときはEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。
ACアダプター	ACアダプター EH-6c（パワーコネクター EP-6と組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴	
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）

寸法・質量	
寸法（幅×高さ×奥行き）	約160×163×92 mm
質量	約1450 g（バッテリーおよびCFexpressカード2枚を含む、ボディーキャップ、アクセサリーシューカバーを除く）、約1270 g（本体のみ）

動作環境	
温度	0℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- カメラに表示されるサンプル画像、および説明書内の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

■■ バッテリーチャージャー MH-26a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz
定格入力容量	33–43VA
充電出力	DC 12.6 V、1.2 A
適応充電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18
充電時間（1本あたり）	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約160×85×50.5 mm
電源コード	長さ約1.5m、日本国内専用AC100V対応
質量	約285g（接点保護カバー（2枚）を含む、電源コードを除く）約265g（本体のみ）

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。
～ AC（交流）、⎓ DC（直流）、⧈ クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

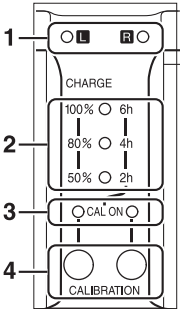
■■ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	10.8 V、2500 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約56.5×27×82.5 mm
質量	約160 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-26aのキャリブレーションについて

バッテリーチャージャー MH-26a は、バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能を装備しています。

キャリブレーションの必要性と進行状況は、図のランプの点灯状況で確認できます。



1 動作ランプ（緑色）
2 表示ランプ（緑色）
3 CAL表示ランプ（黄色）
4 キャリブレーションボタン

CAL 表示ランプが点滅している場合は、点滅した側に装着したバッテリーにキャリブレーションの必要があることを示しています。

キャリブレーションを行うには、点滅しているCAL 表示ランプの真下にあるキャリブレーションボタンを約1 秒押してください。キャリブレーション中は、バッテリーを装着した側の動作ランプが点滅します。

キャリブレーションに必要な時間は、次の表の通りです。

		キャリブレーションに必要な時間			
		約2時間以内	約2～4時間	約4～6時間	約6時間以上
表示ランプ（緑色）	2h	● 消灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯
	4h	● 消灯	● 消灯	○ 点灯	○ 点灯
	6h	● 消灯	● 消灯	● 消灯	○ 点灯
CAL表示ランプ（黄色） CAL ON（L）/（R）		○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯

CAL表示ランプが点滅しても、必ずしもキャリブレーションボタンを押してバッテリーのキャリブレーションを行う必要はありません。また、キャリブレーションは途中で中断することもできます。

- CAL 表示ランプの点滅時にキャリブレーションボタンを押さなかった場合は、約10 秒後に通常の充電を開始します。
- 途中でキャリブレーションを中断する場合は、もう一度キャリブレーションボタンを押します。測定が中断され、充電が開始されます。

キャリブレーションが完了すると、CAL表示ランプおよび全ての表示ランプが消灯し、充電を開始します。

☑ こんなときは...

- **バッテリーを装着していないのにL およびR の動作ランプとCAL 表示ランプが交互に点滅する**
  チャージャーに異常が発生しました。直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- **バッテリー装着時にL またはR の動作ランプとCAL 表示ランプが交互に点滅する**
  充電時にバッテリーまたはチャージャーの異常が発生しました。直ちにバッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いた後、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

ヒント：2本のバッテリーを装着した場合

L 側、R 側の両方にバッテリーを装着している場合、装着した順番に1 本ずつ充電します。CAL 表示ランプが点滅しているときにキャリブレーションボタンを押すと、まずは最初に装着したバッテリーのキャリブレーションを行い、その後充電を行います。1 本目のバッテリーの充電が終わるまで、他のバッテリーはキャリブレーションも充電もできません。

カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー［**カメラの初期化**］を行って削除してください。

☑ このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system（DCF）Version 2.0**：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.31**：（Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **HDMI（High-Definition Multimedia Interface）**：家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

使用できるメモリーカード

- このカメラはCFexpressカード（Type B）またはXQDカードが使用できます。
- 動画の撮影および再生には、最大45MB/s（300倍速）以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録が途中で終了することがあります。また、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことや途中で終了することがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲、画質モード、画像サイズの組み合わせによって、128GBのメモリーカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

撮像範囲設定が［FX（36×24）］の場合

［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	L	約20.2 MB	3500コマ	184コマ
	M	約14.6 MB	4700コマ	79コマ
	S	約11.1 MB	6200コマ	84コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	L	約25.1 MB	3000コマ	146コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	L	約18.4 MB	4700コマ	186コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	L	約22.6 MB	3900コマ	152コマ

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	L	約33.1 MB	3500コマ	133コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	L	約38.0 MB	3000コマ	105コマ
FINE※4	L	約10.8 MB	8400コマ	200コマ
	M	約6.9 MB	13900コマ	200コマ
	S	約3.8 MB	25600コマ	200コマ
NORMAL※4	L	約5.7 MB	16500コマ	200コマ
	M	約3.5 MB	27000コマ	200コマ
	S	約2.0 MB	48700コマ	200コマ
BASIC※4	L	約2.6 MB	31400コマ	200コマ
	M	約1.8 MB	51300コマ	200コマ
	S	約1.1 MB	88600コマ	200コマ

撮像範囲設定が［DX（24×16）］の場合

［**撮像範囲**］の［**DX自動切り換え**］が［**する**］でDXレンズを装着した場合を含みます。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW（ロスレス圧縮RAW/12ビット記録）	L	約9.8 MB	7600コマ	200コマ
	M	約7.2 MB	10100コマ	129コマ
	S	約5.6 MB	13000コマ	142コマ
RAW（ロスレス圧縮RAW/14ビット記録）	L	約11.9 MB	6700コマ	200コマ
RAW（圧縮RAW/12ビット記録）	L	約9.0 MB	10000コマ	200コマ
RAW（圧縮RAW/14ビット記録）	L	約10.8 MB	8500コマ	200コマ
RAW（非圧縮RAW/12ビット記録）	L	約15.1 MB	7600コマ	200コマ
RAW（非圧縮RAW/14ビット記録）	L	約17.2 MB	6700コマ	200コマ

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
FINE※4	L	約5.6 MB	17400コマ	200コマ
	M	約3.7 MB	26300コマ	200コマ
	S	約2.3 MB	42400コマ	200コマ
NORMAL※4	L	約2.9 MB	33600コマ	200コマ
	M	約2.0 MB	48700コマ	200コマ
	S	約1.3 MB	75000コマ	200コマ
BASIC※4	L	約1.6 MB	60900コマ	200コマ
	M	約1.1 MB	88600コマ	200コマ
	S	約0.8 MB	121000コマ	200コマ

※1 SONY製128GBのCEB-G128のCFexpressカードを使用した場合（2019年12月現在）
※2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は、増減することがあります。
※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。
- ［**画質モード**］で画質を優先した（［★］が付いた）項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
- ［**自動ゆがみ補正**］を［**する**］に設定した場合

※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、［**画質モード**］でサイズを優先した（［★］が付いていない）項目に設定されている場合です。画質を優先した（［★］が付いた）項目に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

☑ 連続撮影時の連続撮影コマ数について

連続撮影時の連続撮影コマ数は、カスタムメニュー d2［**連続撮影コマ数**］で1～200コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

フル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c（2500 mAh）※1使用時の電池寿命は次のとおりです。電池寿命はバッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって異なります。

- 撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：約3580コマ（CIPA規格準拠※2）
- 撮影可能コマ数（連続撮影モード）：約8670コマ（当社試験条件※3）
- 動画撮影可能時間：約105分※4

次の場合などは、バッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビュー撮影などで画像モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

- 有線LAN、BluetoothおよびWi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- 内蔵の位置情報機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-Pレンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- 定期的にセットアップメニューの［**電池チェック**］で、バッテリーの状態をご確認いただくことをおすすめします。［**キャリブレーション**］に☀CALと表示された場合は、バッテリーチャージャー MH-26aで、EN-EL18cのキャリブレーションを行ってください（🕮1114）。また、半年以上使用していないバッテリーは、キャリブレーションしてから充電してください。

※1 EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。ただし、EN-EL18を使用したときはEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも、撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

※2 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズAF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8E ED VR、温度23（±2）℃。

※3 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、画像モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 70–200mm f/2.8E FL ED VR（VR機能OFF）、温度23（±2）℃。

※4 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S NIKKOR 24–70mm f/2.8E ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒です。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画撮影が終了することがあります。

位置情報機能（GPS/GLONASS）についてのご注意

● 位置情報記録機能とログ取得について

- セットアップメニュー［**位置情報（内蔵）**］の［**位置情報記録**］を［**する**］にしているときやログ取得中は、カメラの電源をOFFにした後も位置情報記録機能やログ取得機能が作動します。
- 位置情報を記録した静止画や動画などから、個人を特定できることがあります。位置情報を記録した静止画、動画、ログファイルの、他人への譲渡やインターネットなど複数の人が閲覧できる環境への掲載にはご注意ください。「カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意」（🕮1117）も必ずお読みください。

● 計測機能について

本製品はカメラです。航法機器や計測機器として使わないでください。

- 本製品が計測する情報は、あくまでも目安です。航空機、車、人などの航法用途、および測量用途には使わないでください。

● 海外でお使いの場合

- 位置情報機能付きカメラを旅行などで外国に持ち込む前に、使用規制の有無を旅行代理店や大使館などでお確かめください。たとえば、中国では、政府の許可なしに位置情報の収集はできません。［**位置情報記録**］を［**しない**］にしてご使用ください。
- 中国および中国の周辺国の国境付近では、位置情報機能が正常に機能しない場合があります（2019年12月現在）。

商標およびソフトウェアの著作権とライセンスについて

- CFexpress は米国およびその他の国におけるCompactFlash Associationの商標です。
- NVM Expressは米国およびその他の国におけるNVM Express Inc.の商標です。
- XQDはソニー株式会社の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Appleロゴ、iPhone®、iPad®、iPod touch®、Mac、macOSは米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社（https://www.aiphone.co.jp/）のライセンスに基づき使用しています。
- AndroidとGoogle PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。Androidロボットは、Googleが作成および提供している作品から複製または変更したものであり、Creative Commons 3.0 Attributionライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。

- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。



- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.

FreeType License（FreeType2）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project（https://www.freetype.org）のものです。全ての権利はその所有者に帰属します。

MIT License（HarfBuzz）

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2018 The HarfBuzz Project（https://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz）のものです。全ての権利はその所有者に帰属します。

Unicode® Character Database License（Unicode® Character Database）

本製品のソフトウェアは、オープンソースソフトウェア（Unicode® Character Database）を利用しています。本オープンソースソフトウェアのライセンス条件は以下のとおりです。

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE
Copyright © 1991-2019 Unicode, Inc. All rights reserved.
Distributed under the Terms of Use in
https://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that either

(i) this copyright and permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, or
(ii) this copyright and permission notice appear in associated Documentation.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

☑ AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
https://www.mpegla.com をご参照ください。

☑ BSD License（NVM Express Driver）

本カメラのNVM Express制御部分に含まれるオープンソースソフトウェアに適用されるライセンス条件は下記URLをご覧ください。
https://imaging.nikon.com/support/pdf/LicenseNVMe.pdf

索 引

マーク・英数字

P（プログラムオート）.....108, 184
S（シャッター優先オート）.....108, 185
A（絞り優先オート）.....108, 186
M（マニュアル）.....108, 188
S（1コマ撮影）.....109, 203
CL（低速連続撮影）.....109, 203
CH（高速連続撮影）.....109, 204
Q（静音撮影）.....110, 204
（セルフタイマー撮影）.....110, 204, 209
MUP（ミラーアップ撮影）.....110, 204, 211
（クイック設定ボジション）.....110, 205, 208
（シングルポイントAF）...102, 153, 157
（ダイナミックAF）...102, 153, 157
（3D-トラッキング）.102, 154, 157
（グループエリアAF）.....103, 155, 158
（オートエリアAF）...103, 156, 158
（顔認識AF）.....105, 160
（ワイドエリアAF）.....105, 160
（ノーマルエリアAF）.....105, 160
（ターゲット追尾AF）.....105, 160
（マルチパターン測光）.....111, 178, 820
（中央部重点測光）.....111, 178
（スポット測光）.....112, 179
*（ハイライト重点測光）.....112, 179
（ライブビュー）ボタン 55, 63
iボタン.....88, 399
infoボタン.....94
（露出補正）ボタン 117
ボタン 111
（/?）ボタン.....125
（）ボタン.....131
?（ヘルプあり表示）.....87
iメニュー.....88
メニューのカスタマイズ..377, 844, 877
メニューのカスタマイズ（Lv）.846
（連続撮影可能コマ数）.....207
使用時の感度自動制御.....839
使用時の制御上限感度.....217
スイッチの機能.....874
1:1（24×24）（撮像範囲）.....137, 141
16:9（36×20）（撮像範囲）...137, 141
1.2×（30×20）（撮像範囲）.137, 141
1コマ再生時のフリック操作.....875
1コマ撮影.....109, 203
1コマ表示.....390
3D-トラッキング.....102, 154, 157
3D-トラッキング時の顔認識.....811
5:4（30×24）（撮像範囲）.....137, 141
ACアダプター.....1060, 1069
ADLブラケティング（オートブラケティングのセット）.....265
AE-Lマーク.....196
AE・フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット）.....251
AEブラケティング（オートブラケティングのセット）.....251
AEロック.....196
AF-C（コンティニュアスAF）..99, 149
AF-Cモード時の優先.....804
AF-F（フルタイムAF）.....100, 151

AF-ONボタン 107, 173
AF-S（シングルAF）99, 100, 149, 151
AF-Sモード時の優先 805
AFエリアモード 101, 153
AFエリアモードの限定 814
AF設定時のフォーカスリング操作 817
AF点数 807
AF微調節の設定 894
AFモード 98, 149
AFモードの制限 815
AFモードボタン 98, 152, 163
AFロックオン 805
BKT自動連写の設定 843
BKTの順序 842
BKT変化要素（Mモード） 841
BKTボタン 113, 252, 259, 265
Bluetooth 77, 457, 469
Bulb（バルブ撮影） 191
Camera Control Pro 2 595
CFexpressカード 38, 1119
CPU信号接点 1044
CPUレンズ 1037, 1044
Creative Picture Control（クリエイティブピクチャーコントロール） 126, 272
DX（24×16）（撮像範囲） 137, 141
DX自動切り換え 139
DXフォーマット 137
DXベースの（動画）フォーマット 293
Dタイプレンズ 1044
D-ライティング 973
Eタイプレンズ 1044
Fnボタン 135
FTP画像送信モード 536, 571
FTPサーバー 585
FVロック 655
FX（36×24）（撮像範囲） 137, 141
FXフォーマット 137
FXベースの（動画）フォーマット 293
Gタイプレンズ 1044
HDMI 453, 925
HDR（ハイダイナミックレンジ） 283
Hi（ISO感度） 215
HTTPサーバーモード 531, 560, 601
H.264 1105
IPTC 914
ISO（QUAL）ボタン 114
ISO感度 114, 213, 216
ISO感度設定 764, 786
ISO感度設定ステップ幅 818
JPEG+JPEG分割記録（スロット2の機能） 309
Li-ionリチャージャブルバッテリー 28
Lo（ISO感度） 215
L（画像サイズ） 120, 145
MENUボタン 80
MODEボタン 108
M（画像サイズ） 120, 145
M（マニュアルフォーカス） 174
Mモード時のシャッタースピード延長 828
NX Studio 78, 445
PC画像送信モード 523, 546
PCと接続（内蔵無線） 932
PCと直接接続 488
Pv（プレビュー）ボタン 134, 187
QUALボタン 118
RAW+JPEG分割記録（スロット2の機能） 308
RAW記録 762
RAW現像 962
RGBヒストグラム 408
SnapBridgeアプリ 77, 458
S（画像サイズ） 120, 145
USBケーブル ..... ii, 78

WBブラケティング（オートブラケティングのセット）.....259
WBボタン.....121
Wi-Fi.....77, 461, 485, 521
Wi-Fi接続先を検索.....494
Wi-Fiモード.....461
Wireless Transmitter Utility...79, 485, 515
WPS PIN コード方式.....495
WPSプッシュ ボタン方式.....495
WR-R10.....665, 925
WT-6.....78, 521, 1063
Wスロット同時削除の設定.....734
XQDカード.....38, 1119

ア

アイピースシャッターレバー.....13
アオリ効果.....978
赤目軽減発光.....131, 648
赤目補正.....974
明るさ（ピクチャーコントロール）.....128
アクセスポイントモード.....486, 488
アクティブD-ライティング.....281
アッテネーター.....793
後幕発光.....132, 650
位置情報（内蔵）.....384, 925
位置情報機能.....7, 384
一灯撮影.....641
イメージセンサークリーニング.....905, 1075
イメージダストオフ.....1010
イメージダストオフデータ取得.....906
イルミネーター.....8
イルミネーター点灯.....833
色合い（色相）（ピクチャーコントロール）.....128
色温度.....226, 231
色温度設定（ホワイトバランス）..123, 223
色空間.....765
色の濃さ（彩度）（ピクチャーコントロール）.....128
色の濃淡（ピクチャーコントロール）.128
インジケーターの＋/－方向.....873
インターバルタイマー撮影.....331
インフォ画面の表示設定.....893
インフラストラクチャーモード.....487, 494
ヴィネットコントロール.....769
オート（ピクチャーコントロール）.....125, 271
オート（ホワイトバランス）..122, 221
オートエリアAF.....103, 156, 158
オートエリアAF時の顔認識.....812
オートエリアAFの開始位置設定.....813
オートフォーカス.....148, 153, 173
オートブラケティング...113, 249, 778
オートブラケティングのセット.....249
音声メモ.....436
音声メモの設定.....920

カ

カードなし時レリーズ.....951
カードの初期化（フォーマット）...887
回折補正.....770, 789
外部マイク.....1065
開放F値.....379, 1039
開放絞り.....379, 1039
顔認識AF.....105, 160
画角.....1040
拡大表示.....418
拡張端子.....1107
風切り音低減.....794
画質モード.....118, 142

カスタムピクチャーコントロール 276
カスタムボタンの機能 850, 879
カスタムメニュー 797
カスタムメニューの管理 802
画像合成 980
画像コピー 738
画像コメント 911
画像サイズ 120, 145
画像サイズ/フレームレート 294
画像情報 405
画像編集メニュー 958
傾き補正 975
カメラコントロールモード 523, 546, 595
カメラの初期化 957
簡易トリミング 400, 420
簡単接続 495
感度自動制御 216
感度自動制御機能 116, 216
基準露出レベルの調節 821
機内モード 929
キャリブレーション 1114
距離基準マーク 177
記録可能コマ数 1120
記録フォルダー設定 755
クール（モノトーン） 979
クイックシャープ（ピクチャーコントロール） 128
クイック設定ポジション 110, 205, 208
クリーニングミラーアップ 1078
グループエリアAF 103, 155, 158
グループエリアAF（C1/C2）の設定 812
グループエリアAF時の顔認識 812
蛍光灯（ホワイトバランス） 123, 223
言語（Language） 888
光学手ブレ補正 835
高感度（Hi） 215
高感度ノイズ低減 768, 789
格子線表示 832
高速連続撮影 109, 204, 824
コマンドダイヤルの設定 867
コンティニュアスAF 99, 149
コントラスト（ピクチャーコントロール） 128

サ

最近設定した項目 990, 997
最小絞り 183
サイズ 120, 145
再生 71, 73, 390
再生画面設定 733
再生フォルダー設定 732
再生メニュー 730
サイレント撮影（静止画Lv） 374
削除 76, 429, 731
削除後の次再生画像 736
撮影後自動送信 506, 589
撮影情報 410
撮影直後の画像確認 394, 735
撮像範囲 136, 292
撮像範囲設定 137
撮像範囲設定の限定 829
サブセレクター 166, 171, 196
サムネイル表示 391
自然光オート（ホワイトバランス） 122, 222
自動ゆがみ補正 771
視度調節 14
絞り値 186, 188, 194
絞り値のロック 195
絞り優先オート 108, 186
シャッタースピード 185, 188, 194
シャッタースピードと絞り値のロック 194, 867
シャッタースピードのロック 194

シャッターボタン.....51, 170, 196
シャッターボタンAEロック.....822
シャッター優先オート.....108, 185
順次記録（スロット2の機能）.....308
白黒（モノトーン）.....979
シングルAF.....99, 100, 149, 151
シングルポイントAF.....102, 153, 157
シングルポイントAFの捕捉領域.....811
水準器.....95, 96, 862, 892
水準器表示.....892
スタンダード（ピクチャーコントロール）.....125, 271
スピードライト.....640, 663, 1051
スポット測光.....112, 179
スポットホワイトバランス.....241
スマートフォンと接続.....470, 476, 929
スライドショー.....748
スローシャッター.....131, 649
スロット2の機能.....308
静音撮影.....110, 204
制御上限感度（感度自動制御）.....217
静止画撮影メニュー.....750
静止画撮影メニューの拡張.....754
静止画撮影メニューの管理.....752
晴天（ホワイトバランス）.....122, 222
晴天日陰（ホワイトバランス）.....122, 222
セキュリティースロット.....7
接続設定.....488, 494, 522, 544
セットアップメニュー.....886
セピア（モノトーン）.....979
セルフタイマー.....823
セルフタイマー撮影.....110, 204, 209
全押し（シャッターボタン）.....52
送信指定.....425, 504, 587
増灯撮影.....663
測光モード.....111, 178

タ

ターゲット追尾AF.....105, 160
ダイナミックAF.....102, 153, 157
タイムコード.....795
タイム撮影（長時間露出）.....191
タイムラプス動画.....348
多重露出.....318
タッチ操作.....924
タッチパネル.....18, 395
縦/横位置フォーカスポイント切換.....808
縦位置自動回転.....738
地域と日時.....43
チャージャー.....28
中央部重点測光.....111, 178
中央部重点測光範囲.....820
中央ボタンの機能.....863, 884
調光補正.....133, 653
長時間露出.....191
調色（ピクチャーコントロール）.....128
長秒時ノイズ低減.....767
著作権情報.....912
ツーボタンリセット.....312
通常発光.....131, 648
低感度（Lo）.....215
低速限界設定（感度自動制御）.....218
低速連続撮影.....109, 203, 824
適用度（ピクチャーコントロール）.....128
電球（ホワイトバランス）.....122, 222
電子音.....923
電子先幕シャッター.....827
電子手ブレ補正.....791
電池チェック.....950
動画.....63, 73
動画記録先.....783
動画記録ファイル形式.....785

動画撮影メニュー.....782
動画撮影メニューのリセット.....783
動画の画質.....294, 785
動画編集.....300
動画編集（始点/終点設定）.....989
動画用マイク.....65
統合表示.....416
同調シャッタースピード.....1003
時計用電池.....46, 1083
トリミング.....967
曇天（ホワイトバランス）.....122, 222

ナ

内蔵Wi-Fi.....77, 457, 485
日時を同期.....633
ニュートラル（ピクチャーコントロール）.....125, 271
認証マークの表示.....949
ノーマルエリアAF.....105, 160

ハ

ハイダイナミックレンジ.....283
背面表示パネルの表示.....833
ハイライト重点測光.....112, 179
ハイライト表示.....407, 884
バックアップ記録（スロット2の機能）.....308
発光禁止.....132, 650
発光モード.....645
バッテリー.....28, 32, 47
バッテリーチャージャー.....28
バルブ撮影（長時間露出）.....191
パワーコネクター.....1060, 1069
半押しAFレンズ駆動.....810
半押しタイマー.....53, 822
非CPUレンズ.....379, 1045, 1048
ピーキング表示.....832
ピクセルマッピング.....910
ピクチャーコントロール.....125, 271
被写界深度.....134, 187
ヒストグラム.....95, 96, 408
ピッチング.....892
ビビッド（ピクチャーコントロール）.....125, 272
非表示設定.....746
標準表示.....406
ファームウェアバージョン.....957
ファイル名設定.....760, 783
ファインダー撮影.....50
フィルター効果（ピクチャーコントロール）.....128
フィルター再生.....427
フィルター再生の条件設定.....735
風景（ピクチャーコントロール）.126, 272
フォーカスエイド.....176, 1049
フォーカスシフト撮影.....360
フォーカスポイント.....98, 153, 164
フォーカスポイント循環選択.....815
フォーカスポイントの引き継ぎ.....813
フォーカスポイント表示の設定.....815
フォーカスポイントロックレバー.106
フォーカスモード.....148, 174
フォーカスモードセレクター.97, 148, 174
フォーカスリング.....174
フォーカスロック.....170
ブラケティング.....251, 259, 265
フラッシュ（ホワイトバランス）.123, 223
フラッシュインフォ画面.....659, 695
フラッシュ撮影同調速度.....836
フラッシュ時シャッタースピード制限 838
フラッシュ使用時の露出補正.....838
フラッシュ調光補正.....653

フラッシュ発光.....774
フラッシュブラケティング（オートブラケティングのセット）.....251
フラッシュモード.....131, 648, 651
フラッシュ連続撮影時の優先.....840
フラット（ピクチャーコントロール）..126, 272
プリセットマニュアル（ホワイトバランス）.....123, 224, 234
フリッカー低減.....772, 790
フルタイムAF.....100, 151
フレームレート.....294
プログラムオート.....108, 184
プログラムシフト.....184
プログラム線図.....1093
プロテクト.....421
分割記録時の再生スロット.....735
ヘッドホン音量.....794
ポートレート（ピクチャーコントロール）.....126, 272
ボタンのホールド設定.....872
ボディーキャップ.....1061
ホワイトバランス.....121, 221

マ

マイク.....65, 1065
マイク感度.....792
マイメニュー.....990
マニュアル（露出モード）.....108, 188
マニュアルフォーカス.....174
マルチセレクターの半押し起動.....872
マルチパターン測光.....111, 178, 820
ミドルレンジシャープ（ピクチャーコントロール）.....128
ミラーアップ撮影.....110, 204, 211
ミレッド.....230
無線LAN.....77, 457, 521, 1063
明瞭度（ピクチャーコントロール）.....128
メニュー設定の保存と読み込み.....952
メモリーカード.....38, 48, 1119
モデリング発光.....134, 840
モニターの明るさ.....889
モニターのカラーカスタマイズ.....890
モニターのパワーオフ時間.....823
モノクローム（ピクチャーコントロール）.....125, 272
モノトーン.....979

ヤ

有線LAN.....78, 520
有線LAN/ワイヤレストランスミッター.....937
ゆがみ補正.....976
予測駆動フォーカス.....150

ラ

ライブビュー撮影.....55
ライブビューセレクター.....55, 63
ライブビューボタンの設定.....874
リサイズ.....968
リセット.....312, 753, 803
リモート撮影.....459
リモコン（WR）設定.....925
リモコン（WR）のFnボタンの機能.....928
輪郭強調（ピクチャーコントロール）.128
レーティング.....423
レリーズモード.....109, 203
レリーズモードダイヤル.....109
レリーズモードの限定.....826
レンズ（使用できるFマウントレンズ）.....1037

レンズ情報手動設定 379, 904
レンズの取り付け 35
レンズの取り外し 37
連続撮影 203
連続撮影後の再生画像 737
連続撮影コマ数 825
連続撮影速度 824
連続撮影中の表示（Lv） 835
連動レリーズモード 628
連動レリーズモード設定 826
連番モード 830
ローパスフィルター 1075
ローリング 892
録音帯域 793
露出 178, 196, 199, 249
露出・調光補正ステップ幅 818
露出インジケーター 190
露出情報 407
露出設定ステップ幅 818
露出ディレーモード 827
露出プレビュー 57, 60
露出補正 117, 199
露出補正簡易設定 819
露出モード 108, 182

ワ

ワイドエリアAF 105, 160
ワイヤレストランスミッター WT-6 ..... 78, 521, 1063
ワイヤレストランスミッターユーティリティー 79, 485, 515
ワイヤレスリモートコントローラー 666, 925, 1063



ファームウェアバージョンアップによる変更内容

バージョンアップ方法について

カメラのファームウェアバージョン確認およびバージョンアップは、セットアップメニュー［**ファームウェアバージョン**］で行えます。D6の最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。
https://downloadcenter.nikonimglib.com/

ファームウェア（C:1.30）による変更点について

カメラのファームウェアを最新のC: 1.30にバージョンアップすると、次の機能に変更があります。

フォーカスポイントの移動速度が変更可能（C:1.20以降）

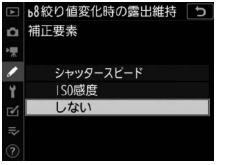


カスタムメニュー a17［**フォーカスポイント表示の設定**］の項目に［**フォーカスポイントの移動速度**］が追加されました。ファインダー撮影時にマルチセレクターの▲▼◀▶を押し続けるか、サブセレクターを倒し続けてフォーカスポイントを移動する場合の移動速度を［**標準**］、［**速い**］、［**より速い**］から選べます。

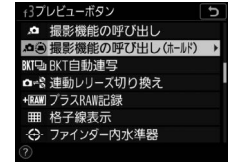
レンズにより絞り値が変化しても露出維持が可能（C:1.30以降）

カスタムメニュー b8［**絞り値変化時の露出維持**］が追加されました。露出モード**M**で、静止画撮影メニュー［**ISO感度設定**］の［**感度自動制御**］を［**しない**］に設定しているときに、設定できる絞りの範囲が異なるレンズに交換した場合など、意図せずに絞り値が変更されて露出が変化してしまうことがあります。このとき、［**絞り値変化時の露出維持**］を［**しない**］以外に設定すると、シャッタースピードまたはISO感度の設定を自動で変更して露出を維持できます。

- 次のような場合にも自動で露出を維持できるようになります。
  - 広角側と望遠側で開放絞り値が異なるレンズを装着してズーミングした場合
  - テレコンバーターを装着した場合
  - マイクロレンズを装着して撮影距離が変わった場合
- 絞り値が変化した場合に、［**シャッタースピード**］または［**ISO感度**］のどちらの値を自動で変更するかを選べます。［**しない**］の場合は露出の維持を行いません。
- 装着するレンズやカメラの設定によっては、露出が維持できないことがあります。
- 動画撮影時は露出の維持を行いません。



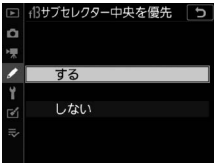
[撮影機能の呼び出し（ホールド）] の追加（C:1.20以降）



カスタムメニュー f3［**カスタムボタンの機能**］に［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］が追加されました。ファインダー撮影時に、割り当てたボタンを1回押すと、露出モードや測光モードなどの設定があらかじめ登録した内容に変更されます。もう一度ボタンを押すとボタンを押す前の設定に戻ります。

- ［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］を選んでⓄを押すと、割り当てたボタンを押したときの設定の登録を行えます。設定できる内容および値は［**撮影機能の呼び出し**］と共通です。ただし、［**AF-ON**］の設定は［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］では登録できません。
- 設定が呼び出されている間は、上面表示パネルおよびファインダー内表示の露出モード表示が点滅します。
- 設定が呼び出されている間にコマンドダイヤルを回すと、絞り値とシャッタースピードを変更できます。
  - 露出モードが**P**の場合はプログラムシフトを行えます。
  - カスタムメニュー b4［**露出補正簡易設定**］が［**しない**］以外の場合、コマンドダイヤルを回して露出補正を行えます。
- 設定の登録および呼び出しができない条件は、［**撮影機能の呼び出し**］と同じです。
- ［**撮影機能の呼び出し（ホールド）**］を割り当てられるボタンは［**プレビューボタン**］、［**Fn1ボタン**］、［**Fn2ボタン**］、［**縦位置Fnボタン**］、［**AF-ONボタン**］、［**サブセレクター中央**］、［**縦位置AF-ONボタン**］、［**動画撮影ボタン**］、［**レンズのフォーカス作動ボタン**］です。

サブセレクター中央を押しながらフォーカスポイントの移動が可能（C:1.20以降）



カスタムメニューf13［**サブセレクター中央を優先**］が追加されました。初期設定ではサブセレクター中央を押しながら上下左右に倒してもフォーカスポイントは移動しませんが、［**サブセレクター中央を優先**］を［**しない**］に設定すると、サブセレクター中央を押しながら上下左右に倒すとフォーカスポイントが移動します。

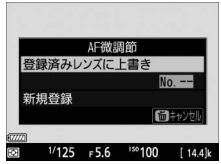
- カスタムメニューf3［**カスタムボタンの機能**］で［**サブセレクター中央**］に割り当てた機能を実行しながら、フォーカスポイントが移動できます。特に［**AFエリアモード**］を割り当てている場合、AFエリアモードを一時的に切り換えながらのフォーカスポイント移動が可能です。

AF微調節の表示画面変更（C:1.11以降）

「AF微調節の自動設定」（🕮900）の手順4で、ズームレンズでAF微調節をする場合に表示される画面が変更になりました。広角側または望遠側のAF微調節設定後にもう一方の設定を行う場合、🔍ボタンを押すと直接［**WIDE**］（広角側）または［**TELE**］（望遠側）が選べる画面が表示されます。

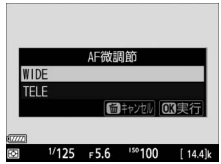
変更前：

広角側と望遠側のどちらかの設定が終わったら、もう一方の設定を行います。🔍ボタンを押して［**登録済みレンズに上書き**］を選び、手順2～4と同じ手順で自動設定を行ってください。



変更後：

広角側と望遠側のどちらかの設定終了後、もう一方の設定をする場合は🔍ボタンを押して［**WIDE**］または［**TELE**］を選びます。手順3～4と同じ手順で自動設定を行ってください。



SSIDの周波数帯が選択可能（C:1.10以降）

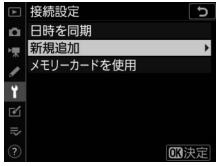
D6にワイヤレストランスミッター WT-6を装着してネットワークに無線接続する場合に、接続するSSIDの周波数帯（2.4GHzまたは5GHz）を選べるようになりました。周波数帯を選んで接続するには、次の手順で行います。

1 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］にある［オプション］の［接続先の周波数帯選択］を選ぶ

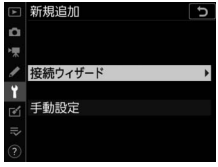


- ［**2.4GHz**］または［**5GHz**］に設定すると、選んだ周波数帯のSSIDのみに接続できます。
- ［**2.4GHz/5GHz**］に設定すると、両方の周波数帯のSSIDに接続できます。

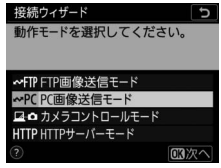
2 セットアップメニュー［有線LAN/ワイヤレストランスミッター］にある［接続設定］で［新規追加］を選ぶ



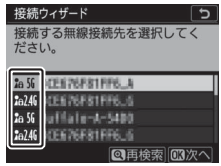
3 ［接続ウィザード］を選ぶ



4 動作モードを選び、接続設定名を入力する



5 無線LANアクセスポイントとの接続方法として［無線接続先を検索］を選ぶ



- カメラ周辺の無線LANアクセスポイントを検索して、SSIDを表示します。
- ［**接続先の周波数帯選択**］で選んだ周波数のSSIDだけが検出されます。周波数帯はSSIDの左側に表示されるアイコンで確認できます。
- 2.4GHzと5GHz両方の電波を同一のSSIDで出力している無線LANアクセスポイントの場合、［**2.4GHz/5GHz**］に設定しているときはWT-6が認識した周波数帯のSSIDが表示されます。

6 画面に従って接続設定を行う



- 接続設定が完了すると、選んだSSIDに接続できます。
- 接続完了後の［**有線LAN/ワイヤレストランスミッター**］画面にも、接続しているSSIDの周波数帯が表示されます。

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。

■製品登録方法

製品は、「ニコンイメージング会員」（無料）の「製品登録」ページからご登録いただけます。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内
https://nij.nikon.com/enjoy/members/

■ニコンイメージング会員とは

登録製品に関するサポート情報・ニコン製品情報や、お得で便利な会員特典※などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。

※特典は登録製品ごとに異なります。

■ご注意

- ご登録にはメールアドレスとインターネットに接続できる環境が必要です。
- 登録製品の製品番号（製品本体および保証書に記載）が必要です。
- 特典の内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

ニコンイメージングサポートページのご案内

https://nij.nikon.com/support/

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧いただけます。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

© 2020 Nikon Corporation

SB6B07(10)
6MB46510-07